愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第102集

矢　迫　遺　跡

2002

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

序

愛知県のほぼ中央に位置する豊田市では、古くから矢作川の恵みに育まれて人々は生活を続けてきました。これまでに旧石器時代から遺跡が存在していることが明らかとなっており、今日の工業都市としての繁栄は、こうした歴史的な蓄積の上に成り立っていたものと思われます。

今回、発掘調査を行いました矢迫遺跡でも、古墳時代から江戸時代までの長期にわたる遺構や遺物が確認されました。特に、東日本では初めて検出された古墳時代後期の「大壁建物跡」は渡来人との関係を考える上で貴重な成果となっています。また、鍛冶に関連する遺物が発見されたことも、金属加工技術の広がりを知る上で大いに参考となる資料となりました。こうした遺構や遺物の発見は、豊田市南部地域の豊かな歴史を明らかにしていく貴重な手がかりとなることでしょう。

本書で掲載された調査成果が様々な形で活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながっていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際して、地元住民の方々をはじめ、関係者および関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げる次第です。

平成１４年８月

財団法人愛知県教育サービスセンター
理事長　井上銀治

例言

1、本書は、愛知県豊田市鴛鴨町字矢迫に所在する矢迫遺跡（遺跡番号63477）の発掘調査報告書である。

2、発掘調査は、日本道路公団が進めている第二東海自動車道建設工事に伴う事前調査として、日本道路公団から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センター（当時）が実施した。

3、調査期間は平成9年12月から平成10年3月までで、調査面積は3500㎡である。

4、発掘調査は赤塚次郎（主査）・鈴木正貴（調査研究員）・加藤博紀（調査研究員：現蟹江高等学校教諭）の各調査研究員が担当した。

5、発掘調査に引き続き、平成13年度に報告書作成のための整理作業を、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。遺構および出土遺物の整理は鈴木正貴が担当した。なお、金属関連遺物については、穴澤義功氏に多大なご教示を得て、蔭山誠一（調査研究員）と共同で整理作業を行った。

6、出土遺物の整理と報告書作成に関わる作業において以下の方々の協力を得た。
神谷巳佳・土倉崇子（以上調査研究補助員）・秋田道子・阿辺山孔子・伊藤恵・奥本真由美・小倉明子・妹尾美佐穂・浜島奈保美・真崎千恵子（以上整理補助員）

7、遺構の写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は福岡栄氏の手を煩わせた。

8、本書の執筆と編集は鈴木正貴が行ったが、第3章第3節の一部を川添和暁（調査研究員）が分担し、第4章第1節については大澤正己氏、鈴木瑞穂氏（九州テクノリサーチ株式会社）にお願いした。

9、本書で使用した遺構の略記号は次の通りである。
ＳＡ……柵列跡、ＳＢ……建物跡、ＳＤ……溝、ＳＫ……土坑、ＳＸ……その他

10、今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第Ⅶ系に基づくものであり、海抜標高はＴ．Ｐ．（東京湾平均海面高度）による。ただし、表記については、旧基準「日本測地系」とした。

11、本書で使用した土壌色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

12、発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係各機関・各位にご協力、ご指導を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、豊田市教育委員会、鴛鴨公民館、穴澤義功、天野博之、尾野善裕、加藤安信、城ヶ谷和広、長谷川章、長谷川義雄、花田勝広、藤澤良祐、松井孝宗、森泰通（五十音順、敬称略）

目次

第１章　調査の概要…… 1
第１節　調査に至る経緯…… 1
第２節　歴史的・地理的環境…… 1

第２章　遺構…… 7
第１節　基本層序と遺構の概要…… 7
第２節　竪穴建物跡…… 9
第３節　大壁建物跡…… 23
第４節　掘立柱建物跡…… 28
第５節　溝…… 43
第６節　土坑…… 45
第７節　その他の遺構…… 48

第３章　遺物…… 49
第１節　出土遺物の概要と分析方法…… 49
第２節　土師器・須恵器・陶磁器類…… 51
第３節　石器・石製品…… 63
第４節　鉄製品・鉄関連遺物…… 66

第４章　自然科学的分析…… 83
第１節　鍛冶関連遺物・鉄製品の金属学的調査…… 83

第５章　考察とまとめ……100
第１節　矢迫遺跡の遺構変遷……100
第２節　矢迫遺跡の大壁建物について……102
第３節　まとめ……104

参考・引用文献……105
報告書抄録……106
付表　遺構一覧表……107
　　遺物一覧表……118
図版　遺構図版……125
　　写真図版……136

挿図・挿表目次

第１図　矢迫遺跡位置図（１）　1
第２図　矢迫遺跡位置図（２）　2
第３図　矢迫遺跡調査区位置図　3
第４図　調査区周辺図（昭和３８年）　4
第５図　調査区周辺地籍図（明治１７年）　5
第６図　調査区周辺地形分類図　6
第７図　基本土層断面図　7
第８図　主要遺構配置図　8
第９図　竪穴建物跡ＳＢ01・ＳＢ02遺構図　10
第10図　竪穴建物跡ＳＢ03遺構図　11
第11図　竪穴建物跡ＳＢ04遺構図　12
第12図　竪穴建物跡ＳＢ05遺構図　13
第13図　竪穴建物跡ＳＢ06遺構図　14
第14図　竪穴建物跡ＳＢ07遺構図　15
第15図　竪穴建物跡ＳＢ09遺構図　16
第16図　竪穴建物跡ＳＢ12遺構図　17
第17図　竪穴建物跡ＳＢ13遺構図　17
第18図　竪穴建物跡ＳＢ14遺構図　18
第19図　竪穴建物跡ＳＢ15遺構図　19
第20図　竪穴建物跡ＳＢ16遺構図　20
第21図　竪穴建物跡ＳＢ17遺構図　21
第22図　竪穴建物跡ＳＢ18遺構図　21
第23図　竪穴建物跡ＳＢ19遺構図　22
第24図　竪穴建物跡ＳＢ20遺構図　23
第25図　大壁建物跡ＳＢ08遺構図　24
第26図　大壁建物跡ＳＢ10遺構図（１）　25
第27図　大壁建物跡ＳＢ10遺構図（２）　26
第28図　大壁建物跡ＳＢ11遺構図　27
第29図　掘立柱建物跡ＳＢ21～ＳＢ32遺構図　29
第30図　掘立柱建物跡ＳＢ33～ＳＢ44遺構図　31
第31図　掘立柱建物跡ＳＢ45～ＳＢ57遺構図　33
第32図　掘立柱建物跡ＳＢ58～ＳＢ69遺構図　36
第33図　掘立柱建物跡ＳＢ70～ＳＢ83遺構図　38
第34図　掘立柱建物跡ＳＢ84～ＳＢ94他遺構図　40
第35図　溝土層断面図　44
第36図　土坑遺物等出土状態図　45
第37図　土坑土層断面図　47
第38図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（１）　51
第39図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（２）　52
第40図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（３）　53
第41図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（４）　55
第42図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（５）　56
第43図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（６）　57
第44図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（７）　60
第45図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（８）　61
第46図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（９）　62
第47図　石器・石製品実測図（１）　63
第48図　石器・石製品実測図（２）　64
第49図　石器・石製品実測図（３）　65
第50図　石器・石製品実測図（４）　66
第51図　鉄製品・鉄関連資料実測図（１）　68
第52図　鉄製品・鉄関連資料実測図（２）　69
第53図　分析資料観察表（１）　74
第54図　分析資料観察表（２）　75
第55図　分析資料観察表（３）　76
第56図　分析資料観察表（４）　77
第57図　分析資料観察表（５）　78
第58図　分析資料観察表（６）　79
第59図　分析資料観察表（７）　80
第60図　分析資料観察表（８）　81
第61図　分析資料観察表（９）　82
第62図　Fe-O系平衡状態図　90
第63図　鍛冶滓・粒状滓の顕微鏡組織　91
第64図　粒状滓の顕微鏡組織　92
第65図　鍛造剥片の顕微鏡組織（１）　93
第66図　鍛造剥片の顕微鏡組織（２）　94
第67図　鉄製品・鍛冶滓の顕微鏡組織　95
第68図　鉄製品の顕微鏡組織　96
第69図　三角形鉄片・鉄製品の顕微鏡組織　97
第70図　鉄製品のマクロ組織　98
第71図　鍛冶滓鉱物相の反射電子量と定量分析値　98
第72図　鍛冶滓のＸ線回折プロフィル　99
第73図　遺構変遷図　101
第74図　大壁建物跡の分類図　103
第75図　古墳時代中後期の矢迫遺跡周辺の復原案　104
第76図　古墳時代中後期の豊田市南部域の復原案　105

第１表　水洗篩別土量一覧表　49
第２表　編年対比表　50
第３表　主要遺構遺物出土量一覧表　58
第４表　剥片出土量一覧表　65
第５表　鉄製品・鉄関連資料構成一覧表　70
第６表　粒状滓一覧表　71
第７表　鍛造剥片一覧表　72
第８表　金属学的調査対象資料一覧表　73
第９表　金属学的調査対象粒状滓一覧表　73
第10表　金属学的調査対象鍛造剥片一覧表　73
第11表　回折Ｘ線パターンによる定性分析結果　88
第12表　供資材の履歴と調査項目　89
第13表　供資材の組成　89
第14表　出土遺物の調査結果のまとめ　89
第15表　大壁建物跡一覧表　103

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

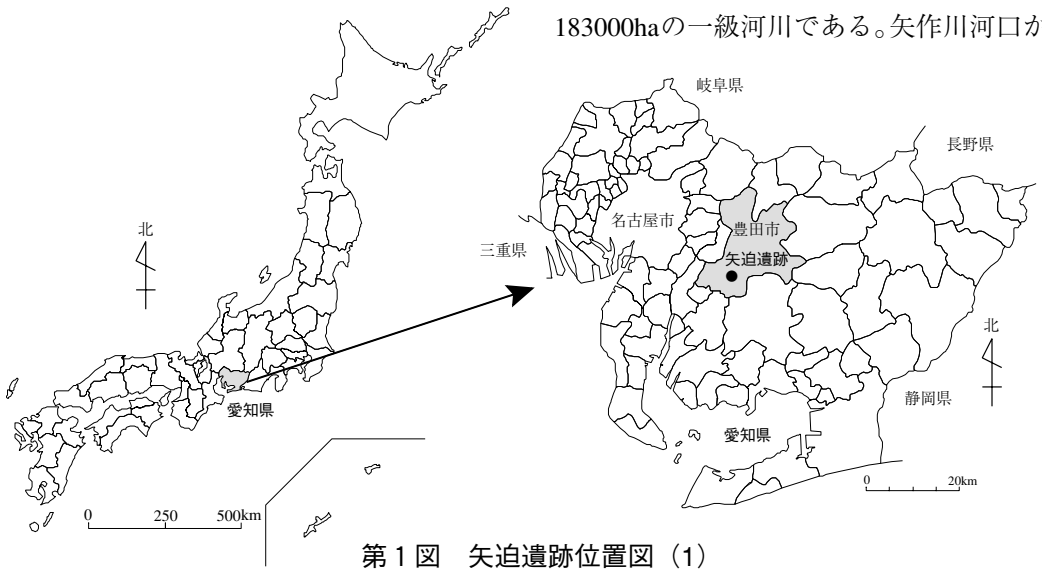
愛知県豊田市鴛鴨町字矢迫地内では、第二東海自動車道が現東名高速道路と交わる豊田東ジャンクション建設工事が行われることとなった。この建設予定地内には、1995年作成の遺跡分布図（愛知県教育委員会1995）では遺跡の所在は記載されていなかった。しかし、豊田市と愛知県教育委員会が1997年に建設予定地内の遺跡有無確認調査を行った結果、鴛鴨町字矢迫地内の碧海台地上で遺構の落ち込みや遺物の散布が認められたため、その地点に遺跡が存在することが明らかとなった。この地点は、古墳時代を中心とする著名な神明遺跡が隣接するものの、谷を隔てて神明遺跡とは異なる舌状台地に立地することや所在地字名も異なることなどから、「矢迫（やば）遺跡」（愛知県遺跡番号63477）と命名されることとなった。

このため、平成９年度に日本道路公団から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが矢迫遺跡の発掘調査を実施することとなった。調査は平成９年12月８日から平成10年3月31日までの期間に3500㎡を行った。調査に際して用いた遺跡名の略号はⅡＰＹＢ、調査区は97区である。発掘調査の結果、台地の両端部の一部が撹乱されていたこともあって台地端部では遺構や遺物を確認することができなかったが、調査区中央部のみで遺構が確認された。古墳時代を中心に弥生時代後期から江戸時代までの遺構約600基と破片数で20000点弱の遺物が出土した。

第２節　歴史的・地理的環境

矢迫遺跡は、愛知県豊田市鴛鴨町字矢迫に所在する。豊田市は愛知県のほぼ中央部に位置し、現在は人口約35万人を擁する工業都市として発展している。鴛鴨町は豊田市南部にあり東に矢作川が流れている。矢迫遺跡は鴛鴨町の南西部で舌状に伸びる碧海洪積台地上に立地している。旧地形で見ると、谷を隔てて東側にある舌状台地上には、著名な神明遺跡や三味線塚古墳が立地している。現在は、矢迫遺跡のすぐ北側に東名高速道路が走っている。遺跡の位置は北緯約35度1分25秒、東経約137度8分45秒で、現地形の標高は26～28mである。

豊田市域を南北に流れる矢作川は、長野県浪合村と平谷村の境にある大川入山上から愛知県西尾市までの総延長が約117km、流域面積は183000haの一級河川である。矢作川河口から約



第１図　矢迫遺跡位置図（1）

32km ほど遡った地点に豊田市鴛鴨町は所在する。矢作川右岸には豊田市から西尾市にかけて洪積台地である碧海台地が広がっており、この台地端部に多くの遺跡が確認されている。矢迫遺跡はこの碧海台地が舌状に伸びたその先端部に近い位置にあり、台地と沖積低地の比高差は約 10m を測る。

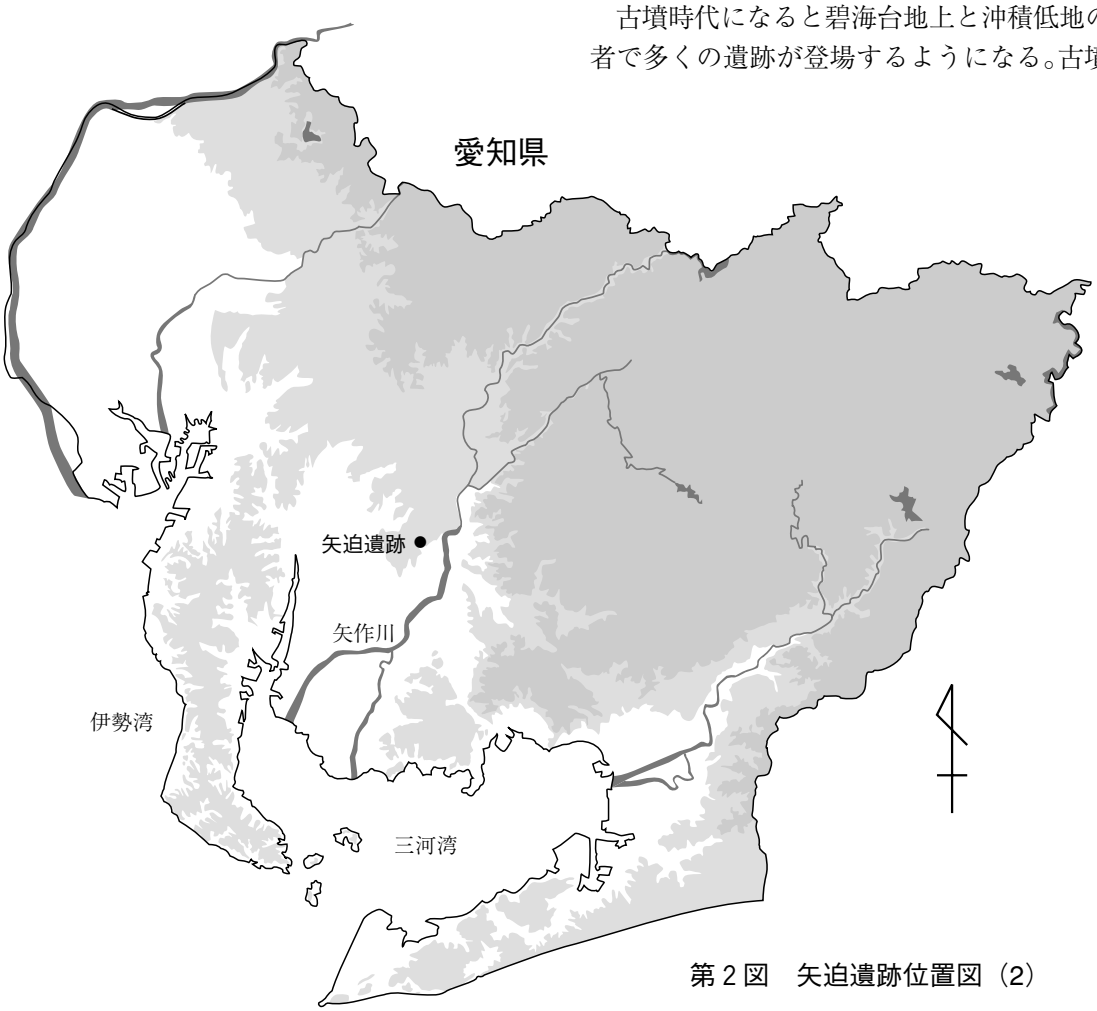
現在の豊田市鴛鴨町の集落は碧海台地上に約1000世帯が集まっているが、矢迫遺跡の所在する鴛鴨町南西部にはほとんど住宅はなく、調査前は野菜類などが栽培される畑地であった。碧海台地の前面に広がる沖積低地の大部分は水田などが広がっている。

矢迫遺跡がある鴛鴨町は古くは三河国碧海郡鴛鴨村であった。碧海郡とはいえ加茂郡と額田郡の郡境に近く、江戸時代においては領地が転変した経緯を持つ。古代における郷名については詳らかではないが、すぐ南に所在する畝部を「采女郷」に比定する説もある。ちなみに宝暦14（1764）年3月の年号が記された『参州碧海郡上野西鴛鴨村繪図』には、矢迫遺跡付近は耕作地として描かれている。

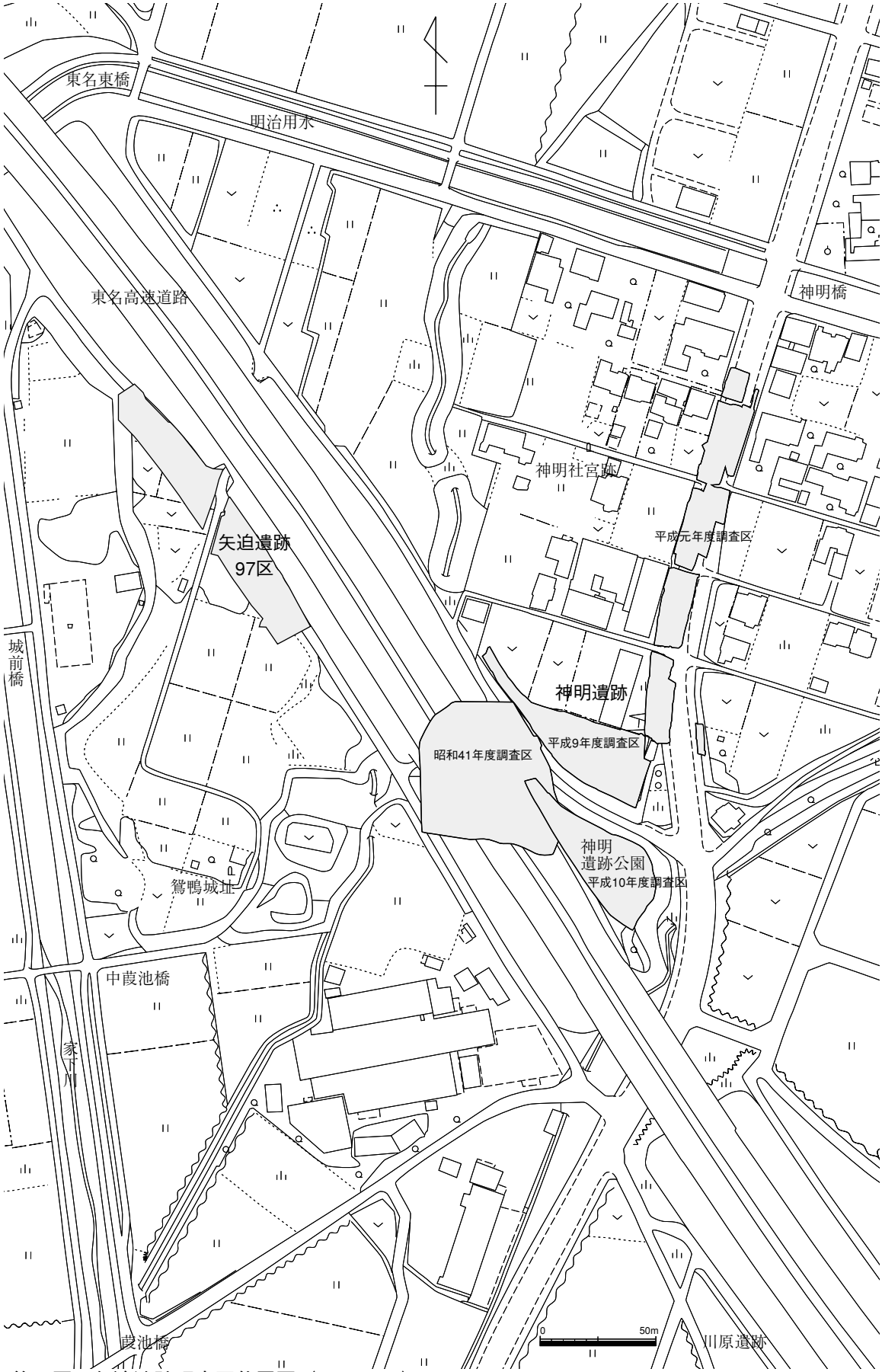
矢迫遺跡の周辺には多くの遺跡が所在しており、しかも多くの遺跡で発掘調査が行われており、この地域（鴛鴨町や渡刈町周辺）の歴史はかなり考古学的に明らかになってきている。

旧石器時代では、矢作川に面した碧海台地上の水入遺跡で後期旧石器時代の石器群が確認され、この地域では約20000年前から人々が居住していたことが判明した。続く縄文時代についても、西糟目遺跡や北田遺跡など多くの縄文時代遺跡が碧海台地端部に所在し、水入遺跡や今町遺跡では竪穴建物などの遺構も確認されている。弥生時代には、碧海台地上の神明遺跡の他に、沖積低地の川原遺跡でも西三河最大級の弥生時代集落が発見されている。川原遺跡では弥生時代中期中葉から墓域や居住域が営まれるようになり、神明遺跡では弥生時代後期から集落が展開した。また、南にある本川遺跡でも弥生時代中期の集落が発見されている。

古墳時代になると碧海台地上と沖積低地の両者で多くの遺跡が登場するようになる。古墳時



第 2 図　矢迫遺跡位置図（2）

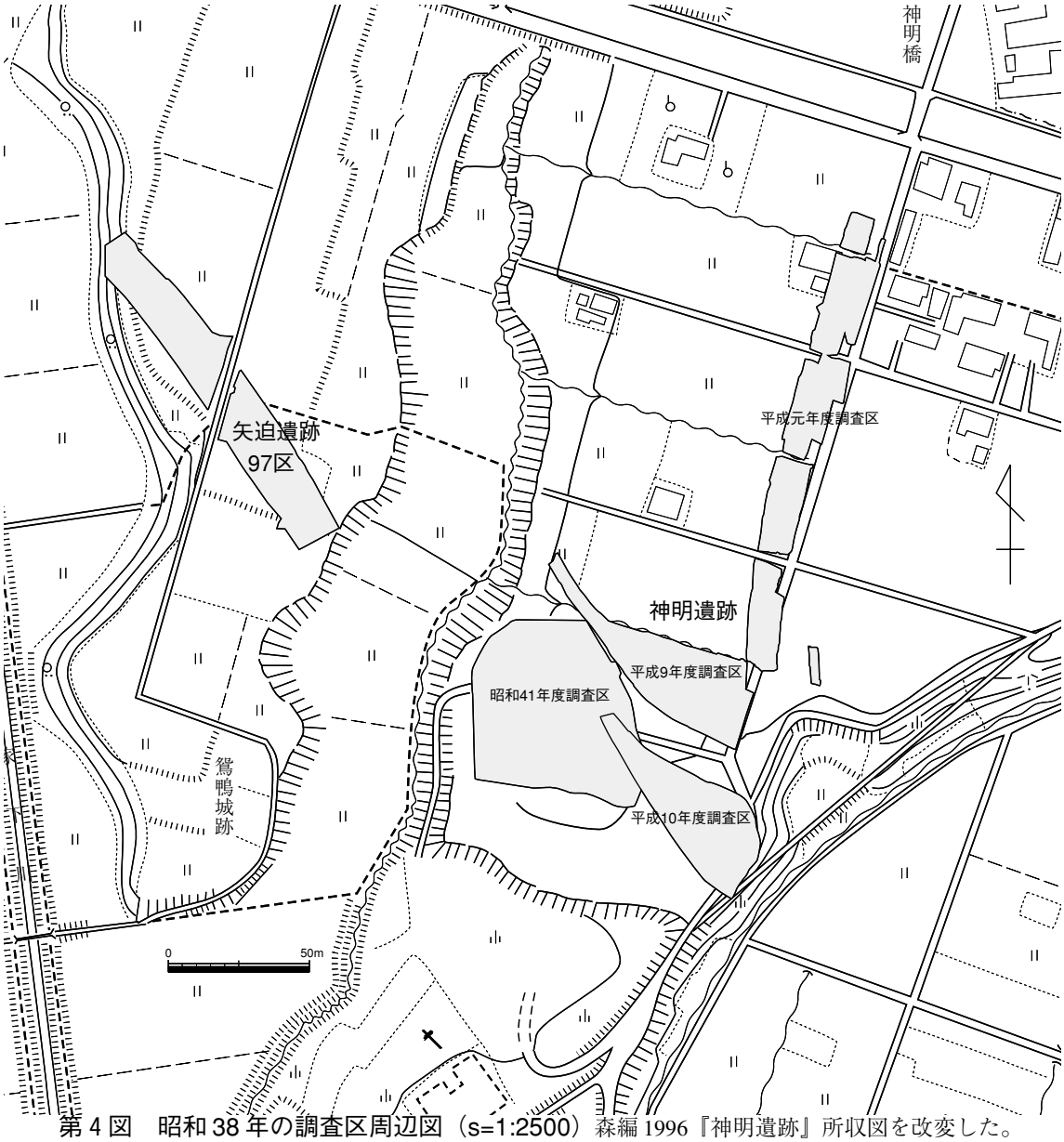


第 3 図　矢迫遺跡調査区位置図（s=1:2500）平成 7 年に豊田市が作成した豊田市基本図を改編した。

代中期に最盛期を迎える神明遺跡では豊田市教育委員会の発掘調査で多くの竪穴建物跡が検出され、これらは5世紀中葉から6世紀前葉と7世紀中葉以降にそれぞれピークを迎えている。神明遺跡以外にも、5世紀前半を中心とした集落遺跡である本川遺跡や5世紀代の遺構が確認された郷上遺跡・天神前遺跡などがあり、沖積低地での開発も盛んに行われるようになったといえる。さらに、矢迫遺跡から谷を隔てた舌状台地先端に所在する5世紀中葉の三味線塚古墳を始め、車塚古墳、渡刈富士塚古墳、鳥刈塚古墳など周辺には多くの古墳も存在している。

古代では、前述のように神明遺跡で集落が営まれる他に、100基以上の竪穴建物跡が発見された水入遺跡や今町遺跡、そして神明瓦窯などの遺跡が知られている。中世以降でも、数十区画の屋敷が確認された郷上遺跡を始め、天神前遺跡、本川遺跡、神明遺跡、今町遺跡などで居住域が、水入遺跡では墓域がそれぞれ展開している。戦国時代になると、矢迫遺跡が所在する台地先端部には、天保年間作成の『鴛鴨城絵図』にも記述される鴛鴨城跡が築かれたと伝えられている。

このように、矢迫遺跡の周辺では、台地の縁辺部や沖積低地の微高地上に遺跡が長期にわたって展開していることが明らかになってきており、これらを総合した歴史像の構築を今求められているといえよう。

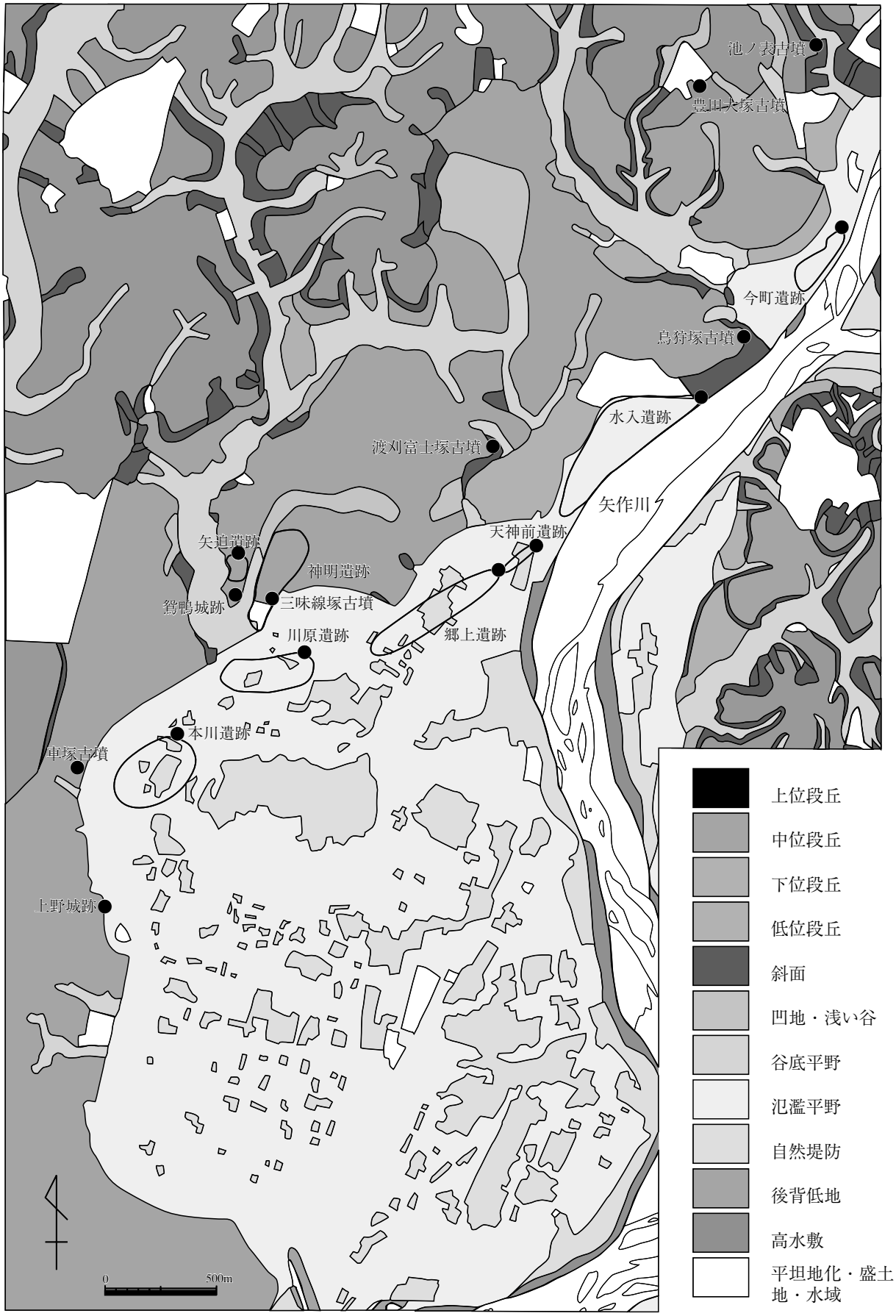


第4図　昭和38年の調査区周辺図（s=1:2500）森編1996『神明遺跡』所収図を改変した。

明治17年作成『地籍字分全図』（愛知県公文書館所蔵より作成した。

第5図　明治17年の調査区周辺地籍図（s=1:3000）

矢迫遺跡



第 6 図　調査区周辺地形分類図（s=1:25000）森編 2001『神明遺跡Ⅱ』所収図を改変した

第２章　遺構

第１節　基本層序と遺構の概要

矢迫遺跡は碧海台地上に立地する遺跡で、調査前は畑地または道路敷地となっていた。畑耕作土および道路を構成するアスファルトと砂利を除去するとすぐに遺構面に達する状態であった。部分的には調査に入る前から遺構面が露出している部分もあった。ここでは、調査区西半部の東壁に見られる土層堆積を中心に記述する（第７図）。

第１層は道路床の砕石層、第２層はにぶい黄褐色シルトの畑耕作土で、これらは表土に当たる。第３層褐色シルトは層厚が20cm以下の包含層に相当するが、調査区全体の中ではほとんど認められない。第３層からは古墳時代から江戸時代までの多様な遺物が小破片の状態で出土したため、近世以降の堆積物と推定される。第４層は褐色粘質シルト、第５層は褐色シルト、第６層は褐色シルトで、これらは全て遺構埋土と考えられる。第７層の明褐色シルトは本遺跡の地山（ベース）と思われる土層で、碧海台地の地表面を構成する堆積に相当する。東壁セクションで第７層上面の標高は約28.1mを測り、この地点が調査区内でのベースの最高地点に位置している。この第７層以下は明褐色粘土、橙色粘土などと堆積し、現地表下１～２mで礫層に至る。舌状台地の両側端部では礫層が部分的に露出していた。

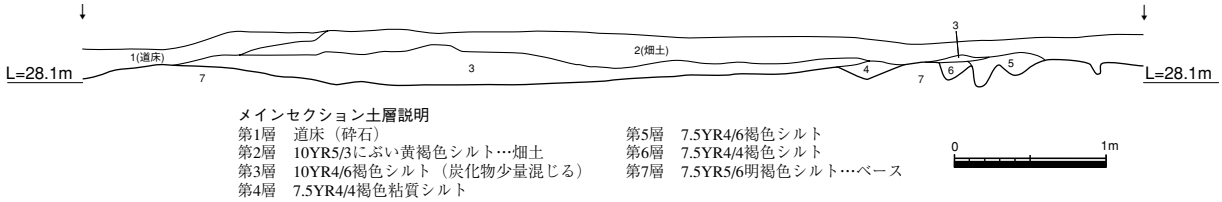
遺構は大半が第７層（地山）上面から掘り込まれていたと考えられ、遺構検出は基本的に第７層上面で行った。この遺構面で、弥生時代から江戸時代までのあらゆる時代の遺構が確認された。確証はないが、竪穴建物跡の検出深さの状態からみて、標高が高い調査区中央付近では本来の遺構面が既にかなり削られていたのではないかと推測される。

さて、第７層明褐色シルト上面で検出された遺構には、竪穴建物跡17棟、大壁建物跡３棟、掘立柱建物跡74棟、柵列、溝、土坑などが存在する。遺構の大部分は建物跡であることから今回の調査区は集落域であることが判明したが、一部の溝を除き、屋敷や集落全体を囲む施設を確認することができなかった。

竪穴建物跡は、大半が長方形の平面プランをもつもので17棟確認された。これらは発掘調査段階からＳＢ記号を付して調査を実施した。このうち、当初は竪穴建物跡として検出されたＳＢ08、10、11は、遺構掘削を開始した段階で後世の耕作土などを誤認したものと判明したため、調査時は欠番とし後に大壁建物跡に番号を振り替えている。また、当初は溝として調査したＳＤ14は、後に形状が幅広い周溝を持つ竪穴建物跡と判断してＳＢ20に番号を振り替えている。

大壁建物跡は、溝を掘削しその中に柱を埋設する建物跡で、確実なものが3棟確認された。当初は溝状遺構として調査を開始したため、調査時点の遺構記号は個々の溝ごとにＳＤ記号を付したが、今回報告書を作成する段階で改めてＳＢ記号を付けることとした。

掘立柱建物跡は、本書では暫定的に復元したものを報告する。その理由は、今回の調査で柱穴が約500基確認されその組み合わせにはいくつかの可能性が考えられるのだが、いずれも建物跡として確定するには至らないものばかりであったためである。柱穴状の土坑を掘立柱建物跡の柱穴と想定するならばそれを全部用いた形で掘立柱建物跡を復元しなければならないが、



メインセクション土層説明
第1層　道床（砕石）
第2層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト…畑土
第3層　10YR4/6褐色シルト（炭化物少量混じる）
第4層　7.5YR4/4褐色粘質シルト
第5層　7.5YR4/6褐色シルト
第6層　7.5YR4/4褐色シルト
第7層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

第７図　基本土層断面図　（s=1:50）

矢迫遺跡

第 8 図　主要遺構配置図（s=1:1000）

今回は全てを用いて復元することができなかったし、その建物跡の形状には無理が生じているものも多い。その原因は未検出の柱穴の存在や検討不足などの理由が考えられるが、ここでは仮説を提示することで報告に代えたい。

第２節　竪穴建物跡

今回の調査の結果、竪穴建物跡は全部で17棟確認された。竪穴建物跡は全て隅丸方形または隅丸長方形の平面プランを持つもので、竪穴の深さは概して浅いものが多く、本来あった当時の地表面はかなり削り取られていたと考えられる。竪穴建物跡は付属する施設の有無と形状から５類に分類できる。

竪穴建物跡Ａ類……壁面にカマド（カマドが存在した痕跡）が存在するもの。ＳＢ01、ＳＢ02、ＳＢ03、ＳＢ07、ＳＢ18の５棟が該当する。

竪穴建物跡Ｂ類……地床炉が存在するもの。ＳＢ06の１棟が該当する。

竪穴建物跡Ｃ類……幅狭い周溝が存在するもの。ＳＢ09の１棟が該当する。

竪穴建物跡Ｄ類……幅広い周溝を持つもの。ＳＢ16、ＳＢ19、ＳＢ20の３棟が該当する。

竪穴建物跡Ｅ類……カマド、地床炉、周溝などの付属施設を全く持たないもの。ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ12、ＳＢ13、ＳＢ14、ＳＢ15、ＳＢ17の７棟が該当する。

（１）ＳＢ01（第９図）

調査区南東端の台地縁辺部の緩斜面で検出された竪穴建物跡Ａ類である。南半部はＳＤ01に切られるため正確な規模を知ることはできないが、5.3m×3.3m以上の隅丸方形の平面プランを持ち主軸方位はＮ―26°―Ｅと測定される。ＳＢ02と重複しており調査時点ではＳＢ01の方が新しいと思われた。建物北東辺のほぼ中央で焼土塊の堆積している範囲が認められ、これがカマドの痕跡と考えられる。カマドの痕跡は北東辺が少し張り出す形で土坑状に掘り窪められ焼土混じりのシルトで床が充填されて作られていた。おそらく最初のカマドを壊して床及び壁面を整地した後に、痕跡が確認されたカマドを構築したものと推測される。再構築後の床面上層は火を受けており、その上には燃焼時に生じた炭や灰を含む黒褐色シルト、カマドの天井部が崩落したと推定される良く焼けた焼土の順に堆積していた。土坑状の落ち込み前面には焼土の盛り上がった部分が存在し、これがカマドの袖を構成していた可能性が考えられる。周溝はカマドを除く残存する縁辺全体に幅約30cm、深さ約10cmで巡っている。その内側にも同様な規模の溝がもう１条巡っており、周溝から見てＳＢ01の建て替えが行われていたことが知れる。建物東端隅部にはＳＫ569、カマド推定地西隣にはＰ7という各々やや大きな土坑が存在しており、これが貯蔵穴になるかも知れない。柱穴は床面の大部分が欠損しているため十分に検討できないがＰ８及びＰ６が北端の柱穴になると思われる。遺物は周溝を中心に須恵器と土師器が出土しており、時期はＢ―４期（第５章第１節を参照、以下同様）に位置付けられよう。

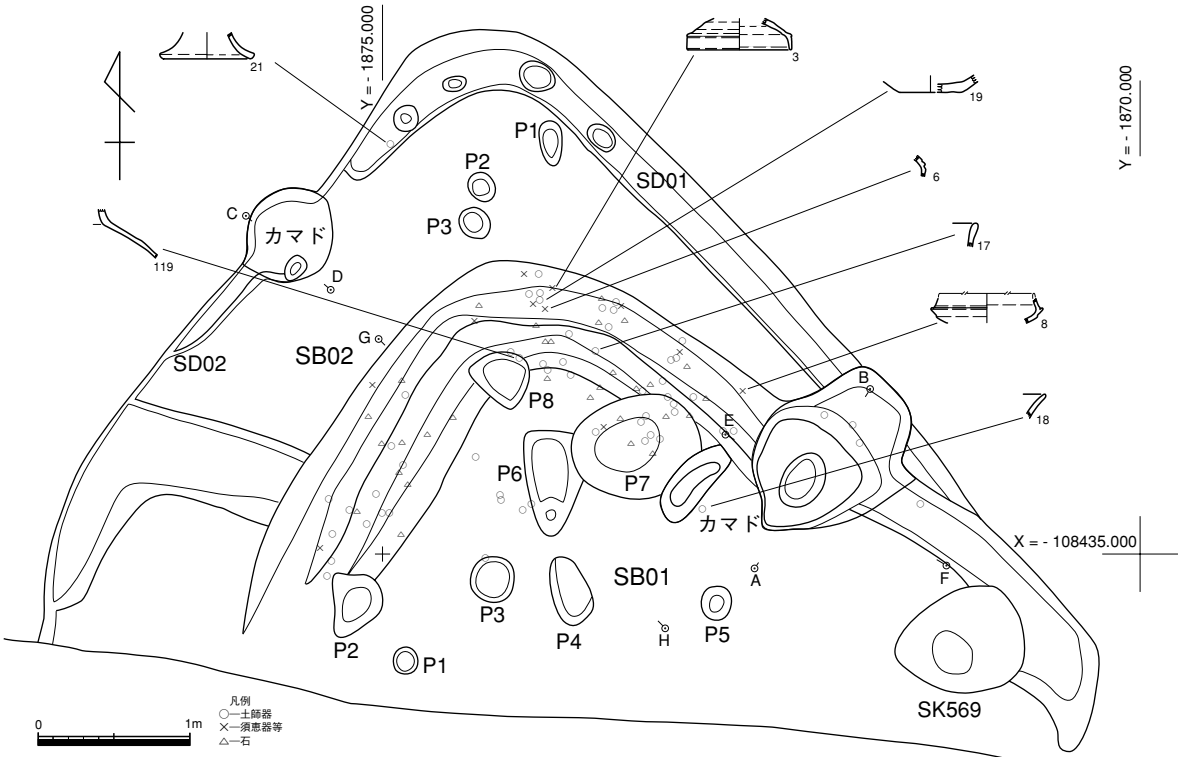
（２）ＳＢ02（第９図）

ＳＢ01とは重複して検出された竪穴建物跡Ａ類である。南半部は調査区外に広がるため正確な規模を知ることはできないが、平面形は4.8m以上×5.0m以上の隅丸方形で、主軸方位はＮ―41°―Ｗと測定される。周溝のみが確認され、遺構覆土はほとんど残存していなかった。周溝の切り合い関係からみてＳＢ01の方が新しいと判断される。建物北西辺のほぼ中央部付近では、北西辺を少し張り出す形で土坑状に掘り窪められた床面が焼けており、その上位には焼土や炭化物が混入したシルトの堆積が見られたことから、これがカマドの破壊された痕跡と推測される。周溝はカマドを除く残存する縁辺のほぼ全体に巡っており、幅約35cm、深さ約4cmを測る。南部は別の溝状の落ち込みが存在して本来の竪穴建物跡の床面の状況を確認できなかった。主柱穴はＰ２のみを確認した。覆土が余り残存しないために出土遺物は非常に少ないが、須恵器と土師器の小片からみてＢ―３期と推測されよう。

（３）ＳＢ03（第10図）

調査区東部の北端で検出された竪穴建物跡Ａ類である。北東部は調査区外に広がるため正確な規模は不明だが、3.9m以上×3.5mの隅丸方形の平面プランを持ち主軸方位はＮ―19°―Ｅを測る。ＳＢ19と重複しており調査時点ではＳＢ03の方が新しいと思われた。西辺のほぼ中央で焼土塊が堆積している範囲がカマドの痕跡と考えられ、西辺から張り出す形で掘り窪められた落ち込みにシルトを埋めて作られていた。その上には灰や炭化物を含む褐色シルト、天井部

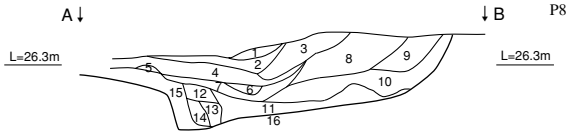
矢迫遺跡



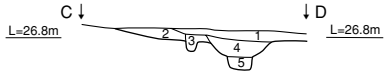
SB02内遺構埋土一覧
SD1 7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物少量混じる）
SD2 7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物少量混じる）
P1 7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物、明褐色シルト斑土混じる）
P2 7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物、明褐色シルト斑土混じる）
P3 7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物、明褐色シルト斑土混じる）

SB01内遺構埋土一覧
SD01 10YR4/4褐色シルト＋10YR5/4にぶい黄褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）
P1 7.5YR4/3褐色シルト
P2 7.5YR3/3暗褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土
P3 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混じる）
P4 7.5YR4/3褐色シルト
P5 7.5YR4/2灰褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）
P6 10YR4/3にぶい黄褐色シルト＋10YR4/6褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）
P7 7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土
P8 10YR5/4にぶい黄褐色シルト

SB01カマド南西-北東セクション

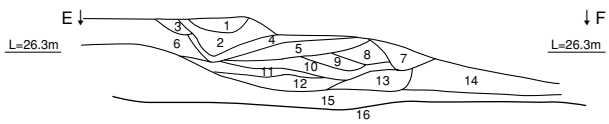


SB02カマド北西-南東セクション

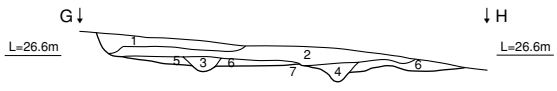


SB02カマド北西-南東セクション土層説明
第1層　7.5YR3/4暗褐色シルト（焼土、炭化物混じる）
第2層　5YR3/6暗赤褐色シルト（炉床、火を強く受けている）
第3層　7.5YR5/8明褐色シルト（炭化物少量混じる）
第4層　7.5YR5/6明褐色シルト（焼土、炭化物混じる）
第5層　10YR5/6黄褐色シルト（焼土、炭化物混じる）

SB01南東-北西セクション



SB01セクション



SB01セクション土層説明
第1層　10YR4/4褐色シルト（炭化物混じる）
第2層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（炭化物、焼土少量混じる）
第3層　10YR4/4褐色シルト＋10YR5/4にぶい黄褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）…SD01
第4層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト＋10YR4/6褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）…P6
第5層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）
第6層　7.5YR5/6明褐色粘土＋10YR6/4にぶい黄橙色シルト斑土
第7層　7.5YR5/6明褐色粘土…ベース

SB01カマド南西-北東セクション土層説明
第1層　5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
第2層　5YR5/6明赤褐色シルト…火を強く受けている（カマド上部）
第3層　7.5YR4/3褐色シルト（焼土混じる）
第4層　5YR2/2黒褐色シルト（焼土混じる）…カマド灰
第5層　5YR4/2灰褐色シルト
第6層　5YR4/2灰褐色シルト
第7層　5YR3/4暗赤褐色シルト…火を受けている（カマド底部）
第8層　7.5YR4/3褐色シルト（焼土混じる）
第9層　7.5YR4/3褐色シルト（焼土混じる）…カマドの裏込め土
第10層　5YR4/3にぶい赤褐色シルト（焼土混じる）…カマドの裏込め土
第11層　2.5Y6/4にぶい黄色シルト
第12層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト
第13層　2.5Y6/6明黄褐色シルト
第14層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト
第15層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物混じる）
第16層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

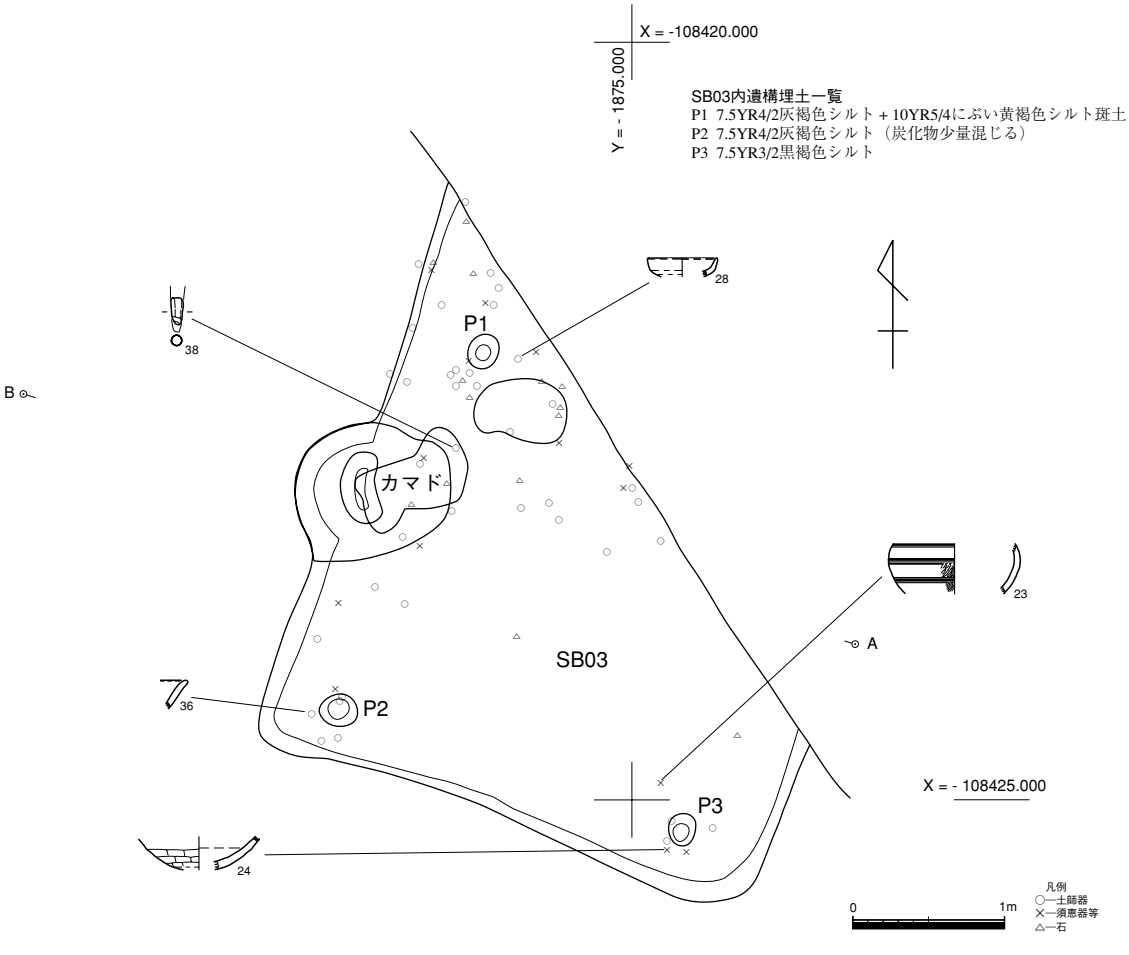
SB01南東-北西セクション土層説明
第1層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト
第2層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト
第3層　5YR5/6明赤褐色シルト（火を受けている）
第4層　5YR5/6明赤褐色シルト…火を強く受けている（カマド上部）
第5層　7.5YR4/3褐色シルト（焼土混じる）
第6層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
第7層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
第8層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
第9層　7.5YR5/2灰褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
第10層　7.5YR4/3褐色シルト（焼土混じる）
第11層　5YR4/3にぶい赤褐色シルト（焼土混じる）…カマドの裏込め土
第12層　2.5Y6/4にぶい黄色シルト
第13層　7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
第14層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
第15層　10YR4/4褐色シルト＋10YR5/4にぶい黄褐色シルト斑土
（炭化物少量混じる）…SD01
第16層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

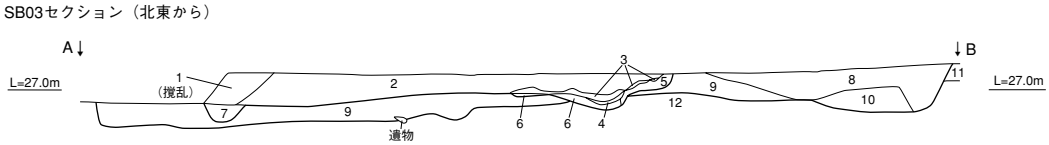
第９図　竪穴建物跡ＳＢ０１・ＳＢ０２遺構図（s=1:50）

が崩落したと思われる焼土の順に堆積していた。カマドの袖はその痕跡も確認できず、支脚も遺存しなかった。覆土は褐色シルトで一気に埋積され、床面は特に貼り床のような構造は持たず、周溝や地床炉などの施設は発見されなかった。主柱穴はＰ1、Ｐ2、Ｐ3が該当し、北東隅の主柱穴は調査区外に存在すると考えられた。遺物は北西部に集中して須恵器と土師器が出土しており、時期はＤ期と考えられる。

（4）ＳＢ04（第11図）

調査区中央で検出された竪穴建物跡Ｅ類で、平面形は3.6m×2.9mの隅丸長方形である。主軸方位はＮ―6°―Ｅを測る。ＳＢ05と重複しており、調査時点ではＳＢ04の方が新しいと判断した。竪穴の深さは約10cmを測り、ＳＢ05が下位に存在した部分では暗褐色シルトと褐色シルトの斑土による貼り床が施されていた。床面には周溝やカマド、地床炉などの施設は残らず、主柱穴はＰ1、Ｐ3、Ｐ5、Ｐ7が該当すると考えられる。遺物は須恵器と土師器などが遺





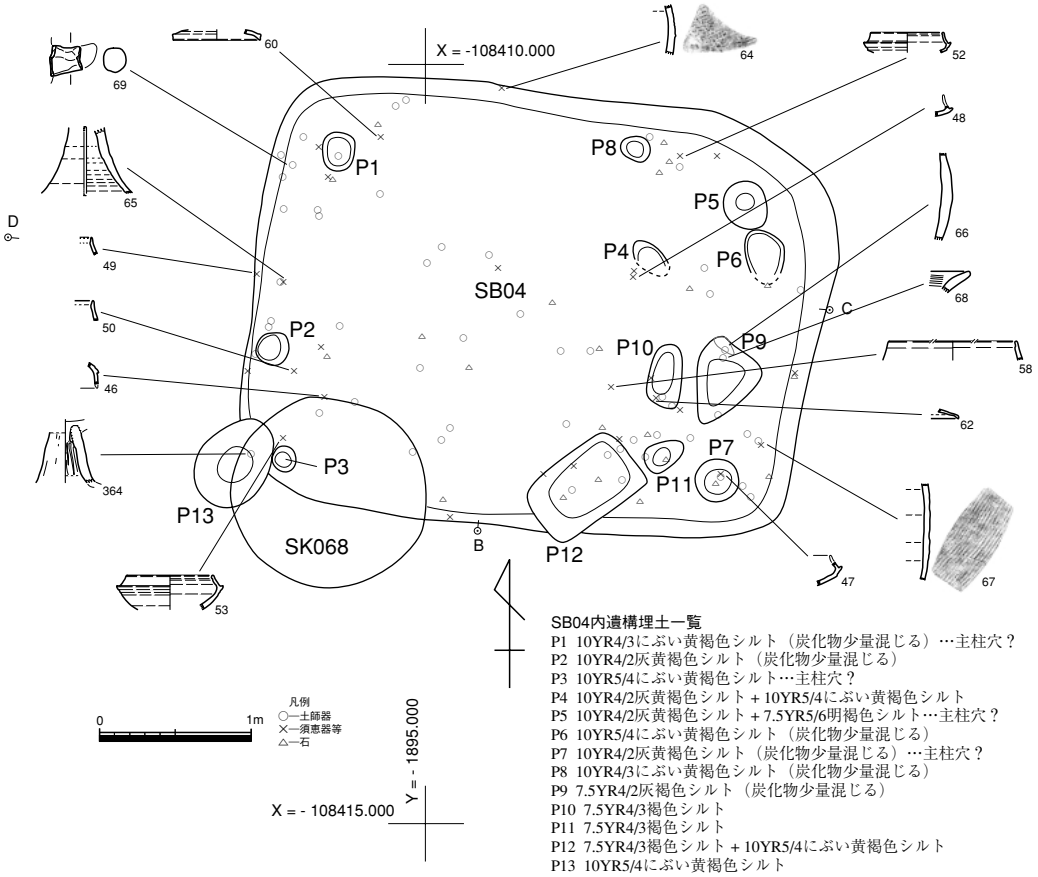
SB03,SB19セクション土層説明
第1層　2.5Y5/3黄褐色シルト…撹乱
第2層　7.5YR4/4褐色シルト…SB03
第3層　7.5YR4/4褐色シルト＋5YR4/8赤褐色シルト斑土…カマドの袖？などが崩落した焼土…SB03
第4層　7.5YR3/3暗褐色シルト（炭化物大量に混じる）…カマドの灰？…SB03
第5層　7.5YR4/4褐色シルト＋7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土…カマドの裏込め土…SB03
第6層　5YR4/8赤褐色シルト…カマド　火を受けた部分…SB03
第7層　7.5YR3/3暗褐色シルト…SB03
第8層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物混じる）…SB19
第9層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト…SB19
第10層　7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR3/3暗褐色シルト斑土…SB19
第11層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト…SB19
第12層　10YR5/6黄褐色シルト…ベース

第10図　竪穴建物跡ＳＢ03遺構図（s=1:50）

構全体に分布して出土しており、これらの遺物から時期はB―3期と考えられる。

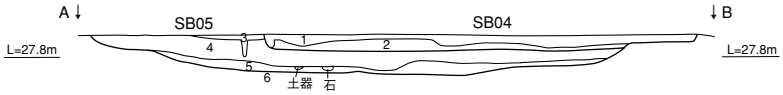
（5） S B 05（第12図）

調査区中央で確認された竪穴建物跡E類である。S B04と重複しているため柱穴などの内部施設はS B 04のものが混在していると思われる。切り合い関係はS B 05の方が古い。平面形は4.1m×3.7mの隅丸方形で、南東部がやや崩

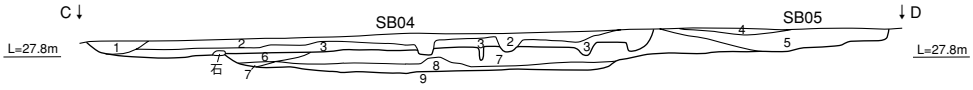


SB04内遺構埋土一覧
P1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）…主柱穴？
P2 10YR4/2灰黄褐色シルト（炭化物少量混じる）
P3 10YR5/4にぶい黄褐色シルト…主柱穴？
P4 10YR4/2灰黄褐色シルト＋10YR5/4にぶい黄褐色シルト
P5 10YR4/2灰黄褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト…主柱穴？
P6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）
P7 10YR4/2灰黄褐色シルト（炭化物少量混じる）…主柱穴？
P8 10YR4/3にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）
P9 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混じる）
P10 7.5YR4/3褐色シルト
P11 7.5YR4/3褐色シルト
P12 7.5YR4/3褐色シルト＋10YR5/4にぶい黄褐色シルト
P13 10YR5/4にぶい黄褐色シルト

SB04,05南北セクション（西から）



SB04.05東西セクション（北から）



SB04,05南北セクション土層説明
第1層 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物混じる）…SB04
第2層 10YR3/4暗褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…床…SB04
第3層 7.5YR4/4褐色シルト…SB05
第4層 7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB05
第5層 10YR4/4褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB05
第6層 7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

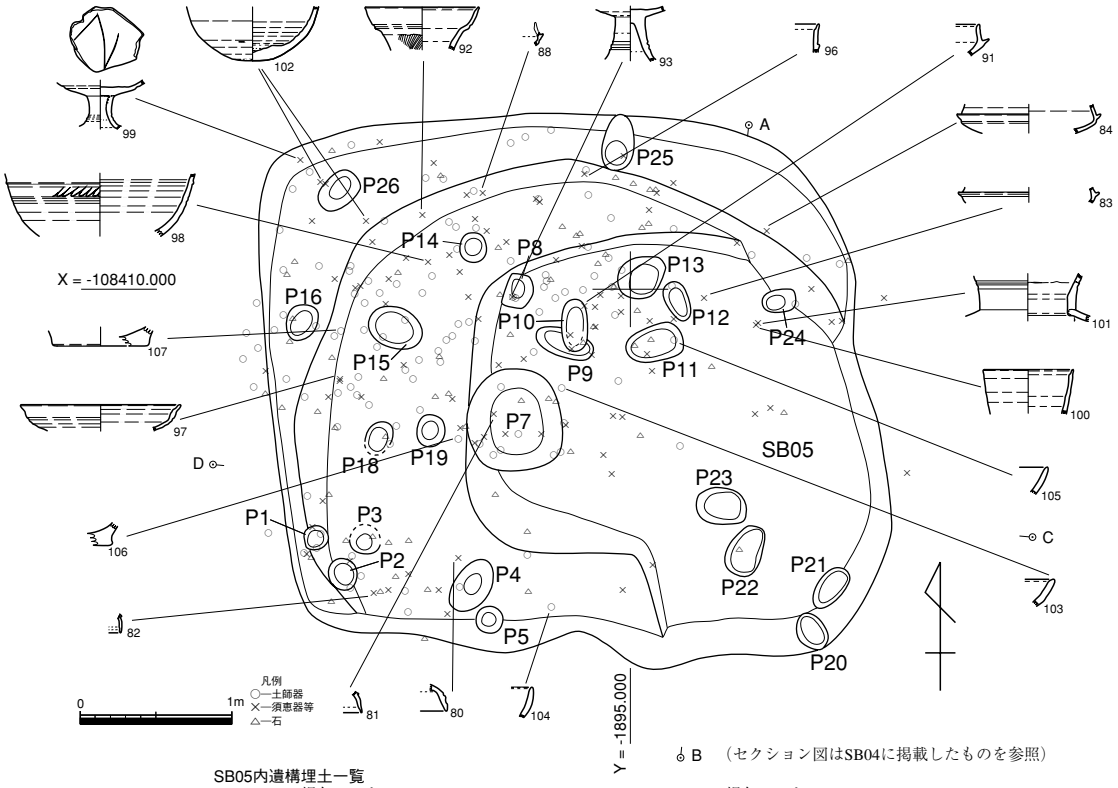
SB04,05東西セクション土層説明
第1層 10YR4/6褐色シルト…SB04
第2層 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物混じる）…SB04
第3層 10YR3/4暗褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…床…SB04
第4層 7.5YR4/4褐色シルト（炭化物混じる）…SB05
第5層 7.5YR3/3暗褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB05
第6層 7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト斑土（炭化物混じる）…カマド？…SB05
第7層 7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB05
第8層 10YR4/4褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB05
第9層 7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

第11図 竪穴建物跡S B 04遺構図（s=1:50）

れた形状となっている。主軸方位はN―2°―Wと測定され、覆土は最深部で25cmほど残存していた。ＳＢ05の床面は2段の浅い段差を持っており、調査で認識した重複関係以外にも建物跡の切り合いが存在した可能性がある。最上段は北辺から西辺にかけて幅約50cmのテラス状となっており、中段は北辺から西辺を経て南辺の中央部まで至る「コ」の字状の幅約1mのテラスとなっていた。各段の比高差は5～10cm程度のであり、いわゆるベッド状遺構となる可能性がある。南東半の最深部の最下層は褐色シルトの斑土となっていてこれが貼り床となるかも知れない。床面から周溝やカマドおよび地床炉は検出されなかった。主柱穴は特定しにくいが、Ｐ2、Ｐ22、Ｐ26をその候補にあげておきたい。遺物は北半で濃密に分布しており、時期はＢ―2期に属する。

（6）ＳＢ06（第13図）

南側調査区の西端で、舌状台地の中央部に位置する竪穴建物跡Ｂ類である。北端部は削平のため覆土はあまり残存していなかった。平面形はおおよそ4.3m×4.0mの隅丸方形であるが、東隅角部の掘形は円弧を描いて角を持たない。主軸方位はN―40°―Eで、ＳＢ06の下層からＳＢ09が検出された。建物北西辺に近い部分で焼土の堆積が確認された。長径約70cmの楕円形に床面が焼けた範囲に引き続いて南東方向に帯状に伸びる焼土塊ブロックの堆積が認められたもので、ここでは地床炉の痕跡として判断したが、別の重複した竪穴建物跡のカマドの痕跡であった可能性も残る。焼土の範囲は建物西隅角部からやや南東に位置する部分でも検出されている。床面は褐色シルトおよび明褐色粘土の斑土による貼り床が厚さ約3cmほど確認された。床面では周溝は全く残存しなかったが、東寄りの部分から非常に浅い溝が1条検出され

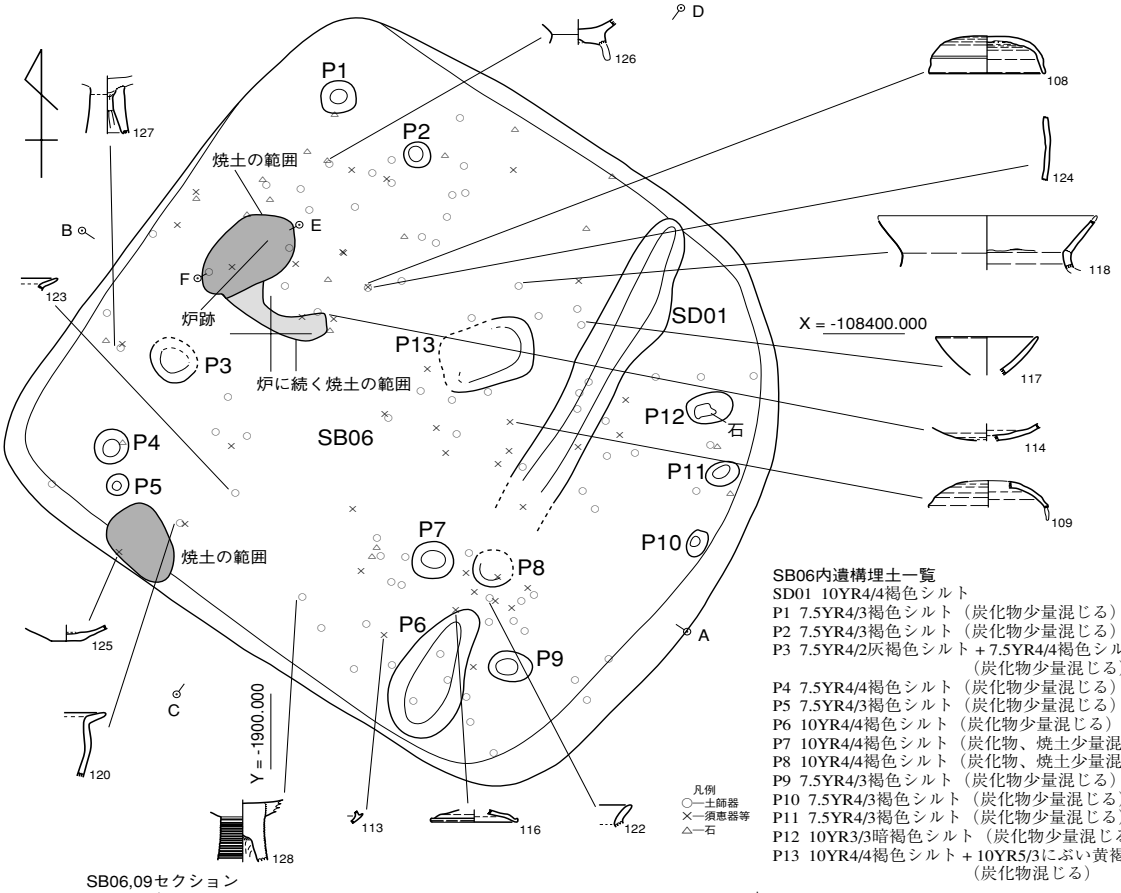


SB05内遺構埋土一覧

P1 7.5YR4/3褐色シルト
P2 7.5YR4/3褐色シルト
P3 7.5YR4/3褐色シルト
P4 7.5YR4/2灰褐色シルト
P5 7.5YR4/3褐色シルト
P6 欠番
P7 10YR4/4褐色シルト（炭化物少量混じる）
P8 7.5YR4/3褐色シルト
P9 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P10 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混じる）
P11 7.5YR4/3褐色シルト
P12 7.5YR4/3褐色シルト
P13 7.5YR4/2灰褐色シルト
P14 7.5YR4/4褐色シルト
P15 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P16 7.5YR4/3褐色シルト
P17 欠番
P18 7.5YR4/3褐色シルト
P19 7.5YR4/3褐色シルト
P20 7.5YR4/2灰褐色シルト
P21 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混じる）
P22 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混じる）
P23 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混じる）
P24 7.5YR4/3褐色シルト
P25 7.5YR4/4褐色シルト
P26 7.5YR5/3にぶい褐色シルト

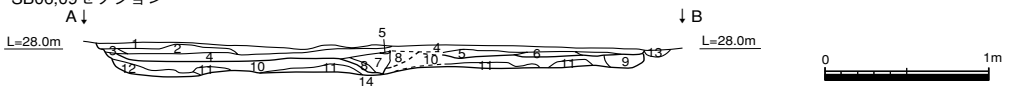
第12図　竪穴建物跡ＳＢ05遺構図（s=1:50）

矢迫遺跡

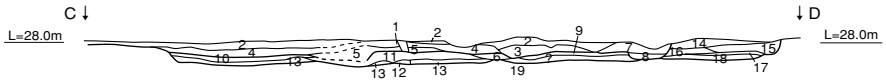


SB06内遺構埋土一覧
SD01 10YR4/4褐色シルト
P1 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P2 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P3 7.5YR4/2灰褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト斑土（炭化物少量混じる）
P4 7.5YR4/4褐色シルト（炭化物少量混じる）
P5 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P6 10YR4/4褐色シルト（炭化物少量混じる）
P7 10YR4/4褐色シルト（炭化物、焼土少量混じる）
P8 10YR4/4褐色シルト（炭化物、焼土少量混じる）
P9 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P10 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P11 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
P12 10YR3/3暗褐色シルト（炭化物少量混じる）
P13 10YR4/4褐色シルト＋10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑土（炭化物混じる）

SB06,09セクション

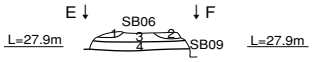


SB06,09セクション土層説明（A—B間）
第1層　10YR4/4褐色シルト…SB06
第2層　10YR3/4暗褐色シルト…SB06
第3層　10YR3/4暗褐色シルト＋5YR5/8明赤褐色シルト斑土…SB06
第4層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物混じる）…SB06
第5層　7.5YR4/4褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色粘土斑土（炭化物混じる）…貼床…SB06
第6層　7.5YR4/4褐色シルト…SB06
第7層　7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物混じる）…SB06
第8層　7.5YR4/2灰褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB06
第9層　5YR4/4にぶい赤褐色シルト＋5YR4/8赤褐色シルト斑土（炭化物混じる）…カマド？…SB09
第10層　10YR3/4暗褐色シルト（炭化物混じる）…SB09
第11層　10YR4/6褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト…床…SB09
第12層　10YR4/6褐色シルト…SB09
第13層　7.5YR4/6褐色シルト…SB09
第14層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



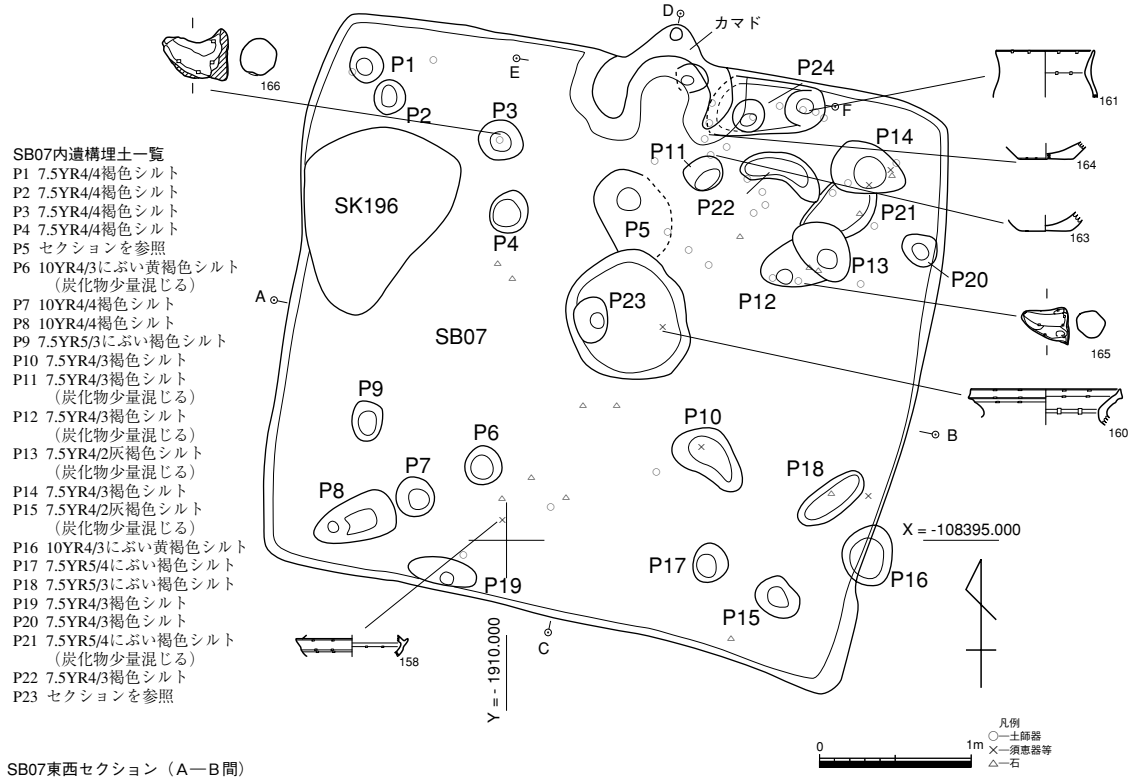
SB06,09セクション土層説明（C—D間）
第1層　2.5Y5/3黄褐色シルト…撹乱…SB06
第2層　10YR4/4褐色シルト…SB06
第3層　10YR4/4褐色シルト＋10YR3/3暗褐色シルト（炭化物、焼土混じる）…床…SB06
第4層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物混じる）…SB06
第5層　7.5YR4/2灰褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB06
第6層　10YR4/4褐色シルト＋10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑土（炭化物混じる）…SB06
第7層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、焼土混じる）…SB06
第8層　7.5YR4/4褐色シルト（炭化物、焼土混じる）…SB06
第9層　7.5YR4/4褐色シルト＋10YR3/3暗褐色シルト（炭化物、焼土混じる）…SB06
第10層　10YR4/4褐色シルト＋10YR3/3暗褐色シルト斑土…SB09
第11層　10YR3/4暗褐色シルト（炭化物混じる）…SB09
第12層　7.5YR4/3褐色シルト…SB09
第13層　10YR4/6褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト…床…SB09
第14層　7.5YR4/4褐色シルト…SB09
第15層　7.5YR4/4褐色シルト＋5YR4/8赤褐色シルト斑土…SB09
第16層　10YR4/4褐色シルト（炭化物、焼土混じる）…SB09
第17層　10YR4/4褐色シルト…SB09
第18層　10YR4/4褐色シルト＋7.5YR5/6明褐色シルト…床…SB09
第19層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

SB06焼土セクション（E—F間）



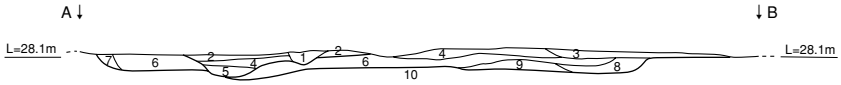
SB06焼土セクション土層説明
第1層　5YR5/6明赤褐色シルト…炉跡…SB06
第2層　5YR5/4にぶい赤褐色シルト…炉跡…SB06
第3層　5YR4/4にぶい赤褐色シルト…SB06
第4層　7.5YR4/2灰褐色シルト…SB09

第13図　竪穴建物跡ＳＢ06遺構図（s=1:50）



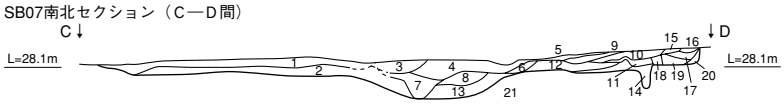
SB07内遺構埋土一覧
P1 7.5YR4/4褐色シルト
P2 7.5YR4/4褐色シルト
P3 7.5YR4/4褐色シルト
P4 7.5YR4/4褐色シルト
P5 セクションを参照
P6 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
（炭化物少量混じる）
P7 10YR4/4褐色シルト
P8 10YR4/4褐色シルト
P9 7.5YR5/3にぶい褐色シルト
P10 7.5YR4/3褐色シルト
P11 7.5YR4/3褐色シルト
（炭化物少量混じる）
P12 7.5YR4/3褐色シルト
（炭化物少量混じる）
P13 7.5YR4/2灰褐色シルト
（炭化物少量混じる）
P14 7.5YR4/3褐色シルト
P15 7.5YR4/2灰褐色シルト
（炭化物少量混じる）
P16 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
P17 7.5YR5/4にぶい褐色シルト
P18 7.5YR5/3にぶい褐色シルト
P19 7.5YR4/3褐色シルト
P20 7.5YR4/3褐色シルト
P21 7.5YR5/4にぶい褐色シルト
（炭化物少量混じる）
P22 7.5YR4/3褐色シルト
P23 セクションを参照

SB07東西セクション（A—B間）



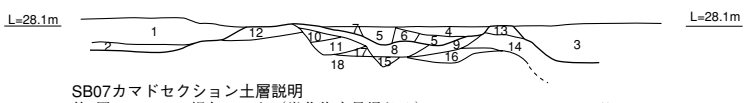
SB07東西セクション土層説明
第1層　7.5YR4/2灰褐色シルト＋7.5YR4/3褐色シルト斑土…撹乱
第2層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
第3層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
第4層　7.5YR4/4褐色シルト
第5層　7.5YR4/6褐色シルト（炭化物少量混じる）
第6層　7.5YR5/6明褐色シルト＋7.5YR6/6橙色シルト斑土
第7層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト
第8層　10YR4/4褐色シルト（炭化物少量混じる）
第9層　7.5YR4/6褐色シルト（炭化物少量混じる）
第10層　7.5YR6/6橙色シルト…ベース

SB07南北セクション（C—D間）



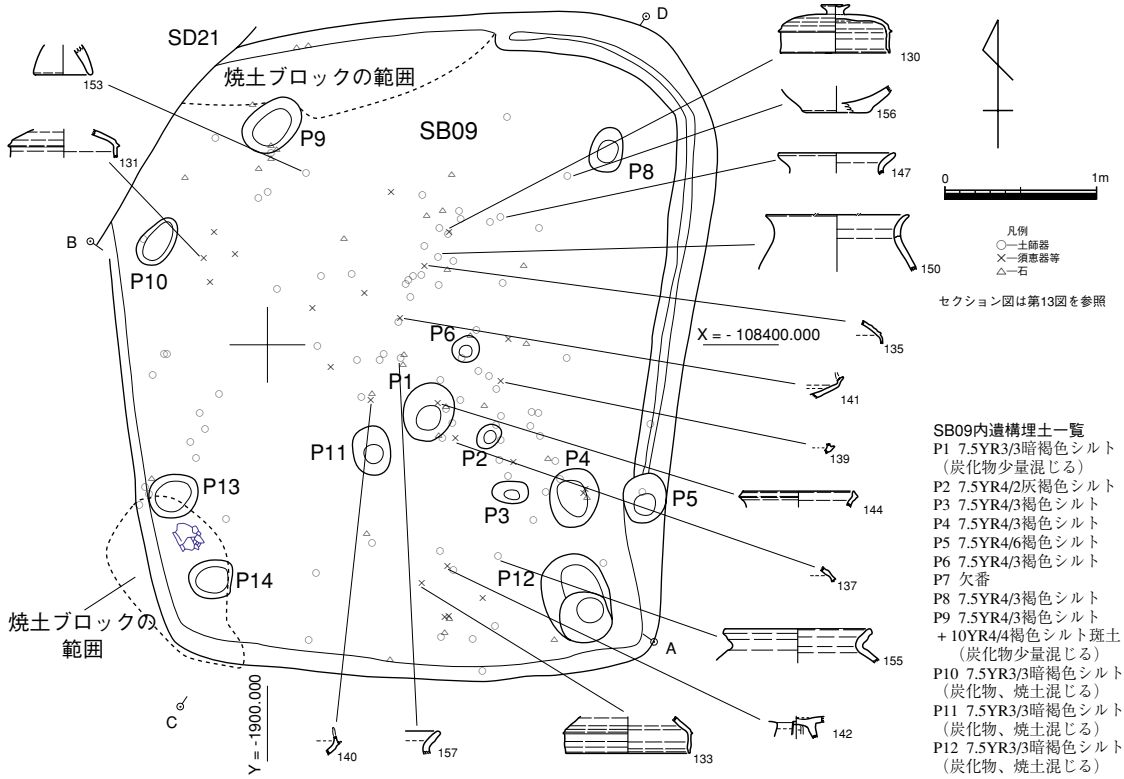
SB07南北セクション土層説明
第1層　7.5YR4/4褐色シルト
第2層　7.5YR5/6明褐色シルト＋7.5YR6/6橙色シルト斑土
第3層　7.5YR4/4褐色シルト＋7.5YR6/4にぶい橙色シルト斑土
第4層　7.5YR4/4褐色シルト
第5層　7.5YR3/2黒褐色シルト（炭化物、焼土大量に混じる）
第6層　7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR4/4褐色シルト
第7層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
第8層　7.5YR4/6褐色シルト
第9層　7.5YR3/2黒褐色シルト＋7.5YR6/4にぶい橙色シルト斑土
（炭化物、焼土大量に混じる）
第10層　7.5YR4/2灰褐色シルト＋7.5YR6/4にぶい橙色シルト斑土
第11層　5YR4/4にぶい赤褐色シルト…カマド壁
第12層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト
第13層　7.5YR4/3褐色シルト
第14層　7.5YR4/3褐色シルト
第15層　5YR4/6赤褐色シルト…煙道？
第16層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）
第17層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト
第18層　7.5R4/2灰褐色シルト（炭化物混じる）
第19層　7.5YR4/4褐色シルト
第20層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト
第21層　7.5YR6/6橙色シルト…ベース

SB07カマドセクション（E—F間）



SB07カマドセクション土層説明
第1層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
第2層　7.5YR4/6褐色シルト
第3層　7.5YR4/2灰褐色シルト（焼土、炭化物混じる）
第4層　7.5YR4/4褐色シルト（焼土多量に混じる）…カマド壁崩壊
第5層　7.5YR4/4褐色シルト（橙色斑土混じる）
第6層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト（灰褐色粘土混じる）
第7層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト（橙色斑土混じる）
第8層　??（上面がカマドの床）
第9層　7.5YR3/3暗褐色シルト（カマド右袖の盛土、上面がカマドの床）
第10層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト（カマド左袖の盛土）
第11層　7.5YR4/2灰褐色シルト（カマド左袖の盛土）
第12層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト（カマド左袖の盛土）
第13層　5YR5/4にぶい赤褐色シルト（炭化物少量混じる）
第14層　5YR4/3にぶい赤褐色シルト（炭化物少量混じる、カマド右袖の盛土）
第15層　5YR5/4にぶい赤褐色シルト
第16層　5YR5/3にぶい赤褐色シルト（カマド右袖の盛土）
第17層　5YR5/6明赤褐色シルト
第18層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

第14図　竪穴建物跡ＳＢ07遺構図（s=1:50）



第 15 図　竪穴建物跡ＳＢ 09 遺構図（s=1:50）

た。Ｐ 1、Ｐ 4、Ｐ 9、Ｐ 12 が主柱穴と考えられ、Ｐ 12 からは石材（花崗岩）が出土した。Ｐ 6およびＰ 13は建物跡に伴う何らかの施設になる可能性がある。遺物はほぼ全域に分布しているが、主柱穴の周囲に片寄る傾向がある。須恵器と土師器など多くの遺物が出土しており、時期はＢ―３期と推定される。なお、ＳＢ 06の上位では現道に平行する形で杭が打ち込まれ、耕作に伴う撹乱も多く存在していた。

（７）ＳＢ 07（第 14 図）

北側調査区南東端で検出された竪穴建物跡Ａ類で、舌状台地のほぼ中央部に位置する。平面形は 4.2m × 3.7m の隅丸方形であるが、他の竪穴建物跡に比べると隅角部の屈曲が強くほぼ方形の形状となっている。主軸方位はＮ―10°―Ｅ、竪穴の深さは 10 ～ 15cm 程度を測り、他の竪穴建物跡とは重複しない。建物北辺のほぼ中央部でカマドが残存していた。カマドは北辺から少し張り出した位置で煙出しを設けその両側にはカマドの袖をにぶい褐色シルトの盛土を行って作り上げている。両袖の内側は床が焼けておりその上位には褐色シルトとカマドの天井が崩落したと推測される焼土が多量に含まれる褐色シルトの順に堆積していた。今回の調査では最も残存状態の良好なカマドであったが、支脚などは遺存していなかった。床面では地床炉及び周溝が確認されず、貼り床の痕跡も確認できなかった。全体の状況から見てＳＢ 07は建て替えがなかったと思われる。カマド右隣に所在するＰ 24から土師器甕の破片が出土しており、これは貯蔵穴的なものになるかも知れない。主柱穴はＰ 2、Ｐ 8、Ｐ 14、Ｐ 15 が該当すると思われる。建物跡のほぼ中央部に直径約 85cm のほぼ円形の土坑が確認され、須恵器壺の口縁部片が出土した。出土遺物は全体に分布しているが、比較的カマドの南東部に集中する。出土した須恵器と土師器からＢ―１期に位置付けられる。

（８）ＳＢ 09（第 15 図）

ＳＢ 06 の下位で確認された竪穴建物跡Ｃ類で、舌状台地のほぼ中央に存在する。北西端部がＳＤ 21 により壊された他はほぼ全体が残存しており、平面形は 4.4m 以上× 4.0m 以上の少しいびつな隅丸方形を呈する。主軸方位はほぼ真北で、建物北辺部と南西隅部で焼土塊の堆積範囲が認められた。南西隅部の焼土ブロックの堆積の中から土師器甕が比較的まとまった状態で出土した。これらの焼土が直接地床炉あるいはカマドの痕跡になるとは考えにくい状態であるが、何らかの火処が存在したことが想定され

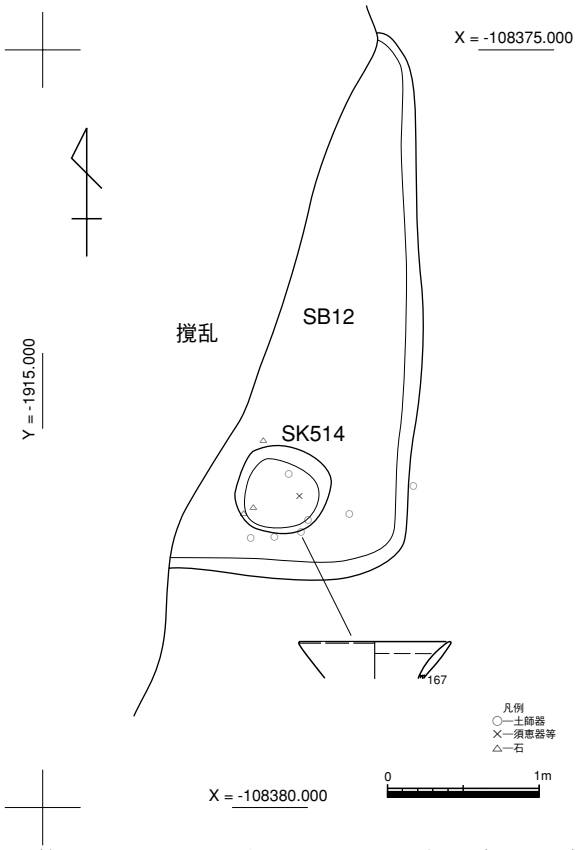
る。周溝は北辺中央部から東辺南端部にかけて幅約25cm、深さ約2cmの規模で巡るが、溝の窪みは非常に浅く本来は全周していた可能性がある。床面は褐色シルトと明褐色シルトによる貼り床が施されており、竪穴の深さは5～7cmを測る。主柱穴はＰ8、Ｐ9、Ｐ12、Ｐ14が該当する。遺物は中央部から東寄りに分布しており、これらの遺物からＢ―１期に比定される。

（9）ＳＢ12（第16図）

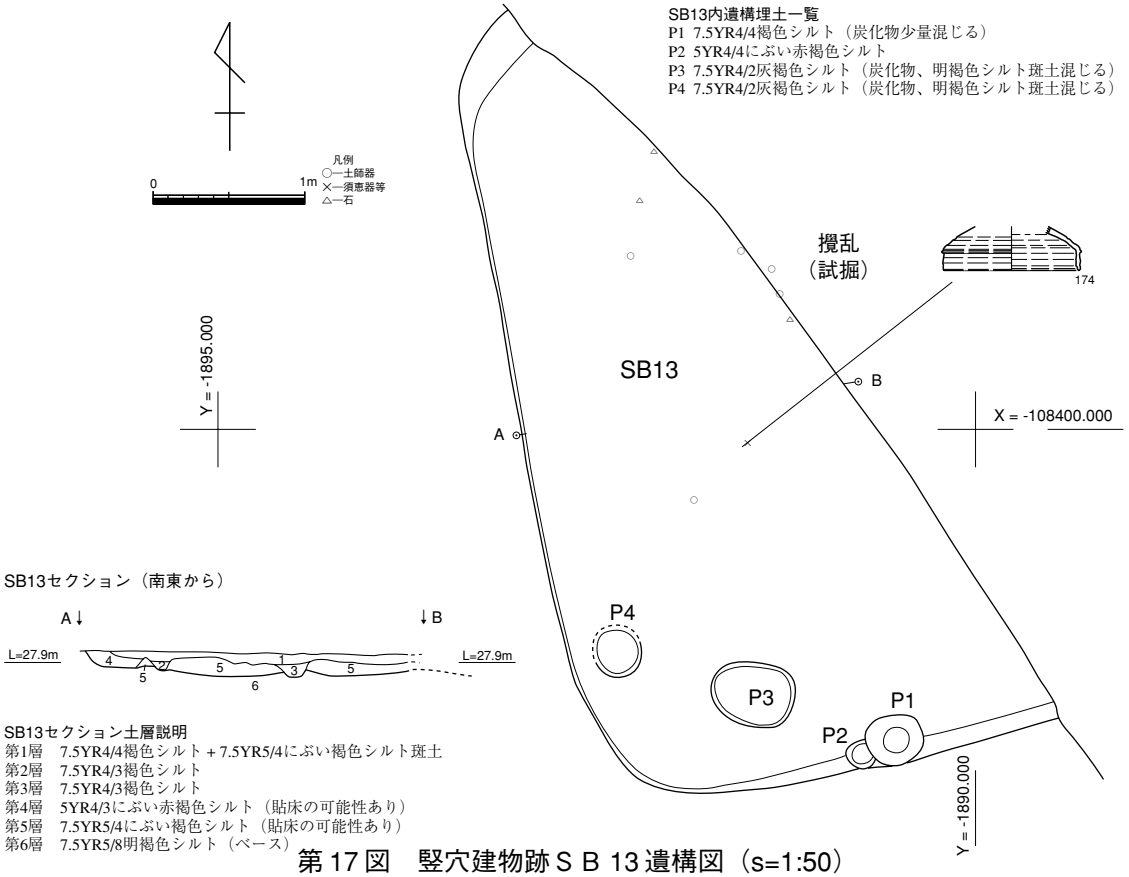
北側調査区で検出された竪穴建物跡Ｅ類で、西半は撹乱によって大きく破壊されていた。正確な規模を不明だが、平面形は3.7m×1.6m以上の隅丸方形で、主軸方位はN―2°―Eを測る。他の竪穴建物跡と重複せず、ＳＢ12覆土の上面からＳＫ514が掘り込まれていた。周溝やカマド、地床炉などは検出されず、貼り床の痕跡も発見されなかった。ＳＫ514の存在のため主柱穴の存否も確認できない。遺物は覆土からは土師器の小片などが出土するのみで、時期は特定できない。

（10）ＳＢ13（第17図）

調査区中央部北端にある竪穴建物跡Ｅ類で、北東半部が調査区外に広がるため正確な規模は



第16図　竪穴建物跡ＳＢ12遺構図（s=1:50）



第17図　竪穴建物跡ＳＢ13遺構図（s=1:50）

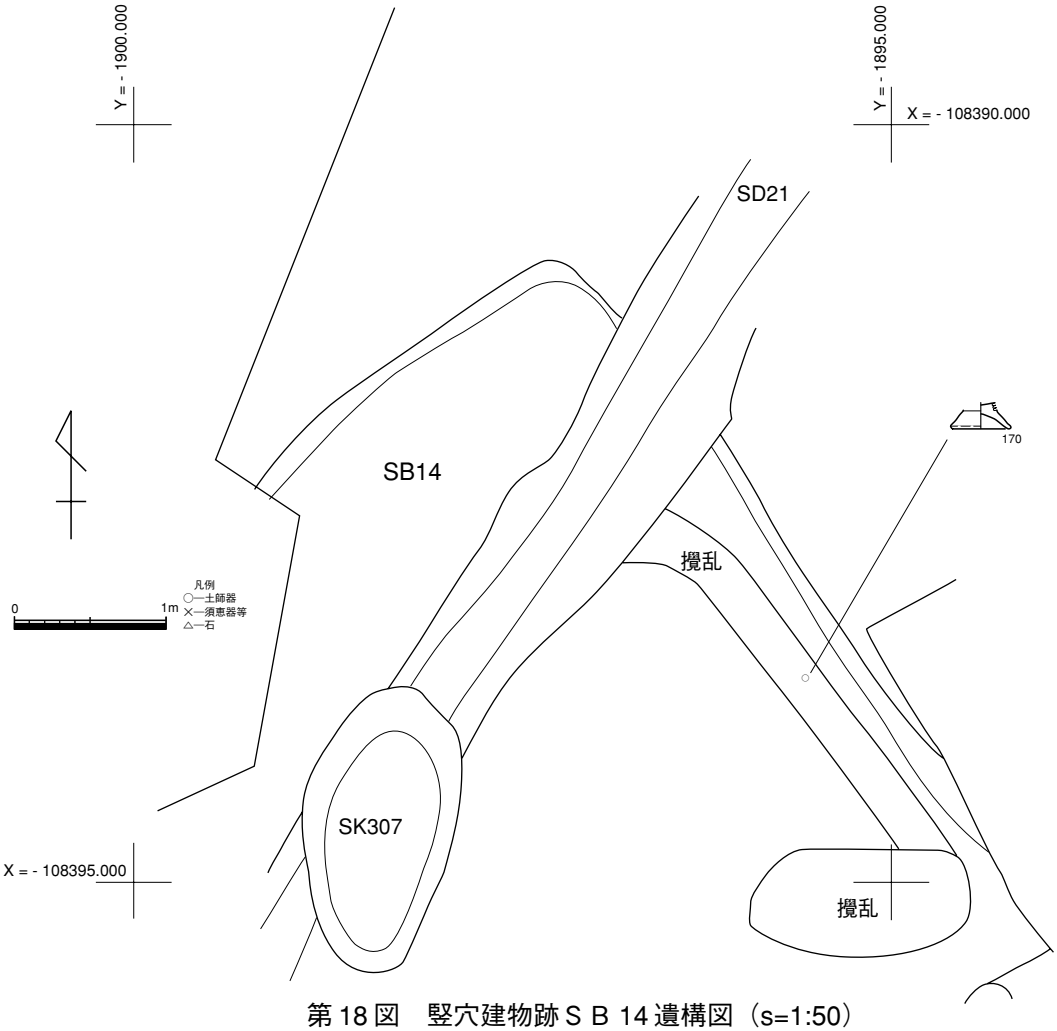
不明だが、5.4m 以上×3.1m 以上の隅丸方形の平面形になると推定される。主軸方位はN―11°―Wと測定され、他の竪穴建物とは重複せず、竪穴の深さは約 15cm を測る。床面では周溝、カマド、地床炉などの施設は検出されず、貼り床も検出されなかった。南西隅の主柱穴はＰ3と想定され、遺物は北半部に片寄って出土した。時期はＢ―１期と思われる。

（11）ＳＢ14（第18図）

南側調査区北端部の舌状に伸びる台地中央部で検出された竪穴建物跡Ｅ類である。残存する覆土は非常に薄く、竪穴の深さは約5cmを測るに過ぎない。南半部の各辺の掘形を検出できないために規模は不明だが、4.9m 以上×2.7m 以上の隅丸方形の平面形と推測される。主軸方位はN―36°―Wと測定され、他の竪穴建物とは重複しない。いくつかの撹乱やＳＤ21などに切られており、床面はあまり残っていなかった。検出された範囲内では周溝、カマド、地床炉を確認できず、柱穴も検出されなかった。遺物は須恵器杯と土師器台付甕脚部などが出土しており、これらの遺物からＢ―１期に位置付けられる。

（12）ＳＢ15（第19図）

調査区中央部北端に所在する竪穴建物跡Ｅ類である。北東部は調査区外に広がり、南西部は溝状に広がる撹乱のため正確な規模を知ることはできない。また、南東辺については既に大きく削平を受けて掘形を検出することができなかった。結果として北西辺のみを検出したに過ぎないでものある。4.0m以上×2.6m以上の（隅丸？）方形の平面形を持つと考えられ、主軸方位はN―54°―Ｅを測る。他の竪穴建物跡とは重複せず、周溝やカマド、地床炉などの付属施設も残存しなかった。竪穴の深さは平均して約3cmを測る。主柱穴は平面プランを確定できないために特定できない。覆土が浅いためか遺物はあまり出土していないが、わずかに存在する



第18図　竪穴建物跡ＳＢ14遺構図（s=1:50）

須恵器の年代観からＢ―３期と推定される。

（13）ＳＢ16（第20図）

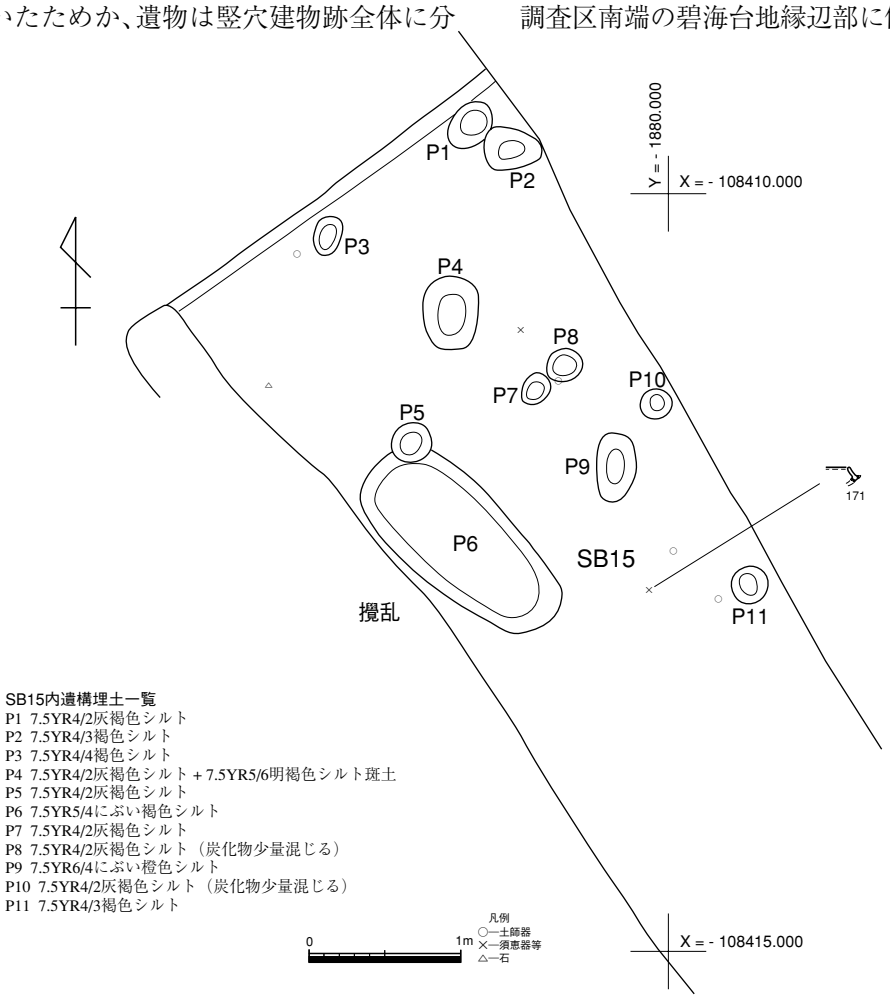
調査区東部北端で検出された竪穴建物跡Ｄ類である。北東部が調査区外に広がり、中央部付近で現代の配管による撹乱が存在するが、おおよそ5.2m×4.9mの隅丸方形の平面形を持つといえる。主軸方位はＮ―10°―Ｅを測り、他の竪穴建物跡と重複しない。竪穴の深さは平均して約45cmを測り、今回確認された竪穴建物跡の中では最も深いものである。少なくとも北西部と南東部には幅広い周溝が巡っており、北西部では最大幅115cm、深さ約5cm、南東部では最大幅85cm、深さ約5cmを測る。南東部の周溝は隅角部で壁面と平行しない部分が存在する。ＳＢ16床面中央部では南北方向に走る溝が１条走っているが、ＳＢ16に直接関連するものとは考えにくくＳＢ16以前の遺構の一部が残存していたと推測される。南東部の主柱穴はＰ7が該当すると思われる。覆土が比較的厚く残存していたためか、遺物は竪穴建物跡全体に分布しているが、やや西側に片寄って出土している傾向がある。また南部の周溝からも多く遺物が出土した。須恵器や土師器甕の他に土錘や製塩土器なども出土しており、Ｂ―４期に位置付けられる。

（14）ＳＢ17（第21図）

調査区南端にある竪穴建物跡Ｅ類で、南西部が調査区外に広がるため正確な規模は不明。4.8m×1.5m以上の隅丸方形の平面プランと想定され、主軸方位はＮ―38°―Ｅを測る。ＳＢ18に切られ、周溝やカマド、地床炉などは発見されなかった。建物覆土は基本的には褐色シルトで、Ｐ２またはＰ３が主柱穴と考えられる。Ｐ１はＳＢ17に伴うものか疑問だが、ここでは貯蔵穴のような施設と考えたい。遺物は覆土東端部とＰ１周辺を中心に土師器が出土しており、特に土師器高杯などからＡ期（古墳時代前期）に属すると思われる。

（15）ＳＢ18（第22図）

調査区南端の碧海台地縁辺部に位置する竪穴

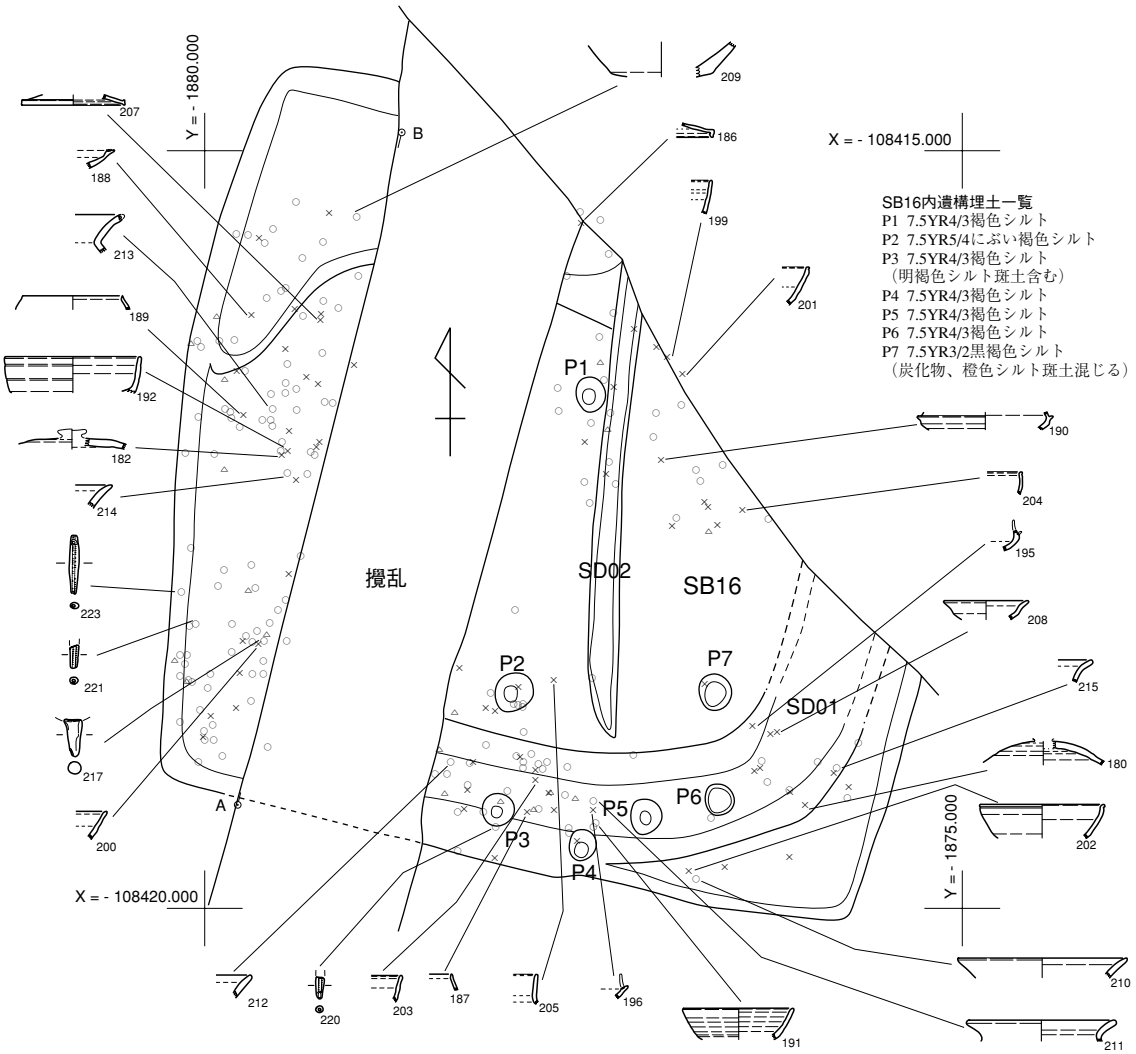


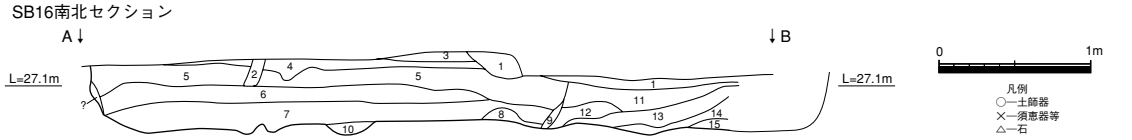
第19図　竪穴建物跡ＳＢ15遺構図（s=1:50）

建物跡Ａ類である。南側は大きく落ち込む谷を広げた撹乱によって破壊されていた。おそらく平面形は隅丸方形と推定され、4.1m以上×1.9m以上の規模を測り、主軸方位はＮ―2°―Ｅとなる。建物北辺のほぼ中央で縁辺を少し張り出す形で焼土混じりのシルトが広がっており、これがカマドの痕跡と考えられる。カマドの残存状況は不良で、詳細な構造は不明である。周溝はカマドの東側に幅約14cm、深さ約6cmの規模で伸びていたが、西側には存在しない。主柱穴はＰ２が該当すると思われ、ＳＢ17を切る。覆土ははにぶい褐色シルトが堆積しており、遺物はわずかに須恵器と土師器が出土したに過ぎない。Ｂ―３期に属する。

（16）ＳＢ19（第23図）

調査区東半部北端に存在する竪穴建物跡Ｄ類で、北東部が調査区外に広がる。平面形は5.6m×5.5mの隅丸方形で、主軸方位はＮ―12°―





SB16南北セクション土層説明

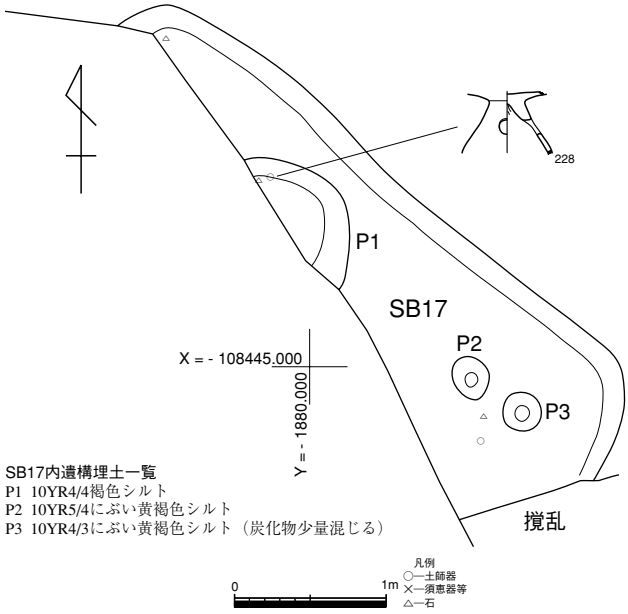
第1層　2.5Y5/2暗灰黄色シルト（撹乱）
第2層　10YR4/2灰黄褐色シルト（撹乱）
第3層　10YR4/4褐色シルト（炭化物少量混じる）
第4層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）
第5層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる）
第6層　7.5YR4/3褐色シルト
第7層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（炭化物、焼土少量混じる）
第8層　7.5YR4/4褐色シルト＋10YR5/2灰黄褐色シルト
第9層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト
第10層　10YR6/4にぶい黄橙色細粒砂
第11層　10YR4/4褐色シルト（炭化物、焼土少量混じる）
第12層　10YR4/4褐色シルト＋2.5Y5/2暗灰黄色シルト（しみこみか？）
第13層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト＋2.5Y5/2暗灰黄色シルト（しみこみか？）
第14層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）
第15層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）

第20図　竪穴建物跡ＳＢ16遺構図（s=1:50）

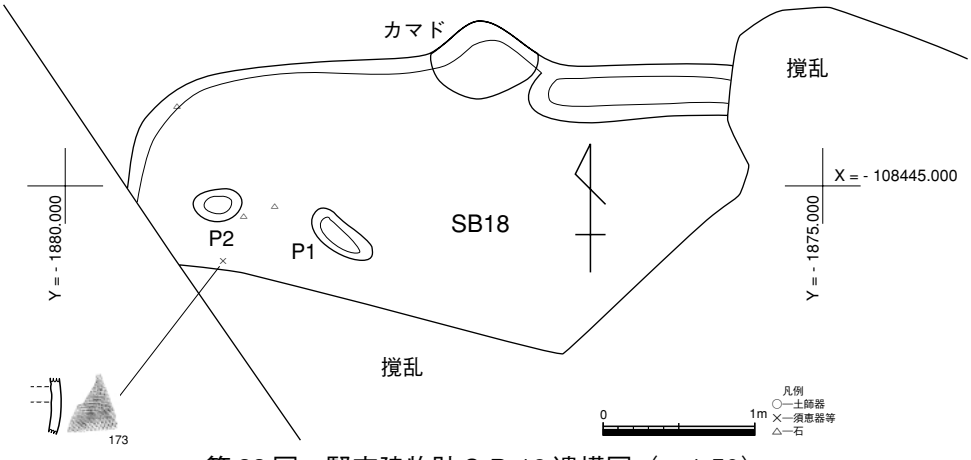
Ｅを測る。ＳＢ03がＳＢ19の覆土上に重なって検出されていた。周溝はほぼ全周し、幅は約40cm～105cm、深さは約12cmを測る。南西部には幅狭い溝がもう１条巡っており、ＳＢ19と重複する別の竪穴建物跡の存在が予想される。主柱穴はＰ3、Ｐ6、Ｐ9、Ｐ19と考えられ、カマドや地床炉などの厨房施設は検出されなかった。竪穴覆土はにぶい褐色シルトで充填されているが、床面には貼り床の構造は確認できなかった。遺物は周溝を中心に須恵器と土師器が出土しており、Ｃ期に位置付けられる。特に周溝の北西端部で土師器甕体部の比較的大きな破片が重なって出土した。

（17）ＳＢ20（第24図）

調査区中央部で検出された竪穴建物跡Ｄ類で、竪穴覆土が残存しないために調査当時はコの字に屈曲する幅広い溝ＳＤ14として掘削した。5.0m×5.2mの円形に近い隅丸方形を呈し、主軸方位はＮ―24°―Ｅと測定される。他の竪穴建物跡との重複は認められず、周溝の堆積状態などから見ても建て替えが行われていないと推定される。周溝ＳＤ14は幅約75cm、深さ約20cmを測る。カマドや地床炉などの施設はなく、主柱穴はＳＫ285、ＳＫ479、ＳＫ096が想定される。床面直上資料は存在しないが、ＳＤ14からは須恵器はそうなどが出土しており、時期はＢ―３期に比定される。

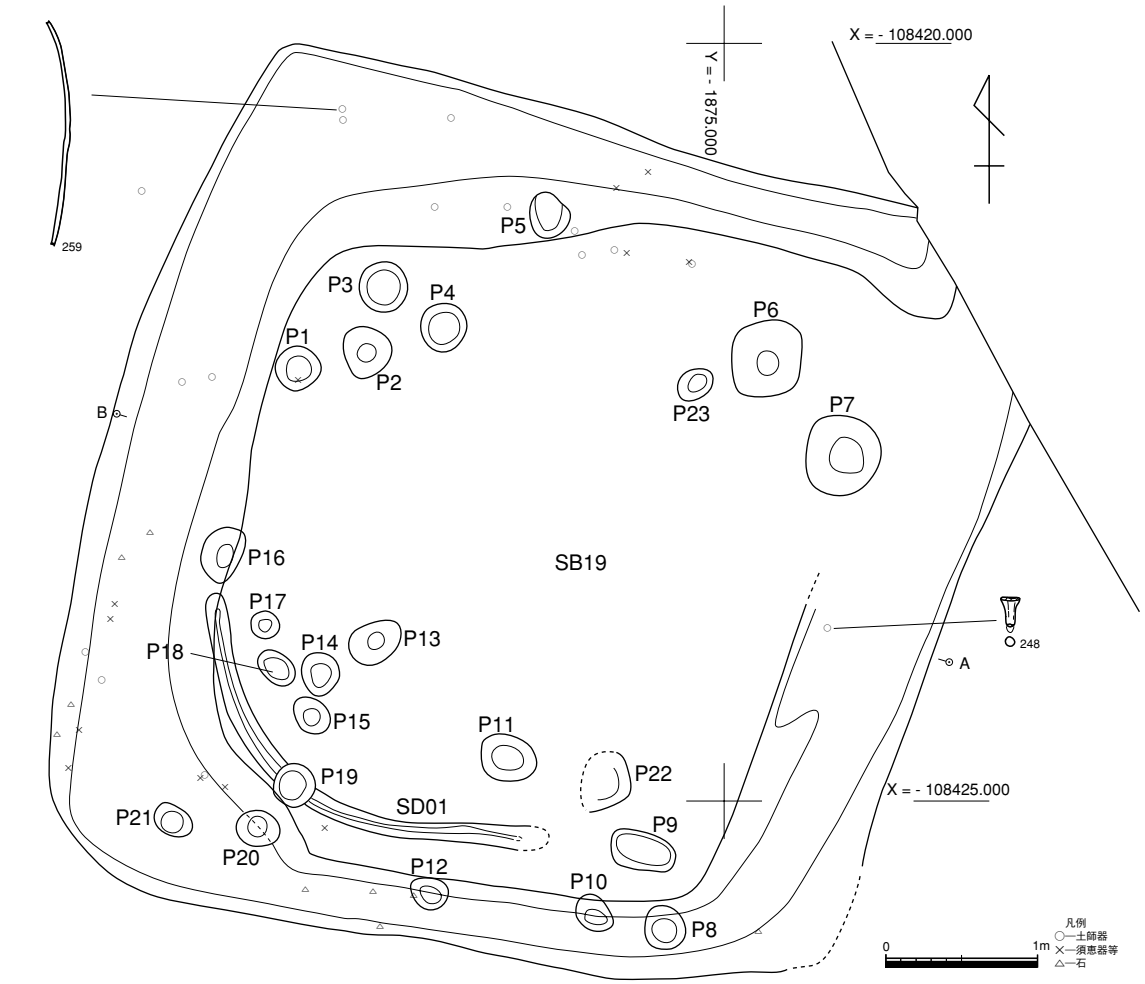


第21図　竪穴建物跡ＳＢ17遺構図（s=1:50）



第22図　竪穴建物跡ＳＢ18遺構図（s=1:50）

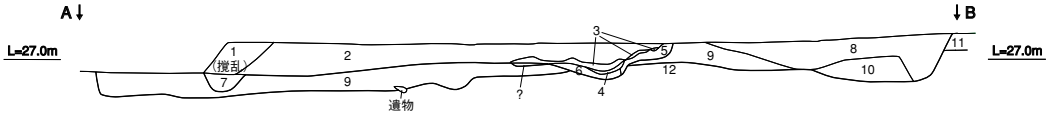
矢迫遺跡



SB19内遺構埋土一覧

SD01 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土、焼土混じる）
P1 7.5YR4/4褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P2 7.5YR4/4褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P3 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P4 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P5 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
P6 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P7 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P8 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P9 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P10 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P11 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P12 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P13 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P14 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P15 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P16 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P17 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P18 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P19 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P20 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P21 7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物、焼土混じる）
P22 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）
P23 7.5YR4/3褐色シルト（炭化物、橙色シルト斑土混じる）

SB19セクション

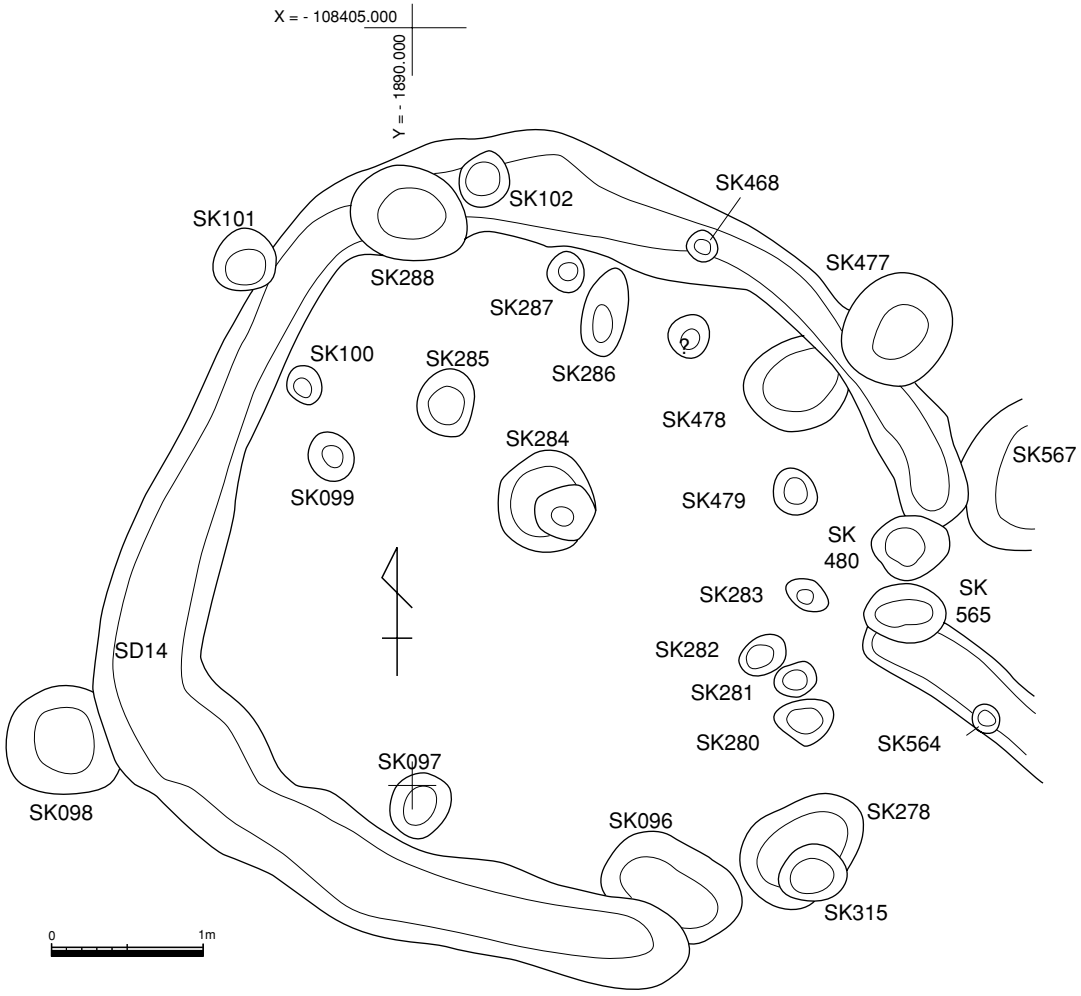


（セクションはSB03にあるものと同一）

SB03,SB19セクション土層説明

第1層　2.5Y5/3黄褐色シルト…撹乱
第2層　7.5YR4/4褐色シルト…SB03
第3層　7.5YR4/4褐色シルト＋5YR4/8赤褐色シルト斑土…カマドの袖（？）などが崩落した焼土…SB03
第4層　7.5YR3/3暗褐色シルト（炭化物大量に混じる）…カマドの灰？…SB03
第5層　7.5YR4/4褐色シルト＋7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土…カマドの裏込め土…SB03
第6層　5YR4/8赤褐色シルト…カマド　火を受けた部分…SB03
第7層　7.5YR3/3暗褐色シルト…SB03
第8層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物混じる）…SB19
第9層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト…SB19
第10層　7.5YR4/3褐色シルト＋7.5YR3/3暗褐色シルト斑土…SB19
第11層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト…SB19
第12層　10YR5/6黄褐色シルト…ベース

第23図　竪穴建物跡ＳＢ19遺構図（s=1:50）



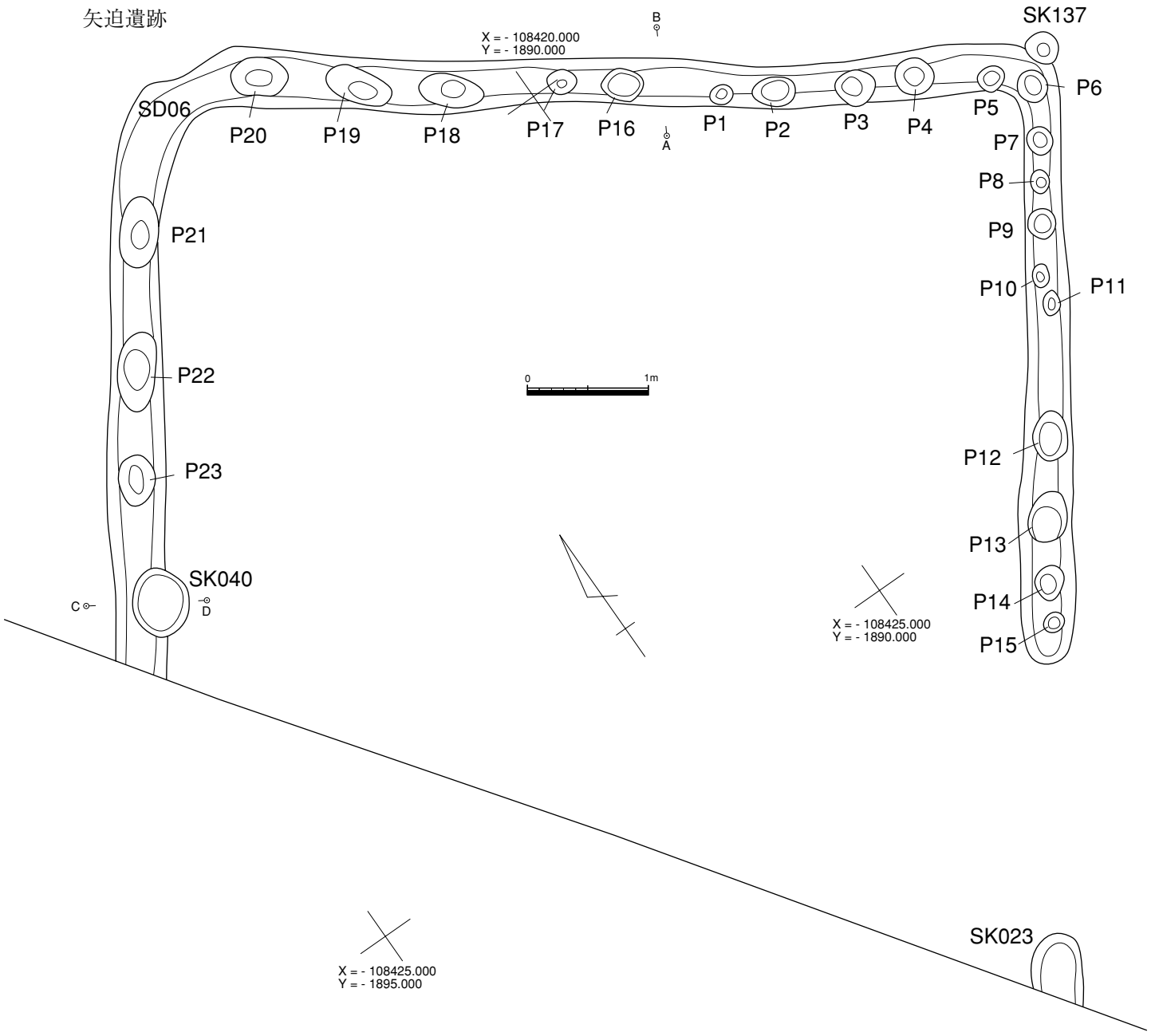
第 24 図　竪穴建物跡ＳＢ 20 遺構図（s=1:50）

第 3 節　大壁建物跡

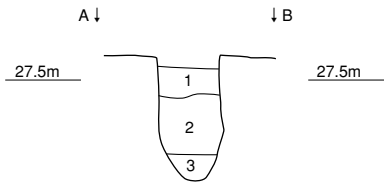
今回の調査の結果、大壁建物跡は全部で 3 棟確認された。矢迫遺跡の大壁建物跡は隅丸長方形に巡る幅が 0.35m ～ 0.50m の溝の埋土中に柱穴が確認される遺構である。溝中に棟持柱や間柱を立てて上位に土壁をつくる建物遺構の基礎部分と考えられる。柱穴を伴う溝の他には、棟持柱や床構造、地床炉などの建物に関連する構造を確認することができなかった。このため床面は後世の削平などによって残存していないと考えられ、本遺構の時期を考えるのに重要な床面直上出土遺物は獲得できなかった。この大壁建物跡はこれまで愛知県下では類例が全く確認されない特異な遺構で、滋賀県を中心に全国でも数十例しか存在しないものである。矢迫遺跡で確認された大壁建物跡は、全て溝の長辺中央部が途切れており、この点が他遺跡の大壁建物と比べて特徴的である（第 5 章第 2 節参照）。

（1）ＳＢ 08（第 25 図）

調査区中央部南寄りで検出された大壁建物跡で、ＳＤ 06、ＳＤ 13 とＳＫ 023 によって構成されている。南西半部は調査区外に広がっているために正確な規模は不明だが、8.0m × 7.9m 以上の隅丸方形の平面プランを持ち、主軸方位はＮ―26°―Ｅを測る。建物の長辺（南東辺）の中央部と推測される一部分が約 2.2m の長さで途切れており、これが出入り口部と考えられる。北西辺の途切れ部は調査区外に広がるために確認することができない。ＳＤ 06 とＳＤ 13 は幅が 0.40m ～ 0.50m、深さが 0.80m ～ 0.95m を測り、コ字状に屈曲している。ＳＫ 023 はＳＤ 13 の収束部から約 2.2m 離れた部分にある遺構で、調査区外に遺構が広がるために溝であると確定できないが、幅 0.45m、深さ 0.55m の規模を持つためＳＢ 08 の一部と判断した。溝の埋土

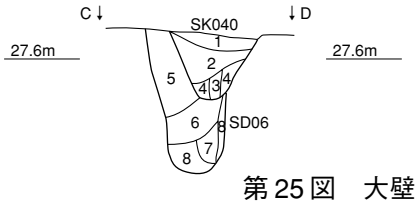


SD06セクション（南西から）



SD06土層説明
第1層　10YR5/2灰黄褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）
第2層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）
第3層　7.5YR5/2灰褐色シルト
第4層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

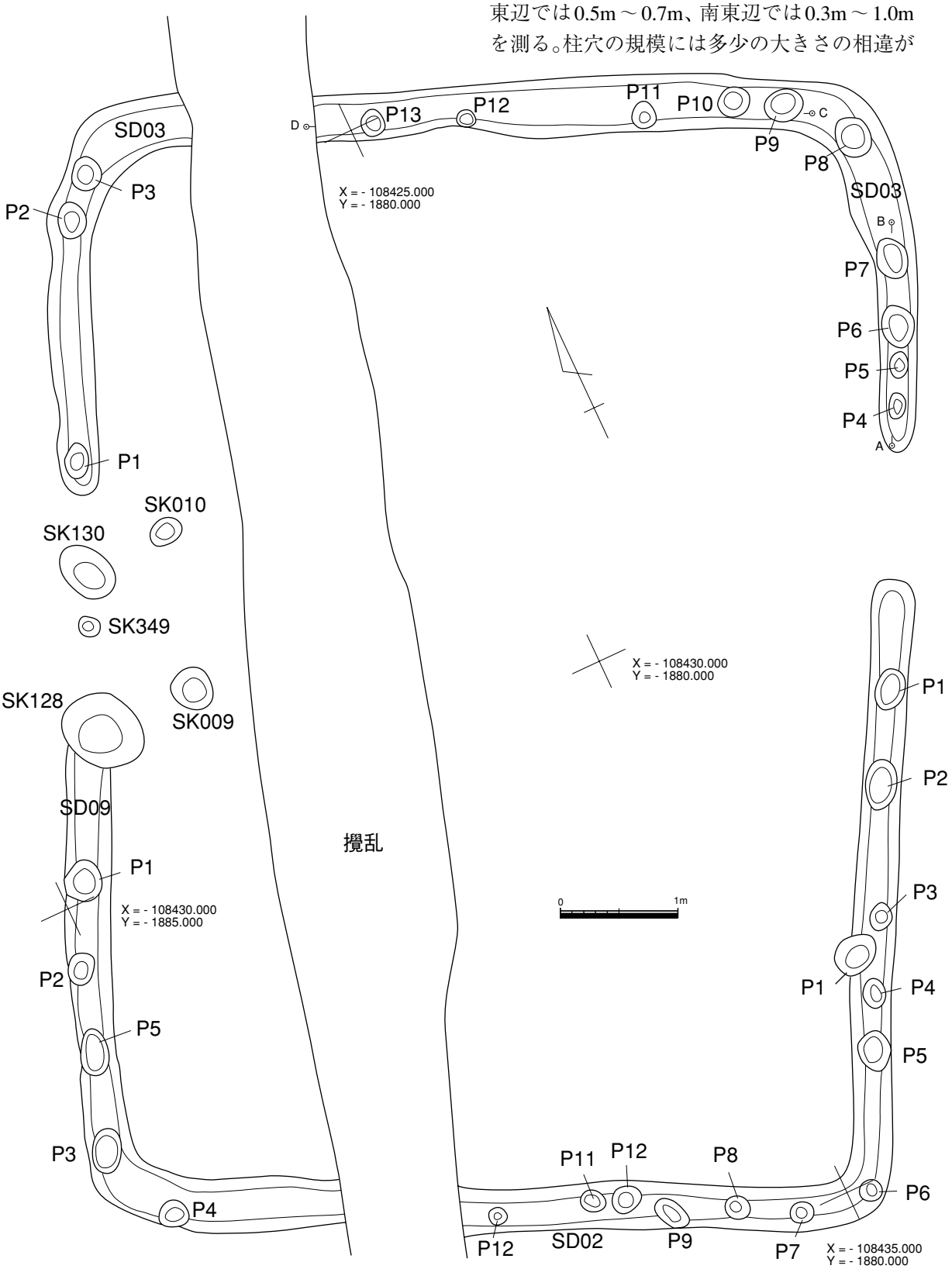
SK040,SD06セクション



SK040,SD06土層説明
第1層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混じる）…SK040
第2層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）…SK040
第3層　2.5Y4/2暗灰黄色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）…SK040
第4層　2.5Y4/4オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）…SK040
第5層　7.5YR4/3褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）…SD06
第6層　7.5YR4/2灰褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）…SD06
第7層　7.5YR3/3暗褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト斑土混じる）…SD06
第8層　10YR4/2灰黄褐色シルト…SD06
第9層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

第 25 図　大壁建物跡 S B 08 遺構図（s=1:50）

はにぶい褐色シルト斑土や灰褐色シルトが堆積しており、その埋土中に柱穴が確認される。柱穴の抜き取り穴や柱部分の裏込め土などを確認できなかったこともあり、建物の構築手順を確定できなかった。柱穴は北西辺で4基、北東辺で10基、南東辺で10基が確認されており、多くは溝の掘形の床面以上の深さで掘削されていた。柱間の間隔は北西辺では1.0m～1.2m、北東辺では0.5m～0.7m、南東辺では0.3m～1.0mを測る。柱穴の規模には多少の大きさの相違が

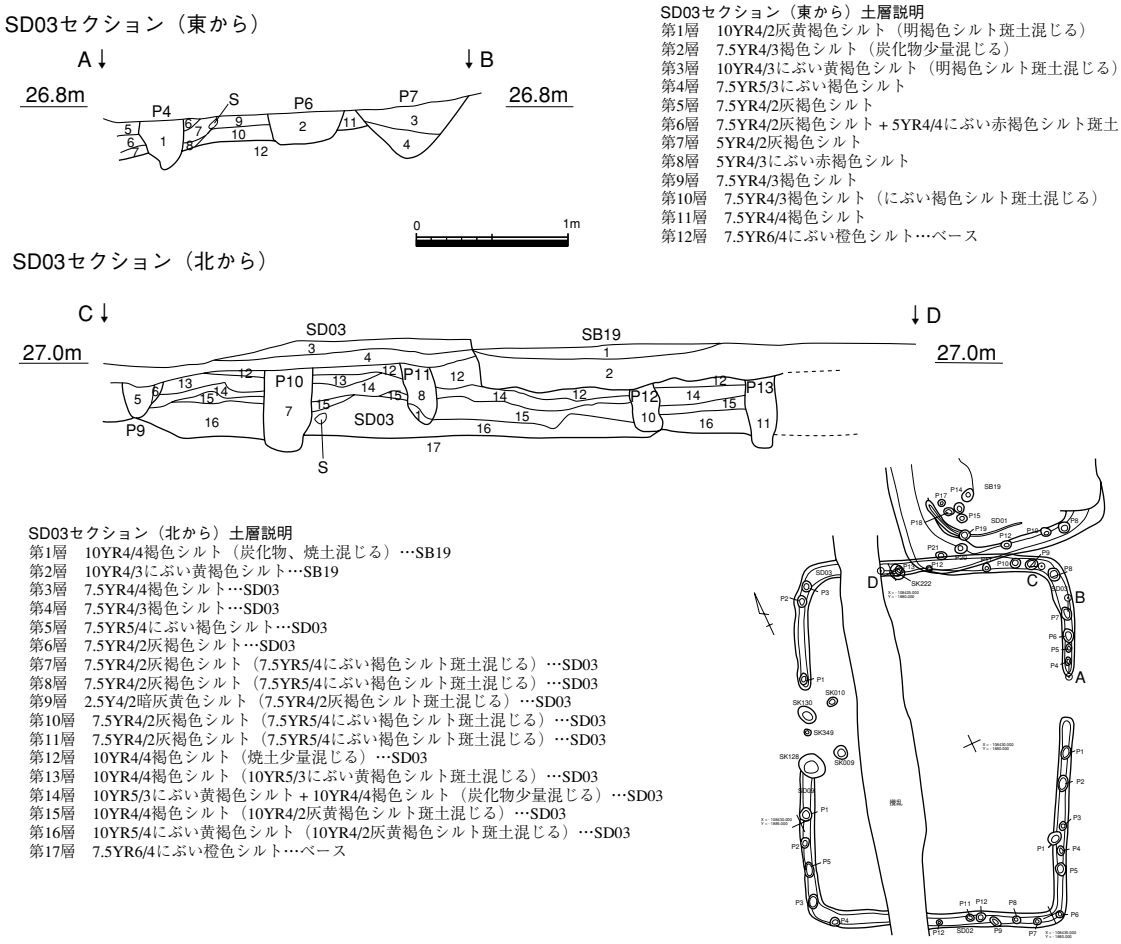


第26図　大壁建物跡ＳＢ10遺構図（1）（s=1:50）

認められるものの、棟持柱と特定できる柱穴は確認できなかった。遺物は溝の埋土中から須恵器と土師器が出土しており、時期はB―3期と思われる。

（2）ＳＢ10（第26～27図）

調査区中央部南寄りにある大壁建物跡で、ＳＤ02、ＳＤ03、ＳＤ04とＳＤ09によって構成されている。ＳＢ08の南東に並列して所在しＳＢ11と重複する。ＳＢ10のＳＤ03はＳＢ11のＳＤ08を切り、ＳＢ10のＳＤ09はＳＢ11のＳＤ12を切り、そしてＳＢ10のＳＤ02はＳＢ11のＳＤ10を切っていることから、ＳＢ10はＳＢ11よりも新しいと考えられる。9.8m×7.2mの隅丸方形の平面プランを持ち、主軸方位はN―28°―Eである。中央部に撹乱があり部分的に構造が不明となっているが、建物の長辺の中央部付近が途切れており、この部分が出入り口部になると考えられる。ＳＤ09の先端部がＳＫ128に切られているために途切れ部の正確な規模を特定できないが、北西辺は1.7m以上、南東辺は約1.0mの長さを測る。ＳＢ10を構成する溝は幅が0.35m～0.50m、深さが0.15m～0.55mを測り、コ字状に屈曲した溝が2本存在した形で展開している。溝の埋土はにぶい褐色シルトや褐色シルトの斑土が堆積しており、その埋土中で柱穴が確認されたが、特に抜き取り穴や柱部分の裏込め土などを確認できなかった。北東辺と南東辺を構成するＳＤ03の土層縦断面を観察すると、溝埋土は約10cmごとに層位を形成しその上から掘り込むような形で柱穴の埋土が堆積している状況が確認された。この情報のみでは建物の構築手順を確定できないが、現状では溝掘削後に柱を立てた状態で溝内にシルト斑土を徐々に充填させた可能性が考えられる。柱穴は北西辺で7基、北東辺で5基、南東辺で11基、南西辺で7基が確認され、多くは溝の掘形の床面以上の深さで掘削されていた。検出されなかった柱穴があるためか柱間間隔は規則的ではないが、おおむね0.5m～0.8mを測る。柱穴の規模には多少の相違があるものの、棟持柱

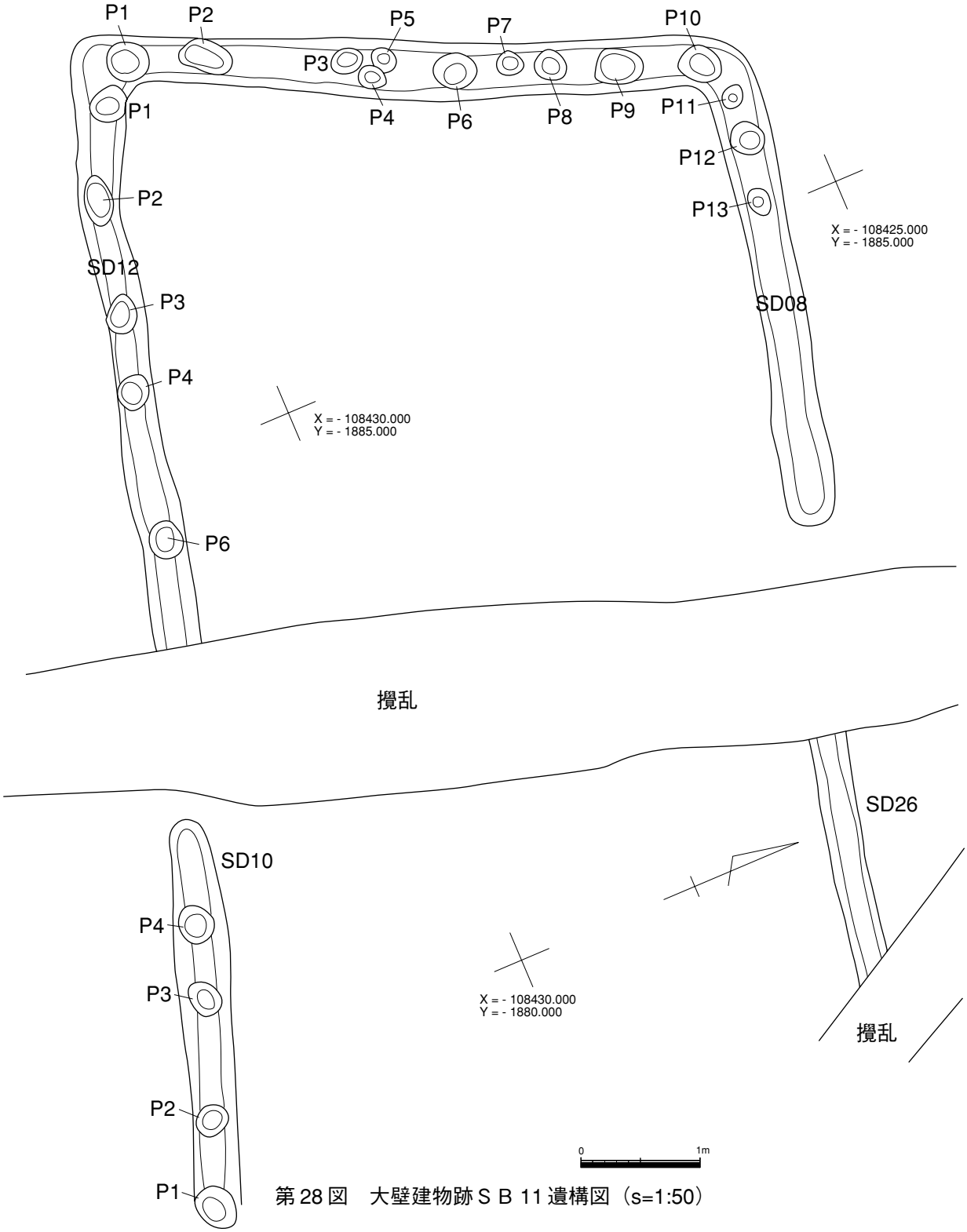


第27図　大壁建物跡ＳＢ10遺構図（2）（s=1:50）

と特定できる柱穴は確認できなかった。遺物は溝の埋土中から須恵器と土師器が出土しており、時期はB―2期である。

（3） S B 11（第28図）

調査区中央部南寄りで検出された大壁建物跡で、S D 08、S D 10、S D 12とS D 26によって構成されている。東端部は地盤が現状では緩やかに傾斜しており、溝S D 10とS D 26が途中で消滅している。遺構の一部が既に削平されてしまった可能性が考えられよう。このために正確な規模不明だが、5.8m×10.0m以上の規模を持ち、主軸方位はN―74°―Wを測る。平面



第28図　大壁建物跡S B 11遺構図（s=1:50）

形は平行四辺形に少し歪んだ隅丸方形を呈しており、建物の長辺の中央部と推測される一部分が途切れていた。建物跡中央部に撹乱が存在しており、途切れ部の規模を特定できない。ＳＢ11を構成する溝の幅は0.35m～0.45m、深さが0.10m～0.55mを測り、溝の埋土はにぶい褐色シルト斑土や灰褐色シルトが堆積していた。柱穴はその溝埋土中で確認されたが、抜き取り穴や柱部分の裏込め土などを検出することはできなかった。柱穴は北西辺で3基、南西辺で10基、南東辺で9基が確認されており、多くは溝の掘形の床面以上の深さで掘削されていた。北西辺についてはＳＤ08の東半部およびＳＤ26では柱穴が検出されなかった。柱間の間隔は0.2m～1.3mという具合に不規則となっていた。柱穴の規模には多少の相違が認められるが、棟持柱と特定できるものはなかった。遺物は溝の埋土中から須恵器と土師器が出土しており、時期はＢ―１期と推測される。

第４節　掘立柱建物跡

今回の調査では約500基の柱穴が検出されているが、これらの大半は掘立柱建物を構成していた柱穴と考えられる。ここではこれまでに筆者によって復元し得た掘立柱建物跡74棟について暫定的に報告するが、この復元案では同定できなかった柱穴が全体の約３割も存在することから必ずしも十分なものとはいえない。ここで報告する掘立柱建物跡については未だ仮説の域をでないことをあらかじめ断っておきたい。

本遺跡で確認された掘立柱建物跡は、柱穴のみが確認されたもので、この他の床構造や地床炉などの付属施設については全く確認することができなかった。床面は後世の削平などによって全く残存していないと考えられ、本遺構の時期を考えるのに重要な位置付けとなる床面直上出土遺物は獲得し得なかった。従って、遺構の時期を決定する場合にも、わずかな切り合い関係と柱穴から出土する少量の遺物が参考になる程度であり、特定することが難しい。形状としては単純な長方形を呈するものが大半を占めており、総柱建物跡などは全く認められなかった。比較的小規模なものばかりが目立つ状態となっている。

（１）ＳＢ21（第29図）

北側の調査区北東端で検出された桁行3間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.9m×約2.1m、方位はＮ―8°―Ｅを測る。ＳＫ423、ＳＫ421、ＳＫ411、ＳＫ414、ＳＫ416、ＳＫ417によって構成され、北西隅の柱穴は撹乱があるため確認できなかった。西辺の柱間間隔は北から約1.5m、約0.65m、約1.8mを測る。柱穴の規模はＳＫ411がやや大きい他はほぼ均一であったため、棟持柱と特定できる柱穴は確認できなかった。柱穴の埋土中から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明である。

（２）ＳＢ22（第29図）

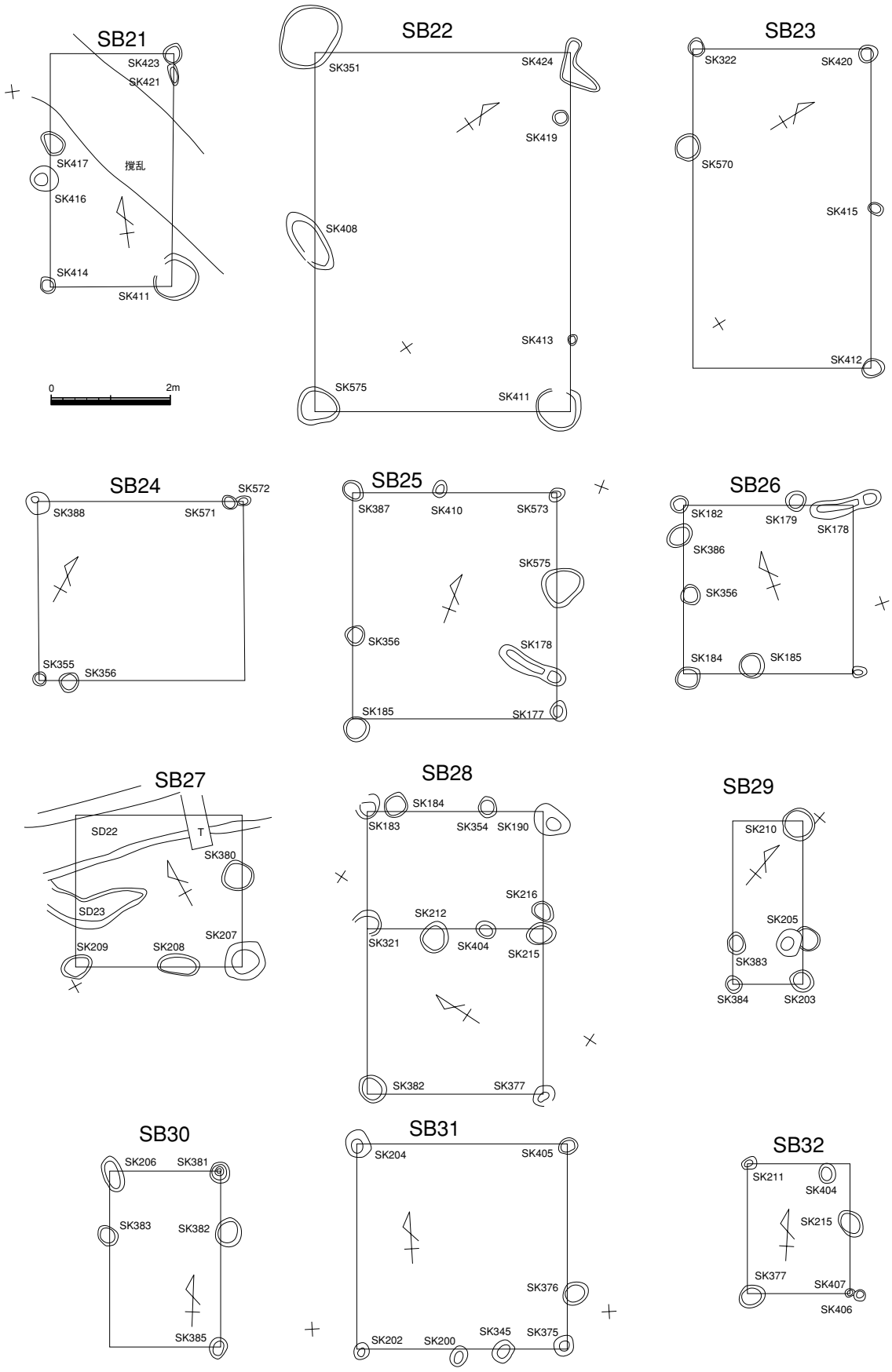
北側の調査区北東端で確認された掘立柱建物跡で、規模は約6.05m×約4.3mを測る。桁行2間×梁行1間と推定されるが、棟持柱は確認できなかった。ＳＫ351、ＳＫ424、ＳＫ413、ＳＫ411、ＳＫ575とＳＫ408によって構成され、主軸方位はＮ―36°―Ｅを測る。西辺の柱間間隔は北から約3.25m、約2.8mを測り、柱穴の規模は比較的大きいものが多い。柱穴から土師器小片がわずかに出土したのみで、時期は不明。

（３）ＳＢ23（第29図）

北側の調査区北東端に位置する桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約5.35m×約3.0mを測る。ＳＫ322、ＳＫ420、ＳＫ415、ＳＫ412、ＳＫ570によって構成されるが、南東隅の柱穴は確認できなかった。方位はＮ―32°―Ｅで、東辺の柱間間隔はほぼ等間隔であった。柱穴の埋土中から須恵器杯蓋（358）などの遺物が出土しており、このことを重視すればＢ―１期に属すると推定される。

（４）ＳＢ24（第29図）

北側の調査区東部にある掘立柱建物跡で、規模は約3.45m×約3.0mを測る。桁行1間×梁行1間で、ＳＫ388、ＳＫ571、ＳＫ572、ＳＫ356、ＳＫ355からなり、方位はＮ―29°―Ｗである。南東隅の柱穴は検出されなかった。ＳＫ571とＳＫ572、ＳＫ356とＳＫ355は近接することから建て替えが行われた可能性がある。柱穴から遺物は全く出土しておらず、時期を特定し得ない。



第 29 図　掘立柱建物跡 S B 21 ～ S B 32 遺構図（s=1:100）

（５）ＳＢ25（第29図）

北側の調査区東部にある桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡で、規模は約3.85m×約3.4mを測る。ＳＫ387、ＳＫ410、ＳＫ573、ＳＫ575、ＳＫ178、ＳＫ177、ＳＫ185とＳＫ356によって構成され、方位はＮ―21°―Ｗを測る。南辺の間柱のみが検出されず、西辺の柱間間隔は北から約2.4m、約1.45mを、東辺は北から約1.65m、約1.5m、約0.65mを、北辺は西から約1.4m、約2.0mを測る。柱穴の規模は多少の相違があるが棟持柱は確認できなかった。柱穴から土師器小片がわずかに出土したのみで、時期を特定できない。

（６）ＳＢ26（第29図）

北側の調査区東部で発見された掘立柱建物跡で、規模は約2.75m×約2.6mを測る。ＳＫ182、ＳＫ179、ＳＫ178、ＳＫ185、ＳＫ184、ＳＫ356とＳＫ386などによって構成され、主軸方位はＮ―18°―Ｅと測定される。棟持柱は確認されず、柱穴からは土師器小片がわずかに出土したのみで時期は不明。

（７）ＳＢ27（第29図）

北側の調査区東部中央寄りで認められた掘立柱建物跡で、北辺部はＳＤ22によって遺存しない。規模は約2.85m×1.45m以上を測り、柱間構成は桁行２間×梁行２間？となる。ＳＫ380、ＳＫ207、ＳＫ208、ＳＫ209によって構成され、方位はＮ―29°―Ｅとなる。南辺の柱間間隔は西から約1.8m、約1.05mを測る。柱穴から遺物は全く出土しておらず、時期を特定し得ない。

（８）ＳＢ28（第29図）

北側の調査区東部で検出された掘立柱建物跡で、規模は約4.75m×約2.95mを測る。桁行２間×梁行１間で、中央部に東西方向の間仕切りが存在する。ＳＫ183、ＳＫ184、ＳＫ354、ＳＫ190、ＳＫ216、ＳＫ215、ＳＫ377、ＳＫ382、ＳＫ321、ＳＫ212、ＳＫ404によって構成され、方位はＮ―56°―Ｅを測る。東西両辺の柱間間隔は北から約1.95m、約2.8mを測る。柱穴の規模に相違が認められるが棟持柱は確認できない。遺物は柱穴から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（９）ＳＢ29（第29図）

北側の調査区東部中央寄りで確認された掘立柱建物跡で、約2.7m×約1.2mを測る。ＳＫ210、ＳＫ205、ＳＫ203、ＳＫ384、ＳＫ383によって構成され、西隅の柱穴が確認されなかった。桁行２間×梁行１間の柱間構成で、方位はＮ―50°―Ｅとなる。棟持柱は確認できず、遺物は全く存在しない。

（10）ＳＢ30（第29図）

北側の調査区東部中央寄りで発見された桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡で、規模は約2.95m×約1.85mを測る。ＳＫ206、ＳＫ381、ＳＫ382、ＳＫ385、ＳＫ383によって構成され、方位はＮ―3°―Ｗと測定される。南西隅の柱穴は確認できなかった。東西両辺の柱間間隔は北から約1.05m、約1.9mを測る。柱穴から遺物は全く出土せず、時期は不明。

（11）ＳＢ31（第29図）

北側の調査区東部に所在する掘立柱建物跡で、規模は約3.55m×約3.45mを測る。ＳＫ204、ＳＫ405、ＳＫ376、ＳＫ375、ＳＫ345、ＳＫ200、ＳＫ202によって構成され、主軸方位はＮ―3°―Ｅを測る。南辺は柱穴が多くその柱間間隔は西から約1.75m、約0.7m、約1.05mを測る。柱穴から遺物は全く出土せず、時期を特定し得ない。

（12）ＳＢ32（第29図）

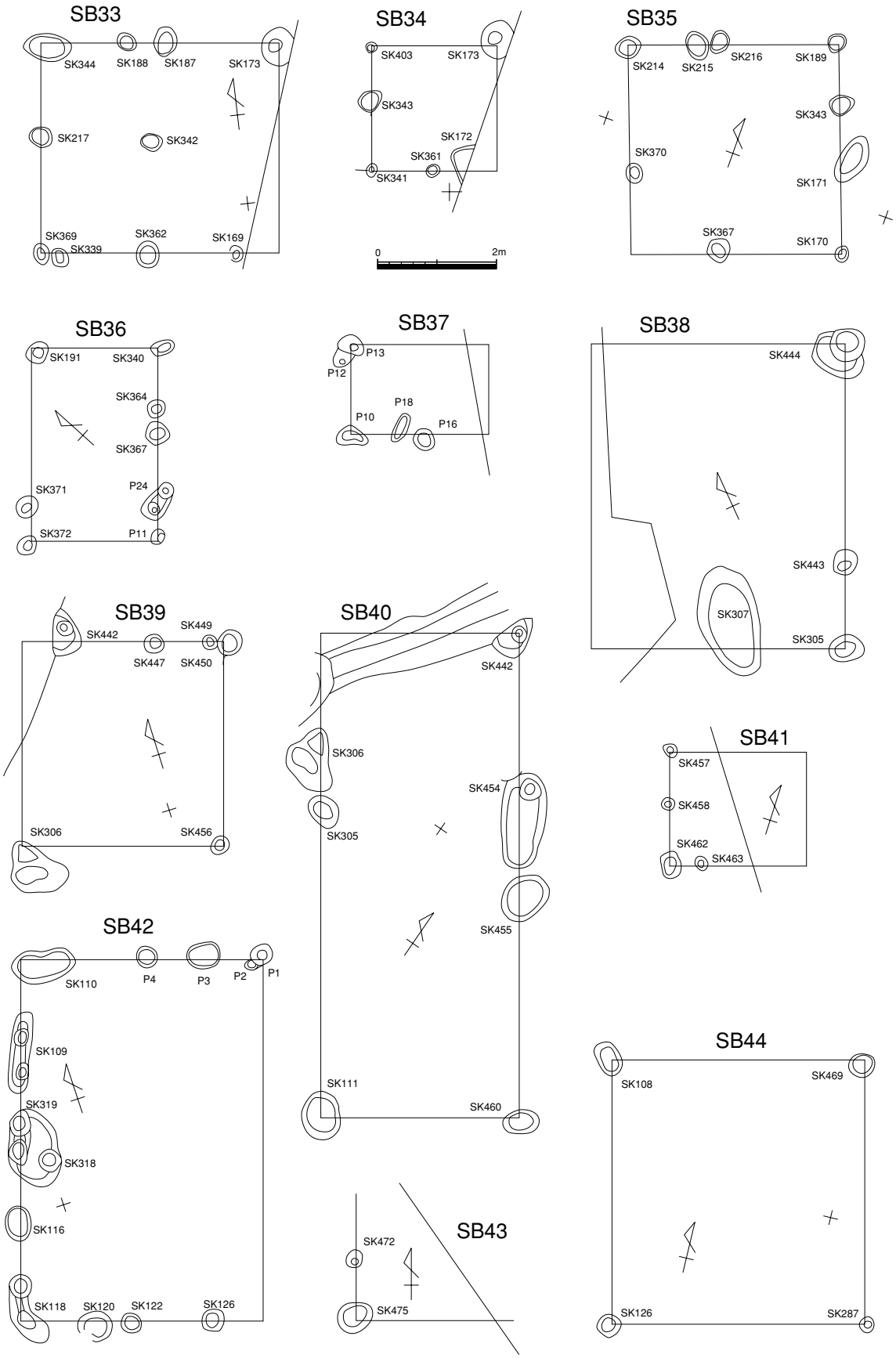
北側の調査区東部に存在する小規模な掘立柱建物跡で、約2.25m×約1.85mを測る。ＳＫ211、ＳＫ407、ＳＫ377などからなり、北東隅の柱穴を確認することができなかった。方位はＮ―4°―Ｗとなる。遺物は全く出土せず、時期は不明。

（13）ＳＢ33（第30図）

北側の調査区東部で認められた掘立柱建物跡で、東端部は調査区外に広がる。規模は約4.0m×約3.55mと推定され、ＳＫ344、ＳＫ188、ＳＫ187、ＳＫ173、ＳＫ169、ＳＫ362、ＳＫ339、ＳＫ369、ＳＫ217によって構成され、中央部にＳＫ342が所在する。方位はＮ―7°―Ｅ。北辺の柱間間隔は西から約1.4m、約0.65m、約1.95mを、西辺は北から約1.55m、約2.0mを、南辺は西から約0.3m、約1.5m、約1.5m、約0.7mを測る。棟持柱は確認できず、また柱穴からは土師器小片がわずかに出土したのみであり、時期は不明。

（14）ＳＢ34（第30図）

北側の調査区南東部で検出された掘立柱建物跡で、桁行２間×梁行２間、規模は約2.1m×約2.05mを測る。ＳＫ403、ＳＫ173、ＳＫ361、Ｓ



第 30 図　掘立柱建物跡 S B 33 ～ S B 44 遺構図（s=1:100）

K 341とＳＫ343によって構成され、南東隅の柱穴は調査区外にあって検出されなかった。主軸方位はＮ―1°―Ｗを測る。ＳＫ173を除く柱穴の規模は比較的小さいことなどから、小屋のような建物跡と推定される。遺物が全く出土せず、時期は不明。

(15) ＳＢ35（第30図）

北側の調査区南東部で確認された桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約3.55m×約3.5mを測る。ＳＫ214、ＳＫ215、ＳＫ216、ＳＫ189、ＳＫ343、ＳＫ171、ＳＫ170、ＳＫ367、ＳＫ370によって構成され、南西隅の柱穴が検出されなかった。方位はＮ―21°―Ｗを、東辺の柱間間隔は北から約1.0m、約1.1m、約1.4mを、南辺は西から約1.45m、約2.1mを測る。柱穴の埋土中から土師器小片がわずかに出土したが、時期を特定できない。

(16) ＳＢ36（第30図）

北側の調査区東部にある桁行3間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.25m×約2.2mを測る。ＳＫ191、ＳＫ340、ＳＫ364、ＳＫ367、ＳＢ07内Ｐ24、ＳＢ07内Ｐ11、ＳＫ372とＳＫ371によって構成され、方位はＮ―49°―Ｅと測定される。南東辺の柱間間隔は西から約0.85m、約1.0m、約0.4m、約1.0mを測る。遺物は全くなく、時期は不明。

(17) ＳＢ37（第30図）

北側の調査区南端で検出された桁行2間以上×梁行1間の掘立柱建物跡で、東半部は調査区外に広がって規模を特定できない。現状で約1.6m×2.2m以上を測る。ＳＢ07内Ｐ13、ＳＢ07内Ｐ10、ＳＢ07内Ｐ16によって構成され、方位はＮ―28°―Ｅである。ＳＢ07内Ｐ16はＳＢ07の覆土を切ることからＳＢ07よりは新しいが、遺物は全く出土しないのでこれ以上は時期を特定し得ない。

(18) ＳＢ38（第30図）

南側の調査区北端に所在する掘立柱建物跡で、西半部は調査区外に広がっている。ＳＫ444、ＳＫ443、ＳＫ305、ＳＫ307によって構成され、規模は約5.2m×約3.3m以上を測る。方位はＮ―25°―Ｅである。柱穴は規模に相違が認められるが、棟持柱は確認できない。柱穴の埋土中から須恵器杯蓋（344）などが出土したからＢ―4期と考えることもできる。

(19) ＳＢ39（第30図）

南側の調査区北端で確認された掘立柱建物跡で、約3.45m×約3.35mを測る。ＳＫ442、ＳＫ447、ＳＫ449、ＳＫ450、ＳＫ456、ＳＫ306によって構成され、北西隅の柱穴を検出することができなかった。方位はＮ―18°―Ｅとなる。遺物は全く出土せず、時期は不明。

(20) ＳＢ40（第30図）

南側の調査区北端で検出された掘立柱建物跡で、規模は約8.15m×約3.25mを測る。ＳＫ442、ＳＫ454、ＳＫ455、ＳＫ460、ＳＫ111、ＳＫ305、ＳＫ306によって構成され、主軸方位はＮ―26°―Ｗと測定される。柱穴から須恵器杯身（327）などが出土したことからＢ―1期に位置付けることも可能である。

(21) ＳＢ41（第30図）

南側の調査区北端で検出された掘立柱建物跡で、北東部は調査区外に広がり規模は不明。方位はＮ―18°―Ｗを、規模は1.3m以上×約1.9mを測り、ＳＫ457、ＳＫ458、ＳＫ462、ＳＫ463によって構成される。西辺の柱間間隔は北から約0.9m、約1.0mを測る。柱穴から須恵器と土師器がわずかに出土している。

(22) ＳＢ42（第30図）

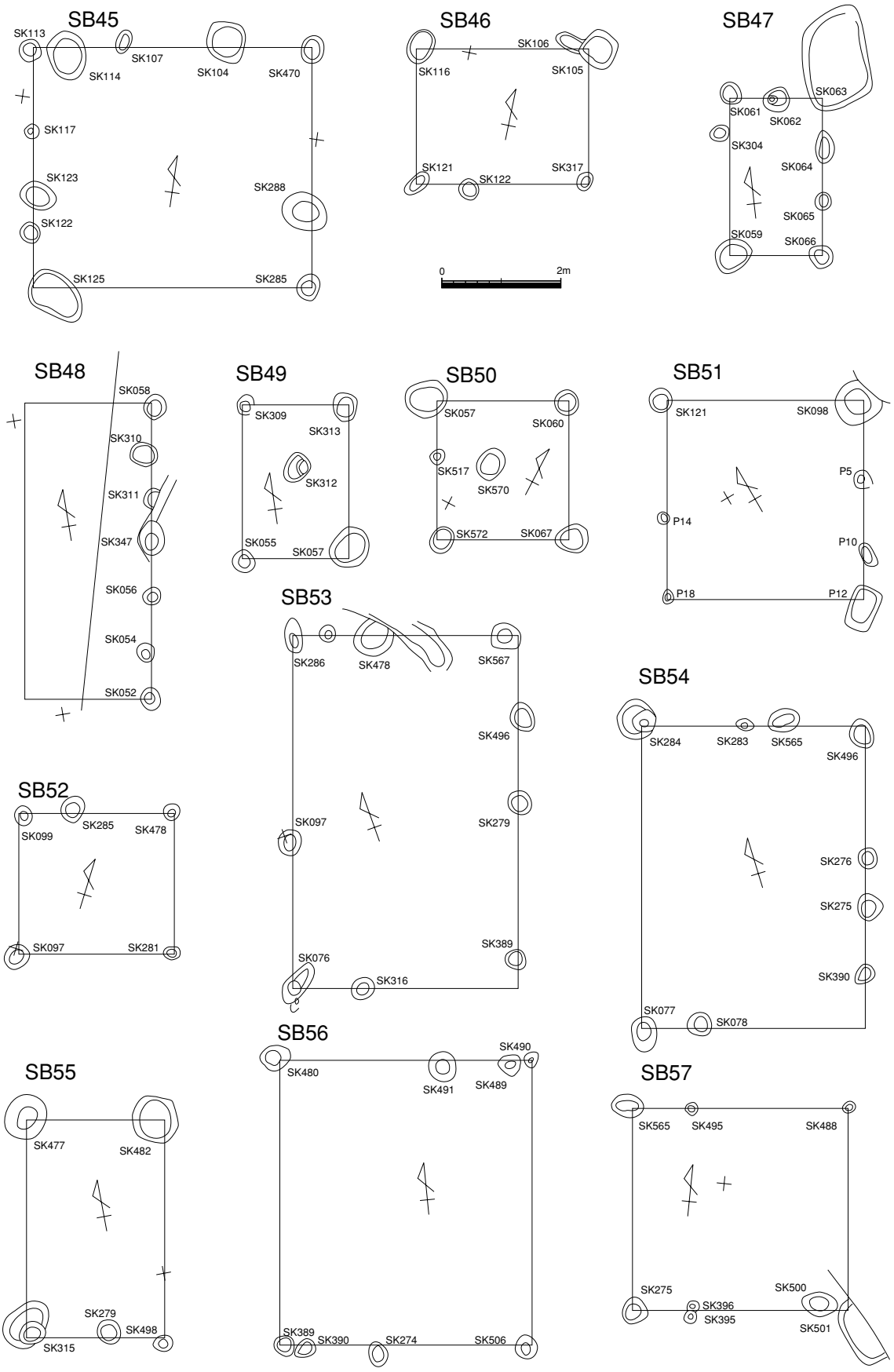
南側の調査区北部中央で確認された約6.15m×約4.1mを測る掘立柱建物跡である。ＳＫ110、ＳＢ13内Ｐ4、ＳＢ13内Ｐ3、ＳＢ13内Ｐ1、ＳＫ126、ＳＫ122、ＳＫ120、ＳＫ118、ＳＫ116、ＳＫ319とＳＫ109によって構成され、方位はＮ―19°―Ｅと測定される。北西辺の柱穴は溝状の土坑の中に設置されたものがあり、柱穴の数量が多く柱間間隔が狭いことなどから、大壁建物跡であった可能性が考えられる。ただし他の辺では大壁建物跡らしき様子はうかがわれない。柱穴の埋土中から須恵器と土師器がわずかに出土しているが、時期は不明である。

(23) ＳＢ43（第30図）

南側の調査区北部で検出された掘立柱建物跡で、北東半部が調査区外に広がっている。ＳＫ472、ＳＫ475によって構成され、方位はＮと測定されるが、構造などの詳細は不明である。柱穴から須恵器高杯（347）などの遺物が出土したことからＢ―1期直前に位置付けられ得る。

(24) ＳＢ44（第30図）

南側の調査区北部中央に存在する桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約4.4m×約4.3mを測る。ＳＫ108、ＳＫ469、ＳＫ287、ＳＫ126



第 31 図　掘立柱建物跡 S B 45 ～ S B 57 遺構図（s=1:100）

によって構成され、方位はN―14°―Wとなる。柱穴から土師器小片が出土したのみで時期は不明。

(25) ＳＢ45（第31図）

南側の調査区北部中央にある掘立柱建物跡で、約4.7m×約4.05mを測る。ＳＫ113、ＳＫ114、ＳＫ107、ＳＫ104、ＳＫ470、ＳＫ288、ＳＫ285、ＳＫ125、ＳＫ122、ＳＫ123、ＳＫ117によって構成され、北辺と西辺の状況を見ると桁行4間×梁行4間の掘立柱建物跡と判断される。主軸方位はN―7°―Wであり、北辺の柱間間隔は西から約0.55m、約0.95m、約1.75m、約1.45mを、西辺の柱間間隔は北から約1.35m、約1.05m、約0.65m、約1.0mを測る。南辺の間柱は確認されず、棟持柱も確認できない。柱穴から土師器甕（325）などが出土したことからＢ期に所属すると考えられる。

(26) ＳＢ46（第31図）

南側の調査区北部中央で確認された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約2.9m×約2.35mを測る。ＳＫ116、ＳＫ105、ＳＫ317、ＳＫ122、ＳＫ121によって構成され、方位はN―12°―Wを測る。南辺の柱間間隔は西から約0.9m、約2.0mを測る。須恵器と土師器がわずかにあるが、時期は不明。

(27) ＳＢ47（第31図）

南側の調査区西端に所在する桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約2.9m×約1.65mを測る。ＳＫ061、ＳＫ062、ＳＫ063、ＳＫ064、ＳＫ065、ＳＫ066、ＳＫ059とＳＫ304からなり、方位はN―7°―Eと測定される。北辺の柱間間隔は西から約0.75m、約0.9mを、東辺は北から約0.85m、約0.9m、約0.9mを測る。柱穴から出土した土師器甕（319）や土師器高杯（337）などから古墳時代中期と推定される。

(28) ＳＢ48（第31図）

南側の調査区西端で発見された掘立柱建物跡で、西半部は調査区外に広がる。柵列跡の可能性もある。一辺が約4.9m（6間）を測り、方位はN―10°―Eであった。ＳＫ058、ＳＫ310、ＳＫ311、ＳＫ347、ＳＫ056、ＳＫ054とＳＫ052によって構成され、柱間間隔は北から約0.85m、約0.75m、約0.7m、約0.9m、約1.0m、約0.7mを測る。若干の須恵器と土師器が出土したが、時期は不明である。

(29) ＳＢ49（第31図）

南側の調査区西端に位置する桁行1間×梁行1間の小規模な掘立柱建物跡で、約2.6m×約1.8mの規模を持つ。ＳＫ309、ＳＫ313、ＳＫ057とＳＫ055によって構成され、中央にはＳＫ312がある。方位はN―9°―EでＳＢ48とほぼ平行する。須恵器杯身（320）と須恵器杯蓋（339）などが出土したことからＢ期前半の掘立柱建物跡に位置付けられる。

(30) ＳＢ50（第31図）

南側の調査区西端で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.35m×約2.2mを測る。ＳＫ057、ＳＫ060、ＳＫ067、ＳＫ572、ＳＫ517によって構成され、中央部にＳＫ570が存在する。方位はN―28°―W、南西辺の柱間間隔は西から約0.9m、約1.45mを測る。土師器小片が出土したが、時期は不明。

(31) ＳＢ51（第31図）

南側の調査区西部で検出された掘立柱建物跡で、平面形は約3.35mのほぼ正方形である。桁行3間×梁行1間で、ＳＫ121、ＳＫ098、ＳＢ04内Ｐ5、ＳＢ04内Ｐ10、ＳＢ04内Ｐ12、ＳＢ05内Ｐ18、ＳＢ05内Ｐ14によって構成される。主軸はN―30°―Eの方位を測る。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

(32) ＳＢ52（第31図）

南側の調査区中央部に存在する桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約2.55m×約2.4mを測る。ＳＫ099、ＳＫ285、ＳＫ487、ＳＫ281、ＳＫ097などからなり、方位はN―15°―Wであった。柱穴から土師器がわずかに出土したが、時期を特定し得ない。

(33) ＳＢ53（第31図）

南側の調査区中央部で確認された掘立柱建物跡で、約5.85m×約3.65mを測る。ＳＫ286、ＳＫ478、ＳＫ567、ＳＫ496、ＳＫ279、ＳＫ389、ＳＫ316、ＳＫ076、ＳＫ097によって構成され、方位はN―26°―Eである。北辺や西辺からみて桁行2間×梁行2間と復元される。南東隅の柱穴は検出できず、柱穴から少量の須恵器と土師器が出土したが、時期を特定できない。

(34) ＳＢ54（第31図）

南側の調査区中央部にある桁行4間×梁行3間の掘立柱建物跡で、約5.1m×約3.75mを測る。ＳＫ284、ＳＫ283、ＳＫ565、ＳＫ496、ＳＫ276、ＳＫ275、ＳＫ390、ＳＫ078とＳＫ077によって構成され、方位はN―16°―Eとな

る。南東隅の柱穴は検出されず、棟持柱は確認できなかった。東辺の柱間間隔は北から約2.2m、約0.85m、約1.1m、約0.95mを測る。須恵器高杯（321）が出土したことからB―1期に属する。

（35）ＳＢ55（第31図）

南側の調査区中央部に所在する桁行1間×梁行2間の掘立柱建物跡で、規模は約3.65m×約2.3mを測る。ＳＫ477、ＳＫ482、ＳＫ498、ＳＫ279、ＳＫ315によって構成され、北半部の柱穴の規模がやや大きく、方位はN―10°―Eを測る。柱穴の埋土中から近世陶器が出土しているため、江戸時代に所属する。

（36）ＳＢ56（第31図）

南側の調査区中央部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約4.8m×約4.2mを測る。ＳＫ480、ＳＫ491、ＳＫ489、ＳＫ490、ＳＫ506、ＳＫ274、ＳＫ390とＳＫ389によって構成され、方位はN―5°―Eを測る。北東隅と南西隅の柱穴には隣接してＳＫ489とＳＫ390があり隅柱を支える施設かも知れない。北辺の柱間間隔は西から約2.7m、約1.15m、約0.35mを、南辺は東から約2.65m、約1.15m、約0.40mを測り、両者は対称的な配置となっている。柱穴ＳＫ490から須恵器杯身（348）が出土したことからB―1期に位置付けられる。

（37）ＳＢ57（第31図）

南側の調査区中央部で発見された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.7m×約3.4mを測る。ＳＫ565、ＳＫ495、ＳＫ488、ＳＫ501、ＳＫ500、ＳＫ396、ＳＫ395とＳＫ275によって構成され、方位はN―7°―Wであった。ＳＫ396とＳＫ395は重複しており建て替えが行われた可能性がある。須恵器と土師器が少量出土したに過ぎず、時期は不明。

（38）ＳＢ58（第32図）

南側の調査区中央部で確認された桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約3.05m×約1.35mで規模は小形である。ＳＫ492、ＳＢ15内Ｐ1、ＳＢ15内Ｐ4とＳＫ499によって構成され、方位はN―5°―E。土師器がわずかに出土したが、時期を特定し得ない。

（39）ＳＢ59（第32図）

南側の調査区中央部に位置する桁行1間×梁行1間の小規模な掘立柱建物跡で、約1.45m×約1.2mを測る。ＳＢ15内Ｐ3、ＳＢ15内Ｐ2、ＳＢ15内Ｐ8、ＳＢ15内Ｐ7とＳＢ15内Ｐ5によって構成され、中央部にＳＢ15内Ｐ4が配置されている。方位はN―22°―Wで、ＳＢ15の床面から確認されたことからＳＢ15よりも古い可能性が高い。柱穴からは全く遺物が出土していない。

（40）ＳＢ60（第32図）

南側の調査区西部で検出された掘立柱建物跡である。桁行2間？×梁行2間で、規模は約4.3m×約5.8mを測る。ＳＫ047、ＳＫ051、ＳＢ04内Ｐ13、ＳＢ04内Ｐ12、ＳＫ303、ＳＫ069、ＳＫ298とＳＫ296によって構成され、南西隅は調査区外に展開する。方位はN―6°―Eで、柱穴の規模はＳＫ298とＳＫ303を除き直径約0.5m程度であることから、両者は本建物跡とは無関係の柱穴の可能性も考えられる。ＳＢ04内Ｐ13、ＳＢ04内Ｐ12はＳＢ04を切る遺構で、ＳＢ60はＳＢ04より新しいと判断される。柱穴の埋土中から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は特定し難い。

（41）ＳＢ61（第32図）

南側の調査区中央部にある桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、約3.7m×約3.2mを測る。ＳＫ156、ＳＫ072、ＳＫ074、ＳＫ148、ＳＫ291、ＳＫ293、ＳＫ295とＳＫ298によって構成され、方位はN―68°―Eである。柱間間隔は北辺が西から約2.1m、約1.6mを、南辺が西から約1.4m、約1.1m、約1.2mを、西辺が北から約1.9m、約1.3mを各々測る。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

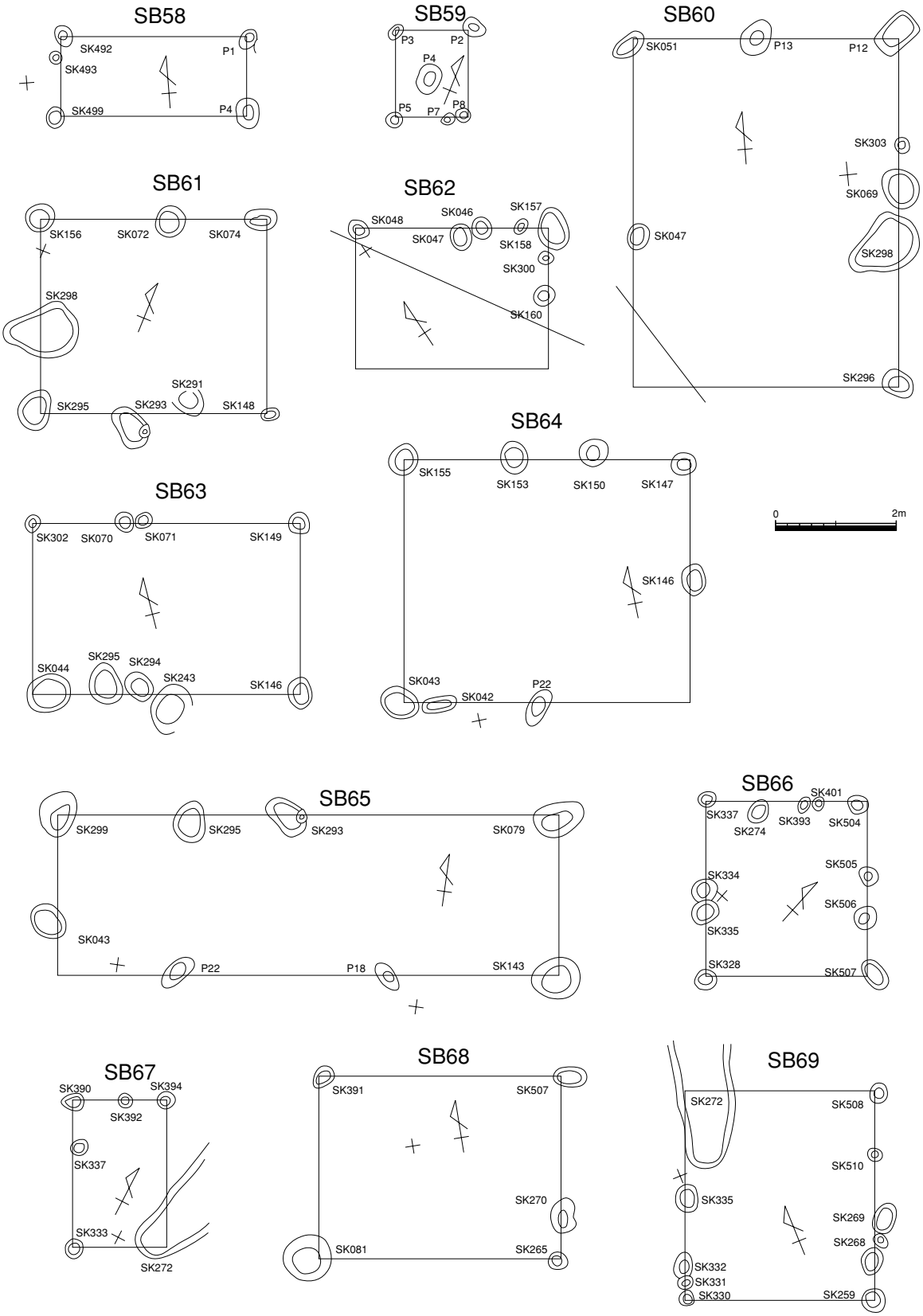
（42）ＳＢ62（第32図）

南側の調査区西部で確認された約3.1m×1.15m以上の規模を持つ掘立柱建物跡である。南西半部は調査区外に展開し、桁行2間×梁行1間以上となる。ＳＫ048、ＳＫ047、ＳＫ046、ＳＫ158、ＳＫ157、ＳＫ300、ＳＫ160によって構成されるが、このうちＳＫ047とＳＫ046とＳＫ158、そしてＳＫ300とＳＫ160は各々近接しているために同時に存在していない可能性が高い。主軸方位はN―32°―Eを測る。須恵器と土師器の小片が出土したが、時期の特定は難しい。

（43）ＳＢ63（第32図）

南側の調査区中央部にある桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約4.35m×約2.6mを測る。ＳＫ302、ＳＫ070、ＳＫ071、ＳＫ149、

矢迫遺跡



第 32 図　掘立柱建物跡 S B 58 ～ S B 69 遺構図（s=1:100）

ＳＫ146、ＳＫ243、ＳＫ294、ＳＫ295とＳＫ044によって構成される。方位はＮ―12°―Ｅを測り、南辺の柱穴の規模は少し大きい。ＳＫ070とＳＫ071は近接することから建て替えられた可能性がある。須恵器杯身（318）が出土したことからＢ―１期と推定される。

（44）ＳＢ64（第32図）

南側の調査区中央部南寄りで検出された掘立柱建物跡で、約4.6m×約4.05mを測る。南東隅の柱穴は確認されなかったが、桁行3間×梁行2間と復元される。ＳＫ155、ＳＫ153、ＳＫ150、ＳＫ147、ＳＫ146、ＳＤ06内Ｐ22、ＳＫ042とＳＫ043によって構成され、方位はＮ―12°―Ｅで、柱穴の規模は直径0.4m～0.5m、北辺の柱間間隔は西から約1.8m、約1.3m、約1.5mを、東辺は北から約2.0m、約2.05mを測る。柱穴からは須恵器と土師器がわずかに出土した。

（45）ＳＢ65（第32図）

南側の調査区中央部南端に所在する桁行3間×梁行2間？の掘立柱建物跡で、規模は約8.35m×約2.7mを測る。ＳＫ299、ＳＫ295、ＳＫ293、ＳＫ079、ＳＫ143、ＳＤ06内Ｐ18、ＳＤ06内Ｐ22、ＳＫ043といった比較的大規模な柱穴からなり、方位はＮ―82°―Ｅである。ＳＤ06内Ｐ18とＳＤ06内Ｐ22はＳＢ65とは無関係の可能性もあり、南西隅の柱穴は確認できなかった。また、ＳＫ295はＳＢ61の南西隅柱穴となっており、これもＳＢ65とは無関係の可能性がある。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（46）ＳＢ66（第32図）

南側の調査区中央部で確認された掘立柱建物跡で、規模は約2.9m×約2.7mを測る。桁行3間×梁行3間で、ＳＫ504、ＳＫ505、ＳＫ506、ＳＫ507、ＳＫ328、ＳＫ335、ＳＫ334、ＳＫ337、ＳＫ274、ＳＫ393とＳＫ401によって構成され、方位はＮ―48°―Ｅを測る。北隅の柱穴の位置は若干南西にずれて存在する。北東辺の柱間間隔は西から約1.2m、約0.7m、約1.0mを測る。土師器がわずかに出土しているが、時期を特定できない。

（47）ＳＢ67（第32図）

南側の調査区中央部にある桁行2間×梁行2間の掘立柱建物跡で、約2.45m×約1.5mを測る。ＳＫ394、ＳＫ272、ＳＫ333、ＳＫ337、ＳＫ390、ＳＫ392によって構成され、方位はＮ―28°―Ｗである。柱間間隔は比較的狭く、北辺と西辺では0.7m～1.65mを測る。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は特定しがたい。

（48）ＳＢ68（第32図）

南側の調査区中央部にある掘立柱建物跡で、規模は約4.0m×約3.0mを測り、桁行1間×梁行1間となる。ＳＫ391、ＳＫ507、ＳＫ270、ＳＫ265、ＳＫ081からなり、方位はＮ―11°―Ｅを測る。柱穴の規模は多少の相違が認められる。須恵器杯蓋（323）が出土したことからＢ―１期に位置付けられよう。

（49）ＳＢ69（第32図）

南側の調査区中央部で検出された掘立柱建物跡で、約3.55m×約3.05mを測る。ＳＫ272、ＳＫ508、ＳＫ510、ＳＫ269、ＳＫ268、ＳＫ259、ＳＫ330、ＳＫ331、ＳＫ332とＳＫ335からなり、東辺と西辺については多数の柱穴が検出されている。ＳＫ272は規模が大きく柱穴とならない可能性がある。棟持柱は特定できず、主軸方位はＮ―22°―Ｅを測る。土師器がわずかに出土したが、時期を特定できない。

（50）ＳＢ70（第33図）

南側の調査区中央部にある掘立柱建物跡で、規模は約4.7m×約4.3mを測る。ＳＫ080、ＳＫ328、ＳＫ270、ＳＫ269、ＳＫ268、ＳＫ255、ＳＫ088、ＳＫ085、ＳＫ083、ＳＫ082、ＳＫ140、ＳＫ139、ＳＫ142によって構成され、主軸はＮ―13°―Ｅを測る。南東隅の柱穴が確認されなかった。建物跡の北寄り部分で東西方向に間仕切りが認められた。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

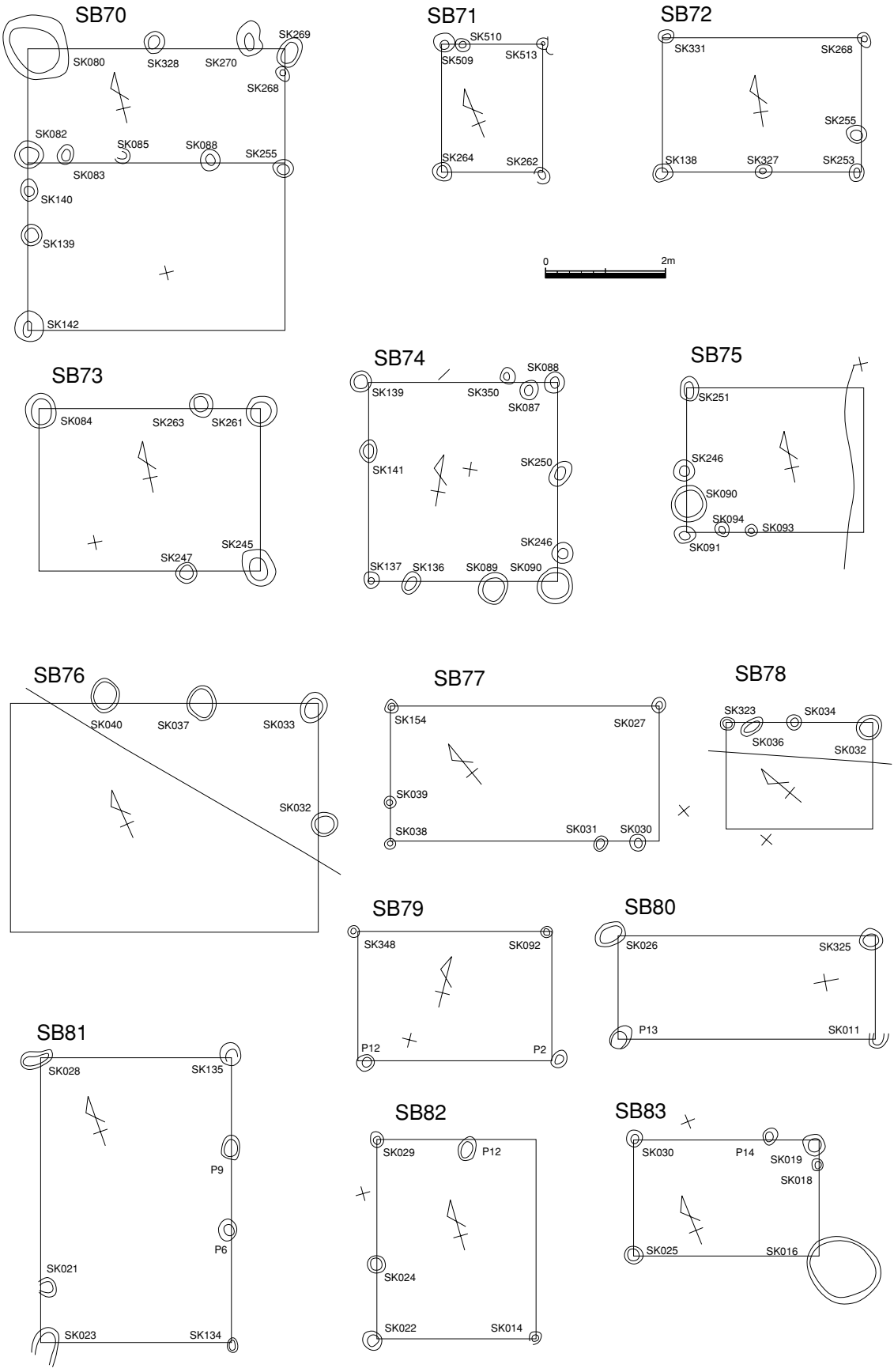
（51）ＳＢ71（第33図）

南側の調査区中央部に存在する小形の掘立柱建物跡で、約2.2m×約1.7mを測る。桁行1間×梁行1間で、ＳＫ509、ＳＫ510、ＳＫ513、ＳＫ262、ＳＫ264からなり、方位はＮ―22°―Ｅと測定される。遺物は土師器がわずかに出土したが、時期を特定できない。

（52）ＳＢ72（第33図）

南側の調査区中央部で存在する掘立柱建物跡で、約3.2m×約2.3mを測る。桁行2間×梁行2間で、ＳＫ331、ＳＫ268、ＳＫ255、ＳＫ253、ＳＫ327とＳＫ138によって構成される。方位はＮ―8°―Ｅで、南辺の柱間間隔は西から約1.65m、約1.55mを、東辺の柱間間隔は北から

矢迫遺跡



第 33 図　掘立柱建物跡 S B 70 ～ S B 83 遺構図（s=1:100）

約1.55m、約0.75mを測る。須恵器杯身（326）や須恵器高杯（334）などが出土したことからＢ期後半に位置付けられる。

（53）ＳＢ73（第33図）

南側の調査区中央部に位置する桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.65m×約2.6mを測る。ＳＫ084、ＳＫ263、ＳＫ261、ＳＫ245、ＳＫ247によって構成されるが、南西隅の柱穴は検出されなかった。方位はＮ―13°―Ｅを測り、棟持柱は確認できなかった。北辺の柱間間隔は西から約2.65m、約1.0mを、南辺の柱間間隔は西から約2.5m、約1.15mを測る。柱穴から須恵器杯蓋（331）、須恵器無蓋高杯（329）と土師器甕（330）などが出土したことからＢ期に属する可能性がある。

（54）ＳＢ74（第33図）

南側の調査区中央部で確認された桁行2間×梁行3間の掘立柱建物跡で、約3.3m×約3.15mを測る。ＳＫ139、ＳＫ087、ＳＫ088、ＳＫ250、ＳＫ246、ＳＫ090、ＳＫ089、ＳＫ136、ＳＫ137とＳＫ141によって構成され、方位はＮ―82°―Ｅと測定される。南辺の柱間間隔は西から約0.75m、約1.4m、約1.0mを測る。柱穴の規模は多少の相違があるが、棟持柱は確認できない。遺物は須恵器と土師器がわずかに出土した程度である。

（55）ＳＢ75（第33図）

南側の調査区中央部で検出された掘立柱建物跡で、規模は2.8m以上×約2.3mを測る。ＳＫ251、ＳＫ093、ＳＫ094、ＳＫ091、ＳＫ090、ＳＫ246によって構成されるが、東部は撹乱によって不明である。方位はＮ―13°―Ｅとなる。須恵器と土師器が出土したが、時期は不明。

（56）ＳＢ76（第33図）

南側の調査区中央部南寄りにある4.5m以上×3.1m以上を測る掘立柱建物跡である。桁行3間以上×梁行2間以上で、ＳＫ040、ＳＫ037、ＳＫ033、ＳＫ032によって構成され、方位はＮ―22°―Ｅを測る。ＳＫ040はＳＤ06を切っており、ＳＢ76はＳＢ08よりも新しいと判断される。柱穴の平面プランは直径約0.5mの円形で共通であり、多くの復元した掘立柱建物跡の中でも蓋然性の高い建物跡と評価できる。柱穴から須恵器杯蓋（315）などが出土したが、時期は特定できない。

（57）ＳＢ77（第33図）

大壁建物跡ＳＢ08の内側で検出された掘立柱建物跡で、桁行2間×梁行2間で、規模は約4.5m×約2.3mを測る。ＳＫ154、ＳＫ027、ＳＫ030、ＳＫ031、ＳＫ038、ＳＫ039によって構成され、南隅の柱穴が検出されなかった。方位はＮ―52°―Ｗで、柱穴の規模は比較的小規模なものが多い。柱穴から須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（58）ＳＢ78（第33図）

南側の調査区中央部南寄りに所在する桁行3間×梁行1間以上の掘立柱建物跡で、南西部の大半が調査区外に広がる。このため柵列の可能性も高い。規模は約2.4m×0.6m以上を測り、ＳＫ323、ＳＫ036、ＳＫ034、ＳＫ032によって構成される。主軸方位はＮ―41°―Ｗで、柱間間隔は西から約0.4m、約0.7m、約1.3mを測り、棟持柱は確認できない。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（59）ＳＢ79（第33図）

南側の調査区中央部にある掘立柱建物跡で、約3.25m×約2.15mを測る。方位はＮ―17°―Ｗ、桁行1間×梁行1間で、ＳＫ348、ＳＫ092、ＳＤ03内Ｐ2、ＳＤ08内Ｐ12によって構成される。南辺の柱穴が大壁建物跡の溝内柱穴と重複することから、復元に無理があるかもしれない。遺物が全く出土せず、時期は不明。

（60）ＳＢ80（第33図）

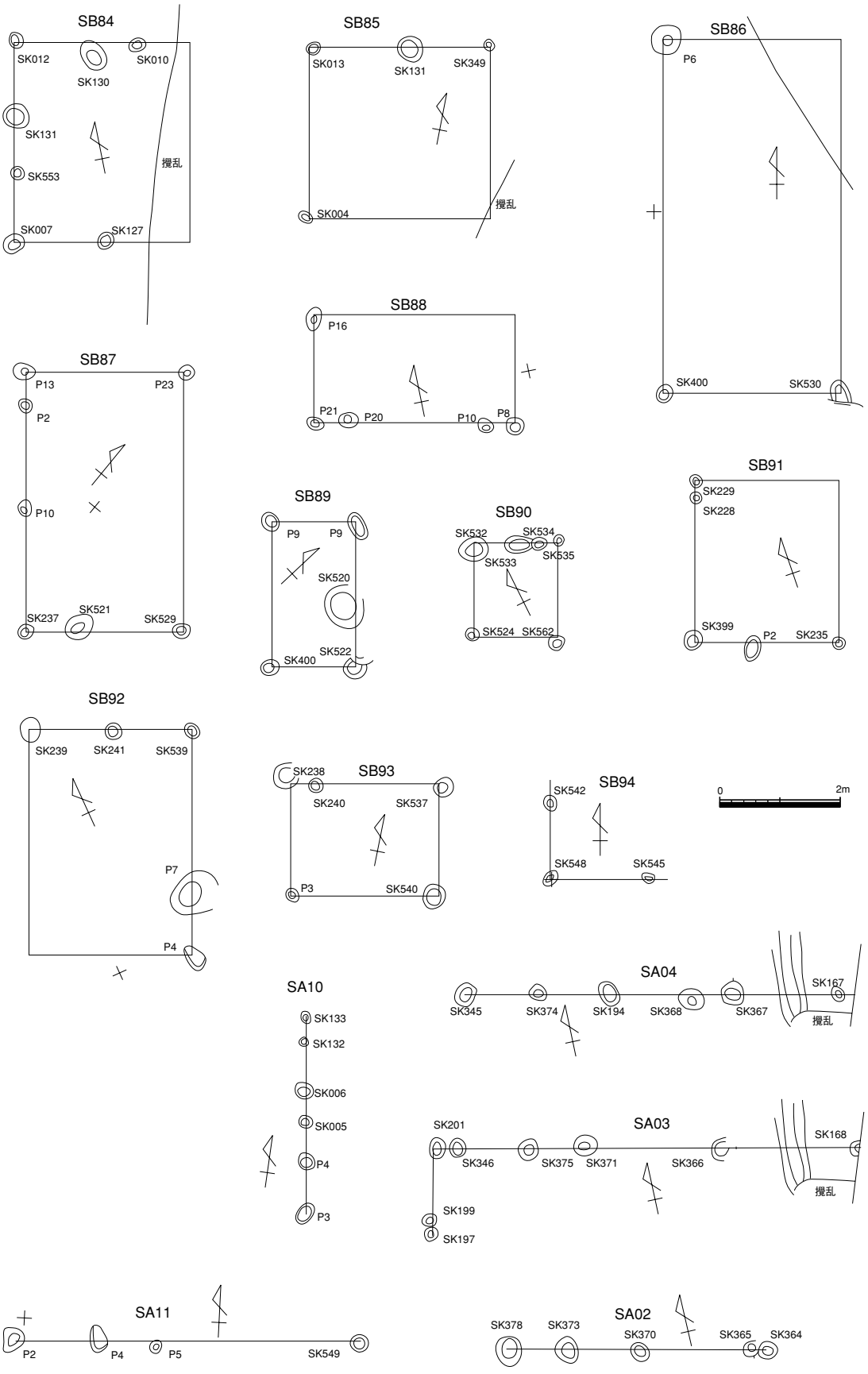
南側の調査区中央部で検出された桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約4.35m×約1.65mを持つ。ＳＫ026、ＳＫ325、ＳＫ011、ＳＤ09内Ｐ13によって構成され、主軸方位はＮ―78°―Ｗと測る。長辺に間柱が確認されず、復元案に若干の疑問が残る。ＳＫ011はＳＤ08に切られることから、ＳＢ80は大壁建物跡ＳＢ11よりも古いと判断される。須恵器と土師器がわずかに出土したに過ぎない。

（61）ＳＢ81（第33図）

南側の調査区中央部にある桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約4.8m×約3.2mを測る。ＳＫ028、ＳＫ135、ＳＫ134、ＳＫ023、ＳＫ021によって構成され、方位はＮ―20°―Ｅとなる。間柱となる柱穴は大壁建物ＳＢ11の溝内ピットを採用すれば存在するが、現状ではなかったと考えたい。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（62）ＳＢ82（第33図）

矢迫遺跡



第 34 図　掘立柱建物跡 S B 84 ～ S B 94 他遺構図（s=1:100）

南側の調査区中央部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.35m×約2.6mを測る。ＳＫ029、ＳＫ014、ＳＫ022、ＳＫ024によって構成され、北東隅の柱穴と東辺の間柱は検出されなかった。方位はＮ―15°―Ｅを測り、柱穴の規模は比較的小さい。柱間の間隔は西辺で南から約1.3m、約1.05mとなる。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は特定し難い。

（63）ＳＢ83（第33図）

南側の調査区中央部で確認された掘立柱建物跡で、規模は約3.1m×約1.95mを、方位はＮ―19°―Ｅを測る。桁行1間×梁行1間で、ＳＫ030、ＳＫ019、ＳＫ018、ＳＫ016とＳＫ025によって構成される。柱穴の規模はＳＫ016が際立って大きい他はほぼ同一となる。柱穴から須恵器杯蓋（313）などが出土したことからＢ―2期に位置付けられよう。

（64）ＳＢ84（第34図）

南側の調査区南部に所在する桁行3間×梁行2間以上、約3.25m×2.7m以上を測る掘立柱建物跡で、東辺が調査区外に広がる。ＳＫ012、ＳＫ130、ＳＫ010、ＳＫ127、ＳＫ007、ＳＫ553とＳＫ131によって構成され、方位はＮ―12°―Ｅを測る。柱穴の規模は多少の相違があるが、棟持柱は確認できなかった。須恵器と土師器が出土したが、時期は特定し難い。

（65）ＳＢ85（第34図）

南側の調査区南部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、南東隅の柱穴は撹乱によって遺存しなかった。規模は約2.95m×約2.7mを測り、ＳＫ013、ＳＫ131、ＳＫ349、ＳＫ004によって構成される。方位はＮ―9°―Ｗである。ＳＫ131はＳＢ84と共有しているためにＳＢ85とは無関係かもしれないが、これを間柱と考えると北辺の柱間間隔は西から1.6m、1.35mを測ることになる。若干量の土師器が出土したが、時期を特定し得ない。

（66）ＳＢ86（第34図）

南側の調査区東部で確認された掘立柱建物跡で、桁行1間×梁行1間、規模は約5.95m×約3.0mを測る。ＳＢ03内Ｐ6、ＳＫ530、ＳＫ400によって構成され、方位はＮ―1°―Ｗを測る。規模が大きい割に長辺の間柱が認められないものである。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（67）ＳＢ87（第34図）

南側の調査区東部で検出された掘立柱建物跡で、桁行3間×梁行2間、約4.3m×約2.65mを測る。ＳＢ19内Ｐ23、ＳＫ529、ＳＫ521、ＳＫ237、ＳＢ19内Ｐ10、ＳＢ19内Ｐ2、ＳＢ19内Ｐ13によって構成され、方位はＮ―38°―Ｗである。南西辺の柱間間隔は西から0.5m、1.75m、2.05mを、南東辺は西から0.8m、1.85mを測る。遺物が全くなく、時期は不明である。

（68）ＳＢ88（第34図）

南側の調査区東部にある桁行3間×梁行1間の掘立柱建物跡で、規模は約3.45m×約1.8mを測る。北東隅の柱穴を検出できなかったが、ＳＢ19内Ｐ16、ＳＢ19内Ｐ8、ＳＢ19内Ｐ10、ＳＢ19内Ｐ20、ＳＢ19内Ｐ21によって構成され、方位はＮ―12°―Ｅと測定される。南辺の柱間間隔は西から0.55m、2.25m、0.65mを測る。柱穴の埋土中から遺物は出土せず、時期を推定できない。

（69）ＳＢ89（第34図）

南側の調査区東部で検出された桁行2間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約2.4m×約1.35mを測る。ＳＢ19内Ｐ9、ＳＫ520、ＳＫ522、ＳＫ400、ＳＤ03内Ｐ9によって構成され、方位はＮ―47°―Ｗである。ＳＫ520はその規模がやや大きいことから間柱ではないかもしれない。ＳＢ19内Ｐ9はＳＢ19床面で初めて確認された遺構であることを信用すれば、ＳＢ19より古い可能性が高くなる。また、柱穴の埋土中から須恵器杯蓋（351、352）と土師器甕（353）などが出土していることから考えると、Ｂ期前半に位置付けられよう。

（70）ＳＢ90（第34図）

南側の調査区南東端で検出された非常に小規模な掘立柱建物跡である。桁行1間×梁行1間で、規模は約1.6m×約1.2mを測る。ＳＫ532、ＳＫ535、ＳＫ562、ＳＫ524からなり、方位はＮ―26°―Ｅである。ＳＫ533、ＳＫ534もこの建物跡に伴うかも知れない。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期は不明。

（71）ＳＢ91（第34図）

南側の調査区南東端で検出された掘立柱建物跡で、約2.45m×約2.7mを測る。桁行1間×梁行1間で、ＳＫ229、ＳＫ235、ＳＫ399によって構成され、北東隅の柱穴は検出できなかった。ＳＫ228もこの建物跡に関連すると思われ、

束柱か建て替えによるものだろう。方位はN―19°―Eを測り、柱穴の規模は比較的小規模である。遺物はなく、時期を推定できない。

（72）ＳＢ92（第34図）

南側の調査区南東端で検出された掘立柱建物跡で、規模は約3.7m×約2.25mを測る。桁行2間×梁行2間であり、ＳＫ239、ＳＫ241、ＳＫ539、ＳＢ01内Ｐ7、ＳＢ01内Ｐ4によって構成され、方位はN―26°―Eを測る。ＳＢ01内Ｐ7はＳＢ01の内部施設の可能性が高く、本遺構に含めないで考えると桁行1間×梁行2間となる。須恵器と土師器がわずかに出土したが、時期の特定は難しい。

（73）ＳＢ93（第34図）

南側の調査区南東端で検出された桁行1間×梁行1間の掘立柱建物跡で、約2.5m×約1.8mを測る。ＳＫ238、ＳＫ240、ＳＫ537、ＳＫ540、ＳＢ02内Ｐ3によって構成され、方位はN―6°―Wを測る。棟持柱は確認できなかった。柱穴から全く遺物が認められないことから時期は不明である。

（74）ＳＢ94（第34図）

南側の調査区南東端で検出された掘立柱建物跡で、南西部のみを確認した。規模は桁行1間以上×梁行1間以上で、約1.25m以上×約1.65m以上の大きさを測る。ＳＫ542、ＳＫ548、ＳＫ545によって構成され、主軸方位は真北と測定される。柱穴の規模は比較的小さく、遺物が全く出土しない。

（75）ＳＡ01

ＳＡ01は北側の調査区東端で検出された掘立柱柵列跡で、長さ約3.0m（2間分）が確認された。ＳＫ410、ＳＫ175などによって構成され、方位はN―65°―Eとなる。柱穴から全く遺物が出土していない。

（76）ＳＡ02（第34図）

北側の調査区南東端で検出された掘立柱柵列跡で、ＳＡ03とＳＡ04が近接して存在する。長さ約4.3m（3間分）が確認された。ＳＫ378、ＳＫ373、ＳＫ370、ＳＫ364によって構成され、方位はN―76°―Wを測る。全く遺物が出土せず、時期を特定できない。

（77）ＳＡ03（第34図）

北側調査区南東端で検出された掘立柱柵列跡であり、西端部でＬ字に屈曲する。長さは合計で約8.6m以上（8間分以上）が確認された。ＳＫ197、ＳＫ199、ＳＫ201、ＳＫ346、ＳＫ375、ＳＫ371、ＳＫ366とＳＫ168によって構成され、方位はN―78°―Wである。柱穴から全く遺物が出土せず、時期は不明。

（78）ＳＡ04（第34図）

北側調査区南東端で検出された掘立柱柵列跡で、長さ約6.2m以上（4間分以上）が確認された。ＳＫ345、ＳＫ374、ＳＫ194、ＳＫ368、ＳＫ367、ＳＫ167によって構成され、方位はN―78°―Wと測定される。全く遺物が出土していないことから時期を特定できない。

（79）ＳＡ05

南側の調査区北西端で検出された掘立柱柵列跡で、長さは約2.2m（2間分）である。ＳＫ445、ＳＫ446、ＳＫ454によって構成され、方位はN―2°―Eである。柱穴からは土師器小片が出土したが、時期は不明である。

（80）ＳＡ06

南側の調査区西端で検出された掘立柱柵列跡で、長さは約4.7m（2間分）を測る。ＳＫ053、ＳＫ050、ＳＫ049によって構成され、方位はN―42°―Wと測定される。柱穴の埋土中から須恵器が出土したが、時期の特定は難しい。

（81）ＳＡ07

南側の調査区中央部で検出された掘立柱柵列跡で、長さ約3.9m（3間分）が確認された。ＳＫ514、ＳＫ267、ＳＫ259、ＳＫ250によって構成され、方位はN―22°―Eを測る。須恵器などが出土したが、詳細な時期は不明。

（82）ＳＡ08

南側の調査区中央部で検出された掘立柱柵列跡で、長さ約6.7m（5間分）が確認された。ＳＫ511、ＳＫ516、ＳＫ260、ＳＫ252、ＳＫ247、ＳＫ089によって構成され、方位はN―21°―Eと測定される。須恵器杯Ａ（332）や須恵器杯身（333）が出土したことから、時期はＢ期と推定される。

（83）ＳＡ09

南側の調査区中央部で検出された掘立柱柵列跡で、長さは約4.3m（2間分）である。ＳＫ326、ＳＫ222、ＳＫ220によって構成され、方位はN―63°―Wを測る。柱穴から須恵器などが出土したが、時期は不明。

（84）ＳＡ10（第34図）

南側の調査区南部で検出された掘立柱柵列跡で、長さ約3.3m（5間分）が確認された。ＳＫ

133、ＳＫ132、ＳＫ006、ＳＫ005、ＳＤ12内Ｐ4とＳＤ09内Ｐ3によって構成され、方位はＮ―9°―Ｗとなる。全く遺物が出土していないことから時期を特定できない。

（85）ＳＡ11（第34図）

南側の調査区南東端で検出された掘立柱柵列跡で、長さは約5.7m（3間分）を測る。ＳＫ549、ＳＢ01内Ｐ5、ＳＢ01内Ｐ4とＳＢ01内Ｐ2によって構成され、方位はＮ―86°―Ｅで、柱穴から全く遺物が出土していないことから時期を特定できない。

第5節　溝

今回の調査では約30条の溝が検出されている。このうち、竪穴建物跡の周溝や大壁建物跡に伴うものなどを除くと、検出された溝の数は15条となる。本遺跡で確認された溝は、ＳＤ01を除くと検出状態では非常に規模が小さいものが多く、全て素掘り溝である。これらは竪穴建物跡の周溝など建物遺構に付属する可能性も残されているが、多くの事例は性格が不明なものである。ここでは、個別に事例報告する。

（1）ＳＤ01（第35図）

調査区南端で検出された幅3.6m～4.4mの規模を持つ溝である。両端部は調査区外へ伸びており全長を特定できないが、確認された長さは24m弱を測る。北西から南東へ落ちる斜面に掘削されており、北肩からの深さは60cm程度、南肩からの深さは30cm程度を計測する。方位はＮ―75°―Ｗと測定され、溝自体は西から東へ傾斜している。溝の最深部南寄りでさらに一段深く幅約60cmで深さ約10cmの規模の浅い溝が同じような方向で走っており、一連の遺構と理解される。北側でＳＢ01とＳＢ02を切っており、溝内には褐色シルトなどが斑土状で堆積していた。溝の傾斜がやや急であるため、流水はあったと推測されるが、これを示す堆積物を確認することはできなかった。溝埋土から17世紀前半に位置付けられる土師器内耳鍋や瀬戸美濃窯産陶器皿などが出土していることから、近世初頭の段階である程度埋没した遺構であると考えられる。

この溝は本遺跡の中では格段に大きな規模を持つ新しい時期の遺構であることから、矢迫遺跡が存在する舌状台地の先端部に所在する応永2（1468）年から永禄年間の城と言われる鴛鴨城跡に関連するものかもしれない。もしそうだとすれば、ＳＤ01は台地先端にある鴛鴨城跡の背後を遮断する遺構であった可能性が考えられる。ただしこの仮説は、遺構が埋没した時期がやや下ること、台地を遮断する遺構としては特に深さの面で規模が小さいこと、ＳＤ01の方位が台地を遮断する方向と少し歪んでいることなど、多くの難点も残されている考え方でもある。

（2）ＳＤ04

南側の調査区で検出された幅約0.3mの溝である。東端部がＳＢ10に切られる形で検出されたが、ＳＢ10に付属する施設であった可能性も考えられる。ＳＢ10には南辺西端部でも南方向に伸びる同規模の溝が存在するが、ここでは別遺構と言う立場で報告することにしたい。溝埋土から須恵器や土師器の小片が出土していることから、ここではＢ期の遺構であると推測しておく。

（3）ＳＤ05

ＳＤ04の北側に所在するの溝で、幅0.5mを測る。東端部は撹乱によって状態を明らかにすることができなかったが、溝自体は西から東へ傾斜している。方位はＮ―65°―Ｗと測定される。溝埋土からは須恵器や土師器に混ざって燻し瓦片も出土していることから近世の溝と考えられる。

（4）ＳＤ16

ＳＢ07を切る形で検出された幅0.5mの規模を持つ土坑状の溝である。溝埋土から須恵器や土師器の小片が数点出土しているが、時期は特定し難い。

（5）ＳＤ17

北側の調査区東端にある溝で、Ｌ字状に屈曲している。溝の北側部分は東方向に調査区外に伸び、南側部分は撹乱によって破壊され形状は不明である。南側も東に屈曲して「コ」字状に巡る可能性も考えられ、この場合は竪穴建物跡の周溝であったかもしれない。溝埋土からは遺物が全く出土していないことから時期を特定できない。

（6）ＳＤ18（第35図）

北側の調査区中央部に存在する溝で、Ｌ字状に屈曲している。西端部は撹乱で大きく破壊されており形状は不明だが、幅はところどころで太くなったり狭くなったりして不定形な平面形を呈しており、屈曲部ではテラスを持っている。ＳＤ22に切られているが、溝埋土から近世の陶器小片が出土していることから江戸時代以降の遺構であろう。

（７）ＳＤ20

幅1.1m、深さ0.1m以下の規模を持つ溝で、南側の調査区西端で発見された。遺構検出状態ではＳＢ09などに切られており、溝の北部はＳＢ09の床面で検出されたＳＢ09内ＳＤ01に連続する可能性がある。溝埋土からは須恵器と土師器のみが確認されることからも、古い時期の溝であるといえよう。

（８）ＳＤ21

南側の調査区北端で検出された幅0.75m前後の規模を持つ溝である。両端部は調査区外へ伸びており、全長は特定できない。方位はＮ―30°―Ｗと測定され、深さは30cm程度を計測する。ＳＢ14などの遺構を切っており、溝埋土から近世陶器の小片などが出土していることから、江戸時代の遺構と考えられる。

（９）ＳＤ22（第35図）

北側の調査区に存在する溝で、幅1.0m～1.7mの規模を持つ。西端部は撹乱で壊されており、全長は不明である。ＳＤ18を切ることから少なくとも江戸時代以降の遺構であると推定される。北側にはＳＤ28が平行して走っており、両者で道状遺構を形成するかもしれない。方位や配置を明治17（1894）年作成の地籍図と対比してみると、江戸時代以降の耕作地（水田などか）に関連する可能性が考えられる。

（10）ＳＤ23

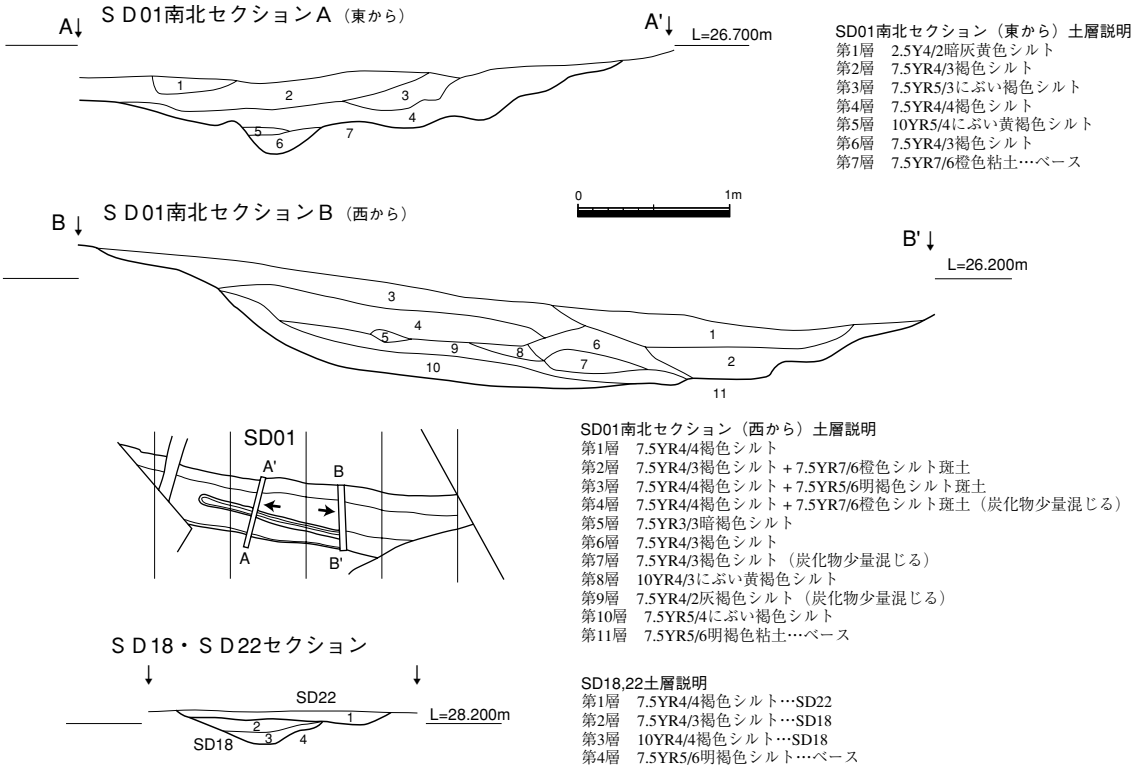
北側の調査区にあり、ＳＤ22に北端が切られる遺構である。規模は小さく遺物も全く出土していないため、時期や性格は不明である。

（11）ＳＤ24

北側の調査区北東端に位置する幅0.3mの溝で、Ｌ字状に屈曲する。溝埋土から須恵器と土師器が少量出土しているに過ぎない遺構である。竪穴建物跡の周溝の可能性も考えられる。

（12）ＳＤ25

南側調査区の南端で発見された小規模な溝で、Ｌ字状に屈曲する。ＳＢ02に南端が切られている形で遺構は検出された。溝埋土から須恵器と土師器が少量出土しており、竪穴建物跡の



第35図　溝土層断面図（s=1:50）

周溝の可能性がある。

（13） ＳＤ 27

北側の調査区南端で検出された非常に小規模な溝である。出土遺物はなく、時期や性格は不明である。

（14） ＳＤ 28

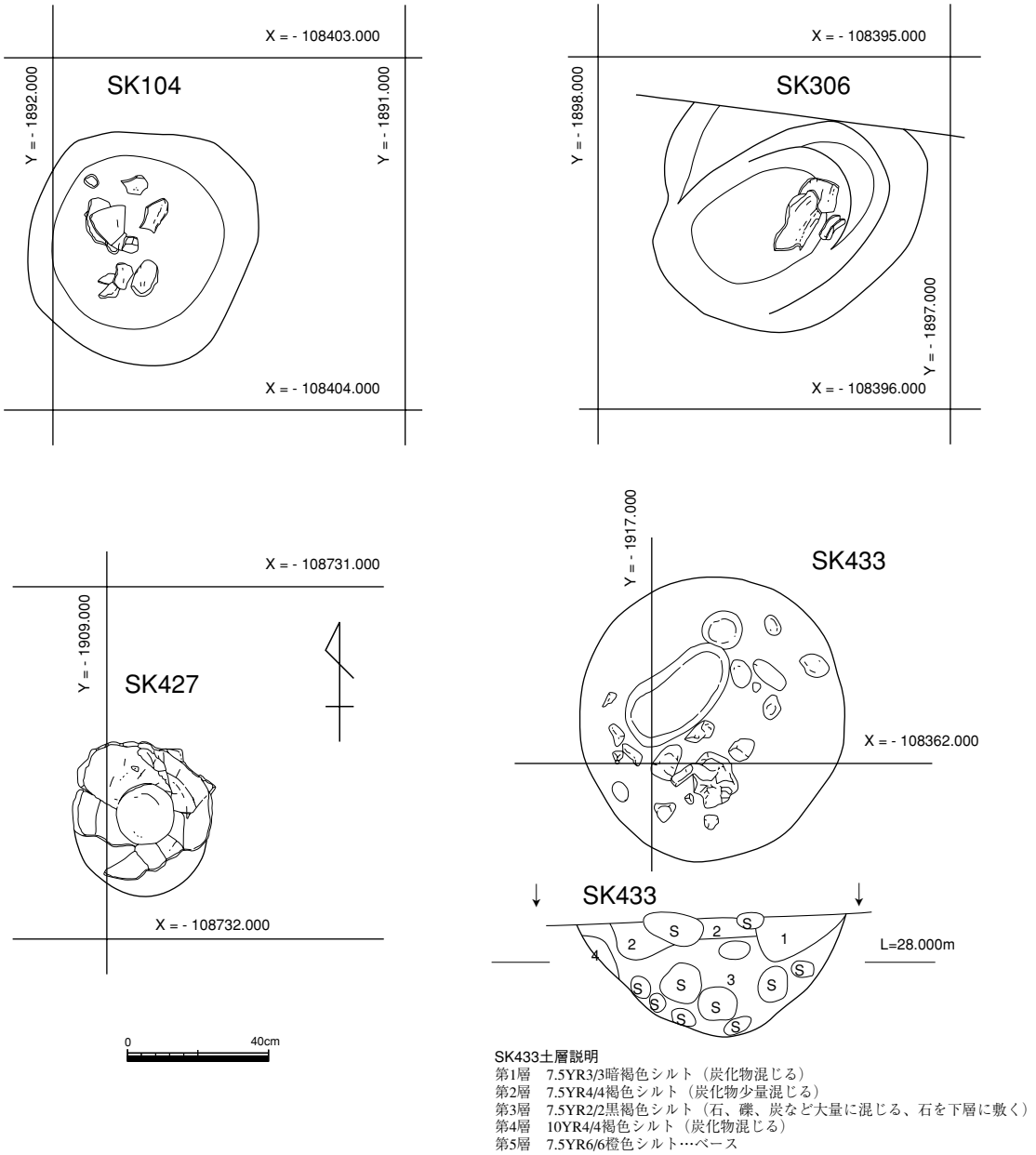
北側の調査区北東端に位置する幅 0.7m 前後の溝で、南側にはＳＤ 22 が平行して走っている。江戸時代以降の遺構である可能性が高い。なお、この遺構は実際の調査ではＳＤ26の遺構番号で調査されている。

（15） ＳＤ 29

南側の調査区の南部で検出された幅 0.7m 前後の溝で、東端は調査区外へ伸びる。遺構の時期は特定し難いが、遺構の配置からみてＳＤ05の延長部分であった可能性が考えられる。なお、この遺構も実際の調査ではＳＤ26の遺構番号で調査されている。

第 6 節　土坑

今回の調査では、柱穴などのピットも含めた土坑状の遺構が570基以上確認された。これらは竪穴建物跡や大壁建物跡の内部に所在する遺構を含んでいないため、実際にはこの数値より



SK433土層説明
第1層　7.5YR3/3暗褐色シルト（炭化物混じる）
第2層　7.5YR4/4褐色シルト（炭化物少量混じる）
第3層　7.5YR2/2黒褐色シルト（石、礫、炭など大量に混じる、石を下層に敷く）
第4層　10YR4/4褐色シルト（炭化物混じる）
第5層　7.5YR6/6橙色シルト…ベース

第 36 図　土坑遺物等出土状態図（s=1:20）

も多くの遺構が発見されているといえる。こうした土坑は、本遺跡の場合、大半は柱穴と考えられており、実際本章第4節ではこれらの遺構を用いて復元案を作成した掘立柱建物跡の報告が行われている。ただし、この掘立柱建物跡の報告は現状で筆者が想定した案に過ぎないものであり、本来検出された状態はあくまで土坑状の遺構以上ではないものである。本節では、柱穴などのピットも含めた土坑状の遺構を単体で取り上げるが、本文に触れる遺構は柱穴とは確実にいえない特殊な遺構と、柱穴の代表的なもののみに止めておきたい。取り上げなかった個別の遺構については巻末に掲載した付表に情報を記述したので、これを参照されたい。

（1）ＳＫ032（第37図）

ＳＫ032は掘立柱建物跡ＳＢ76およびＳＢ78を構成する柱穴の一つである。土層断面を観察すると、検出面から約15cmまでは後世の堆積層になると考えられ、これより下層では柱が存在した痕跡を確認することができた。柱の裏込めにはオリーブ褐色シルトの斑土が充填されていた。土師器と須恵器の小破片が出土した。

（2）ＳＫ033（第37図）

ＳＫ033は掘立柱建物跡ＳＢ76を構成する柱穴の一つである。土層断面から柱の痕跡を明瞭に見い出すことはできなかった。断面形は箱堀状となっている。土師器と須恵器の小破片が出土した。

（3）ＳＫ037（第37図）

ＳＫ037は掘立柱建物跡ＳＢ76を構成する柱穴の一つである。ＳＫ032と同様に、上位では後世の堆積層が見られ、下位では柱の痕跡とその裏込め土を観察することができた。土師器と須恵器の小破片が出土しており、このうち須恵器杯蓋（315）は尾野編年のⅢ期中段階に比定される資料である。

（4）ＳＫ040（第37図）

ＳＫ040は掘立柱建物跡ＳＢ76を構成する柱穴の一つである。ＳＤ06（大壁建物ＳＢ08）を切る形で検出された柱穴で、上位は後世の堆積層、下位は柱の痕跡とその裏込め土が確認された。土師器と須恵器の小破片が出土しており、このうち須恵器高杯？（316）は尾野編年のⅢ期新段階からⅣ期古段階に属するものである。

（5）ＳＫ067（第37図）

ＳＫ067は掘立柱建物跡ＳＢ50を構成する柱穴の一つである。土層断面を観察しても分かるとおり、実際には柱穴が2つ重複しており、各々の柱穴で柱の存在した痕跡を見て取ることができる状態であった。遺物は土師器小片がわずかに出土したが、どちらの柱穴に属する遺物かを特定するには至らなかった。

（6）ＳＫ104（第36図）

ＳＫ104は掘立柱建物跡ＳＢ45を構成する柱穴の一つである。埋土から土師器甕の比較的大きな口縁部破片（325）が出土した。状況から見て、柱が機能しなくなった後に遺物が埋没したものと考えられる。

（7）ＳＫ125（第37図）

ＳＫ125は掘立柱建物跡ＳＢ45を構成する柱穴の一つである。土層断面を観察すると、6層程度に分層されるおおよそ平行な堆積層が確認され、柱の痕跡を看取することができなかった。土師器と須恵器の小破片が出土している。

（8）ＳＫ187（第37図）

ＳＫ187は掘立柱建物跡ＳＢ33を構成する柱穴の一つである。比較的規模が小さめの土坑で、土層断面では柱の痕跡を発見することができなかった。出土遺物も認められなかった。

（9）ＳＫ192（第37図）

ＳＫ192は北側の調査区に存在する土坑で、直径0.3mの規模を持つ。土層断面の観察から、柱の痕跡とその裏込め土が確認された。土師器の小破片が1点出土したが、時期は特定できない。

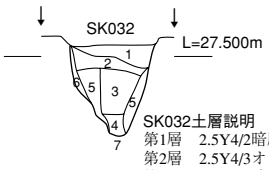
（10）ＳＫ212（第37図）

ＳＫ212は掘立柱建物跡ＳＢ28を構成する柱穴の一つである。実際には柱穴が2つ重複しており、新しく切っている方の柱穴で、柱の存在した痕跡を見て取ることができる状態であった。遺物は土師器と須恵器の小片がわずかに出土しているが、時期は特定できない。

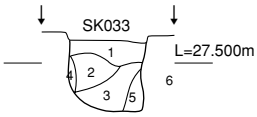
（11）ＳＫ306（第36図）

ＳＫ306は掘立柱建物跡ＳＢ39およびＳＢ40を構成する柱穴の一つである。埋土から土師器甕の比較的大きな口縁部破片（341）が出土した。これは柱が機能しなくなった後に遺物が埋められたものと考えられる。

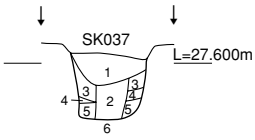
（12）ＳＫ344（第37図）



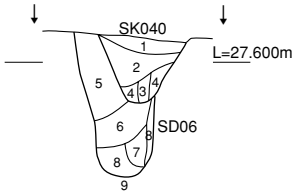
SK032土層説明
第1層　2.5Y4/2暗灰黄色シルト
第2層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（7.5YR4/4褐色シルト混）
第3層　2.5Y4/2暗灰黄色シルト（7.5YR4/4褐色シルト混）
第4層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト
第5層　2.5Y4/4オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第6層　7.5Y5/3灰オリーブ色シルト
第7層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

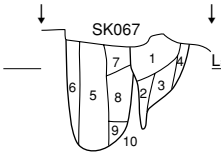


SK033土層説明
第1層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第2層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第3層　2.5Y4/2暗灰黄色シルト（炭化物少量混）
第4層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト
第5層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第6層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



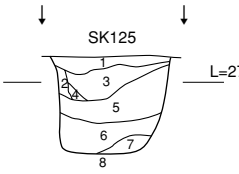
SK037土層説明
第1層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第2層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
第3層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第4層　2.5Y4/4オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第5層　2.5Y4/2暗灰黄色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第6層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



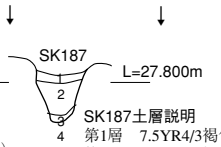


SK067土層説明
第1層　7.5YR4/2灰褐色シルト
第2層　7.5YR4/6褐色シルト
第3層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト
第4層　10YR4/6褐色シルト
第5層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（炭化物混）
第6層　7.5YR4/3褐色シルト
第7層　7.5YR4/3褐色シルト
第8層　7.5YR4/4褐色シルト
第9層　7.5YR4/3褐色シルト
第10層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

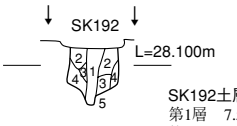
SK040,SD06土層説明
第1層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物少量混）
第2層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第3層　2.5Y4/2暗灰黄色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第4層　2.5Y4/4オリーブ褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第5層　7.5YR4/3褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第6層　7.5YR4/2灰褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第7層　7.5YR3/3暗褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第8層　10YR4/2灰黄褐色シルト
第9層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



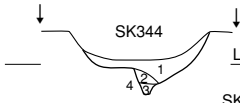
SK125土層説明
第1層　7.5YR4/3褐色シルト
第2層　7.5YR4/6褐色粘質シルト
第3層　10YR4/6褐色シルト（第1層と第2層斑土混）
第4層　10YR3/4暗褐色シルト
第5層　10YR4/4褐色シルト（第1層と第2層斑土混）
第6層　2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂（第1層と第2層斑土混）
第7層　7.5YR4/4褐色シルト
第8層　？　…ベース



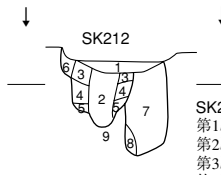
SK187土層説明
第1層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混）
第2層　7.5YR4/6褐色シルト
第3層　7.5YR4/4褐色シルト
第4層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



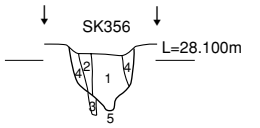
SK192土層説明
第1層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混じる斑土混）
第3層　7.5YR4/3褐色シルト（橙色シルト斑土混）
第4層　7.5YR6/4にぶい橙色シルト
第5層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



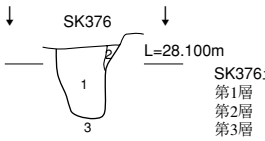
SK344土層説明
第1層　7.5YR4/6褐色シルト
第2層　7.5YR4/4褐色シルト
第3層　7.5YR4/6褐色シルト（炭化物少量混）
第4層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



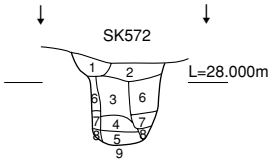
SK212土層説明
第1層　7.5YR4/6褐色シルト
第2層　7.5YR4/3褐色シルト（炭化物少量混）
第3層　7.5YR4/4褐色シルト
第4層　10YR4/6褐色シルト
第5層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト
第6層　5YR4/4にぶい赤褐色シルト
第7層　10YR4/4褐色シルト
第8層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
第9層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



SK356土層説明
第1層　7.5YR4/2灰褐色シルト（炭化物少量混）
第2層　7.5YR4/4褐色シルト
第3層　10YR5/4にぶい黄褐色シルト
第4層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト
第5層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



SK376土層説明
第1層　7.5YR4/2灰褐色シルト
第2層　7.5YR4/6褐色シルト
第3層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース



SK572土層説明
第1層　7.5YR5/3にぶい褐色シルト
第2層　7.5YR5/4にぶい褐色シルト
第3層　7.5YR4/2灰褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第4層　7.5YR4/3褐色シルト（7.5YR5/4にぶい褐色シルト混）
第5層　7.5YR3/3暗褐色シルト
第6層　7.5YR4/4褐色シルト
第7層　5YR4/4にぶい赤褐色シルト
第8層　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
第9層　7.5YR5/6明褐色シルト…ベース

第37図　土坑土層断面図（s=1:50）

ＳＫ344は掘立柱建物跡ＳＢ33を構成する柱穴の一つである。上位が柱を抜き取ったためか大部分が斑土で埋積されており、最下部で柱の痕跡らしき小規模な凹みを検出することができた。遺物は土師器小片が出土した。

（13）ＳＫ356（第37図）

ＳＫ356は掘立柱建物跡ＳＢ25およびＳＢ26を構成する柱穴の一つである。土層断面を見て分かる通り、柱の痕跡と裏込めの堆積層が確認された。土師器小片が出土したが、時期は特定できない。

（14）ＳＫ376（第37図）

ＳＫ376は掘立柱建物跡ＳＢ31およびＳＢ32を構成する柱穴の一つである。土層断面で観察しても、柱の痕跡を顕著な形で確認できなかった土坑である。土師器小片が出土した。

（15）ＳＫ427（第36図）

ＳＫ427は北側の調査区の北部で検出された直径0.46～0.48mのほぼ円形の平面プランを持つ土坑である。掘肩に密着するような状態で常滑窯産陶器の赤物の甕の下半部（418）が出土しており、甕の内部にはにぶい赤褐色極細砂が堆積していた。江戸時代の水溜め用の埋め甕遺構と推定される。

（16）ＳＫ433（第36図）

ＳＫ433は北側の調査区の北部で発見された直径約0.9mの円形土坑である。断面形はＵ字状を呈しており、掘肩に貼付くような形で円礫が敷かれており、内部は円礫と多量の炭化物が充填されていた。円礫の多くは被熱痕や煤けた状態のもので、石材は花崗岩やチャートが認められた。出土遺物は全く存在しないが、状況から見て比較的新しい時期の遺構と推測される。

（17）ＳＫ572（第37図）

ＳＫ572は掘立柱建物跡ＳＢ24を構成する柱穴の一つである。土層断面で、柱の痕跡とその裏込め土を観察することができた。出土遺物は全く存在しない。

第７節　その他の遺構

ここでは建物跡、溝、土坑に属さない遺構を一括して取り扱う。多くは不定形な浅い落ち込みまたは整地層のような堆積層などである。

（１）ＳＸ01

ＳＸ01は南側調査区に所在する平面形が不定形な浅い落ち込みである。この落ち込みを掘削すると、その下位から多くの遺構が検出されている。遺物は江戸時代のものまで含むことから時期は新しいと考えられ、何らかの目的を持って掘削されたものとは考えにくい状態である。このため、本書では遺構図に平面形を図示していないが、遺物が相当数出土したので記述のみで紹介しておく。

（２）ＳＸ02

ＳＸ02もＳＸ01と同様、南側調査区に所在する平面形が不定形な浅い落ち込みである。出土遺物は江戸時代のものまで含むことから時期は新しいと考えられる。図示はしていない。

（３）ＳＸ03

ＳＸ03は南側調査区の中央部に所在する、平面形が長方形となる浅い落ち込みである。遺物は戦国時代のものまで含有しており、時期は少なくとも戦国時代までは下る遺構である。

（４）ＳＸ04

ＳＸ04は南側調査区の中央部に所在する、平面形が不定形となる浅い落ち込みである。遺物は戦国時代のものまで含んでいる。図示はしていない。

（５）ＳＸ05

ＳＸ05はＳＢ16西側付近に所在する平面形が不定形となる浅い落ち込みである。遺物は土師器と須恵器の小片のみで、時期は特定できない。

（６）ＳＸ06

北側の調査区北部で確認された落ち込みで、南側の掘形平面形は直角に屈曲しているが、北側は自然に消滅するような形となっている。竪穴建物跡の可能性も考えられるが、内部に柱穴らしい遺構がほとんど存在しないことから、性格不明の落ち込みと考えた遺構である。土師器の小片のみが出土した。

第３章　遺物

第１節　出土遺物の概要と分析方法

今回の調査で矢迫遺跡から出土した遺物は全部で、27リットル入りコンテナで約30箱が出土した。その内訳は須恵器や土師器などの土器・陶磁器類、石器・石製品、金属製品・金属関連遺物などに区分することができるが、木製品などは碧海洪積台地上の立地条件などの理由のためか全く出土しなかった。

遺物の採取の方法は、隣接する神明遺跡でいくつかの竪穴建物跡から多くの石製臼玉が出土していることを考慮して、矢迫遺跡の竪穴建物跡については埋土の全てを2mm以下の篩別洗浄を実施した。その結果、石製臼玉や金属関連遺物などの微細な遺物の検出に成功している。ただし、竪穴建物跡内の遺構（溝、ピットなど）や包含層については細心の注意を払いながら掘削を行うに止め、土壌の篩別作業は行わなかった。なお、竪穴建物跡の埋土を篩別洗浄した概略の土量は、第１表に示した通りである。

さて、このような方法で採取した土器・陶磁器類の出土量は、粘土塊なども含めると接合前破片数で17564点を数える。大部分は古墳時代後期から奈良時代にかけての土師器と須恵器が占めているが、この他にも弥生時代から江戸時代までの2000年間弱に及ぶ時期の遺物が存在しており、その内容は多種多様な状況を呈している。古墳時代後期から奈良時代を除くと遺物の出土量はそれほど多くないため確実な証明はできないものの、時期的にはおおよそ間断のない状態で遺物が継続して出土していると推測されよう。

遺物の出土傾向は、表土および包含層の厚さが非常に薄いために遺構から出土したものが多くなっており、特に竪穴建物跡から良好な一括資料を得ることができた。ただし、これは遺構掘削後に判明したことであるが、実際には竪穴建物跡を切るピットなどがいくつか存在する場合が多く、これを識別できない状態で遺物や遺構埋土を取り上げたケースが多々存在すると推測される。実際に竪穴建物跡の時期に所属するとは考えにくい遺物が混入しており、厳密な意味で遺物の一括性を限定できない状況があることをあらかじめ断っておく。

このような遺物の出土状態から、整理作業では、１）比較的豊富な出土量を持つ竪穴建物跡出土資料を始めとする遺構出土資料の図化と、２）１で取り上げられなかった種類の遺物の中で比較的に良好な残存状態を持つ包含層出土遺物の図化、および３）遺構別の遺物の出土量の計測を行い、そこで得られた成果を遺物の報告としてまとめることとした。中でも、遺構出土資料は可能なものをできるだけ図化していくように配慮したつもりである。

出土量の計測に用いた分類の方法は、図化資料以外の資料は器種などを特定し難い細片が多いために、非常に大雑把な分類に止めた。具体的な器種構成については、全く正確な数値では

遺構番号	1mm篩別	2mm篩別
SB01	3	7
SB02	3	8
SB03	3	71
SB04	4	77
SB05	3	185
SB06	3	150
SB07	3	132
SB09	3	93
SB12	—	—
SB13	6	55
SB14	5	14
SB15	—	—
SB16	6	87
SB17	3	7
SB18	6	14
SB19	6	14

単位は土嚢袋数であり正確な土量ではない。

第１表　水洗篩別土量一覧

ないが、図化資料の分量がおおよその傾向を表しているものと推測することも可能であろう。実際に使用した大区分は、1 弥生土器、2 古墳時代以降の土師器、3 須恵器、4 古代以降の陶磁器類、5 不明、6 粘土塊などである。このうち 2 古墳時代以降の土師器は甕と高杯と製塩土器とその他に、3 須恵器は杯身と杯蓋と高杯と壺甕類と不明に細分してカウントした。

時代区分	推定暦年代	愛知県		畿内
弥生時代中期後葉		高蔵式		Ⅳ様式
弥生時代後期		山中式	【赤塚編年】	Ⅴ様式
弥生時代終末期	2C後半～3C前半	欠山式	廻間Ⅰ式（川原上層Ⅲ式）	庄内式
古墳時代前期	3C後半	元屋敷式（古）	廻間Ⅱ式	
	4C前半	元屋敷式（新）	廻間Ⅲ式	布留式
古墳時代中期	4C後半		松河戸Ⅰ式	【陶邑窯編年】
	5C前半	【尾野編年】	松河戸Ⅱ式 【猿投窯編年】	TG―232 TK―73
古墳時代後期	500年	470年 Ⅱ期 古段階 500年	H―111・218	TK―216・208
		Ⅱ期 中段階 530年	城山2・3 H―11	TK―23 TK―47
		Ⅱ期 新段階 560年	H―10	MT―15
	550年	Ⅲ期 古段階 590年	H―61 蝮ケ池	TK―10 MT―85
	600年	Ⅲ期 中段階 620年	H―6 H―44	TK―43 TK―209
		Ⅲ期 新段階 650年	H―15	TK―217
	650年	Ⅳ期 古段階 680年	H―16	
	700年	Ⅳ期 中段階 710年	I―17	TK―46 TK―48
奈良時代		Ⅳ期 新段階 740年	C―2	MT―21
	750年	Ⅴ期 古段階 770年		
平安時代	800年	Ⅴ期 中段階 800年	NN―32 O―10	
		Ⅴ期 新段階	IG―78　K―14	

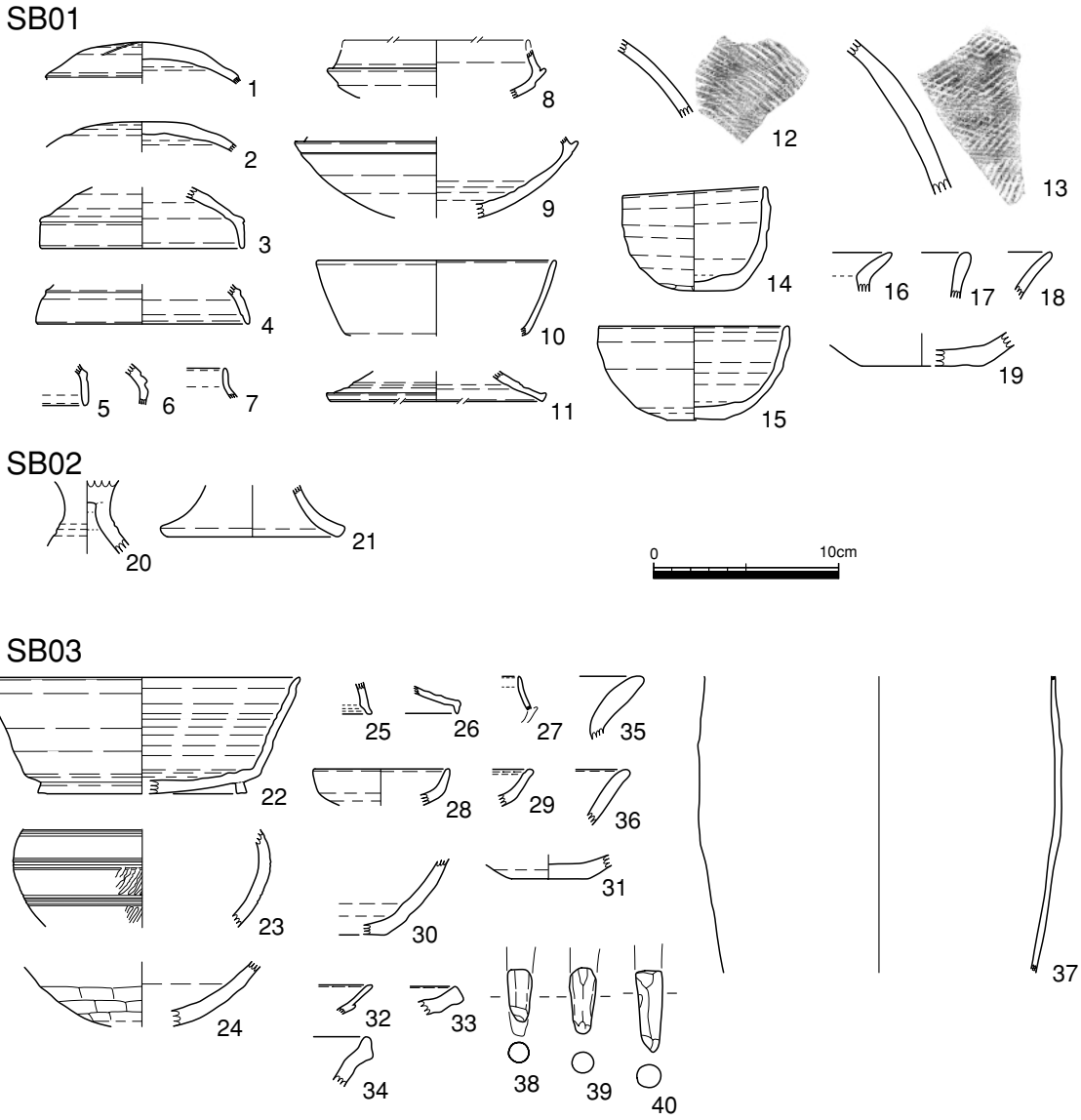
ゴシック体は神明遺跡報告書で用いられた編年
本図は『神明遺跡Ⅱ』14頁に掲載されたものを写したものであるが、年代の配置などについては微妙に差が生じているかもしれない。

第 2 表　編年対比表

第２節　土師器、須恵器、陶磁器類

本遺跡から出土した焼物（土師器・須恵器・陶磁器類）は、遺構内出土遺物と遺構外出土遺物を合わせて接合前破片数で17547点が出土している。弥生時代から江戸時代に至る幅広い時期の遺物があるが、大半が古墳時代後期から奈良時代に属するものである。ここでは、遺構内出土資料を中心に紹介を進めていきたい。

なお、出土遺物の大半を占める古墳時代後期から古代にかけての遺物の時期については、本書では第２表のように森泰通氏が使用した年代観（森編2001）を踏襲することとする。これは、特に猿投窯系須恵器の編年については、尾野氏の編年に大きく依拠した時期区分を行っているものであり、森氏自身が指摘しているように、「尾野氏の年代観は従来の従来の見解よりも時期が下る傾向にある」という特色を持っている。そして、この年代観については様々な批判や議論が存在しており、筆者ではその当否を判断する力量を持たないのである。しかし、尾野編年に依拠した森氏の年代観を用いた最大の理由は、矢迫遺跡が基本的には隣接する神明遺跡との関連で遺跡を理解していかなければならない遺跡と考えられ、神明遺跡と対比させる上において遺物の相対的な時期の表記の点で無用な混乱を避ける必要があると考えたためである。したがって、本書で用いる年代観を受容できない場合には、それを従来の年代観に読み替えていただいても一向に差し支えないものであると

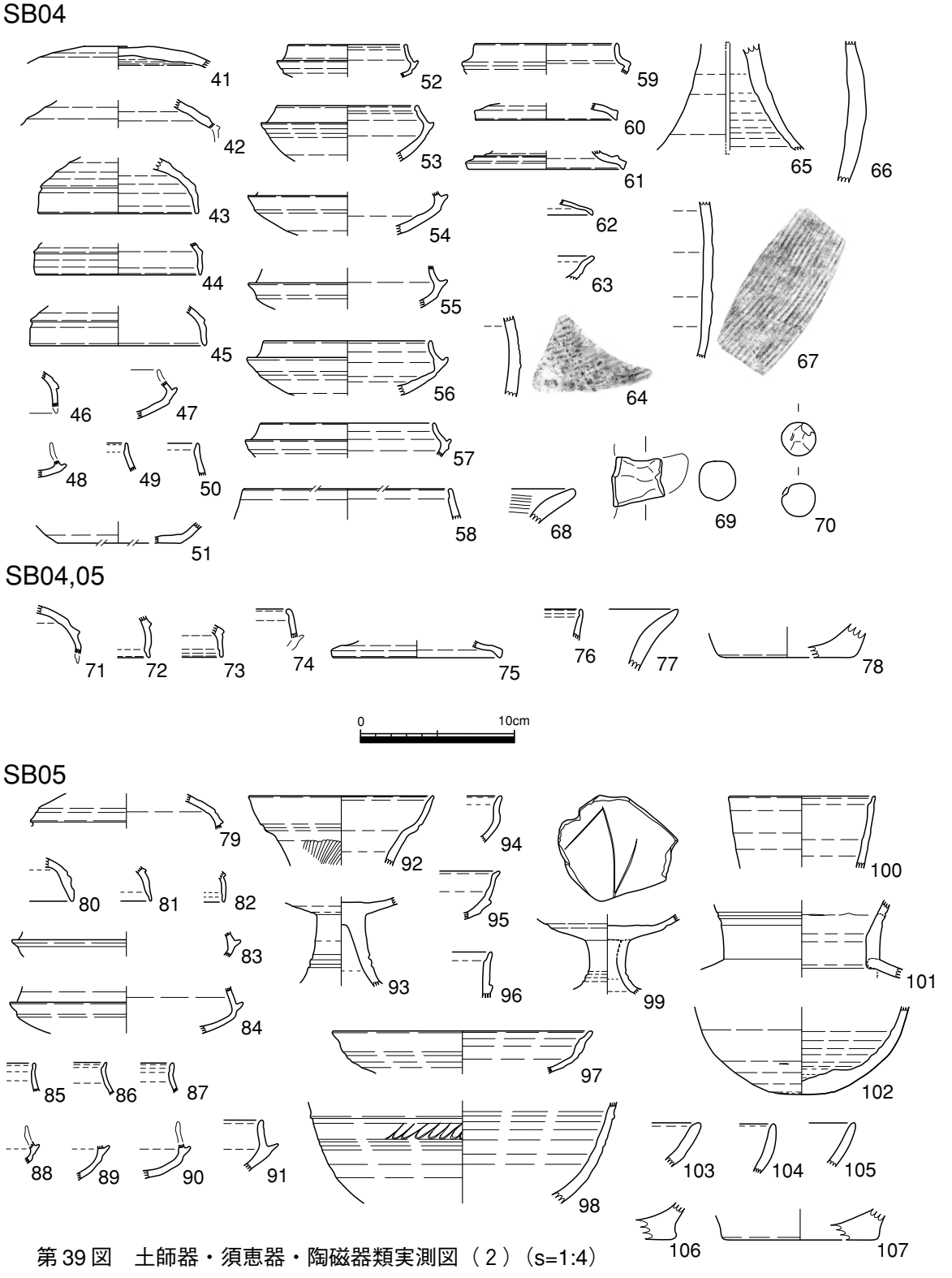


第 38 図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（１）（s=1:4）

考えている（このため西暦の表記は両者を併用している）。

（1） ＳＢ01出土遺物（第38図1～19）

ＳＢ01からは土師器小片595点と須恵器小片160点など818点の焼物が出土した。この中には戦国時代や江戸時代の遺物が合計7点存在するが、これらは何らかの理由で混入したものと考えられる。須恵器には杯蓋（1～5）、杯身（6～10）、高杯（11）、壺（12、13）、碗Ａ（14、15）、土師器には甕（16～19）などがある。14は猿投窯系須恵器には見られない形状を呈しており、近在する別の窯の製品の可能性が指摘され

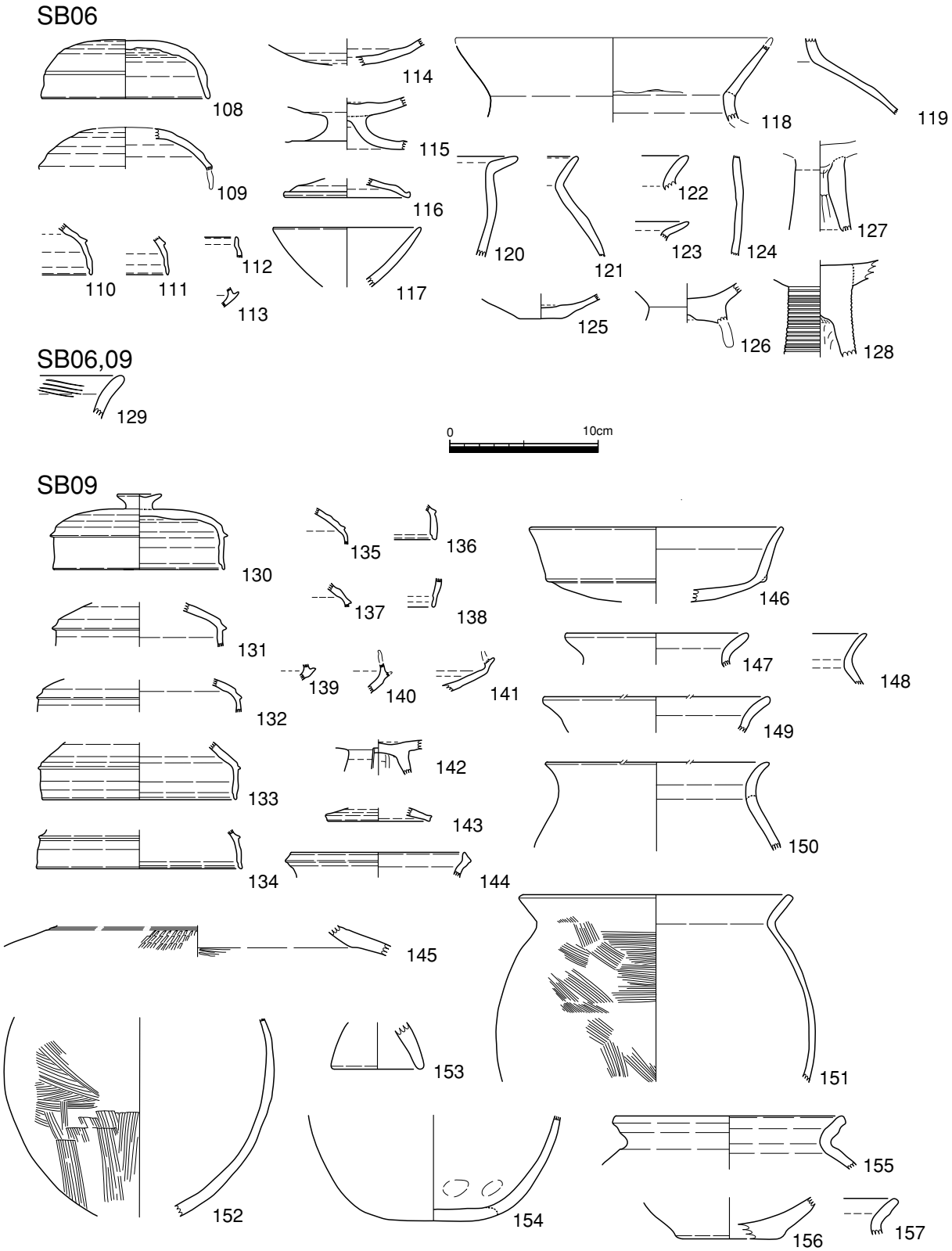


第39図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（2）（s=1:4）

ている他は須恵器は全て猿投窯系と思われる。須恵器のうち10、11、15は尾野編年Ⅳ期古段階～中段階に位置付けられる最も新しい資料である。7世紀末葉（尾野/7世紀後葉～8世紀初頭）に位置付けられる。

（2） ＳＢ02出土遺物（第38図20～21）

ＳＢ02からは土師器と須恵器が合計113点出土した。須恵器は尾野編年Ⅳ期古段階に位置付



第40図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（3）（s=1:4）

けられる高杯（20）などがあり、土師器には高杯脚部（21）などがある。7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。

（3）ＳＢ03出土遺物（第38図22～40）

ＳＢ03からは土師器と須恵器の他に山茶碗や江戸時代の陶器など1033点の破片が出土した。このうち、瀬戸美濃窯産陶器擂鉢（34）などの新しい遺物は混入資料と推測される。須恵器には杯蓋（25、26）、杯身（22、27）、高杯（28、29）、鉢か広口短頸壺（24、30）、はそう（32）、甕（33）などがあり、土師器には甕（35～37）の他に製塩土器の脚部（38～40）も3点存在する。須恵器では22と26が尾野編年Ⅴ期新段階に位置付けられる最新資料であり、これらから時期は8世紀末葉（尾野/9世紀前葉）の時期が考えられる。

（4）ＳＢ04出土遺物（第39図41～70）

ＳＢ04からは土師器と須恵器などの遺物が1938点出土した。このうち上層を中心に灰釉陶器、山茶碗、陶丸（70）や土師器皿（51）などの小破片が145点出土しており、このことから新しい段階まで凹地になっていたか新しい時期に切りあった遺構内の遺物が含まれていた可能性が考えられる。須恵器には杯蓋（43～46）、杯身（47～50、52～58）、短頸坩（59）、高杯（60、61、65）、はそう（63）、壺か甕（64、67、68）などが、土師器には甕（66）や甑（69）などがある。須恵器では43～45や48などが尾野編年Ⅳ期古段階に位置付けられる最新資料であり、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）が考えられる。

（5）ＳＢ04・05出土遺物（第39図71～78）

ここではＳＢ04・ＳＢ05の東西および南北ベルトから出土した資料を取り扱う。調査の都合上、各遺物の所属する竪穴建物跡の特定ができなかったために項目を改めて紹介することとしたい。須恵器には杯蓋（71～73）、高杯（75）、短頸坩（74、76）が、土師器には甕（77、78）などが存在する。

（6）ＳＢ05出土遺物（第39図79～107）

ＳＢ05からは土師器、須恵器や粘土塊などが1601点出土した。須恵器には杯蓋（79～82）、杯身（83～91）、高杯（93～99）、はそう（92）、平瓶（100）、甕（101）、フラスコ瓶（102）などがあり、他の遺構出土資料に比べ高杯の占める割合が高い点に特徴が認められる。高杯は無蓋高杯（95～98）も含まれており、これは口縁部外面下部に小さな突帯が巡るものである。土師器には甕または壺の口縁部（103～105）や平底の甕底部（106、107）などがある。須恵器では80などが尾野編年Ⅳ期古段階に位置付けられる最新資料であるが、大部分は尾野編年Ⅲ期中～新段階に属する資料で占められている。このことから時期は7世紀前葉（尾野/7世紀中葉）に位置付けられる。

（7）ＳＢ06出土遺物（第40図108～128）

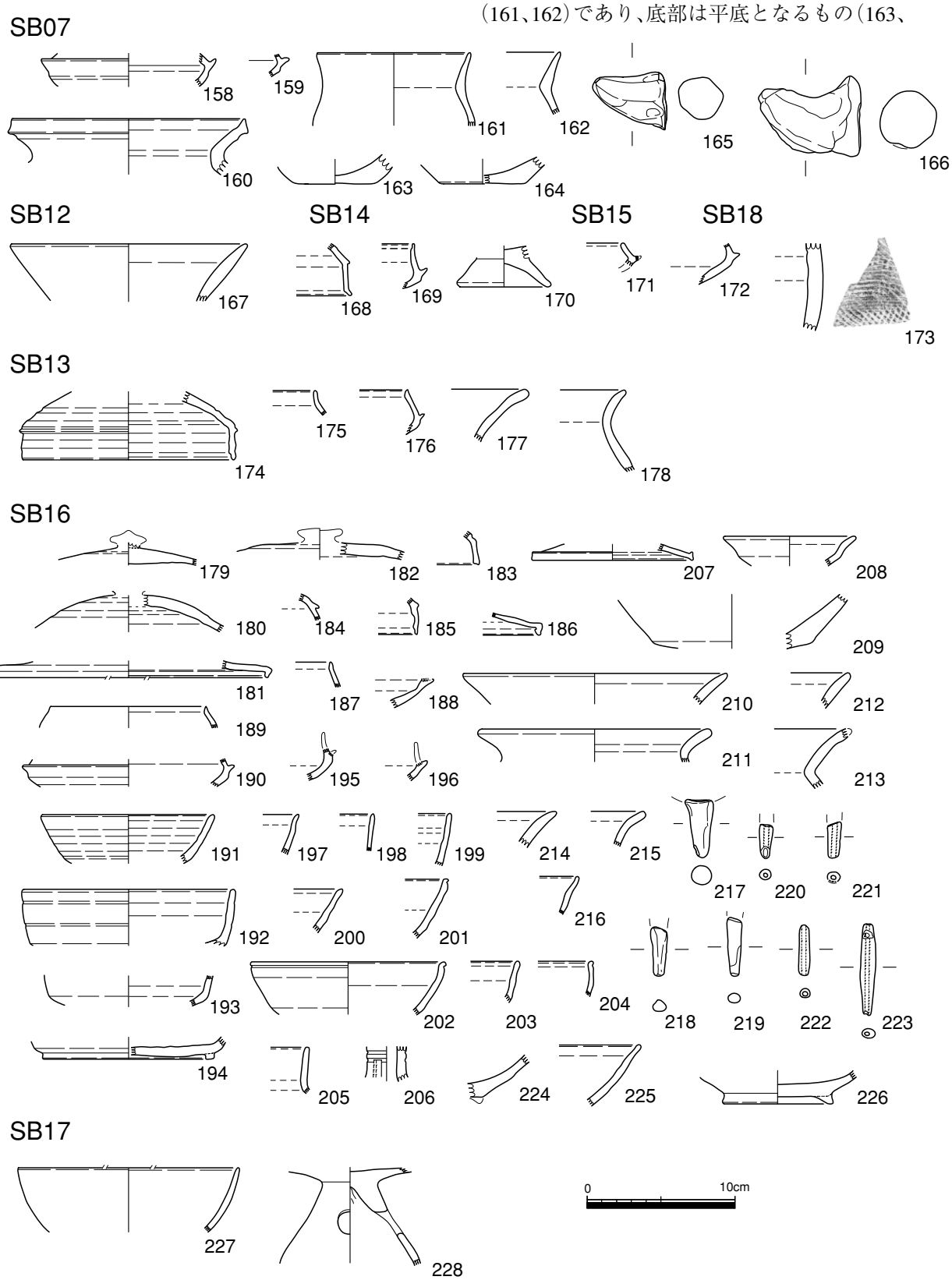
ＳＢ06からは土師器と須恵器などが2307点出土した。このうち山茶碗や江戸時代の陶器が4点認められたが、これらは混入資料と判断されよう。須恵器には杯蓋（106～111）、杯身（112～113）、高杯（115、116）、高杯か短頸坩の蓋（114）などがある。土師器には甕の口縁部（118～123）、台付甕の脚部（126）、小型壺（117）などがある。この他に弥生中期後葉の高杯（128）も存在する。須恵器では108、113、115、116などが尾野編年Ⅳ期古段階に位置付けられる最新資料であることから、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。

（8）ＳＢ09出土遺物（第40図130～157）

ＳＢ09からは土師器と須恵器、粘土塊が2068点出土した。須恵器には杯蓋（130～138）、杯身（139～141）、高杯（142、143）、横瓶（144）などがある。土師器には高杯（146）、甕の口縁部（147～151、55、157）、台付甕の脚部（153）、小型壺（117）などがある。146は杯部の体部と口縁部の境界部に突帯状の稜線が残るものである。甕は体部から口縁部にかけて緩やかに屈曲するタイプ（147～150）と明瞭に屈曲するタイプ（151）、口縁部が段を持つタイプ（155、157）に分けることができる。須恵器には、本遺跡では最も古いタイプである尾野編年Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階に位置付けられるもの（130～132）が存在する一方、140と143のように尾野編年Ⅳ期古段階のものまで含まれる。Ⅳ期古段階のものは上位のＳＢ06に所属する資料が混入したと考えれば、尾野編年Ⅲ期古段階～中段階のものが多いことから、時期は6世紀後葉（尾野/7世紀前葉）に位置付けられる。

（9）ＳＢ07出土遺物（第41図158～166）

ＳＢ07からは土師器と須恵器などが963点出土しているが、このうち山茶碗1点は混入資料と認められる。須恵器には杯身（158、159）、壺か甕（160）、甑か鍋（165）などが、土師器には甕（161～164）、甑（165）などがある。土師器甕の口縁部は屈曲の角度が比較的緩いタイプ（161、162）であり、底部は平底となるもの（163、



第41図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（４）（s=1:4）

164）である。須恵器では158は尾野編年Ⅲ期中段階、159はⅡ期新段階～Ⅲ期古段階に位置付けられる。時期は6世紀後葉（尾野/7世紀前葉）が考えられる。

（10）ＳＢ12出土遺物（第41図167）

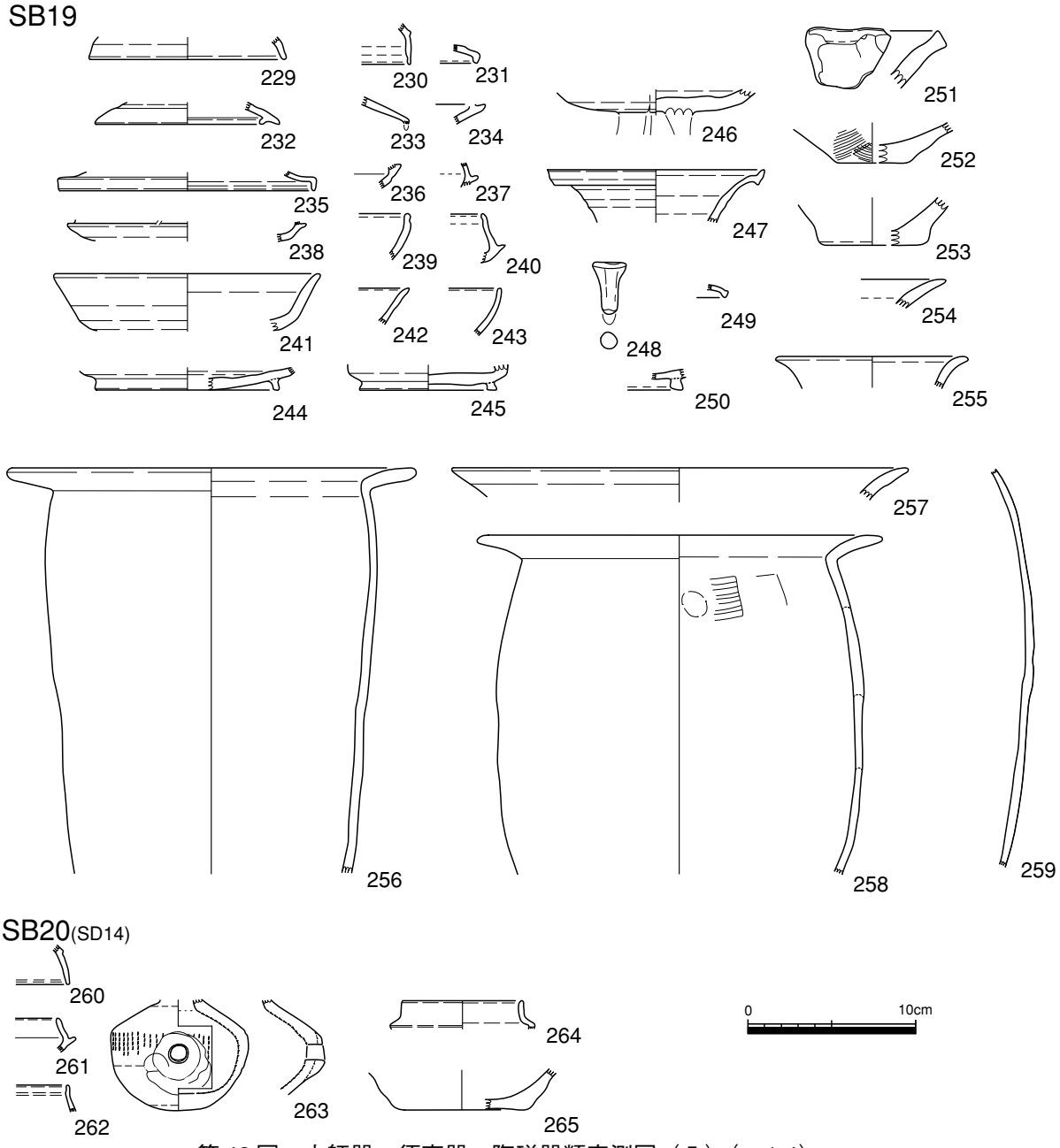
ＳＢ12からは土師器と須恵器などが36点出土し、このうち山茶碗1点が混入した。図化可能な資料は土師器甕口縁部（167）1点のみである。逆ハ字状に直線的に長く伸びるタイプである。

（11）ＳＢ14出土遺物（第41図168～170）

ＳＢ14からは土師器と須恵器が79点出土した。須恵器には杯蓋（168）、杯身（169）などが、土師器には台付甕の脚部（170）などがある。須恵器は尾野編年Ⅲ期古段階に属し、6世紀中葉（尾野/6世紀後葉）に位置付けられる。

（12）ＳＢ15出土遺物（第41図171）

ＳＢ15からは土師器と須恵器など88点が出土したが、このうち混入資料と思われる山茶碗2点が含まれている。図化可能な資料は須恵器杯身（171）1点のみであり、これは尾野編年Ⅳ期古段階に位置付けられる。このことから、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。



第42図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（５）（s=1:4）

（13）ＳＢ 18 出土遺物（第 41 図 172 ～ 173）

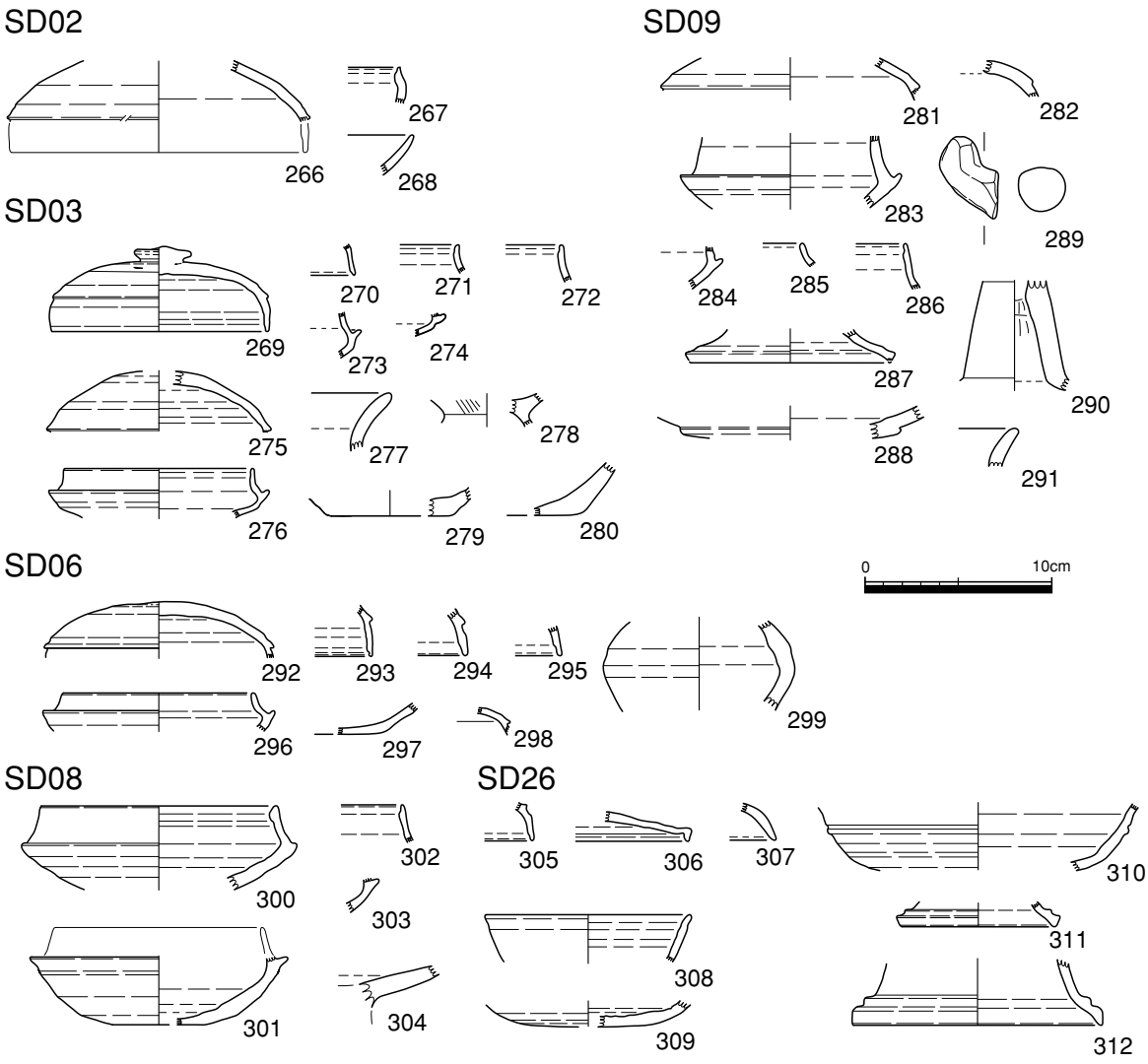
ＳＢ 18 からは須恵器杯身（172）、と横瓶と推測される体部破片（173）の他に土師器の小片などが合計で 62 点出土した。172 は尾野編年Ⅳ期古段階に相当し、時期は 7 世紀中～後葉（尾野 /7 世紀中葉～後葉）が考えられよう。

（14）ＳＢ 13 出土遺物（第 41 図 174 ～ 178）

ＳＢ 13 からは土師器甕（177、178）と須恵器杯蓋（174）、須恵器杯身（175、176）など 283 点が出土した。須恵器は大半が尾野編年Ⅲ期中段階に位置付けられることから、時期は 6 世紀後葉（尾野 /7 世紀前葉）に位置付けられる。土師器甕は口縁部が長く開くタイプ（177）と緩やかに屈曲するタイプ（178）の二者がある。

（15）ＳＢ 16 出土遺物（第 41 図 179 ～ 226）

ＳＢ 16 からは山茶碗 7 点が混入する 1518 点が出土しており、土師器が 1191 点、須恵器が 297 点存在する。須恵器には杯蓋（179 ～ 181、184 ～ 186）、蓋杯の杯身（187 ～ 190）、杯Ａ（192、193、197 ～ 200）、台付碗（183、191）、高杯（203、206、207）、鉄鉢（201、202、204）、広口短頸坩（205）、はそう（208）などがある。土師器には高杯（209）と甕の口縁部（210 ～ 215）の他に、製塩土器脚部（216 ～ 219）、土錘（220 ～ 223）などがある。178 は擬宝珠タイプの摘みが付く須恵器杯蓋であり、須恵器鉄鉢は口縁部を玉縁状に丸めたものである。209 の土師器高杯は杯部の口縁部と体部の境界部に稜を持つタイプで建物の時期よりも古いものと考えられる。土師器甕は口縁部がくの字状に屈曲して逆ハ字状に伸びるタイプが多い。216 は器壁が薄く口縁端部がやや内彎するもので、製塩土器の口縁部片である可能性が高い。製塩土器脚部は全て先端が尖った棒状脚で立松分類の知多式 4 類



第 43 図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（６）（s=1:4）

（立松1994）に相当するだろう。須恵器は192や193などが尾野編年Ⅳ期中段階に位置付けられていることから、時期は7世紀末葉（尾野/7世紀後葉～8世紀初頭）が考えられよう。224～226は尾張型山茶碗の底部または口縁部で、混入資料と推定されるものである。

（16）ＳＢ17出土遺物（第41図227、228）

ＳＢ17からは土器小片が60点と須恵器片や

遺構番号	土師器					須恵器						その他	総合計
	合計	甕口縁部	甕底部	高杯	製塩土器	合計	杯合計	杯身	杯蓋	高杯	壺甕類		
SB01	595	4	1	0	0	160	135	27	13	4	19	戦国・江戸時代7点、粘土塊56点など	818
SB02	93	1	0	2	0	20	19	0	4	1	0		113
SB03	770	0	2	0	3	251	228	29	25	4	17	中世・江戸時代2点、粘土塊5点など	1033
SB04	1458	5	2	1	0	248	221	32	21	6	20	灰釉陶器34点・山茶碗111点、粘土塊86点など	1938
SB05	1216	2	3	1	0	380	335	36	46	16	26	土師器壺2点、粘土塊5点など	1601
SB06	1981	21	1	3	1	236	200	14	21	6	30	中世～江戸時代4点、土師器壺7点、土錘1点粘土塊55点など	2307
SB07	207	4	3	0	0	17	14	3	0	0	2	山茶碗1点、粘土塊738点など	963
SB09	713	41	15	30	0	117	100	16	16	2	15	粘土塊1237点など	2068
SB12	32	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	山茶碗1点、粘土塊1点など	36
SB13	243	14	0	2	17	23	14	2	7	0	9		283
SB14	57	0	1	0	0	21	19	1	1	0	2	粘土塊1点など	79
SB15	62	0	0	0	0	24	22	2	3	1	1	山茶碗2点など	88
SB16	1191	8	1	2	7	297	267	28	22	7	20	山茶碗7点、土錘4点、粘土塊12点など	1518
SB17	53	0	0	10	0	1	1	1	0	0	0		54
SB18	59	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	粘土塊1点など	62
SB19	640	52	2	3	1	137	108	17	11	7	21	山茶碗1点、常滑1点粘土塊11点など	790
SB20	53	0	5	0	0	24	19	2	3	0	3		77
SB08合計	91	0	0	0	0	31	25	1	7	1	2		133
SD06	89	0	0	0	0	28	24	1	7	1	2		128
SK023	2	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0		5
SB10合計	198	3	4	6	0	71	61	12	14	1	8		272
SD02	23	0	1	0	0	11	9	2	2	0	2	江戸時代1点など	35
SD03	85	2	2	1	0	31	25	6	9	0	6	弥生土器2点など	118
SD09	90	1	1	5	0	29	27	4	3	1	0	土師器甑1点など	119
SB11合計	159	0	0	2	0	72	60	9	5	4	8		233
SD08	23	0	0	1	0	15	13	4	1	0	2		38
SD10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
SD12	25	0	0	0	0	9	7	0	0	0	2	弥生土器1点、粘土塊1点など	34
SD26	109	0	0	1	0	48	40	5	4	4	4		159
SD01	165	1	2	1	0	102	72	4	15	7	19	中世～江戸時代10点、粘土塊3点など	280
総合計	11810	218	52	69	31	3103	2605	381	317	107	363	弥生土器29、灰釉陶器36、山茶碗169、戦国時代35、江戸時代80など	17547

第３表　主要遺構遺物出土量一覧表

粘土塊が各1点出土した。須恵器片は混入資料の可能性が高いと言えよう。土師器には高杯（227、228）と甕体部片などが存在する。227は被熱のため赤色化し表面が著しく剥離した状態となっているもので、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。228は円形透かしが1箇所確認されるもので、形状からみて有段高杯になると見られる。これらの遺物から建物跡の時期は川原上層Ⅲ式期（欠山式期並行）に属すると推定される。

（17）ＳＢ19出土遺物（第42図229～259）

ＳＢ19からは土師器と須恵器などが790点出土しており、このうち山茶碗1点などが混入資料として含まれている。須恵器には杯蓋（229～233、235）、蓋杯杯身（234、236～240）、杯Ｂ（244、245、250）、高杯（246、249）、長頸瓶（247）、台付長頸瓶（255）などが、土師器には杯（243）や甕（252～254、256～259）の他に製塩土器（248）などがある。土師器甕は口縁部が比較的水平に開くタイプ（256～258）が多く、これらは体部は直立して長胴形となるもの（256、258、259）となるようである。須恵器では235と245と247が尾野編年Ⅴ期古段階に所属しており、時期は8世紀中葉（尾野編年8世紀中葉）が考えられる。

（18）ＳＢ20出土遺物（第42図260～265）

ＳＢ20は周溝（ＳＤ14）から土師器と須恵器が77点出土した。須恵器には杯蓋（260）、蓋杯杯身（261、262）、はそう（263）、短頸壺（264）などが、土師器には甕（265）などがある。263は頸部が欠損するはそう下半部で肩がやや張る形状となっており、265は土師器甕底部で平底となるものである。須恵器では261と264が尾野編年Ⅳ期古段階に属しており、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）に位置付けられる。

（19）ＳＢ10出土遺物（第43図266～279）

ＳＢ10を構成する溝からは272点の遺物小破片が出土した。ＳＤ02から江戸時代の陶器片が1点、ＳＤ03から弥生土器が2点混入する他は、全て土師器と須恵器である。須恵器には杯蓋（266、270、275、281、282）、蓋杯杯身（267、271～274、276、283～286）、杯Ｂ（244、245、250）、高杯（287）、短頸壺蓋（269）などが、土師器には杯（288、290）や甕（277～280、291）の他に甑（289）などがある。278は台付甕の脚部で外面に荒いハケ調整が残存する。288は杯稜部に粘土貼付突帯を持たない古墳時代中期の有段高杯で、290はこの種の高杯の脚部と想定される。土師器甕底部は平底となっている（279、280）。須恵器では271や284などが尾野編年Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階に位置付けられ、7世紀前葉（尾野/7世紀中葉）が考えられる。なお、268は中世土師器皿である。

（20）ＳＢ08出土遺物（第43図280～299）

ＳＢ08を構成する溝からは土師器と須恵器の小破片が133点出土した。大部分はＳＤ06から出土した資料である。須恵器には杯蓋（292～295、298）、蓋杯杯身（296）、壺（299）などがある。須恵器は294～296が尾野編年Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階に所属しており、時期は7世紀中～後葉（尾野/7世紀中葉～後葉）が考えられる。

（21）ＳＢ11出土遺物（第43図300～312）

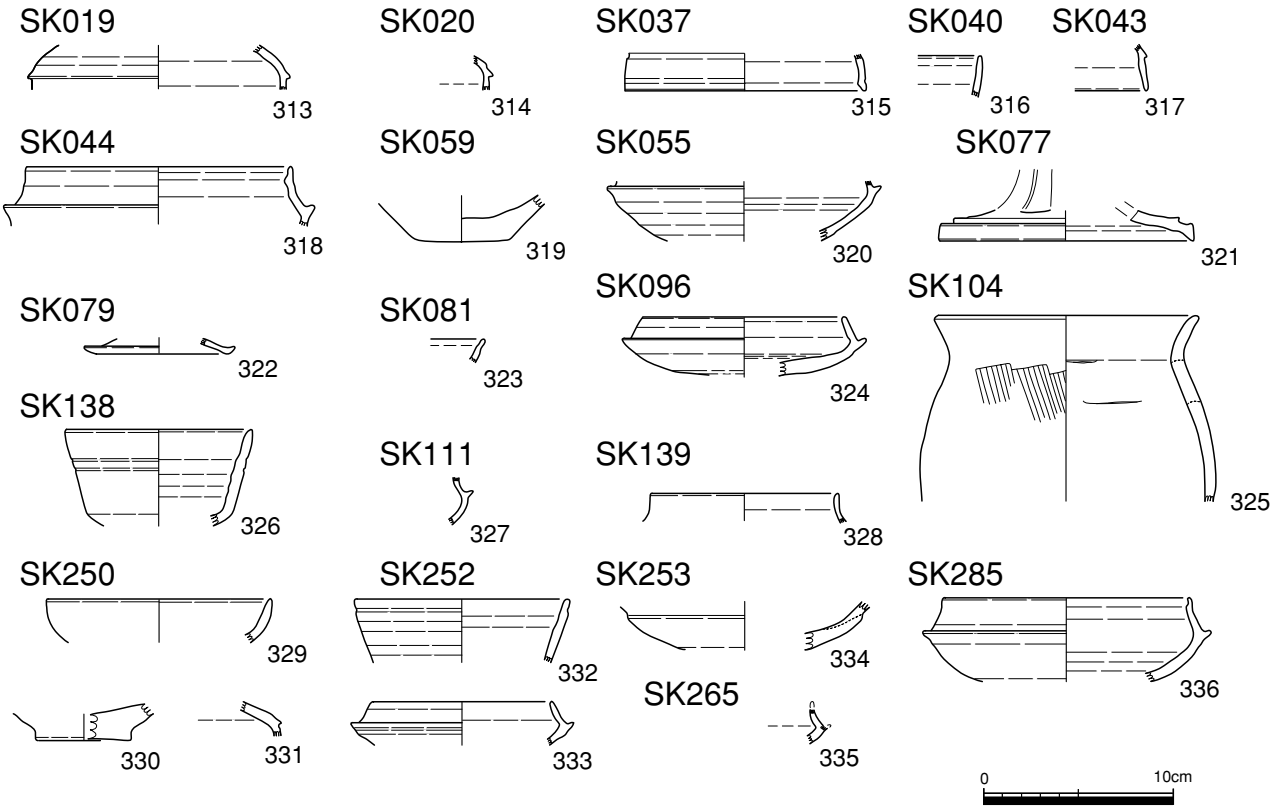
ＳＢ11を構成する溝からは土師器と須恵器などが233点出土した。多くの遺物はＳＤ26から出土したが、ＳＤ26出土資料については誤って大壁建物跡以外の資料を含めてしまっている可能性も残されるものである。須恵器には杯蓋（305、306）、蓋杯杯身（301～303、309）、椀Ａ（308）、高杯（311、312）、無蓋高杯（310）、壺蓋（307）などが、土師器には高杯（304）などがある。須恵器では306や308が尾野編年Ⅴ期新段階～6期古段階に位置付けられる新しいもので、大壁建物跡以外の資料と考えられる。これ以外はおおよそ尾野編年Ⅲ期古段階～中段階に位置付けられており、時期は6世紀後葉（尾野/7世紀前葉）に位置付けられる。

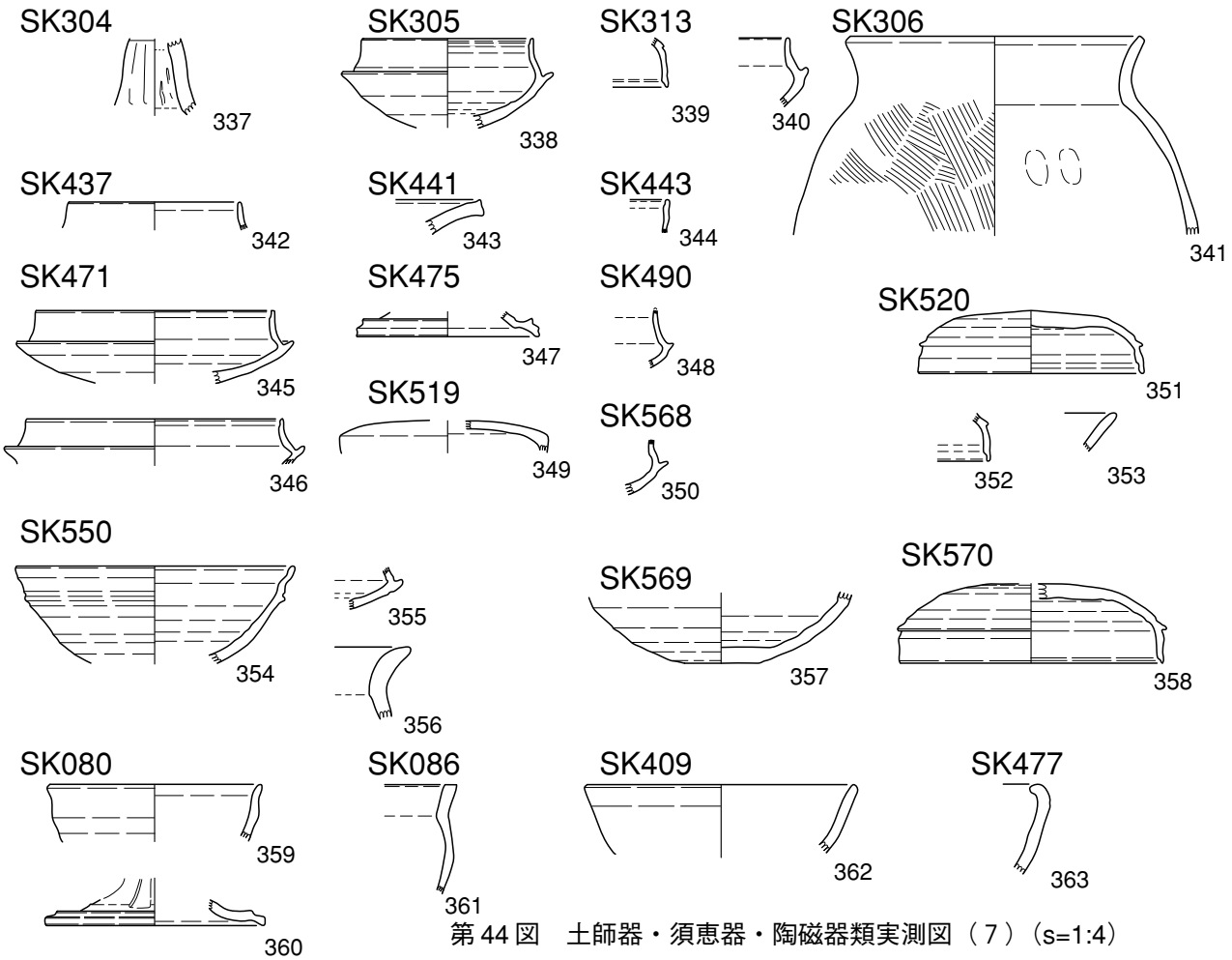
（22）土坑出土遺物（第44～45図313～368）

ここでは570基以上存在する土坑出土資料について概要を紹介する。

313はＳＫ019から出土した須恵器杯蓋で体部上位にヘラケズリ調整が残存する。315はＳＫ037から出土した須恵器杯蓋で尾野編年Ⅲ期中段階に位置付けられる。316はＳＫ040から出土した須恵器高杯口縁部であるが、大壁建物跡ＳＢ08（ＳＤ06）所属遺物の可能性も捨てきれない資料である。318はＳＫ044出土須恵器杯身で口縁端部内面に明瞭な稜を持つ。319はＳＫ059から出土した土師器甕底部で平底と

矢迫遺跡

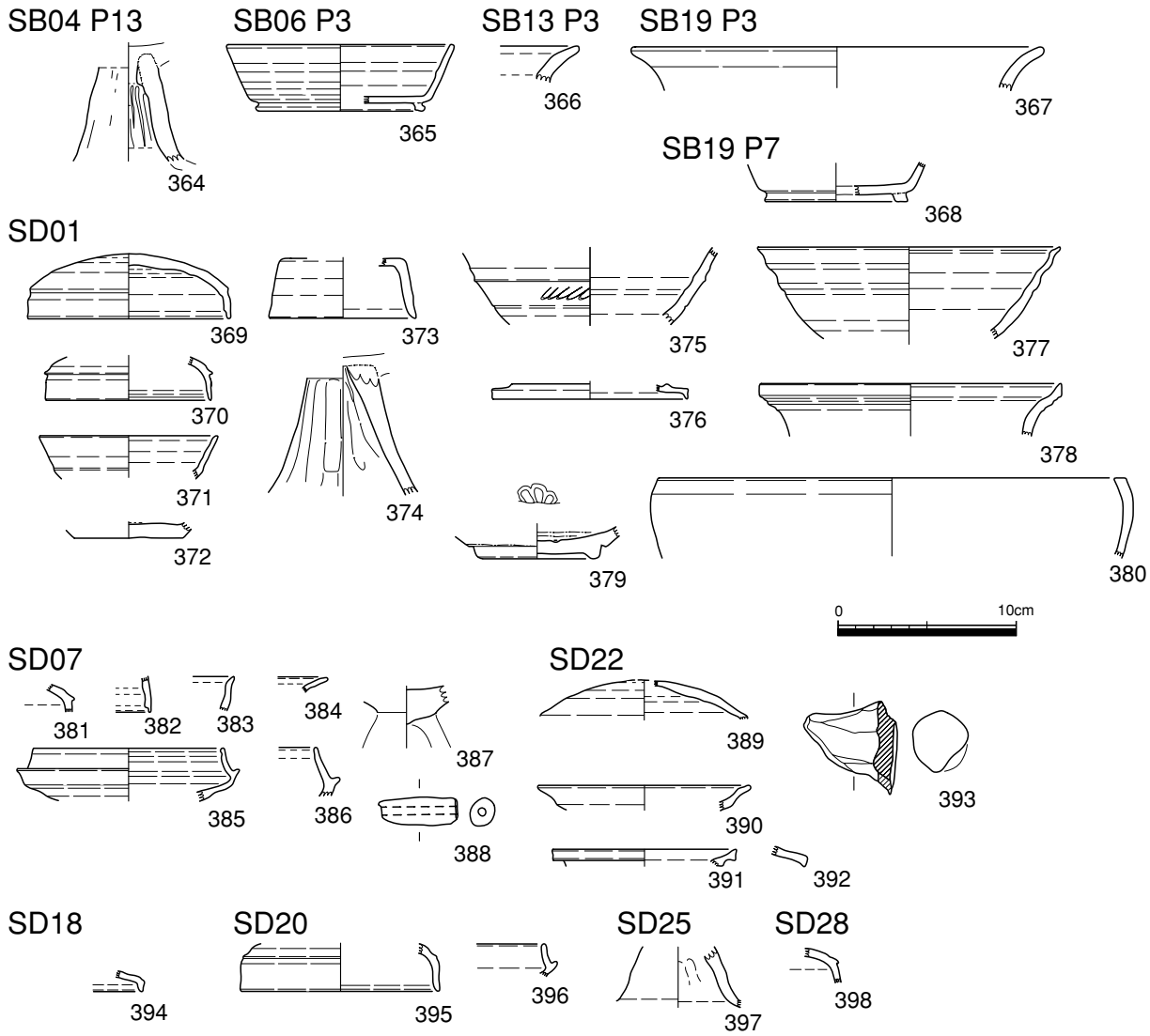




第 44 図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（７）（s=1:4）

なっている。320はＳＫ055出土須恵器杯身体部片でヘラケズリ調整が残存する。321はＳＫ077から出土した透かしを持つ須恵器高杯脚部で、尾野編年Ⅲ期古段階に位置付けられる。322はＳＫ079から出土した土師器で高杯と推定されるが今一つ器種が確定できない資料である。比較的焼成は堅緻である。324はＳＫ096から出土した須恵器杯身で尾野編年Ⅳ期古段階に所属する。325はＳＫ104出土土師器甕で体部から口縁部が緩やかに屈曲するタイプである。体部外面上位に荒いハケ調整の痕跡が残っている。326はＳＫ138出土須恵器杯Ａと推測される遺物で、尾野編年Ⅳ期中段階に位置付けられる。

329～331はＳＫ250から出土した遺物群で、329は尾野編年Ⅳ期古段階に属する須恵器無蓋高杯、330は平底の土師器甕底部、331は尾野編年Ⅲ期中段階～新段階に属する須恵器杯蓋である。332と333はＳＫ252から出土した須恵器杯Ａおよび蓋杯杯身である。334はＳＫ253出土土師器高杯杯部で杯稜部に段を有するものである。336はＳＫ285出土須恵器杯身で尾野編年Ⅲ期古段階に位置付けられる。337はＳＫ304出土土師器高杯脚部で内面にヘラケズリ痕が明瞭に残存する。338はＳＫ305出土須恵器杯身で内傾する口縁部の上位が直立する尾野編年Ⅲ期新段階に位置付けられるものである。340と341はＳＫ306から出土した須恵器杯身と土師器甕である。後者は比較的直立する口縁部を持ち体部外面に多くのハケ調整が残存するものである。343はＳＫ441出土須恵器甕の口縁部で尾野編年Ⅳ期に属する。345と346はＳＫ471出



第45図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（８）（s=1:4）

土須恵器杯身で両者とも尾野編年Ⅲ期古段階～中段階に位置付けられる。347はＳＫ475出土須恵器高杯脚部で尾野編年Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階に位置付けられる本遺跡では古い須恵器資料である。349はＳＫ519から出土した須恵器台付長頸瓶の肩部で尾野編年Ⅳ期に属する。

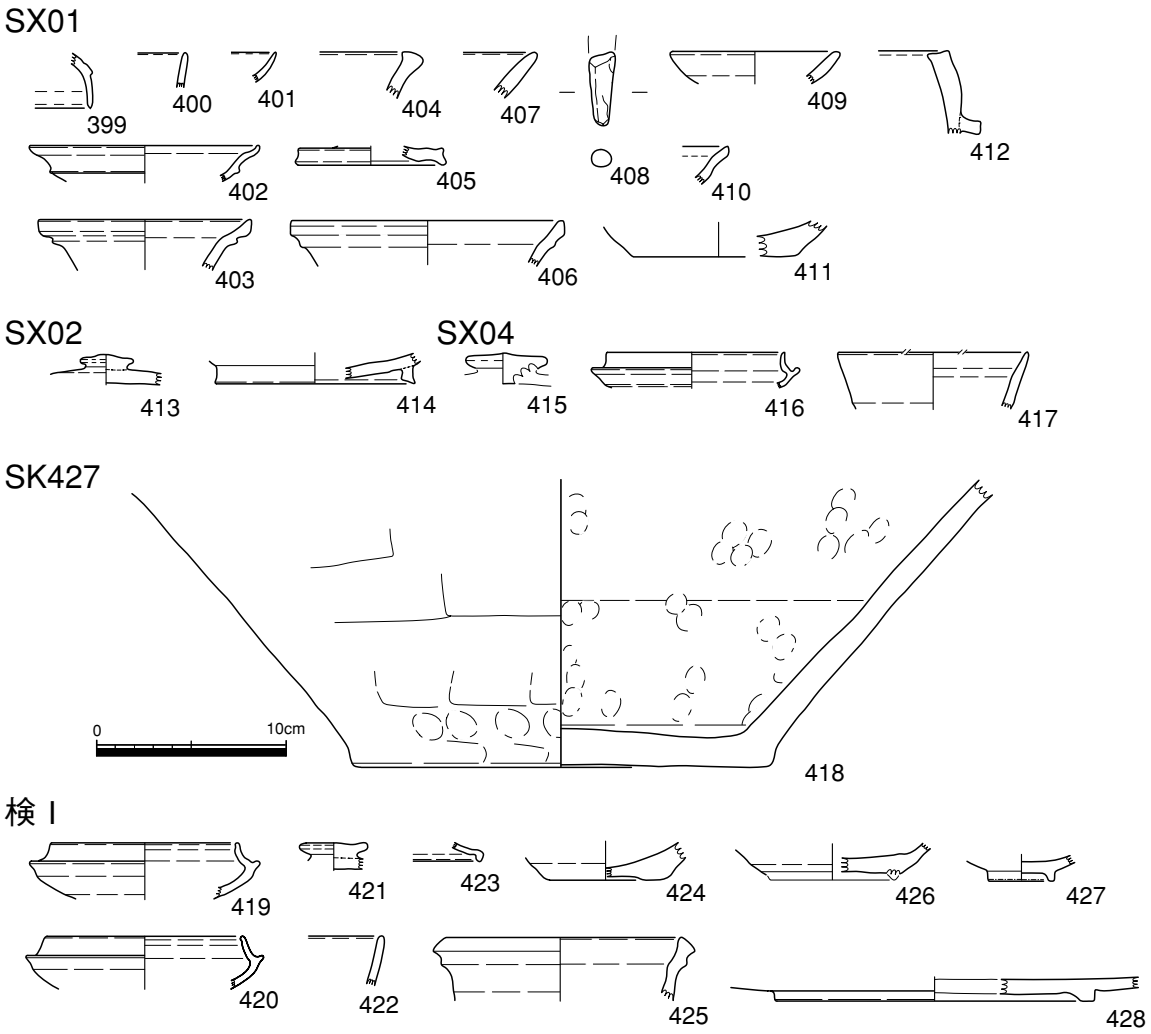
351～353はＳＫ520から出土した資料で、351と352は各々尾野編年Ⅲ期新段階とⅢ期中段階に属する須恵器杯蓋、353は甕口縁部と推測される土師器口縁部片である。薄手で直線的に伸びている。354～356はＳＫ550から出土した遺物である。354は尾野編年Ⅲ期新段階の無蓋高杯で口径は15cm以上を測る。355は須恵器杯身、356は土師器甕口縁部で、後者は器壁が厚手で緩やかに外反する。357はＳＫ569出土須恵器壺類底部で平底となっている。358はＳＫ570出土須恵器杯蓋で尾野編年Ⅲ期中段階に位置付けられる。

359と360はＳＫ080出土遺物で、359は大窯前半に相当する瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗である。361はＳＫ086出土土師器内耳鍋である。胎土は赤味が強く外面に多量の煤が付着しており、内彎形内耳鍋に分類されるものである。時期は16世紀前半か？。362はＳＫ409出土尾張型山茶碗、363はＳＫ477出土瀬戸窯産陶器こね鉢であり、後者は江戸時代後期に属する資料である。

364はＳＢ04内Ｐ13から出土した土師器高杯脚部で内面には絞り痕跡が残存する。古墳時代の屈折脚を持つ高杯と思われる。365はＳＢ06内Ｐ03から出土した須恵器杯Ｂで尾野編年Ⅳ期古段階～中段階に位置付けられる。368はＳＢ19内Ｐ07から出土した須恵器杯Ｂで尾野編年Ⅳ期新段階に位置付けられる。

（23）ＳＤ01出土遺物（第45図370～380）

ＳＤ01からは280点の遺物が出土している。



第46図　土師器・須恵器・陶磁器類実測図（９）（s=1:4）

その大部分は古墳時代の土師器と須恵器であるが、山茶碗や江戸時代の遺物も10点出土している。ここでは出土状況などからみて江戸時代初期の遺物が遺構の時期を反映していると判断し記述を進める。須恵器には杯蓋（369、370）や杯身の他にはそう（371）、短頸壺蓋（373）、無蓋高杯（375、377）などが存在する。新しい時期の遺物としては尾張型山茶碗類の小皿（372）、瀬戸美濃窯産陶器鉄釉輪禿皿（379）、土師器半球形内耳鍋（380）などがあり、379は17世紀前半に、380は16世紀後半～17世紀前半に所属するものと考えられる。

（24）ＳＫ427出土遺物（第46図418）

ＳＫ427からは常滑窯産陶器甕の下半部（418）が出土した。焼成が甘い「赤物」の製品で時期は江戸時代に属するが、口縁部が残存しないため詳細には特定し得ない。

第３節　石器・石製品

石器・石製品には、管玉、臼玉、砥石、石鏃、石錐、使用痕剥片などが存在する。これらのうち、本書では全形を伺い知ることのできる43点を図化して報告を行う。

（１）管玉（第47図429、469）

管玉はＳＢ05とＳＢ06から１点ずつが出土した。両者とも水洗篩別作業で発見された資料であり、出土層位を特定することはできない。429はＳＢ05から出土し一部欠損している。469はＳＢ06から出土したほぼ完形品で表面がよく研磨されている。

（２）臼玉（第47図430～440、470、471）

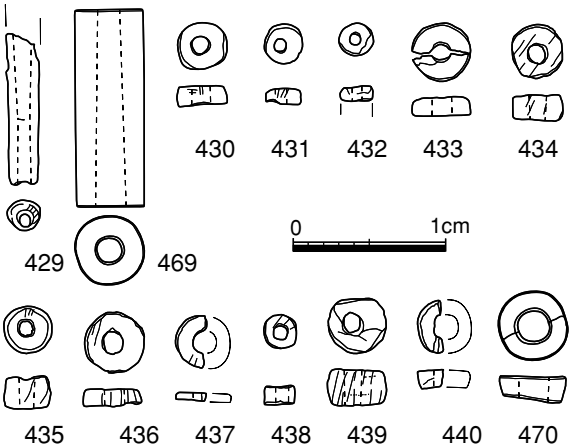
臼玉はＳＢ04から１点（470）、ＳＢ05から４点（430～432、471）、ＳＢ07から６点（435～440）、ＳＢ09から２点（433、434）の合計13点が出土した。篠原分類（篠原1995）をもとにして行った志賀公園遺跡分類（宮腰2001）で区分すると、側面の形状は全て彎曲する２類に属しており、さらに高さが直径の1/3以上かつ1/1以下のＡ２類（430～435、438～440、471）と、高さが直径の1/3より小さなＣ２類（436、437、470）に分けることができる。

矢迫遺跡に隣接する神明遺跡では、主要遺構について篩別作業が実施され、５世紀前半から８世紀前葉の竪穴建物跡の臼玉などの石製模造品の出土量が算出されており、矢迫遺跡との比較が可能である。神明遺跡では５世紀中葉～後葉にかけて10数点から数十点臼玉が出土する事例が存在するものの、それ以外の時期では臼玉出土数は数点に止まっている。矢迫遺跡では５世紀代の遺構がほとんどなく、その他の時期の竪穴建物では臼玉は数点に止まっていることは、神明遺跡とそれほど相違はないものと理解されよう。なお、矢迫遺跡から出土した石製模造品には管玉と臼玉のみが存在し、その他の形状の製品は全く存在しない。

（３）砥石（第48～49図441～455）

矢迫遺跡の竪穴建物跡からは少なからず花崗岩の円礫がいくつか出土したが、このうち研磨痕や被熱痕が残存するものについては、砥石として報告することとした。これらは形状から、扁平な円礫状の石材の上下面に使用痕が残存するＡ類、細長い円礫状の石材の上下面に使用痕が残存するＢ類、直方体状の磨耗した礫の上下面に使用痕が残存するＣ類、円礫にランダムな面に使用痕が残存するＤ類に分けることが可能である。

ＳＢ01出土砥石はＡ類が４点（441、443～445）、Ｃ類が１点（442）、Ｄ類が１点（446）の合計６点存在する。ＳＢ03出土砥石はＤ類が１点（447）が、ＳＢ04はＣ類が１点（448）がある。ＳＢ05出土砥石はＡ類が２点（449、450）とＤ類が１点（451）、ＳＢ06出土砥石はＡ類が１点（454）とＢ類が２点（452、453）、ＳＢ09出土砥石はＢ類が１点（455）が存在する。449



第47図　石器・石製品実測図（１）（s=2:1）

と 454 の側面端部には敲打痕が存在し、454 には灰色に変色した被熱痕が認められる。（鈴木正貴）

（４）石鏃（第 50 図 456 ～ 462）

石鏃は、形態から大きく 3 群に分類できる。凹基鏃(456 ～ 458)・有茎鏃(459 ～ 461)・円基鏃(462)で、前者は後二者に比べ小型で薄手、さらに軽量ある。表面に残された剥離のあり方に関しても、前者は後二者に比べ、剥離面を大きく切りあう形で調整を行っており、差は明瞭である。

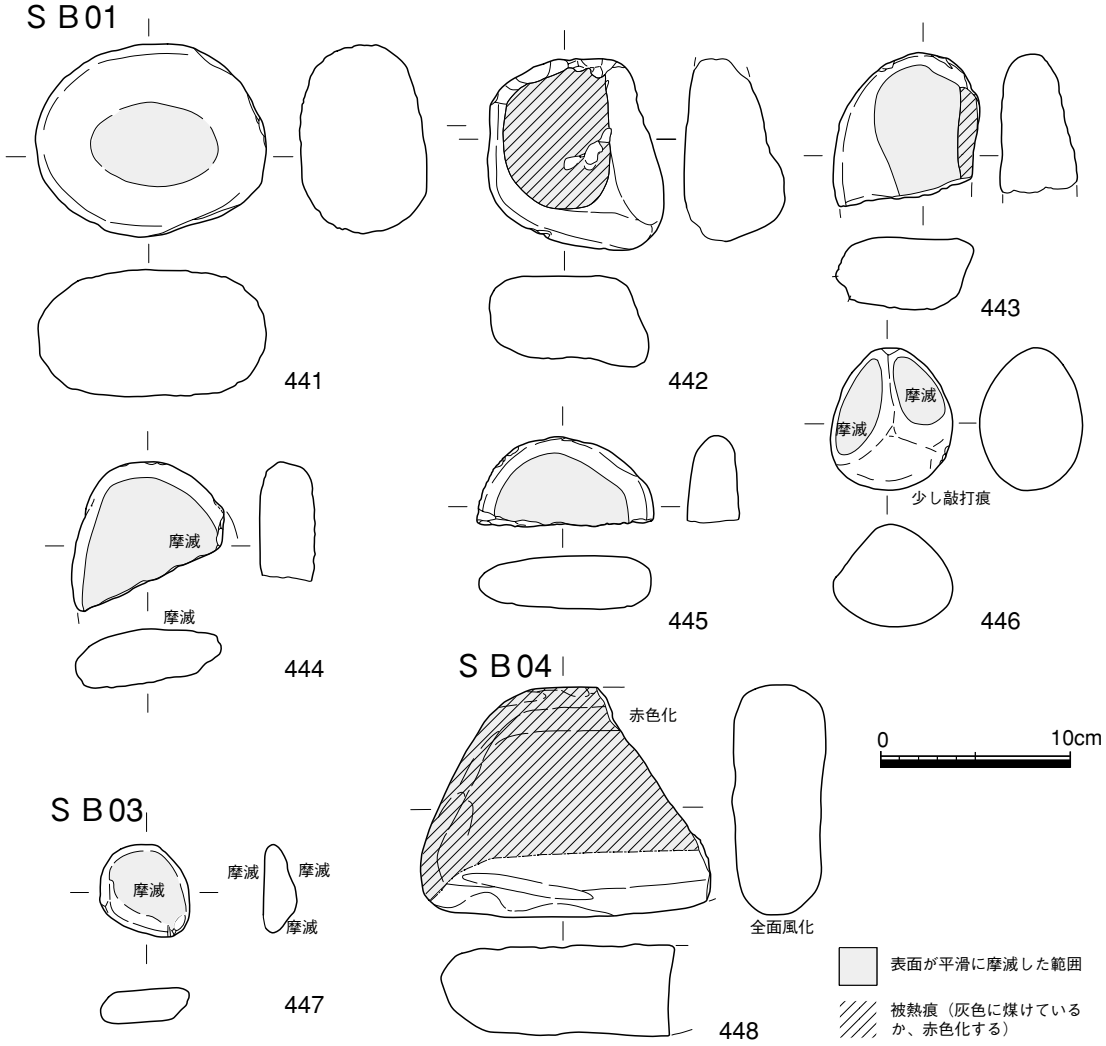
凹基鏃は平面形状が三角形を呈する。457 においては、凹基の度合いが若干深く見られる。有茎鏃は平面形状が五角形を呈する。厚手であり、461 では長胴化の傾向が見られる。459・460 では、平面中央部に、瘤状に剥離されないで残存している部分が見られ、460 ではその部分に原石の礫面が残されている。462 は円基鏃として、石鏃の一群に入れた。厚みが片側に寄っており、縁辺の一部には片面のみの剥離調整しか行われていないなど、456 ～ 461 と比べ若干相違が見られるものである。石材はすべてチャートである。

（５）石錐（第 50 図 463 ～ 465）

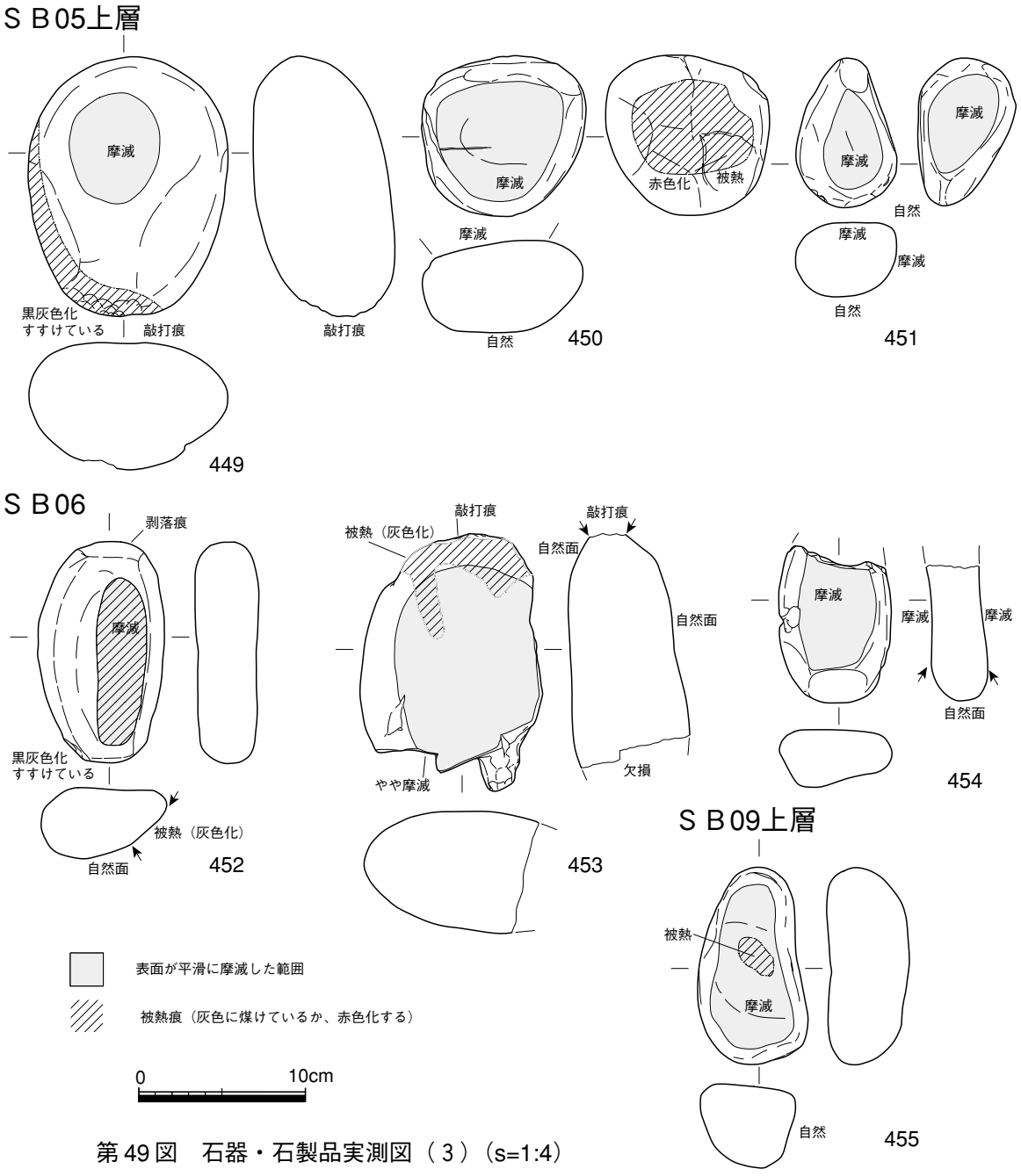
463 は、先端部が欠損しているものの、先細りに調整が加えられた痕跡が確認できたものである。剥離調整のあり方は、剥離面の大きな切り合いが見られ、凹基鏃により近いものである。464 は細身の形状を呈し、とくに片側の先端部にかけて細かい調整を加え先細りにしている。465 は頭部が大きく、片面先端部には、細かい不連続な剥離がみられる。石材は 463・465 がチャートで、464 がサヌカイトと考えられる。

（６）使用痕剥片（第 50 図 466 ～ 468）

剥片の一辺に使用時についたと考えられる不連続な細かい剥離がみられるもの。466 は砂岩



第 48 図　石器・石製品実測図（２）(s=1:4)



第 49 図　石器・石製品実測図（３）（s=1:4）

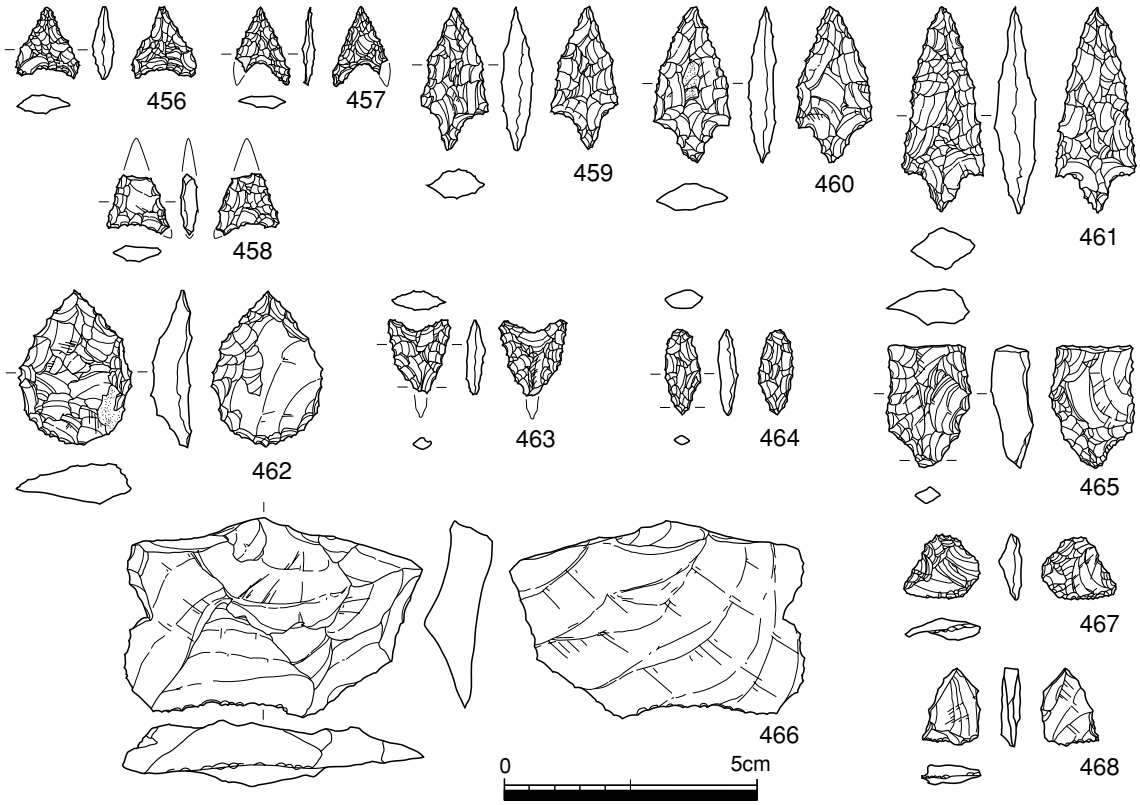
遺構番号	出土剥片										計
	チャート	下呂石	サヌカイト?	黒曜石	石英	長石	砂岩	泥岩	黒雲母	白雲母	
SB01	14.850	0.912	0.276	0.035	0.118	0.384		0.265			16.84
SB02	1.277			0.013	1.352						2.642
SB03	6.411	0.113	0.346		0.019	0.015					6.904
SB04	11.944		0.017	0.436	0.116					0.008	12.521
SB05	25.947	1.286		0.98	3.3	0.309		0.296			32.118
SB06	4.516	1.07		1.186							6.772
SB07	4.334	0.909		0.265		0.233	0.117				5.858
SB09	2.373			0.467	0.081		9.95				12.871
SB12	0.046										0.046
SB13	4.046	0.047	0.215	0.079		0.162					4.549
SB14	2.338			0.053		0.137			0.016		2.544
SB16	1.004		0.187	0.164		1.722					3.077
SB17	0.447		0.023								0.47
SB18	2.669										2.669
SB19	0.559	0.239			0.067						0.865
計	82.761	4.576	1.064	3.678	5.053	2.962	10.067	0.561	0.016	0.008	110.746
%	74.73	4.131	0.96	3.321	4.562	2.675	9.09	0.506	0.014	0.007	99.996

第 4 表　剥片出土量一覧表

製、467・468はチャート製である。

石器の形態および剥離技術より、凹基鏃(456～458)と石錐(463)、そして有茎鏃(459～461)と円基鏃(462)という2つのグループに分けることができる。両者の差は、時期差による形態・および剥離技術の差と考えられ、前者は縄文時代に属す一方、後者は縄文時代晩期中葉以降、弥生時代までの時期に属するものと想定される。

住居跡埋土中からは剥片が若干出土した(第4表)。小型の剥片石器製作に伴うと考えられる石材としては、チャート・下呂石・サヌカイトと考えられるもの・黒曜石・石英が想定され、チャートに圧倒的優位性が見られる。今回の調査では下呂石・黒曜石・石英製の石器は出土しなかったものの、存在していたと考えられる。下呂石は断片であるため特定が難しいが、確実に角礫といえるものは見られなかった。礫器などに使用されると考えられる砂岩も若干見られた。(川添和暁)



第50図　石器・石製品実測図（4）(s=2:3)

第4節　鉄製品・鉄関連遺物

ここでは、本遺跡から出土した鉄製品および鉄関連遺物を取り上げる。鉄関連遺物には、椀型鉄滓、粒状滓、鍛造剥片などの鉄滓類等が存在する。

(1) 検出作業の経緯と分析の方法

本遺跡では多くの古墳時代後期から奈良時代の竪穴建物跡が確認された。既に谷を隔てて隣接する神明遺跡では、同様の時期の竪穴建物跡が発見されており、綿密な調査が行われている。神明遺跡では、臼玉などの石製模造品の数量的な分析を確実に行うために、臼玉が出土する竪穴建物跡について覆土全部の篩別作業を実施して成果を上げていた（森編2001）。こうした研究状況の中で、矢迫遺跡でも臼玉などの石製模造品を確実に抽出する作業が求められていた。

そこで、調査の過程で排出される遺構覆土を土嚢に入れて作業場に移動し、覆土を1mmまたは2mmメッシュの篩で水洗篩別(フローテーション)作業を行った。実際には1mmメッシュの篩では作業時間を多大に必要とするため、大部分は2mmメッシュの篩により作業を行い、こ

の結果全部で12点の臼玉を検出することができた。この他に土師器や須恵器の極細かな破片や剥片の他に微小な鉄関連遺物も含まれていることが、作業の過程で判明してきた。このことを受けて、篩別した土砂などを肉眼で分別作業を行う他に、市販の磁石（磁力等は不明）を使用して選別を行うこととした。このようにして得られた資料の中には、鍛造剥片や粒状滓と思われる微小遺物が含まれていると判断されたため、篩別作業が終了して整理報告書作成作業に着手する段階で、穴澤義功氏に指導を仰ぎ、分類と記録作業を実施した。

このような経過を経ているため、竪穴建物跡覆土の採取方法は極めて粗雑で、選別作業も十分とは言えない状態である。加えて、遺構や遺物の細かな整理を進めていく過程で、当初の予定よりもかなり多くの中世や近世の新しい時期の遺構（掘立柱建物跡）などが存在したことが明らかとなった現在では、微小な遺物を取り扱う場合に、このような混入の恐れが大きい資料は評価に大きな危険を伴うものとなっている。しかし、問題は多いとは言え、鉄関連遺物が竪穴建物跡などから出土したことはそれほど過ちではないとここでは判断し、報告を進めていきたい。

ここで、作業手順を整理しておく。1）覆土は原則として全量をビニール製土嚢袋に一旦収納する。2）水洗場で土嚢袋のまま水に漬け土砂を柔らかくした後、木製枠で金属網の篩を用いて水洗篩別作業を行う（1mmと2mmの篩の内訳は第1表の通りである）。3）選別された土砂などを乾燥させた後にビニール袋などに入れ、その後肉眼観察で焼物、剥片、石製模造品、鉄製品などを抽出、市販の磁石を用いて着磁したものを選別する。4）穴澤義功氏の指導のもと、着磁したものを鉄関連遺物や磁着鉱物などに分類し、鉄関連遺物について記録化した。5）この中で、特に注目される資料（9点）については、九州テクノリサーチに金属学的な調査を依頼した。

資料採取上の問題点はいくつか存在するが、1）竪穴建物跡以外の覆土が混入した可能性が否定できないこと2）遺構単位で土砂を取り上げたため分布に関する分析ができないこと、3）水洗篩別作業が要所で十分に細かくなく金属網を使用したことも問題があることなどをあげることができる。

（2）鉄関連遺物の分類

磁着選別で検出された全ての資料について観察、分類を行った結果、まず磁着鉱物（地山中に含まれる磁性を持つ鉱物）と鉄関連遺物に区分され、後者はさらに下記のように区分された。

a）鉄製品……鉄で作成された製品またはその破片で、赤錆色または黒色を呈する。その形状から釘、刀子、釣針状、針金状、針状、棒状、環状、板状、ヘラ状などに分類できる。

b）鉄片……赤錆色または黒色の鉄資料で、製品とは判断できない板状のものである。

c）鍛冶滓……鍛冶工程の際に炉底などに溜る滓の総称である。

d）粒状滓……鍛錬鍛冶の初期の段階で、鉄塊酸化防止のために塗布された粘土汁と鉄が反応して、表面張力によって球状化したり、鍛打の際に表面から飛散したものである。

e）鍛造剥片……鍛造剥片は鉄塊や鉄板などを鍛打する際に鉄素材の表面から鉄中の不純物が酸化皮膜として薄板状に剥離したものである。

f）炉壁溶解物…炉壁が溶融したと考えられる粘土溶解物であり、石などをかみ込むものが多い。

今回報告する資料は総数で89点(項目)である。極微細なものを除き実測図を掲載し（第51・52図など）、個別の観察データを表にまとめた（第5表など）。この中で金属学的な分析を加えた9点については、遺物の破壊を伴うため詳細な観察表を付した（第53～61図）。金属学的な分析結果は第4章で示した通りである。

本文では個別資料の紹介を避け、遺構単位で概要を記述するに止めたい。

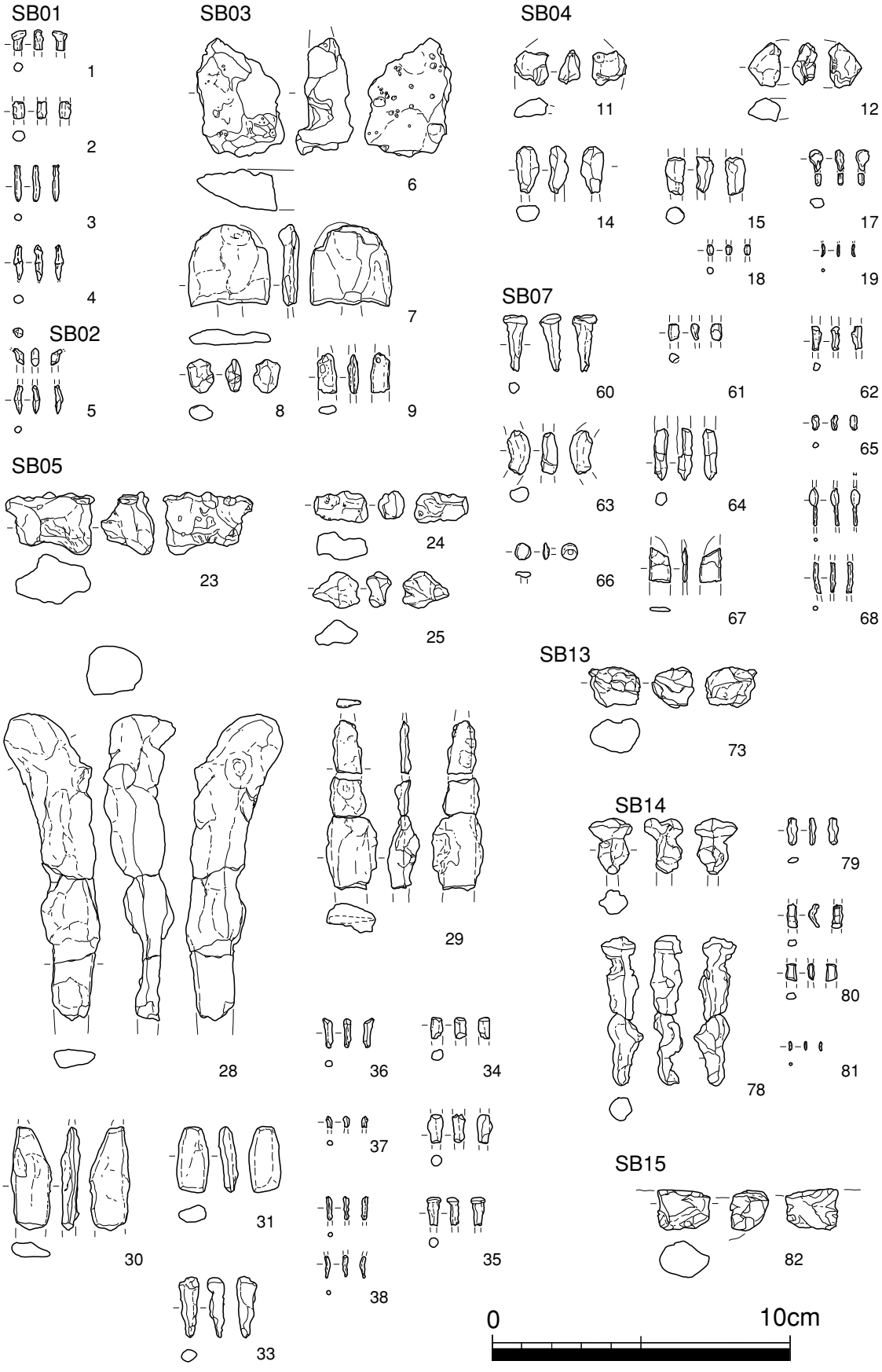
（3）ＳＢ01出土遺物（1～4）

釘、針または針金状の鉄製品のみが出土した。この資料からは鉄器生産の痕跡は認められない。

（4）ＳＢ03出土遺物（6～9）

形状が詳らかでない鉄製品と炉壁溶解物が出土した。炉壁溶解物が存在するものの、それ以上は鉄器生産の痕跡は認められない。

（5）ＳＢ04出土遺物（10～21）



第 51 図　鉄製品・鉄関連遺物実測図（１）（s=1:2）

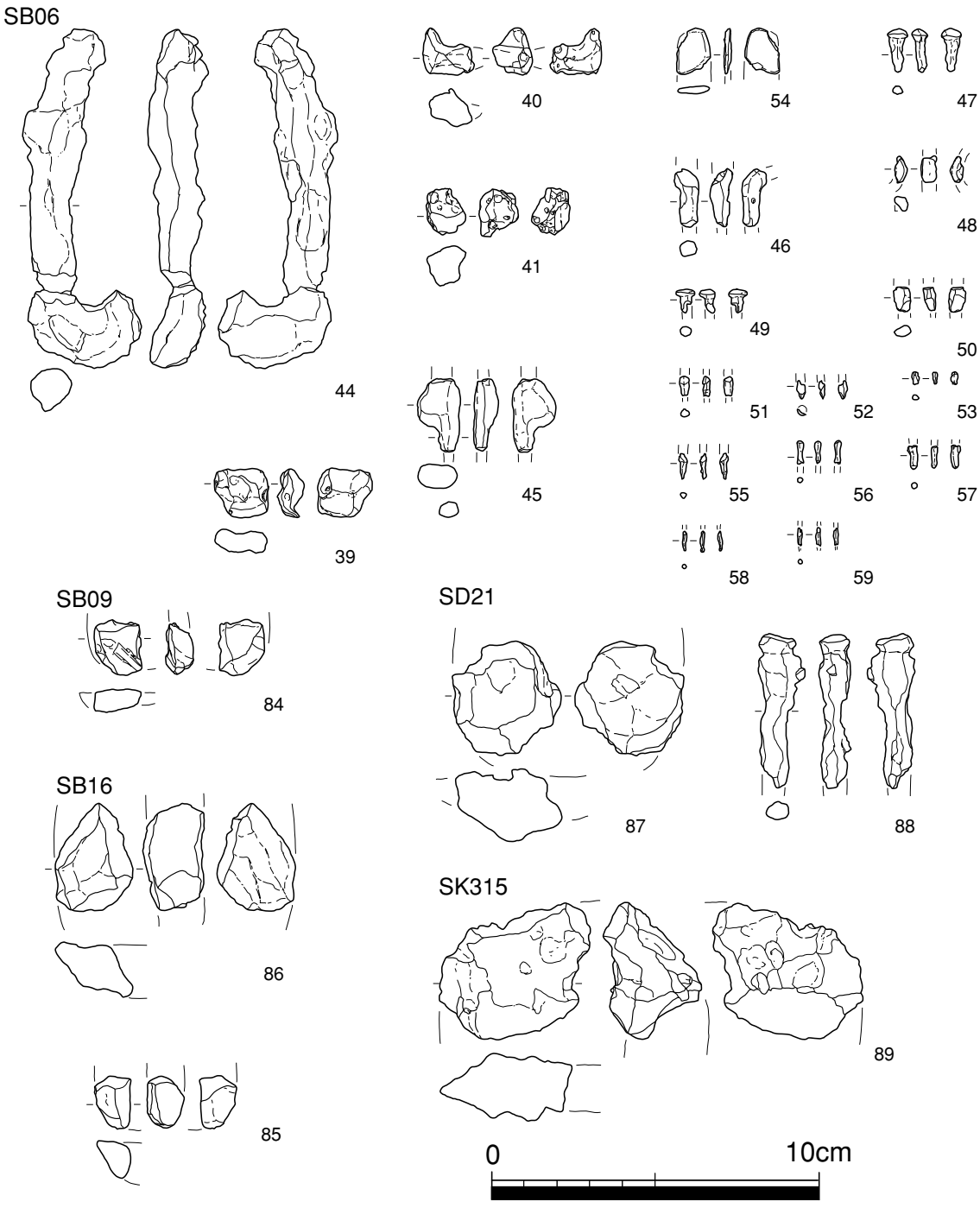
釘状や針状などの鉄製品の他に、鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が揃って出土した。粒状滓は11点確認され、比較的大きさがバラバラで、直径が1.0mm～3.0mmを測る。鍛造剥片は18点存在し、厚さは0.14～0.38mmと比較的厚めのものが多い。工程の進行により厚いものから薄いものへ変化するというが、これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す資料群と考えられる。

（6） S B 05 出土遺物（22～38）

釘、刀子、針状などの鉄製品の他に、鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が揃って出土した。粒状滓4点と鍛造剥片6点は金属学的な調査を行い、一連の鍛錬鍛冶作業が行われたことが言及された。鉄製品には断面が五角形状の針状製品が多く存在する。

（7） S B 06 出土遺物（39～59）

釘や針状、棒状、環状などの鉄製品の他に、



第52図　鉄製品・鉄関連遺物実測図（2）（s=1:2）

矢迫遺跡

構成No.	遺物名	地区名	遺構名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
				長さ	幅	厚さ				
1	鉄製品（釘又は針状）	97区	SB01竪穴住居跡	0.65	0.5	0.3	0.154	1	△	上部が釘の頭部状外観、下部断面は六角柱状、足部欠損
2	鉄製品（釘又は針状）	97区	SB01竪穴住居跡	0.6	0.4	0.32	0.131	1	△	断面は五角柱状、頭部・足部欠損
3	鉄製品（針又は針金状）	97区	SB01竪穴住居跡	1.2	0.2	0.2	0.085	1	△	断面は不整円柱状、足部先細りする、定形
4	鉄製品（針又は針金状）	97区	SB01竪穴住居跡	1.2	0.3	0.25	0.116	2	△	断面は不整円柱状、足部先細り、頭部欠損
5	鉄製品（針又は針金状）	97区	SB02竪穴住居跡	(1.55)	0.25	0.25	0.129	2	△	断面円柱状、足部屈折して先細り
6	炉壁溶解物（鍛冶炉）	97区	SB03竪穴住居跡	4	2.8	1.3	10.575	2	なし	前面に滓の滴状垂れ下がり、後面・下面に炉床土かみ込み
7	鉄製品（ヘラ状不明）	97区	SB03竪穴住居跡	2.8	2.8	0.5	7.303	3	△	柳葉形偏平鏃の可能性有
8	鉄製品（不明）	97区	SB03竪穴住居跡	1.1	0.8	0.5	0.625	2	△	礫状
9	鉄製品（不明鉄片）	97区	SB03竪穴住居跡	1.35	0.6	0.35	0.486	1	△	断面偏平
10	鍛冶滓	97区	SB04竪穴住居跡	2.5	1.7	2	9.162	1	なし	分析５
11	鉄滓（鍛冶滓）	97区	SB04竪穴住居跡	1.2	1.1	0.7	0.79	1	なし	平面下部に破面のある礫状の滓
12	鉄滓（鍛冶滓）	97区	SB04竪穴住居跡	1.5	1.05	0.8	1.723	2	なし	破面２で上面に盛り上がりのある礫状の滓
13	鉄製品（釘？）	97区	SB04竪穴住居跡	1.6	0.8	0.7	0.846	3	△	分析６
14	鉄製品（釘？）	97区	SB04竪穴住居跡	1.6	0.75	0.55	0.828	2	△	断面方形の棒状品、頭部欠損
15	鉄製品（棒状不明）	97区	SB04竪穴住居跡	1.25	0.6	0.55	0.591	3	△	断面五角柱状、上端部欠損
16	鉄製品（釣針状）	97区	SB04竪穴住居跡	1.25	0.5	0.3	0.211	2	△	分析７
17	鉄製品（針状不明）	97区	SB04竪穴住居跡	1.2	0.45	0.3	0.134	2	△	断面不整台形をした針状部、平面円形でやや偏平の頭部
18	鉄製品（針状）	97区	SB04竪穴住居跡	0.35	0.2	0.2	0.026	1	△	断面不整円形
19	鉄製品（網状不明）	97区	SB04竪穴住居跡	0.4	0.1	0.1	0.008	1	△	断面不整六角形
20	粒状滓	97区	SB04竪穴住居跡					—	なし	
21	鍛造剥片	97区	SB04竪穴住居跡					—	なし	
22	鍛冶滓	97区	SB05竪穴住居跡	2.45	2	1.5	8.4	2	なし	分析１
23	鍛冶滓	97区	SB05竪穴住居跡	2.85	2	1.8	9.232	2	なし	上部に滓の滴状垂れ下がり、下部に白い石(ﾁｬｰﾄ)を多くかみ込む礫状の滓
24	鉄滓（鍛冶滓）	97区	SB05竪穴住居跡	1.75	1	0.9	1.849	1	なし	破面１で礫状の滓、気泡があり
25	鉄滓（含鉄鋳化）	97区	SB05竪穴住居跡	1.45	1.15	0.8	1.726	3	△	不整形な礫状の滓、表面に赤錆が浮く
26	粒状滓（4点）	97区	SB05竪穴住居跡					—	なし	分析２
27	鍛造剥片（6点）	97区	SB05竪穴住居跡					—	なし	分析３
28	鉄製品（釘？）	97区	SB05竪穴住居跡	10.3	21	18	53.007	4	△	断面刀子状の釘状製品、頭部は方形状、足部欠損
29	鉄製品（刀子）	97区	SB05竪穴住居跡	6.2	1.7	0.9	7.191	4	△	刀子背の幅が2.5cm、柄側と刃先を欠損
30	鉄製品（刀子状）	97区	SB05竪穴住居跡	3.5	1.3	0.6	4.322	4	△	断面不整な長三角形、先端部、刃先と柄側が欠損
31	鉄製品（不明鉄片）	97区	SB05竪穴住居跡	2.2	1.05	0.5	2.226	4	△	長方形板状の鉄片
32	鉄製品（針状不明）	97区	SB05竪穴住居跡	0.9	0.9	0.5	0.233	3	△	分析４
33	鉄製品（針状）	97区	SB05竪穴住居跡	2	0.65	0.5	0.804	3	△	頭部断面方形状、短い釘状
34	鉄製品（小釘）	97区	SB05竪穴住居跡	0.95	0.4	0.4	0.247	2	△	頭部断面六角形、足部断面円形、足部欠損
35-1	鉄製品（針状不明）	97区	SB05竪穴住居跡	0.7	0.4	0.4	0.164	3	△	断面方形から五角形状
35-2	鉄製品（針状不明）	97区	SB05竪穴住居跡	0.95	0.55	0.4	0.294	3	△	断面方形から五角形状
36	鉄製品（針状不明）	97区	SB05竪穴住居跡	1	0.3	0.25	0.166	2	△	頭部断面五角形から六角形の短い釘状
37	鉄製品（針状不明）	97区	SB05竪穴住居跡	0.4	0.15	0.15	0.022	1	△	断面方形から円形
38-1	鉄製品（針状）	97区	SB05竪穴住居跡	0.8	0.2	0.2	0.038	2	△	断面円形、１点は針状先端部
38-2	鉄製品（針状）	97区	SB05竪穴住居跡	0.7	0.15	0.2	0.03	2	△	断面円形、１点は針状先端部
39	鉄滓（鍛冶滓）	97区	SB06竪穴住居跡	1.7	1.45	0.7	2.038	2	なし	平面不整方形の偏平な滓、気泡は少ない
40	鉄滓（鍛冶滓）	97区	SB06竪穴住居跡	1.4	1.4	1.05	2.304	2	なし	破面４の礫状の滓、上面側が気泡がある
41	炉壁溶解物	97区	SB06竪穴住居跡	1.45	1.2	1.2	1.479	3	なし	破面４の礫状、白い石材に鉄滓が絡む
42	粒状滓	97区	SB06竪穴住居跡					—	なし	
43	鍛造剥片	97区	SB06竪穴住居跡					—	なし	
44	鉄製品（不明鉄製品）	97区	SB06竪穴住居跡	10.4	3.5	1.45	40.53	2	△	断面円形状の釣手状鉄製品、先端部欠損
45	鉄製品（棒状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	2.2	1.3	0.75	2.348	2	△	断面長方形、頭部側・足部先端を欠損
46	鉄製品（棒状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	2.3	0.45	0.45	0.877	3	△	断面三角形状の釘状鉄製品、頭部側を欠損
47	鉄製品（小釘）	97区	SB06竪穴住居跡	1.3	0.5	0.45	0.358	3	△	頭部断面楕円形
48	鉄製品（小釘）	97区	SB06竪穴住居跡	0.7	0.6	0.5	0.19	1	△	頭部断面円形、足部欠損
49	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.75	0.5	0.35	0.202	2	△	断面方形、上・下端欠損
50	鉄製品（環状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.8	0.4	0.45	0.144	1	△	断面方形で環状になる製品か？
51	鉄製品（釘状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.6	0.3	0.25	0.092	2	△	断面三角形状、上・下端欠損
52	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.55	0.25	0.2	0.042	1	△	先端部のみ
53	鉄製品（棒状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.4	0.25	0.15	0.028	1	△	断面不整円形
54	鉄製品（不明鉄片）	97区	SB06竪穴住居跡	1.4	1	0.2	0.51	2	△	偏平板状の鉄片、上・下部欠損
55	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.75	0.25	0.2	0.043	1	△	断面方形状の先端部、上部欠損
56	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.7	0.2	0.2	0.046	1	△	断面不整円形
57	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.7	0.25	0.2	0.061	1	△	断面不整方形
58	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.6	0.13	0.1	0.02	1	△	断面円形、細い、上・下端欠損
59	鉄製品（針状不明）	97区	SB06竪穴住居跡	0.55	0.15	0.15	0.028	1	△	断面円形、上・下端欠損
60	鉄製品（小釘）	97区	SB07竪穴住居跡	1.9	0.8	0.7	0.888	2	△	頭部断面方形、足部円形の短い釘
61	鉄製品（小釘、頭部）	97区	SB07竪穴住居跡	0.55	0.55	0.2	0.096	2	△	頭部不整円形、足部欠損
62	鉄製品（釘状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	0.8	0.3	0.25	0.105	2	△	断面方形、上・下端欠損
63	鉄製品（棒状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	1.5	0.7	0.5	0.581	2	△	断面円形、水酸化鉄付着、上・下端欠損
64	鉄製品（棒状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	1.7	0.4	0.4	0.464	2	△	断面六角形、頭部欠損
65	鉄製品（棒状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	0.55	0.35	0.3	0.079	1	△	断面円形、上・下端欠損
66	鉄製品（棒状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	0.5	0.25	0.2	0.046	1	△	断面方形、上・下端欠損
67	鉄製品（板状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	1.15	0.7	0.2	0.28	2	△	断面偏平の板状
68-1	鉄製品（針状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	1.3	0.3	0.15	0.073	2	△	断面円形、２点は接合しない、上・下端欠損
68-2	鉄製品（針状不明）	97区	SB07竪穴住居跡	1.05	0.15	0.15	0.07	2	△	断面円形、２点は接合しない、上・下端欠損
69	粒状滓	97区	SB09竪穴住居跡					—	なし	
70	鍛造剥片	97区	SB09竪穴住居跡					—	なし	
71	三角形鉄片（切り削）	97区	SB09竪穴住居跡	1.3	1	0.4	0.518	3	△	分析８
72	鉄製品（針状）	97区	SB09竪穴住居跡	0.47	0.14	0.14	0.016	1	△	分析９
73	鉄滓（含鉄鋳化）	97区	SB13竪穴住居跡	1.6	1.3	1.35	4.579	4	△	破面2か？表面ひび割れ
74	粒状滓	97区	SB13竪穴住居跡					—	なし	
75	鍛造剥片	97区	SB13竪穴住居跡					—	なし	
76	粒状滓	97区	SB14竪穴住居跡					—	なし	
77	鍛造剥片	97区	SB14竪穴住居跡					—	なし	
78-1	鉄製品（釘）	97区	SB14竪穴住居跡	1.9	1.45	1.3	1.992	2	△	頭部断面方形、足部断面も方形、足部欠損
78-2	鉄製品（釘）	97区	SB14竪穴住居跡	5.05	1.15	1.05	4.501	2	△	頭部断面方形、足部断面も方形
79	鉄製品（棒状不明）	97区	SB14竪穴住居跡	0.9	0.35	0.2	0.101	2	△	断面偏平板状
80-1	鉄製品（環状不明）	97区	SB14竪穴住居跡	0.75	0.35	0.2	1.121	3	△	２点同一のもの、断面長方形、環状の製品
80-2	鉄製品（環状不明）	97区	SB14竪穴住居跡	0.55	0.35	0.2	0.092	3	△	２点同一のもの、断面長方形、環状の製品
81	鉄製品（針状不明）	97区	SB14竪穴住居跡	0.3	0.1	0.1	0.006	—	△	断面円形、やや孤状に曲がる
82	炉壁溶解物	97区	SB15竪穴住居跡	1.75	1.35	1.2	3.117	2	なし	破面2、白色の石材をかみ込む、礫状
83	粒状滓	97区	SB16竪穴住居跡					—	なし	
84	銹化鉄滓	97区	SB09竪穴住居跡	1.6	1.35	0.9	2.027			破面３の礫状の滓、気泡が少なく平滑、表面が銹化している
85	鍛冶鉄滓	97区	SB16竪穴住居跡 上層	1.6	1.1	1.15	2.415			破面2の礫状の滓、細かい気泡がある、平面の風化がやや進んでいる
86	鍛冶鉄滓	97区	SB16竪穴住居跡 上層	3.3	2.4	1.85	14.857	0	なし	破面３の礫状の滓、上面は平滑、下面は銹が浮いている
87	鍛冶鉄滓	97区	SD21溝跡	3.5	3.25	2.2	29.028	3	なし	破面３でやや偏平な礫状の滓、平面に水酸化鉄が多量に付着
88	鉄製品（釘）	97区	SD21溝跡	4.75	1.3	1	6.057	2	あり	頭部の断面不整方形の釘、足部欠損
89	鍛冶鉄滓（椀型）	97区	SK315土坑跡	4.6	4.2	2.7	37.572	3	なし	破面2の椀型滓、銹化する部分がある

第５表　鉄製品・鉄関連資料構成一覧表

番号	径（mm）	光沢	気泡、凹み、凹凸	突起	色調	重量（g）
20-1	1.3	あり	小さい凹みが散在	なし	黒色	0.002
20-2	2.2	あり	大小の凹みが散在	小突起あり	黒褐色	0.017
20-3	2.4	なし	不明	なし	褐色	0.019
20-4	1.8	あり	大小の凹みが散在	小突起あり	黒色	0.008
20-5	2.2×1.5	あり	小さい凹みが散在	なし	黒色、銀色光沢部	0.010
20-6	1.6	なし	不明	小突起あり	褐色	0.007
20-7	1.1	なし	不明	なし	褐色	0.005
20-8	1.2	なし	なし	なし	黒褐色	0.005
20-9	1.0	なし	なし	なし	褐色	0.005
20-10	3.0	なし	なし	なし	褐色	0.033
20-11	1.7	なし	不明	不明	灰褐色	0.006
42-1	1.4	なし	気泡あり	小突起あり	黒灰色	0.006
42-2	1.1	なし	なし	なし	黒褐色	0.006
42-3	1.3	なし	なし	なし	茶黒色	0.004
42-4	1.0	なし	凹凸あり	小突起あり	黒色	0.004
42-5	1.3	なし	表皮剥離	なし	黒色	0.005
42-6	1.3	なし	表皮剥離	なし	褐黒色	0.004
42-7	1.2	なし	大小の凹みが散在	小突起あり	褐黒色	0.003
42-8	1.6	なし	なし	なし	黒色	0.002
42-9	1.6	なし	なし	なし	褐黒色	0.004
42-10	1.3	なし	なし	なし	灰褐色	0.003
42-11	1.2	なし	小さい凹みが散在	なし	黒褐色	0.004
42-12	1.3	なし	なし	なし	黒褐色	0.005
42-13	1.3	なし	なし	なし	褐色	0.007
42-14	1.4	なし	なし	なし	黒褐色	0.006
42-15	1.2	なし	なし	なし	黒色	0.002
42-16	1.2	なし	なし	なし	黒褐色	0.004
42-17	1.5	なし	なし	なし	黒褐色	0.002
42-18	1.2	なし	なし	なし	褐色	0.001以下
42-19	1.1	なし	大きい凹みが散在	小突起あり	黒褐色	0.001以下
42-20	1.1	なし	気泡あり	気泡化した突起あり	黒色	0.001
42-21	1.2	なし	小さい凹み１ヶあり	なし	黒色	0.001以下
42-22	1.5	なし	大きい凹みが散在	なし	黒色	0.005
42-23	1.3	なし	表皮剥離	なし	黒色	0.002
42-24	1.1	なし	表皮剥離	なし	黒色	0.001以下
42-25	1.5	なし	なし	なし	黒色	0.003
42-26	1.3	なし	表皮剥離	なし	黒灰色	0.002
42-27	1.6	なし	小さい凹みが散在	小突起あり	褐色	0.002
42-28	1.5	少しあり	なし	なし	黒褐色	0.005
42-29	1.6	なし	表皮剥離	なし	黒色（表皮は褐色）	0.001
42-30	1.5	なし	なし	小突起あり	黒褐色	0.002
42-31	1.5	なし	なし	なし	黒色	0.004
42-32	1.5	あり	気泡あり	小突起あり	黒色	0.006
69-1	1.9	なし	小さい凹み２ヶあり	なし	黒色	0.013
74-1	1.2	なし	なし	なし	黒色	0.004
74-2	1.8	なし	小凹みが多数散在、表皮剥離部あり	なし	褐灰色	0.008
74-3	1.5	あり	なし、表皮剥離部分あり	なし	黒色（光沢は緑色）	0.004
74-4	1.1	なし	なし	小突起あり	黒褐色	0.001
74-5	1.3	なし	気泡あり、小さい凹み少しあり	なし	黒褐色	0.001
74-6	1.3	なし	半分欠損、表皮に土付着	なし	黒色	0.003
76-1	2.7	あり	白色の石をかみ込む、気泡あり	なし	黒色	0.017
76-2	1.6	なし	表皮に土付着	なし	黄黒色	0.007
76-3	1.2	なし	表皮剥離	なし	暗灰色	0.005？
76-4	2.2	なし	なし、大部分表皮剥離	なし	黒褐色	0.012
76-5	1.7	なし	表皮に土付着	なし	黄灰色	0.008
76-6	1.5	あり	白色の石をかみ込む、気泡あり	小突起あり	黒灰色	0.006
76-7	1.1	なし	なし	なし	黒褐色	0.005
76-8	1.1	なし	大小の凹みが散在	なし	黒色	0.004
83-1	2.9	なし	なし	なし	黒色	0.019
83-2	1.5	なし	なし	なし	黒褐色	0.006
83-3	1.3	なし	小さい凹み少しあり	なし	黒色	0.005
83-4	1.5	あり	大きい凹みあり	小突起あり	黒色	0.003
83-5	1.2	なし	凹凸が散在、クレータ状	なし	黒色	0.002
83-6	1.3	なし	なし	なし	褐色	0.003

第６表　粒状滓一覧表

矢迫遺跡

番号	長軸 (mm)	短軸 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	表	裏	磁着	色調
21-1	4.80	4.00	0.17	0.020	平滑、微粒面状の部分あり	光沢を持つ波状	強	黒褐色
21-2	4.50	2.40	0.38	0.019	平滑、気孔が散在	やや光沢を持つ波状	強	黒褐色
21-3	1.60	1.35	0.17	0.003	光沢ややあり、微粒面的	光沢を持つ小波状	弱	黒褐色
21-4	3.28	1.85	0.18	0.006	平滑、微粒面的になる所あり	平滑で光沢を持つ	弱	黒褐色
21-5	2.09	1.49	0.18	0.003	平滑	やや光沢を持つ、平滑だが小波部点在	強	黒褐色
21-6	2.09	1.65	0.18	0.003	やや皿状	気孔が散在、光沢あり	強	黒褐色
21-7	2.30	1.89	0.18	0.005	平滑	平滑、光沢部あり	強	黒褐色
21-8	2.82	1.64	0.19	0.003	平滑	小波状に凹凸	強	黒褐色
21-9	2.12	1.95	0.18	0.005	平滑、気孔１ヶあり	光沢を持つ、平滑で気孔散在	強	黒褐色
21-10	1.58	1.19	0.15	0.000	平滑	小波状でやや光沢を持つ	弱	黒褐色
21-11	1.72	1.50	0.21	0.002	平滑、層状の重なり	波状でやや光沢を持つ	強	黒褐色
21-12	2.08	1.64	0.14	0.005	平滑	光沢をもつやや小波状	弱	黒褐色
21-13	1.48	0.98	0.38	0.002	微粒面状	平滑	強	黒褐色
21-14	2.25	1.10	0.24	0.003	微粒面状	気孔あり	弱	黒褐色
21-15	1.32	1.28	0.22	0.003	平滑、層状の重なり	光沢あり	強	黒褐色
21-16	1.52	1.20	0.17	0.003	やや微粒面的	光沢部あり、錆部分あり	弱	黒褐色
21-17	1.18	1.17	0.17	0.001	平滑、ややざらつく	光沢部が点状、やや小波状	弱	黒褐色
21-18	1.90	1.22	0.16	0.007	平滑	やや光沢がある、やや小波状	強	黒褐色
70-1	2.65	1.60	0.18	0.003	平滑な皿状	やや光沢を持つ平滑	弱	黒褐色
70-2	2.25	1.40	0.15	0.002	平滑、気孔が散在	点状の光沢部分、やや小波状	弱	黒褐色
70-3	2.29	1.48	0.17	0.003	平滑	やや光沢を持つ小波状	弱	黒褐色
70-4	1.74	1.55	0.18	0.002	平滑、やや光沢を持つ	光沢を持つ、波状	強	黒褐色
75-1	2.17	1.89	0.15	0.004	平滑、微隆起部あり	光沢を持つ平滑	弱	黒褐色
75-2	1.95	1.90	0.20	0.002	やや光沢を持つ、小波状	やや光沢を持つ、小波状、気孔あり	強	黒褐色
75-3	2.39	0.95	0.17	0.000	平滑	やや光沢を持つ、小波状	強	黒褐色
75-4	1.52	0.98	0.13	0.000	平滑、層状の重なり、気孔がある	やや光沢を持つ、波状、小突起あり	強	黒褐色
43-1	1.62	1.55	0.09	0.003	皿状、微粒子面的	光沢を持つ、平滑、ヒビ割れがある	強	黒褐色
43-2	1.77	1.69	0.09	0.001	平滑、やや微粒面的	光沢を持つ、波状	弱	黒褐色
43-3	2.49	1.92	0.08	0.001	皿状、微粒子面的	点的に光沢を持つ、小波状、錆部あり	強	黒褐色
43-4	1.91	1.78	0.26	0.000	微粒子面的、波状	波状、気泡散在	弱	黒褐色
43-5	2.27	2.10	0.09	0.003	やや皿状、平滑、気孔が散在	波状、やや光沢を持つ	弱	黒褐色
43-6	2.10	1.35	0.13	0.000	平滑	波状、点的光沢を持つ	強	黒褐色
43-7	2.40	1.70	0.21	0.004	平滑、やや微隆起部あり	小波状、気孔あり	弱	黒褐色
43-8	2.50	2.20	0.18	0.004	皿状、微粒子面的、土付着	小波状	強	黒褐色
43-9	2.49	1.55	0.16	0.005	平滑	小波状	弱	黒褐色
43-10	2.40	1.95	0.14	0.004	やや皿状、平滑	やや光沢あり、波状	弱	黒褐色
43-11	1.99	1.70	0.22	0.002	波状、やや光沢を持つ	やや光沢を持つ、波状	弱	黒褐色
43-12	2.58	1.70	0.19	0.004	平滑、気孔が散在	やや光沢を持つ、小波状、微粒子面的	強	黒褐色
43-13	1.99	1.15	0.18	0.000	平滑、気孔が散在	波状、気孔あり	弱	黒褐色
43-14	2.60	1.84	0.22	0.005	平滑、気孔あり	小波状、気孔点在	弱	黒褐色
43-15	1.30	1.00	0.08	0.000	皿状、微粒子面的	平滑、気孔点在	弱	黒褐色
43-16	2.65	1.53	0.22	0.005	平滑、気孔が散在	小波状、凹凸している	弱	黒褐色
43-17	2.20	1.42	0.17	0.003	平滑、気孔が散在	やや光沢を持つ、緩い波状	弱	黒褐色
43-18	2.00	1.82	0.14	0.003	皿状、平滑	平滑	強	黒褐色
43-19	1.78	1.10	0.50	0.004	平滑	やや光沢を持つ、錆部あり	弱	黒褐色
43-20	1.18	0.95	2.24	0.000	小波状、微粒子面的部分あり	小波状	弱	黒褐色
43-21	2.40	2.20	0.18	0.006	平滑、気孔が少しあり	波状、やや光沢を持つ、凹凸している	強	黒褐色
43-22	2.50	1.60	0.21	0.001	皿状、平滑	小波状、やや凹凸している	弱	黒褐色
43-23	2.48	1.50	0.18	0.000	平滑	やや光沢を持つ、少しヶバ立つ	強	黒褐色
43-24	2.04	1.20	0.18	0.002	微粒子面的	小波状	強	黒褐色
43-25	1.28	1.08	0.14	0.000	平滑	平滑	強	黒褐色
43-26	2.12	1.50	0.18	0.003	微粒子面的、気孔散在	小波状、気孔１ヶ	弱	黒褐色
43-27	2.18	2.05	0.25	0.004	皿状、気孔点在	波状、光沢を持つ	弱	黒褐色
43-28	1.93	1.45	0.29	0.003	平滑、やや微粒子面的	平滑、点的な光沢	弱	黒褐色
77-1	2.23	1.58	0.16	0.003	平滑、気孔少しあり	点状に光沢を持つ、波状	強	黒褐色

第７表　鍛造剥片一覧表

第８表　金属学的調査対象資料一覧表

資料番号	地区名	遺構名	構成番号	遺物種類	重量g	磁着度	メタル度	分析コメント	マクロ	検鏡	硬度	EPMA	X線回折	化学分析	耐火度	カロリー	放射化分析	断面樹脂	分析位置指定	採取方法	観察	集合写真	モノクロ	カラー	実測図	前含浸	X線透過	時期区分
1	97	SB05竪穴住居跡	22	鍛冶滓	8.4	2	なし	滓部を	—	○ —	○	○	○	—	—	—	—	—	長軸端部1/5	直線状の切断	○		○	○	○	—	—	7世紀初頭？
2	97	SB05竪穴住居跡	26	粒状滓(4点)	—	—	なし	粒状滓として	○	○ —	—	—	—	—	—	—	—	—	必要品	選　択	○		○	○	—	—	—	7世紀初頭？
3	97	SB05竪穴住居跡	27	鍛造剥片(6点)	—	—	なし	鍛造剥片として	○	○ —	—	—	—	—	—	—	—	—	必要品	選　択	○		○	○	—	—	—	7世紀初頭？
4	97	SB05竪穴住居跡	32	鉄製品(釘状不明)	0.2	3	△	鉄製品錆化部を中心に	○	— ◎	—	—	—	—	—	—	—	—	全量使用	—	○		○	○	○	—	(○)	7世紀初頭？
5	97	SB04竪穴住居跡	10	鍛冶滓	9.2	1	なし	滓部を	—	○ —	○	—	—	—	—	—	—	—	長軸端部1/5	直線状の切断	○		○	○	○	—	—	7世紀後半？
6	97	SB04竪穴住居跡	13	鉄製品(釘？)	0.8	3	△	鉄製品錆化部を中心に	—	— ◎	—	—	—	—	—	—	—	—	長軸端部1/2	直線状の切断	○		○	○	○	—	(○)	7世紀後半？
7	97	SB04竪穴住居跡	16	鉄製品(釣針状)	0.2	2	△	鉄製品錆化部を中心に	—	— ◎	—	—	—	—	—	—	—	—	長軸端部2/3	直線状の切断	○		○	○	○	—	(○)	7世紀後半？
8	97	SB09竪穴住居跡	71	三角形鉄片(切り削)	0.5	3	△	鉄製品錆化部を中心に	○	— ◎	—	—	—	—	—	—	—	—	長軸端部1/2	直線状の切断	○		○	○	○	—	(○)	7世紀初頭？
9	97	SB09竪穴住居跡	72	鉄製品（針状）	～0.1	1	△	鉄製品錆化部を中心に	—	— ◎	—	—	—	—	—	—	—	—	全量使用	—	○		○	○	○	—	(○)	7世紀初頭？

第９表　金属学的調査対象粒状滓一覧表

番号	直径（mm）	色　調	形状及び表面	磁着	気孔	重量
2-イ-1	2.3	青黒色	芯部に石英質の石粒をかむ。やや光沢あり。小凸起あり。	弱	少々あり	0.014g
2-イ-2	1.1	黒褐色	錆色の無光沢。表皮の欠落少々あり。	弱	なし	～0.001g
2-ロ-1	2.1	青黒色	光沢あり。表面に若干の窪みあり。	強	なし	0.003g
2-イ-2	1.1	黒褐色	表面に気孔が散在し、クレーター状。	強	あり	0.013g

第10表　金属学的調査対象鍛造剥片一覧表

番号	長軸(mm)	短軸(mm)	厚さ(mm)	色　調	表	裏	磁着	気孔	重量
3-イ-1	3.0	2.8	0.39	黒褐色	平滑、気孔が散在。	やや波状、錆強い。	弱	あり	0.010g
3-イ-2	3.0	2.1	0.23	黒褐色	平滑、わずかに気孔あり。	光沢を持つ波状。	弱	ややあり	0.005g
3-イ-3	2.2	1.7	0.12	黒褐色	平滑、横筋少々。	光沢を持つ波状。	弱	なし	～0.001g
3-ロ-1	2.6	1.6	0.28	黒褐色	やや皿状、気孔が散在。	光沢あり、やや凹凸あり。	強	なし	0.002g
3-ロ-2	3.5	2.5	0.12	黒褐色	光沢ややあり、徴粒面。	小波状で光沢部点在。	強	なし	0.003g
3-ロ-3	3.1	1.8	0.06	黒褐色	平滑、徴粒面的	青黒く、光沢あり。	強	なし	～0.001g

鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が出土した。粒状滓は32点確認され、直径が1.0mm～1.7mmの大きさに分布してばらつきが少ない。気泡や突起が認められないものが多い傾向が窺われる。鍛造剥片は28点存在し、厚さは0.08～0.50mmと様々な厚さのものがあり、小波状に凹凸を持つものが多い。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す資料群と考えられる。

（８）ＳＢ07出土遺物（60～68）

棒状、板状や針状などの鉄製品が9点出土し

目次
終了

矢迫遺跡

資料番号　1

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡		遺物No.	一括			分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB05竪穴住居跡		時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器				マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過	○ ○ ○ ○	
試料番号	検　鏡：YAH-1 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径　2.45 cm	色　調	暗褐色～青黒色	遺存度	破片				
			短径　2.0　cm		青黒色	破面数	4				
遺物種類（名称）	鍛冶滓		厚さ　1.5　cm	磁着度	2	前含浸	—				
			重量　8.4　g	メタル度	な　し	断面樹脂	—				

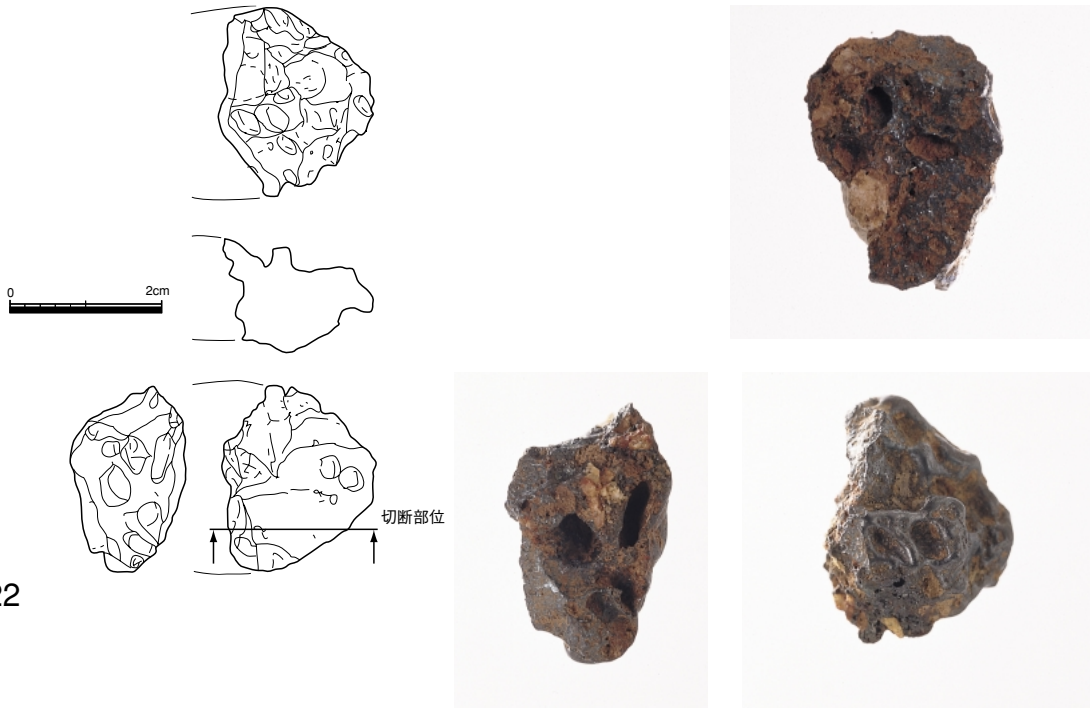
観察所見

平面、不整台形をした小さな鍛冶滓の破片である。同一袋中に２片が収められているが、直接の接合関係は不明である。上・下面と側面の半分以上が生きており、右側面４面が破面である。小さいながらもやや椀形の断面形を示し、側面から下面は青光りしている。上面は緩やかな山形に盛り上がり、表面には数ミリ大の木炭痕が散在する。部分的に酸化物が薄く固着し、錆色となっている。左寄りの側面から下面は、炉床土のかみ込みにより、やや凹凸が激しい。光沢も顕著である。炉床土はやや砂質で、灰色に被熱している。右側面に残る破面は上下で質感が異なり、下半部の滓は結晶が発達し、キラキラと青光りしている。上半部の滓は気孔が大ぶりで、密度が低い。また、中間層に石英質の石片を３ヶ所ほどかみ込んでいるのも特徴である。色調は表面が暗褐色から青黒色、地は光沢を持った青黒色である。もう一つの小破片も、色調や滓質に加えて、石のかみ込みも確認されるため、ほぼ同一資料の破片としてみてよいものであろう。

分析部分　　長軸端部1/5を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。試料量が足りれば小破片側を分析に用いること。残材返却。

備　　考

一般にいう椀形鍛冶滓ほど、大きさ・量ともまとまっていない、小さな鍛冶滓片である。鍛冶炉中の木炭層で、遊離したまま形成された鍛冶滓であろう。分析資料No. 5 もSB04竪穴住居跡出土品ながら、やはり似た資料である。両者の関係に注目しておきたい。なお、本遺跡では通常の形態を持つ椀形鍛冶滓は１点も確認されていない。



第53図　分析資料観察図表（１）

資料番号　2

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡	遺物No.	一括	分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB05竪穴住居跡	時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器		マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過	○ ○	

試料番号	検　鏡：YAH-2 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径　—　cm	色　調	—	遺存度	—
			短径　—　cm		—	破面数	—
遺物種類（名称）	粒状滓（4点）		厚さ　—　cm	磁着度	—	前含浸	—
			重量　—　g	メタル度	な　し	断面樹脂	—

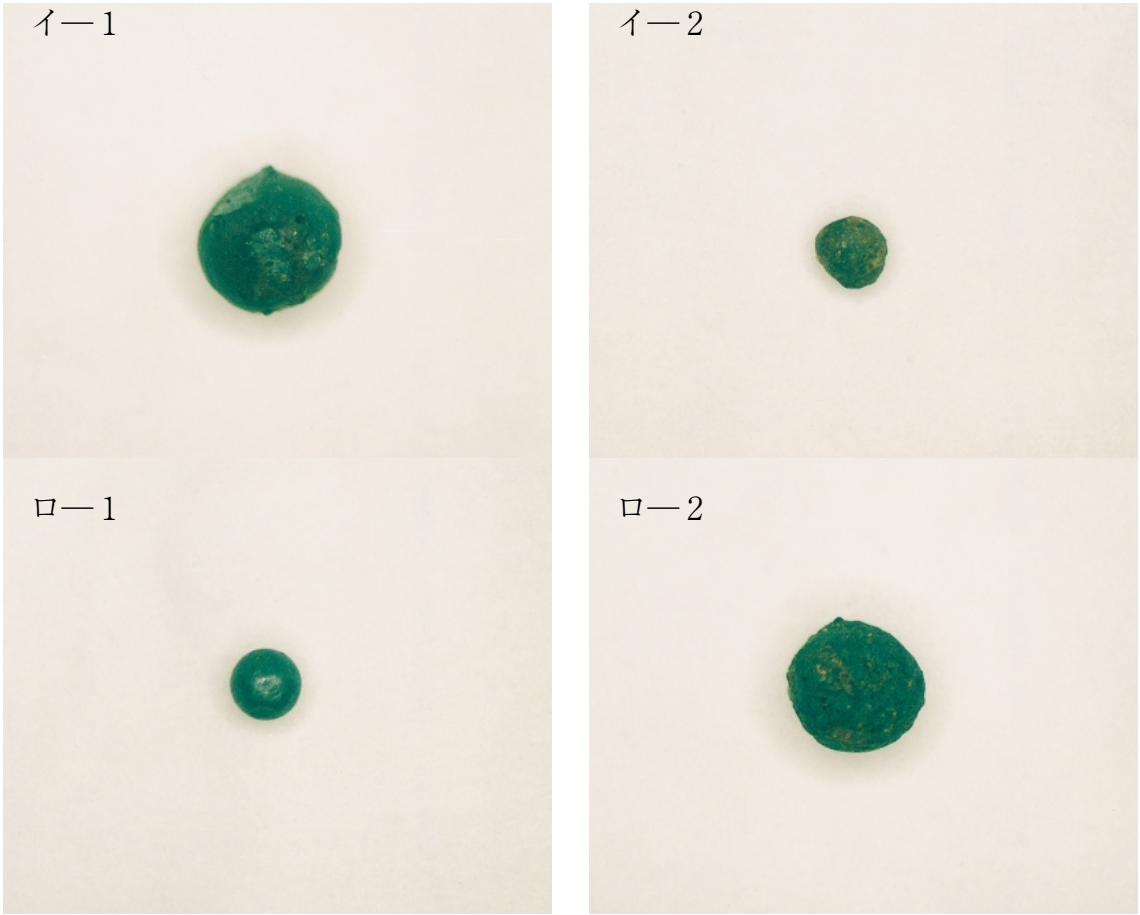
観察所見

SB05竪穴住居跡の覆土（深さ10～25cm厚さ）をメッシュによらず、一括で採取した土砂中からの抽出物である。全体として鍛冶関連遺物の出土量は極めて少ないが、比較的、同一袋中でまとまりそうな資料群として、分析資料No.２・３を選択し、構成したものである。磁着傾向により、強弱に大きく二分した上で、代表的なサイズを各々２点ずつ選択した。2-イ-1と2は磁着弱で、2-ロ-1と2は磁着強である。粒径は2ミリ大と1ミリ大からそれぞれ選択した。詳細は別表参照。

分析部分　　必要品を選択し、粒状滓として分析に用いる。残材返却。

備　　考

覆土一括資料のため、分析資料としては時期の点で今一つ確実性に欠ける資料である。但し、分析資料No.1の鍛冶滓とNo.2の粒状滓、No.3の鍛造剥片は、時期の問題を除けば関連性が濃厚な資料群である。



第54図　分析資料観察図表（２）

矢迫遺跡

資料番号　3

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡		遺物No.	一括			分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB05竪穴住居跡		時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器				マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過	○ ○	
試料番号	検　鏡：YAH-3 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径　—　cm 短径　—　cm 厚さ　—　cm 重量　—　g	色　調	— —	遺存度	—				
						破面数	—				
				磁着度	—	前含浸	—				
遺物種類（名称）	鍛造剥片（6点）			メタル度	な　し	断面樹脂	—				

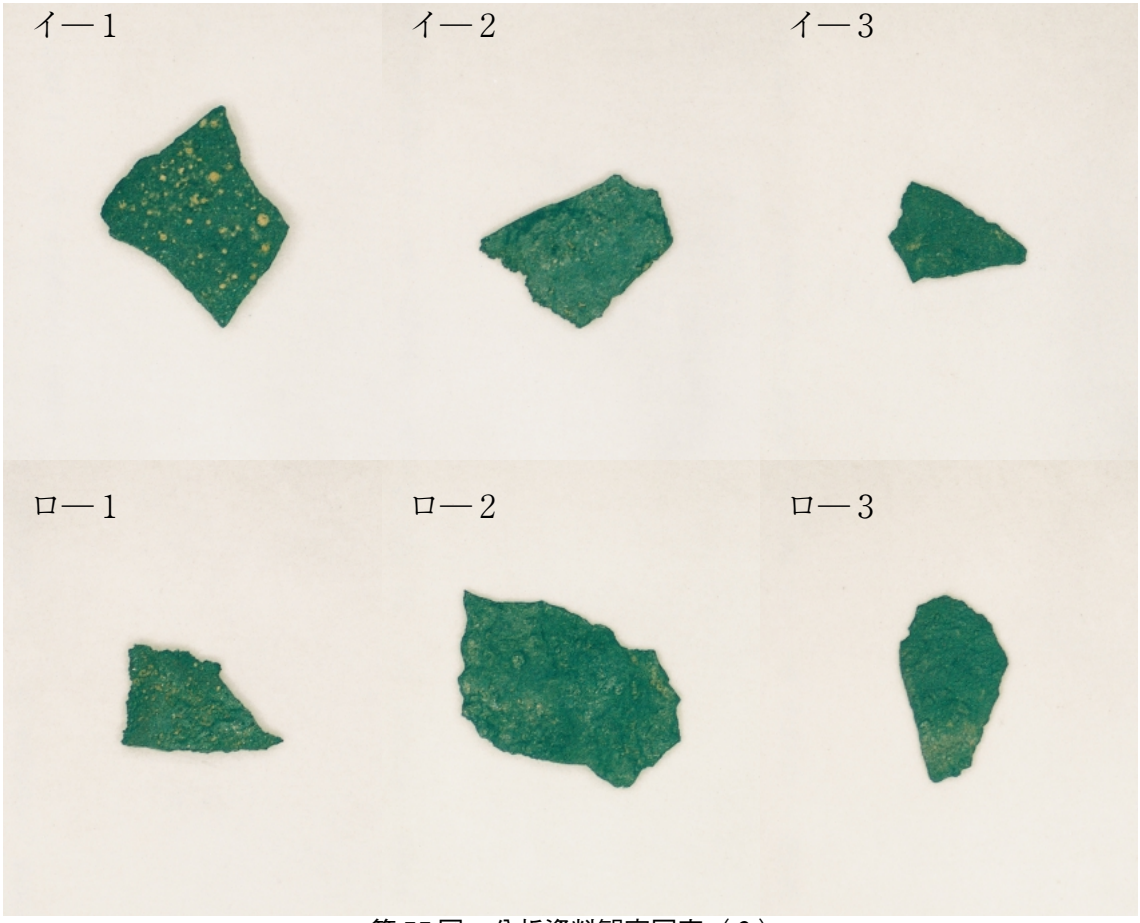
観察所見

SB05竪穴住居跡の覆土（深さ10～25cm厚さ）をメッシュによらず、一括で採取した土砂中からの抽出物である。全体として鍛冶関連遺物の出土量は極めて少ないが、比較的、同一袋中でまとまりそうな資料群として、分析資料No.２・３を選択し、構成したものである。磁着傾向により、強弱に大きく二分した上で、代表的な鍛造剥片の厚みごとに分析資料を選択した。3-イ-1から3は磁着弱で、3-ロ-1から3は磁着強である。厚みは3-イ-1が0.39mm、3-イ-2が0.23mm、3-イ-3が0.12mmである。3-ロ-1は0.28mm、3-ロ-2が0.12mm、3-ロ-3が0.06mmである。相対的に磁着弱より強の方が薄くなっていることになる。詳細は別表を参照。

分析部分　必要品を選択し、鍛造剥片として分析に用いる。残材返却。

備　考

覆土一括資料のため、分析資料としては時期の点で今一つ確実性に欠ける資料である。但し、分析資料No.1の鍛冶滓とNo.2の粒状滓、No.3の鍛造剥片は、時期の問題を除けば関連性が濃厚な資料群である。



第55図　分析資料観察図表（３）

資料番号　4

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡	遺物No.	一括	分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB05竪穴住居跡	時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器		マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過		◎ （○）

試料番号	検　鏡：YAH-4 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径	0.9 cm	色　調	黄褐色	遺存度	破片
			短径	0.5 cm		黒褐色	破面数	2
遺物種類（名称）	鉄製品（釘状不明）		厚さ	0.5 cm	磁着度	3	前含浸	—
			重量	0.2　g	メタル度	△	断面樹脂	—

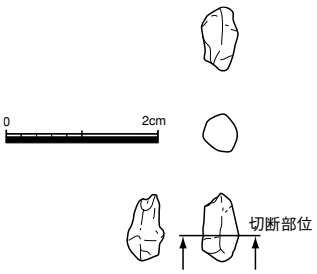
観察所見

極めて小さな鉄製品の破片である。外周部に酸化土砂がやや厚く、形状も今一つはっきりしないため、現状では釘状不明品としておく。長軸の一方がはっきりした破面で、もう一方も破面の可能性があり、破面数は2とみておく。太い方の端部からみると断面がやや方形に見え、逆の細い方からみると、径3.3mmほどの丸棒状の外観を示す。側面片側の中央部付近と太い方の先端部には小さな突起がみられ、一種の頭折れ釘の頭部様の外観を示す。ただし、釘とすれば頭部の大半が欠落している可能性があろう。全体に錆化が進み、メタル部は残っていない。表面の大半は薄皮状の酸化物に覆われている。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。

分析部分　全量を使用し、鉄製品の錆化部を中心に分析に用いる。残材あれば返却。

備　考

出土位置も覆土一括資料のためはっきりせず、遺物名としても確定しにくい資料である。本遺跡では同様の遺物名の明らかでない用途不明の鉄製品の破片が、大半の竪穴住居跡の覆土中から出土しており、時期が異なると考えられる遺構からも形態のよく似た小さな鉄製品の破片がかなり数多く確認されているという問題点がある。このため、分析資料No.1～3の鍛冶関連資料に比べて、鉄製品の破片類は遺構との関連性や時期について今一つ不安な面を持つ遺物である。



32

第56図　分析資料観察図表（4）

矢迫遺跡

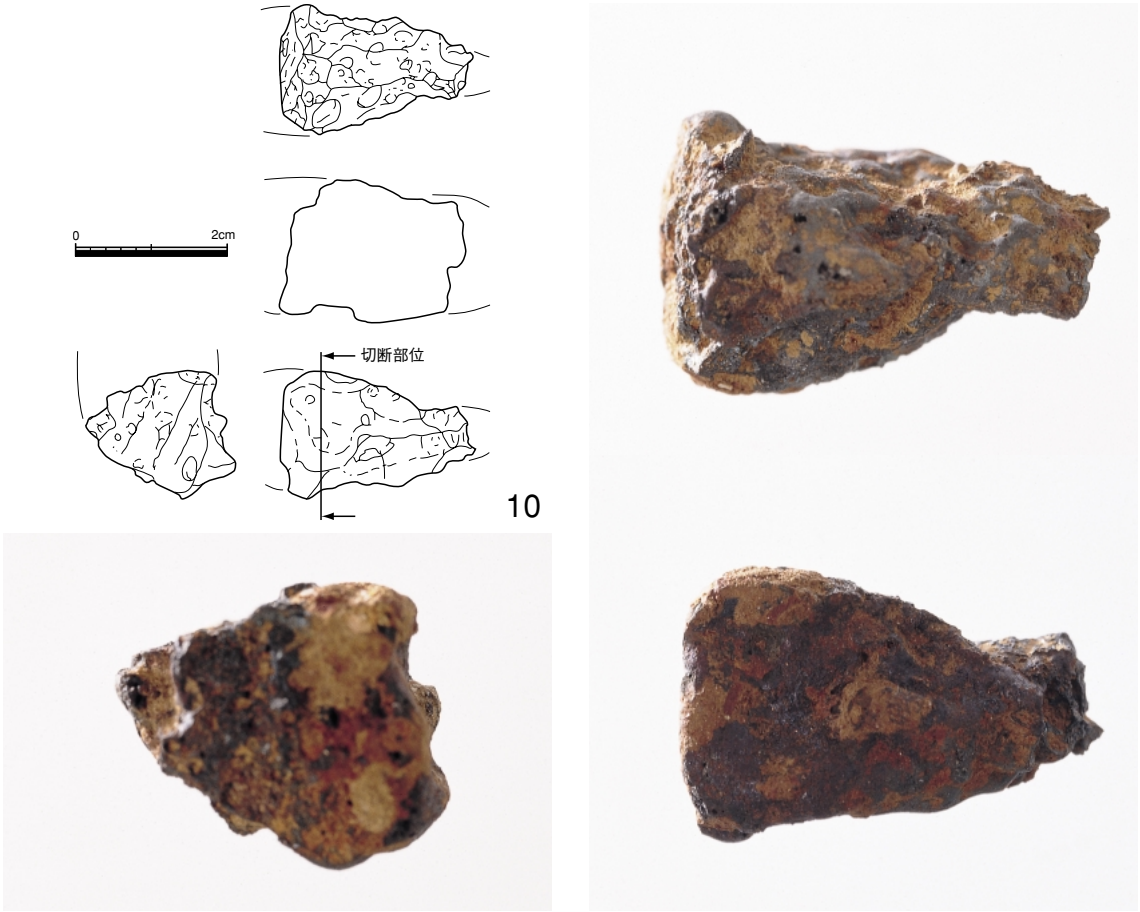
資料番号　5

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡	遺物No.	一括	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	SB04竪穴住居跡	時期・根拠	7世紀後半？：出土土器		マクロ 検鏡 硬度 CMA X線回折 化学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過	○ ○	

試料番号	検鏡：YAH-5 化学：— 放射化：—	法量	長径 2.5 cm 短径 1.7 cm 厚さ 2.0 cm 重量 9.2 g	色調	茶褐色～青黒色 青黒色	遺存度	破片
						破面数	3
遺物種類（名称）	鍛冶滓			磁着度	1	前含浸	—
				メタル度	な し	断面樹脂	—

観察所見
　平面、長手の不整台形をした、小さな鍛冶滓片である。上・下面と側面の一部が生きており、側面３面がシャープな破面である。上面は緩やかな波状で、凹部は小さな木炭痕である。生きている肩部の平面形は緩やかな弧状で、底面にかけては全体的に小さな凹凸により覆われている。一部の窪み中には鍛冶炉の炉床土が確認され、凹凸そのものが鍛冶炉の炉床土を写したものである可能性が高い。破面はかなり結晶の発達した緻密な滓層で、部分的にキラキラした光沢を持つ。また一部に、斜め上方にのびる細長い気孔も確認できる。破面の上端寄りには石英質の石粒が確認できるが、これは付着したものではなく、巻き込まれている可能性が高い。資料全体の外観は、まとまりの悪い鍛冶滓の肩部破片と推定される。色調は表面が茶褐色から青黒色、地は青黒色である。

分析部分　長軸端部1/5を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。残材返却。
備　考
　出土遺構は異なるが、分析資料No.1の鍛冶滓とかなり似た外観の滓資料である。まとまりの悪い遊離した鍛冶滓片であろう。なお、結晶の発達が両資料とも目立ち、外観的には鉱石系原料の鍛冶滓の可能性が大と推定される。周辺地域では近江北部で６世紀後半から鉱石製錬が開始されており、時期や地域的にはこれらとつながる可能性も想定されよう。さらに愛知県小牧市狩戸山遺跡においても縦置き型の箱形炉が調査されており、これらとの関連性も疑われる資料である。



第57図　分析資料観察図表（５）

資料番号　6

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡	遺物No.	一括	分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB04竪穴住居跡	時期・根拠	7世紀後半？：出土土器		マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過		○ ◎ (○)

試料番号	検　鏡：YAH-6 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径	1.6 cm	色　調	茶褐色	遺存度	破片
			短径	0.8 cm		黒褐色	破面数	2
遺物種類（名称）	鉄製品（釘？）		厚さ	0.7 cm	磁着度	3	前含浸	—
			重量	0.8　g	メタル度	△	断面樹脂	—

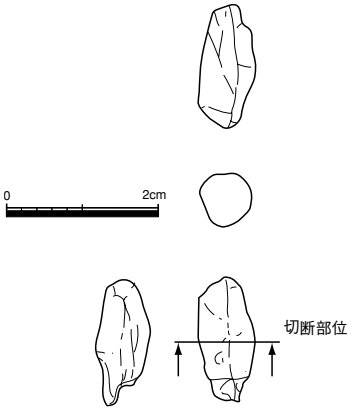
観察所見

径2.9mm前後の横幅を持つ、方柱状の鉄製品の破片である。外周部はやや厚い酸化土砂に覆われている。鉄製品そのものは外周部が厚さ0.75mm程度の被膜状の酸化物となっている。芯部は錆化が進み、径1.7mm前後の中空部となり、内部に明るい茶褐色の酸化物（土砂？）が詰まっている。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。

分析部分　長軸端部1/2を直線状に切断し、鉄製品錆化部を中心に分析に用いる。残材返却。

備　考

細身の角釘または鉄鏃の軸部に相当する小破片と考えられる。外見的には完全に錆化しており、磁着も弱めである。外周部の酸化土砂が厚く、実際の鉄製品そのものより外見上は太くなっている。



13

第58図　分析資料観察図表（6）

矢迫遺跡

資料番号　7

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡		遺物No.	一括		分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB04竪穴住居跡		時期・根拠	7世紀後半？：出土土器			マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過		◎ (○)
試料番号	検　鏡：YAH-7 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径　1.25 cm	色　調	茶褐色～暗褐色	遺存度	破片			
			短径　0.5 cm		黒褐色	破面数	2			
遺物種類（名称）	鉄製品（釣針状）		厚さ　0.3 cm	磁着度	2	前含浸	—			
			重量　0.2 g	メタル度	△	断面樹脂	—			

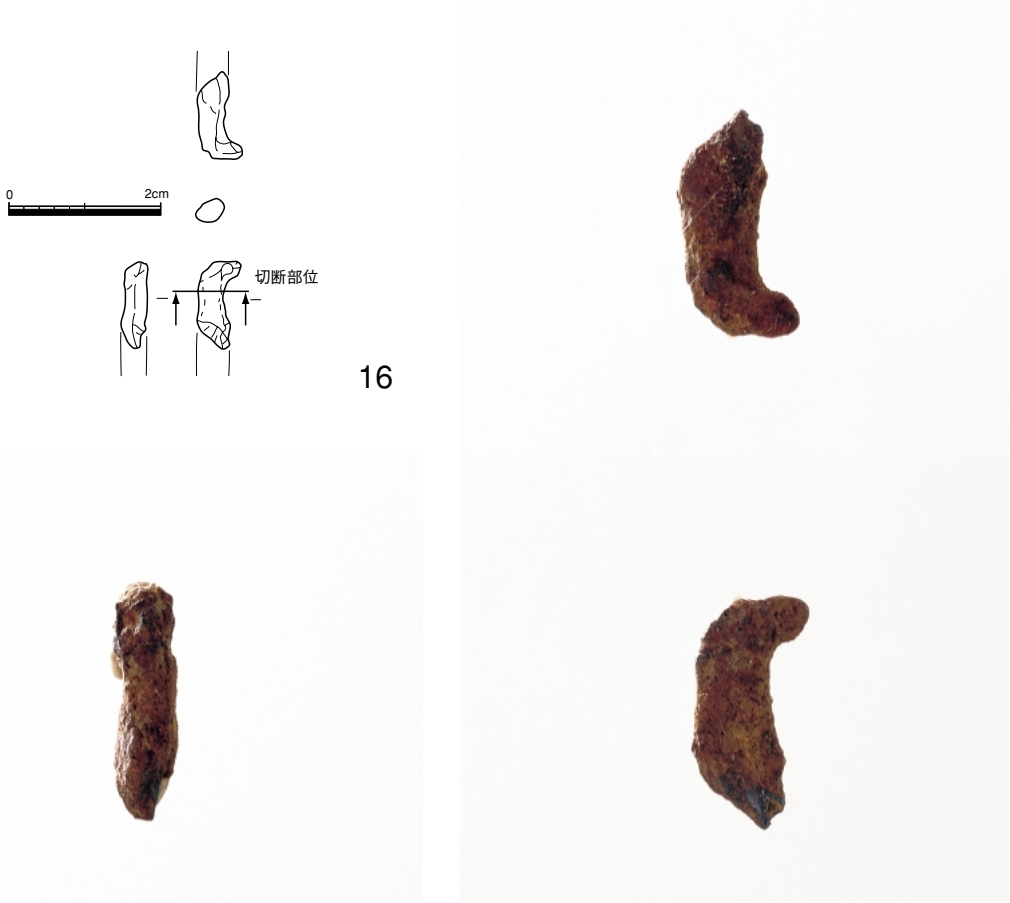
観察所見

鉤状に曲がった先端部を持つ小さな鉄製品の破片である。酸化土砂がやや厚く、見かけはやや大きいが、鉄製品そのものは径1.9mm前後の円形断面を持つ釣針状の遺物である。破面数は２を数える。断面形が円形であるという点で、釘の足部側の曲がったものではないと考えられる。鉄部は錆化が進み、内部は径0.7mmほどの中空部となっており、外周部は厚さ0.35mm前後の薄皮状の鉄錆化物である。色調は表面が茶褐色から暗褐色、地は黒褐色である。

分析部分　長軸端部を2/3を直線状に切断し、鉄製品の錆化部を中心に分析に用いる。残材返却。

備　考

肉眼観察では、小型の釣針の体部から先端部に相当する破片かと推定される。鉤状に折れ曲がった部分は長さ2.5mmほどで途切れており、先端部そのものは欠落している可能性があろう。なお、棘（かえし）部は現状では確認されない。



第59図　分析資料観察図表（７）

資料番号　8

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡	遺物No.	一括	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	SB09竪穴住居跡	時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器		マクロ 検鏡 硬度 CMA X線回折 化学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過		○ ◎ (○)

試料番号	検鏡：YAH-8 化学：— 放射化：—	法量	長径 1.3 cm 短径 1.0 cm 厚さ 0.4 cm 重量 0.5 g	色調	茶褐色 黒褐色	遺存度	ほぼ完形
						破面数	1
遺物種類（名称）	三角形鉄片（切り削）			磁着度	3	前含浸	—
				メタル度	△	断面樹脂	—

観察所見

平面、長手の不整三角形をした、小さなごく薄い三角形鉄片である。表面はやや厚く酸化土砂が固着し、淡緑色の石片らしきものも含まれている。端部一ヶ所が欠けて、黒褐色の内部の鉄製品の錆化物が露出している。この部分から見る限り、鉄地本来の厚みは0.9mm強と、極めて薄い。また、中心部が部分的に中空状になっており、その外側に鉄錆化部が0.3mmほどの酸化被膜状に残っている。全体的にわずかに反り返っている印象を受けるが、酸化土砂の影響もあり確実とは言いがたい。いわゆる切り屑に相当する可能性が高い遺物である。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。

分析部分　長軸端部1/2を直線状に切断し、鉄製品の錆化部を中心に分析に用いる。残材返却。

備　考

極めて薄い剥片状の三角形鉄片である。もう少し大きければ無頸の三角鏃にもなるが、小さすぎる個体である。ただし、この種の薄手で小さな三角形鉄片（切り屑）が比較的多く出土する事例は、５世紀代から７世紀代頃の鍛冶遺跡に目立つということは指摘できよう。本資料と分析No.1～3・5をトータルに見た場合、年代的には古墳時代に遡る可能性のある鍛冶関連遺物として、括ることができる遺物群かもしれない。

71

第 60 図　分析資料観察図表（８）

矢迫遺跡

資料番号　9

出土状況	遺跡名	矢迫遺跡		遺物No.	一括			分析	項　目	滓	メタル
	出土位置	SB09竪穴住居跡		時期・根拠	7世紀初頭？：出土土器				マクロ 検　鏡 硬　度 CMA X線回折 化　学 耐火度 カロリー 放射化 X線透過		◎ (○)
試料番号	検　鏡：YAH-9 化　学：　— 放射化：　—	法量	長径　0.47cm 短径　0.14cm 厚さ　0.14cm 重量　0.1　g	色　調	茶褐色 黒褐色	遺存度	ほぼ完形				
						破面数	2				
遺物種類（名称）	鉄製品（針状）			磁着度	1	前含浸	—				
				メタル度	△	断面樹脂	—				

観察所見

極めて細い針又はハリガネ状の鉄製品の破片である。長軸の両端部が欠落しており、破面数は２を数える。現状の長さは0.47mmで、芯部の鉄部は錆化して部分的に中空になっており、元の鉄部は中空部の外側に0.2mm前後の厚さの酸化物として残されている。長軸の片側の径は1.0mm大で、もう一方の端部が0.6mm前後である。いずれも横断面形は円形で、長軸片側は丸棒状、もう一方は徐々にすぼまっていることになる。なお、長軸方向に向かってわずかに弧状である。色調は表面が茶褐色、地は黒褐色である。

分析部分　鉄製品の錆化部を中心に全量を分析に用いる。残材があれば返却。

備　考

本遺跡では、時期の異なる竪穴住居跡の覆土からも、本資料と同じような形状の、極めて細い鉄製品の破片が数多く確認されている。いずれも針または針金状の外観を示し、時期的には判断の難しい資料である。ごく新しい金網などをも視野に入れて慎重に検討する必要があろう。

第 61 図　分析資料観察図表（９）

た。この資料からは鉄器生産の痕跡は認められない。

（９）ＳＢ 09 出土遺物（69 ～ 72）

針状鉄製品、三角形状鉄片、粒状滓、鍛造剥片が出土した。粒状滓は１点確認され、直径が 1.9mm を測る。小さな凹みが認められた。鍛造剥片は４点存在し、厚さは 0.15 ～ 0.18mm と比較的均一で、光沢を持つものが多い。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す可能性があるが、鍛冶滓が存在しないことや粒状滓や鍛造剥片が少ないことなど、疑問な点も多い。

（10）ＳＢ 13 出土遺物（73 ～ 75）

鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片などの資料が出土した。粒状滓は６点確認され、直径が 1.1mm ～ 1.9mm の大きさに分布する。表皮が剥離したりするものが多い。鍛造剥片は４点存在し、厚さは 0.13 ～ 0.20mm を測る。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す資料群と考えられる。

（11）ＳＢ 14 出土遺物（76 ～ 81）

釘や棒状、環状、針状の鉄製品、粒状滓、鍛造剥片が出土した。粒状滓は８点確認され、直径が 1.1mm ～ 2.7mm を測るものである。表皮に土砂が付着するものが存在する。鍛造剥片は１点存在し、厚さは 0.16mm である。これらの資料は鍛錬鍛冶工程の一部を示す可能性があるが、鍛冶滓が存在しないことや粒状滓や鍛造剥片が少ないことなど、疑問な点も多い。

（12）ＳＢ 16 出土遺物（85 ～ 86）

覆土上層から鍛冶滓と粒状滓が出土した。粒状滓は６点確認され、直径が 1..2 ～ 2.9mm を測る。

第４章　自然科学的分析

第１節　鍛冶関連遺物・鉄製品の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TAC センター
大澤正己・鈴木瑞穂

1．いきさつ

矢迫遺跡は愛知県豊田市鴛鴨町矢迫に所在し、碧海台地の縁辺部に立地する。第２東海自動車道に伴う発掘調査の結果、古墳時代後期～奈良時代の遺構として、竪穴建物17棟、掘立柱建物12棟以上、大壁建物3棟以上が検出された。また鍛冶遺構は確認されなかったが、鉄滓・鍛造剥片・砥石などの鍛冶関連遺物が出土しているため、当遺跡における鉄器生産の実態を検討する目的から金属学的調査を実施する運びとなった。

２．調査方法

２－１．供試材

Table.1 に示す。出土鍛冶関連遺物・鉄製品計９点の調査を行った。

２－２．調査項目

（1）肉眼観察

遺物の肉眼観察所見。これらの所見をもとに分析試料採取位置を決定する。

（2）マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の 10 倍もしくは 20 倍で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

（3）顕微鏡組織

切り出した試料をベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000 と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の３μと１μで仕上げて光学顕微鏡観察を行った。なお金属鉄は５％ナイタル（硝酸アルコール液）で、腐食（Etching）している。

(4) ビッカース断面硬度

鉄滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

(5)ＥＰＭＡ（Electron Probe Micro Analyzer）調査

分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性Ｘ線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とＸ線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

(6) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）、：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

（7）粉末Ｘ線回折（X-ray Diffractometer）

Ｘ線回折とは、「単結晶、または粉末試料にＸ線を照射すると、それぞれ固有のＸ線が回折する」現象をいう。Ｘ線回折分析法は、この回折角と回折強度から物質を同定する方法である。この分析法の基本は、状態分析法であり、

物質中の構成元素を求めるものではなく、あくまでも形態と、その量を知ることである。試料調整は、分析用に粉砕したサンプルを更にメノウ乳鉢で細粒化（325メッシュの篩を通る程度）している。鉱物組成の同定には、ASTMカードと比較する方法がとられる。ASTMカードは、ASTM　X－ray Powder Data Fileと呼ばれ、ASTM（American Society for Testing Mataerials）から発行されている。

3．調査結果

(1) SB05竪穴住居跡出土遺物

YAH－1　鍛冶滓

①肉眼観察：2片の小型（8.4 g）の鍛冶滓片である。直接接合はしないものの、同一個体の可能性が高い。上面には数mm大の木炭痕が散在する。側面から下面では灰色に被熱した砂質の炉床土を噛み込んでいる。また滓の上半部は気孔が大ぶりで密度が低い。滓の下半部は光沢が強く、鉱物結晶の成長が予想される。なお、大きい方の破片を顕微鏡観察・ビッカース断面硬度・EPMA調査・化学組成分析の供試材、小さい方の破片を粉末X線回折の供試材に用いた。

②顕微鏡組織：Photo.1①～⑤に示す。①～③のように広い範囲で、素地の暗黒色ガラス質滓中に発達した淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）、及び微細な白色樹枝状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）が晶出する。また④⑤のように、局部的に白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）が凝集して晶出する個所がある。

③ビッカース断面硬度：Photo.1①に淡灰色木ずれ状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は689Hvであった。ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）に同定される。(注1)

④ＥＰＭＡ調査：Photo.8に鉱物相のCOMP（反射電子像）を示す。1の番号をつけた素地のガラス質部分の定量分析値は41.3％SiO_2－19.8％Al_2O_3－3.5％CaO－2.1％Na_2O－25.8％FeOであった。珪酸塩に鉄分を固溶する。2の番号をつけた淡灰色木ずれ状結晶の定量分析値は70.4％FeO－30.0％SiO_2であった。ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）に同定される。3の番号をつけた白色結晶の定量分析値は98.2％FeOであった。ヴスタイト（Wüstite：FeO）に同定される。また4の番号をつけた白色結晶内の微細な晶出物の定量分析値は72.3％FeO－26.5％SiO_2であった。周囲のヴスタイトの影響が及ぼされているがファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）に同定される。

⑤化学組成分析：Table.2に示す。全鉄分（Total Fe）48.03％に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.06％、酸化第1鉄（FeO）57.47％、酸化第2鉄（Fe_2O_3）4.72％の割合であった。ガラス質成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は36.56％と高値で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は1.09％である。砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO_2）は0.22％、バナジウム（V）＜0.01％であった。また酸化マンガン（MnO）は0.07％、銅（Cu）は0.01％であった。純度の高い原料鉄の鍛冶加工で排出された滓である。

⑥粉末X線回折：Fig.1及びTable.3に示す。主要鉱物相はファイヤライト（Fayalite：$FeSiO_4$）である。

当試料はファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）を主要鉱物とする鉄滓である。始発原料（鉄鉱石ないしは砂鉄）に由来する微量元素（Cu、Cr、Mn、Ti、Vなど）はいずれも低値であるため、鉄器製作の鍛錬鍛冶工程での派生物の可能性が高い。なお当試料の調査結果のみから、始発原料が鉱石か砂鉄か判断することは難しい。周辺地域で出土した鍛冶関連遺物の金属学的調査事例の蓄積が望まれる。

YAH－2：粒状滓(注2)

YAH－2：イ－1　2.3mm径（磁着：弱）

①肉眼観察：色調はやや光沢のある青黒色である。やや歪な球状を呈する。表面には刺状の小さな突起が複数認められ、微細な気孔が僅かに散在する。

②マクロ組織：Photo.1⑥に示す。表層に白色で薄膜状の固着物が複数確認される。また内部には約0.01～0.9mm大の気孔が散在する。

③顕微鏡組織：Photo.1⑦～⑨に示す。表層の固着物は薄膜状の鉄酸化物で、微細な鍛造剥片の可能性が高い。また試料本体では微細な白色樹枝状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）が晶出する。

YAH－2：イ－2　1.1mm径（磁着：弱）

①肉眼観察：色調は無光沢の黒褐色である。歪な球状を呈し、表面には細かい凹凸がある。

②マクロ組織：Photo.2①に示す。内部には約0.01～0.5mm大の気孔が散在する。

③顕微鏡組織：Photo.2②～④に示す。微細な白色樹枝状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）が晶出する。

YAH－2：ロ－1　2.1mm径（磁着：強）

①肉眼観察：色調は光沢のある青黒色である。きれいな球状を呈し、表面は比較的滑らかである。

②マクロ組織：Photo.2⑤に示す。酸化土砂中に微細な砂粒が散在する。

③顕微鏡組織：Photo.2⑥に示す。試料の大部分が、鱗片状の粘土鉱物であった。当試料は粒状滓ではなく、土砂が微細な球状に固まったものであった。磁着強は理解に苦しむ。

YAH－2：ロ－2　1.1mm径（磁着：強）

①肉眼観察：色調は光沢のない黒褐色である。やや歪な球状を呈する。表面にはごく小さな突起や、気孔が散在する。

②マクロ組織：Photo.2⑦に示す。中央には不定形の空隙が存在する。またその周囲には約0.01～0.3mm大の気孔が散在する。

③顕微鏡組織：Photo.2⑧～⑩に示す。白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）が凝集して晶出する。磁着強はヴスタイト凝集組織に由来するのであろう。

YAH－3：鍛造剥片(注3)

YAH－3：イ－1　3.0×2.8×0.39mm（磁着：弱）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は平滑で、気孔が散在する。裏面はやや波状で、錆が強い。

②マクロ組織：Photo.3①に示す。表裏面とも凹凸による厚みの変動が著しい。また内部には気孔が散在する。

③顕微鏡組織：Photo.3②に示す。王水腐食により、鉄酸化物としての外層ヘマタイトと中間層マグネタイトの層構造が不明瞭である。内層ヴスタイトは粒状を呈する。全面的に鍛造剥片といいきるには一抹の不安を覚える剥片である。鍛造剥片であれば鍛打工程前半の派生物である。

YAH－3：イ－2　3.0×2.1×0.23mm（磁着：弱）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は平滑で僅かに気孔がある。裏面は光沢を持ち、波状を呈する。

②マクロ組織：Photo.3③に示す。中央部が厚手で、両端部がやや薄くなる形状を呈し、気泡を多発する。

③顕微鏡組織：Photo.3④～⑥に示す。王水腐食により鉄酸化物の層構造らしきものが確認された。外層ヘマタイトは不明瞭ながら中間層マグネタイトは健全である。内層ヴスタイトは凝集するが、粒状の結晶の痕跡を留める。鍛造剥片であればやはり鍛打工程前半の派生物の可能性が高い。

YAH－3：イ－3　2.2×1.7×0.12mm（磁着：弱）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は比較的平滑であるが、筋状の凹凸がみられる。裏面は光沢を持つ波状である。

②マクロ組織：Photo.3⑦に示す。薄手で、ほぼ平坦な剥片である。気泡も少ない。

③顕微鏡組織：Photo.3⑧～⑩に示す。鉄酸化物の3層構造が明瞭に確認された。外層ヘマタイトは極く微厚で不明瞭であるが中間層と内層の鑑別は可能。王水腐食により、中間層マグネタイトと内層ヴスタイトの境界がより鮮明になったが、内層ヴスタイトの腐食による黒変度が少ない。風化の影響が大きいため磁着度は弱となった。全体に非晶質化が進んでいる。鍛打工程後半段階の派生物と推定される。

YAH－3：ロ－1　2.6×1.6×0.28mm（磁着度：強）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面はやや皿状で、気孔が散在する。裏面は光沢を持ち、やや凹凸がある。

②マクロ組織：Photo.4①に示す。表裏面の

凹凸による厚み変動が僅かに認められる。

③顕微鏡組織：Photo.4②に示す。鉄酸化物の層構造が確認された。外層ヘマタイトと中間層マグネタイト、内層黒変ヴスタイトが鑑別できる。内層ヴスタイトは全体に非晶質化が進んでいる。鍛打工程後半段階の派生物である。エッチング効果が現れて磁着強と結びつく。

YAH－3：ロ－2　3.5×2.5×0.12mm（磁着度：強）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。やや光沢があり、微細な粒状の凹凸がある。裏面は小さく波状を呈する。また光沢を持つ部分が点在する。

②マクロ組織：Photo.4③に示す。波打つように湾曲する剥片である。鉄酸化物の3層構造は明瞭である。

③顕微鏡組織：Photo.4④～⑥に示す。鉄酸化物の3層構造が明瞭である。王水腐食で内層ヴスタイトは黒変化して磁着度は強となる。内層ヴスタイトは非晶質化が進んでいる。鍛打工程後半段階の派生物と推定される。

YAH－3：ロ－3　3.1×1.8×0.06mm（磁着度：強）

①肉眼観察：色調は黒褐色である。表面は比較的平滑であるが、微細な粒状の凹凸がある。裏面は青黒く、光沢がある。

②マクロ組織：Photo.4⑦に示す。薄手で平坦な剥片である。気泡の発生はほとんど無し。

③顕微鏡組織：Photo.4⑧～⑩に示す。王水腐食で鉄酸化物の3層構造がより明瞭に確認された。内層ヴスタイトに結晶粒界を残す。鍛打工程中間段階の派生物の可能性が高い。

分析した鍛造剥片は、内層ヴスタイトの状態から1、粒状:イ－1、2、凝集：イ－2→ロ－3、3、非晶質化：イ－3・ロ－1・2の順に派生したと推定される。

YAH－4：鉄製品（針状、不明）

①肉眼観察：細い針状ないしは針金状の鉄製品の小破片である。長軸の両端部が欠損している。錆化により芯部は空洞化する。

②マクロ組織：Photo.8 に示す。横断面はやや歪んだ方形もしくは五角形を呈する。

③顕微鏡組織：Photo.5①～③に示す。錆化が進行し、ゲーサイト（Goethite：α－FeO･OH）となり金属鉄は残存していない。また金属組織の痕跡も確認できなかった。

小結

当遺跡内では鍛冶遺構は確認されていないが、YAH－1～3は、7世紀初頭に比定されるSB05竪穴住居跡覆土中の一括した鍛冶関連遺物で、比較的強い関連性が窺えるため、鍛冶作業の実態を検討するうえで最も注目される遺物群である。

鍛冶滓（YAH－1）は鍛錬鍛冶滓の可能性が高い。また粒状滓（YAH－2）・鍛造剥片（YAH－3）の調査から、一連の鍛錬鍛冶作業が行われたことは言及できよう。

鉄製品（YAH－4）は完全に錆化しており、鍛冶関連遺物との関連性を検討するための情報は得られなかった。また鍛造品に現れる展伸状の介在物やその痕跡及び層状の剥離痕跡などが明瞭に認められなかった。古代の鉄製品の破片である可能性はあるが、より新しい時代の混入品の見方も看過できまい。

(2) SB04 竪穴住居跡出土遺物

YAH－5　鍛冶滓

①肉眼観察：外観はYAH－1鍛冶滓に類似した、まとまりの悪い小型（9.2 g）の鍛冶滓片である。上下面と側面の一部が生きており、側面3面が破面である。上面は緩やかな波状で、小さな木炭痕が散在する。下面は全体に小さな凹凸がみられ、一部鍛冶炉の炉床土が固着する。破面は緻密で光沢が強く、鉱物結晶の発達が窺える。また一部斜め上方に伸びる細長い気孔が確認される。

②顕微鏡組織：Photo.5④～⑧に示す。④は表層部で淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）が晶出する。⑤は試料内部で、発達した淡灰色盤状結晶ファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）、及び微細な白色粒状結晶ヴスタイト（Wüstite：FeO）が晶出する。また⑥は端部で、僅かに1個所ヴスタイト（Wüstite：FeO）が凝集する部分である。また全体に微細な金属鉄粒や、錆化鉄が散在する。

③ビッカース断面硬度：Photo.5⑦⑧に硬度

測定の圧痕を示す。⑦の淡灰色盤状結晶の硬度値は675Hvであった。ファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）に同定される。また、⑧の白色粒状結晶の硬度値は460Hvであった。ヴスタイト（Wüstite：FeO）に同定される。

当試料もYAH－1鍛冶滓と同様に、ファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）を主要鉱物とする鉄滓である。やはり鍛錬鍛冶工程で酸化防止に粘土汁を多用した派生物の可能性が高いと考えられる。

YAH－6：鉄製品（釘？）

①肉眼観察：方柱状の鉄製品の破片である。外周は褐色の酸化土砂に厚く覆われる。一辺の径は2.9mm程で、芯部は錆化により空洞化する。

②顕微鏡組織：Photo.6①～⑤に示す。錆化が進行し、ゲーサイト（Goethite：α－FeO･OH）化して金属鉄は残存していない。また金属組織の痕跡も確認できなかった。

YAH－7：鉄製品（釣針状）

①肉眼観察：先端部が鉤状に曲がる小型の鉄製品の破片である。両端は破面で、断面は径1.9mm程の円形を呈する。小型の釣針片の可能性がある。

②顕微鏡組織：Photo.6⑥～⑧に示す。断面は外周輪郭の半分程度を残した錆化鉄である。金属鉄は残存しない。しかしフェライト素地に少量パーライトが析出する亜共析組織痕跡が残存する。炭素含有量は約0.15％以下の極軟鋼と推定される。

小結

YAH－5～7は7世紀後半に比定されるSB04竪穴住居跡覆土中の一括遺物である。

鍛冶滓（YAH－5）はSB05竪穴住居跡出土鍛冶滓（YAH－1）と酷似する鉱物組成の鉄滓であった。やはり鍛錬鍛冶滓の可能性が高い。

鉄製品（YAH－6・7）は完全に錆化している。このうち釣針状の鉄製品（YAH－7）には金属組織痕跡が残存し、極軟鋼が原料と判明した。しかし鍛冶関連遺物との関連性を検討するための情報は得られなかった。共に折り返し鍛錬の痕跡は不明瞭で、確実に古墳時代の遺物であるか判断が難しい。より新しい時期の混入物の可能性もある。

（3）SB09竪穴住居跡出土遺物

YAH－8：三角形鉄片（切り屑）

①肉眼観察：平面は不整三角形をした小型の鉄片である。厚みは0.9mm程で極めて薄い。鍛冶作業で派生した切り屑の可能性が高い。

②マクロ組織：Photo.8に示す。大きく2片に割れる。左側の破片は膨れを生じ、右側は本来の厚みを残す。本来は0.7～0.8mm程度の厚みを有した薄板状の鉄片である。

③顕微鏡組織：Photo.7①～⑤に示す。該品も錆化が進行し、金属鉄は残存しない。しかし微かにパーライト組織痕跡が残存する。炭素含有量は約0.1～0.2％程の軟鋼であったと推定される。また試料断面に存在する点列状の黒色部のうち、一部は鍛打に展伸した介在物が剥落した痕跡らしくもあるが定かでない。

YAH－9：鉄製品（針状）

①肉眼観察：細い針状の鉄製品である。長軸の両端は破面である。錆化により、芯部は空洞が生じている。

②顕微鏡組織：Photo.7⑥～⑧に示す。断面は不整楕円形状で中核部は空洞化し、全体に錆化が進行し、金属鉄は残存していない。また金属組織の痕跡も確認できなかった。新しい金網などの錆化物とみなすのが妥当であろう。

小結

YAH－8･9は7世紀初頭に比定されるSB09竪穴住居跡覆土中の一括遺物である。どちらも完全に錆化している。ただし三角形鉄片（YAH－8）には金属組織痕跡が残存し、軟鋼と推定される。また展伸状の介在物剥落らしき痕跡が存在し、他の調査を実施した鉄製品よりも折り返し曲げ鍛接の様相を残す。これに対して針状の鉄製品（YAH－9）は鍛錬の痕跡が不明瞭で、0.9mm径の楕円形状を古墳時代の遺物とするには抵抗をおぼえる。より新しい時期の混入物の可能性を提示しておく。

4．まとめ

今回矢迫遺跡で出土した鍛冶関連遺物は、

竪穴住居跡の覆土の一括遺物であるため年代的な問題が残るものの、まとまった鍛冶関連遺物群の調査結果が得られた。金属学的調査事例に乏しい、周辺地域の鉄器生産を検討するうえで貴重な成果となった。

矢迫遺跡出土鍛冶滓2点（YAH－1・5）は、ともに発達したファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）を主要鉱物とする。従来の調査事例をみると、ファイヤライトを主要鉱物とする鉄滓は、鉄鉱石が始発原料の製鉄～鍛冶遺跡での確認例が多い。

ファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）主体の鍛冶滓と、発達したヴスタイト（Wüstite：FeO）結晶とファイヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）で構成される鍛冶滓では、生成要因にどのような差があるかは今後の検討課題である。また今後周辺地域で出土した鍛冶関連遺物の調査事例を蓄積して、鉄素材の始発原料と供給先の問題について検討していく必要がある。

当地域周辺では近江北部が6世紀後半から鉄鉱石を原料とした製鉄が行われており、供給先の候補地の一つとして注目される地域である。(注4)

愛知県内では唯一狩山戸遺跡(注5)で、排滓坑を両側に持つ縦置きの長方形箱形炉が確認され、炉形態から古代の製鉄炉に比定されている。一方、遺跡周辺で採取された炉外流出滓の分析結果によると、チタンの含有量が低く（TiO_2：0.31％）、周辺地域に賦存する砂鉄（TiO_2：30.39％）とは成分的に一致しないため、鉄鉱石を原料にした可能性が指摘されている。(注6)

現在までの所、東海地域の製鉄・鍛冶遺跡の調査報告例はごく僅かで、地域の鉄・鉄器生産に関しても不明瞭であり、今後の発掘調査事例と金属学的調査の蓄積が望まれる。

なお、岐阜県各務原市所在で古墳出土の鉱石製錬滓の出土例がある。中部方面の鉄生産の事例の裾野を広げる資料と考えられるので蛇足ながら付記しておく。(注7)

(注)

(1) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968 当刊行物にはヴスタイトの硬度値は450～500Hv、マグネタイト500～600Hv、ファイヤライトが600～700Hvとある。

(2) 粒状滓は鍛冶作業において凹凸を持つ鉄素材が鍛冶炉の中で赤熱状態に加熱されて、突起部が溶け落ちて酸化され、表面張力の関係から球状化したり、赤熱鉄塊に酸化防止を目的に塗布された粘土汁が酸化膜と反応して、これが鍛打の折に飛散して球状化した微細な遺物である。

(3) 鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌（金肌）やスケールとも呼ばれる。鍛冶工程の進行により、色調は黒褐色から青味を帯びた銀色（光沢を発する）へと変化する。粒状滓の後続派生物で、鍛打作業の実証と、鍛冶の段階を押える上で重要な遺物となる。(注8)

鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト（Hematite：Fe_2O_3）、中間層マグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）、大部分は内層ヴスタイト（Wüstite：FeO）の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450℃を越えると存在しなく、ヴスタイト相は570℃以上で生成されるのはFe－O系平衡状態図から説明される。(注9)

鍛造剥片を王水（塩酸3：硝酸1）で腐食すると、外層ヘマタイト（Hematite：Fe2O3）は腐食しても侵されず、中間層マグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）は黄変する。内層のヴスタイト（Wüstite：FeO）は黒変する。鍛打作業前半段階では内層ヴスタイト

第11表（Table.3） 回折X線パターンによる定性分析結果

試料名	化学式	鉱物名
鍛冶滓　YAH-1	Fe_2SiO_4 （Iron Silicate）	Ｆａｙａｌｉｔｅ

目　　的　鉱物成分調査のため
使用機器　マックスサイエンス社製　MXT3VAHF22型
測定条件　X線発生装置　：3ｋｗ　　管電流　：30.0ｍＡ
線源　：Cu　　データ範囲　：10.020～90.000ｄｅｇ
波長　：1.54056A　　データ点数　：4000
管電圧　：40.0ｋｖ　　スキャン速度　：1.000ｄｅｇ/ｍｉｎ

第12表（Table.1） 供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測 値		磁着度	メタル度	調査項目								備考
					大きさ(ｍｍ)	重量(ｇ)			マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	ｶﾛﾘｰ	
YAH-1	矢迫	SBO5竪穴住居跡	鍛冶滓	7c初頭?	24.5×20×15	8.4	2	なし		○	○	○	○	○			
YAH-2	矢迫	〃	粒状滓(4点)	〃	-	-	-	なし	○	○							
YAH-3	矢迫	〃	鍛造剥片（6点）	〃	-	-	-	なし	○	○							
YAH-4	矢迫	〃	鉄製品（針状不明）	〃	9×5×5	0.2	3	錆化（△）	○	○							
YAH-5	矢迫	SBO4竪穴住居跡	鍛冶滓	7c後半?	25×17×20	9.2	1	なし		○	○						
YAH-6	矢迫	〃	鉄製品（釘？）	〃	16×8×7	0.8	3	錆化（△）		○							
YAH-7	矢迫	〃	鉄製品（釣針状）	〃	12.5×5×3	0.2	2	錆化（△）		○							
YAH-8	矢迫	SBO9竪穴住居跡	三角形鉄片（切り削）	7c初頭?	13×10×4	0.5	3	錆化（△）	○	○							
YAH-9	矢迫	〃	鉄製品（針状）	〃	4.7×1.4×1.4	～0.1	1	錆化（△）		○							

第13表（Table.2） 供試材の組成

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第１鉄 (FeO)	酸化第２鉄 (Fe_2O_3)	＊二酸化珪素 (SiO_2)	＊酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ (Al_2O_3)	＊酸化ｶﾙｼｳﾑ (CaO)	＊酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ (MgO)	＊酸化ｶﾘｳﾑ (K_2O)	＊酸化ﾅﾄﾘｳﾑ (Na_2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)	二酸化ﾁﾀﾝ (TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	Σ＊ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	造滓成分	造滓成分 / Total Fe	TiO_2 / Total Fe	注
YAH-1	矢迫	SBO5竪穴住居跡	鍛冶滓	7c初頭?	48.03	0.06	57.47	4.72	28.90	5.04	0.77	0.32	1.23	0.30	0.07	0.22	<0.01	-	0.17	-	<0.01	0.01	36.56	0.761	0.005	

第14表（Table. 4） 出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	調査項目								所見
						Total Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	ガラス質成分	Cu	
YAH-1	矢迫	SBO5竪穴住居跡	鍛冶滓	7c初頭?	F＋W　X線回折でファイヤライト検出	48.03	0.06	1.09	0.22	<0.01	0.07	36.56	0.01	鍛錬鍛冶滓の可能性
YAH-2	矢迫	〃	粒状滓(4点)	〃	イ-1･2:W+F、ロ-2:W凝集、（ロ-1:酸化土砂粒）	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛打作業前半段階の派生物
YAH-3	矢迫	〃	鍛造剥片（6点）	〃	3層分離型、(イ-1:W粒状、イ-2・ロ-3:W凝集、イ-3・ロ-1･2:W非晶質化)	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛打作業前半～後半段階の派生物
YAH-4	矢迫	〃	鉄製品（針状不明）	〃	断面:不整方形（菱形）、錆化鉄、金属組織痕跡は残存しない	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛錬の痕跡不明瞭
YAH-5	矢迫	SBO4竪穴住居跡	鍛冶滓	7c後半?	F＋W	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛錬鍛冶滓の可能性
YAH-6	矢迫	〃	鉄製品（釘？）	〃	断面:方形、錆化鉄、金属組織痕跡は残存しない	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛錬の痕跡不明瞭
YAH-7	矢迫	〃	鉄製品（釣針状）	〃	断面:不整円形、錆化鉄、亜共析組織痕跡	-	-	-	-	-	-	-	-	極軟鋼を用いた鉄製品
YAH-8	矢迫	SBO9竪穴住居跡	三角形鉄片（切り削）	7c初頭?	断面:一定の厚みの薄板状、錆化鉄、亜共析組織痕跡、	-	-	-	-	-	-	-	-	軟鋼、鍛錬痕跡あり、鍛冶作業に伴う派生物か？
YAH-9	矢迫	〃	鉄製品（針状）	〃	断面:不整円形、錆化鉄、金属組織痕跡は残存しない	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛錬の痕跡不明瞭、　金網の屑か

F：Fayalite($2FeO \cdot SiO_2$)　　W：Wüstite(FeO)

目次
終了

（Wüstite：FeO）が粒状化を呈し、鍛打仕上げ時になると非晶質化する。鍛打作業工程のどの段階が行われていたか推定する手がかりともなる。

(4)　穴澤義功氏の遺物観察表の指摘（資料番号5）

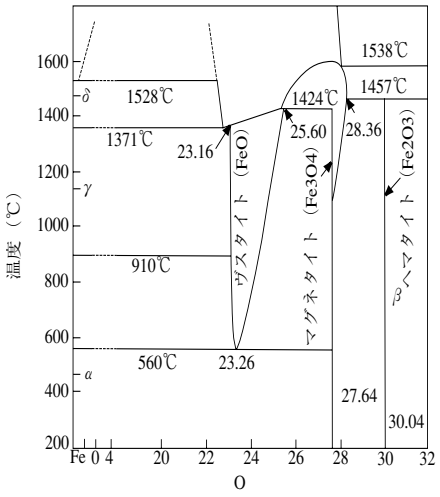
(5)『桃花大沿線開発事業地区内発掘調査概要書（２）』小牧市教育委員会　1986

(6)　横井時秀「４．濃尾の古い鉄文化と歴史」『社会鉄鋼部会2000年度秋季シンポジウム論文集　人間・社会・環境との新しい調和を求めて－ＸⅡ　本州中央部における鉄文化の展開』社会法人日本鉄鋼協会　学会部門　社会鉄鋼部会編　2000

(7)　大澤正己「各務原市内出土鉄滓の金属学的調査」『蘇原東山遺跡群発掘調査報告書』（各務原市文化財調査報告第26号）各務原市埋蔵文化財調査センター 1999.3

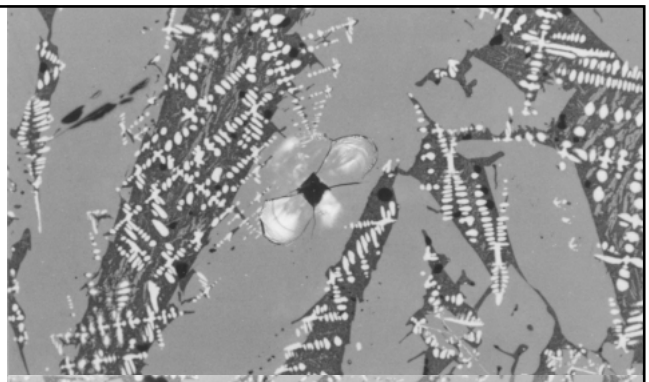
(8) 大澤正己「房総風土記の丘実験試料と発掘試料」『千葉県立房総風土記の丘　年報15』（平成3年度）千葉県房総風土記の丘 1992

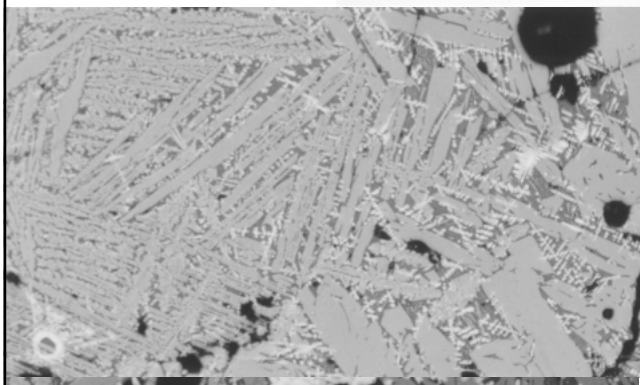
(9) 森岡ら「鉄鋼腐食科学」『鉄鋼工学講座』11 朝倉書店 1975

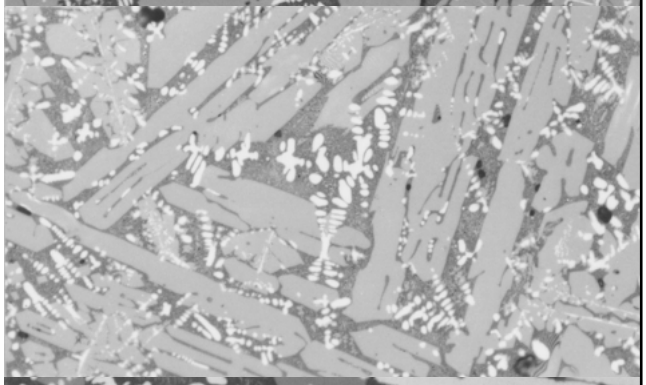


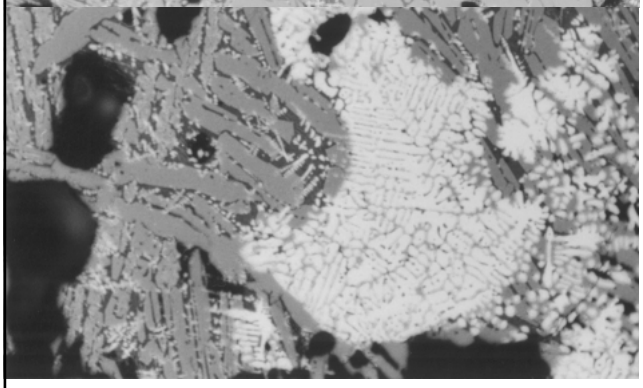
第62図　Fe-O系平衡状態図

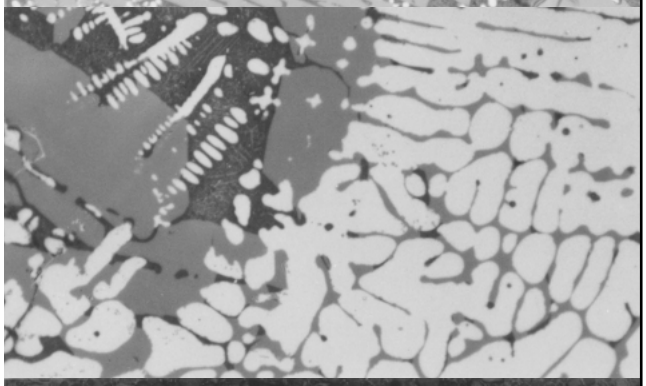
ＹＡＨ―１
鍛冶滓
①× 200 硬度圧痕：689Hv
ファイヤライト
②× 100 ③× 400
微小ヴスタイト・ファイヤライト
④× 100 ⑤× 400
ヴスタイト凝集・ファイヤライト

①


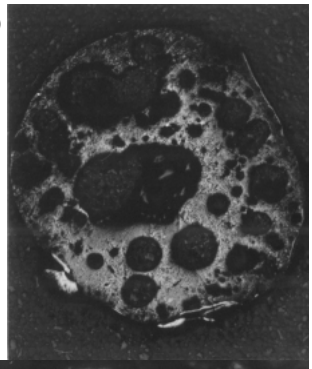
②


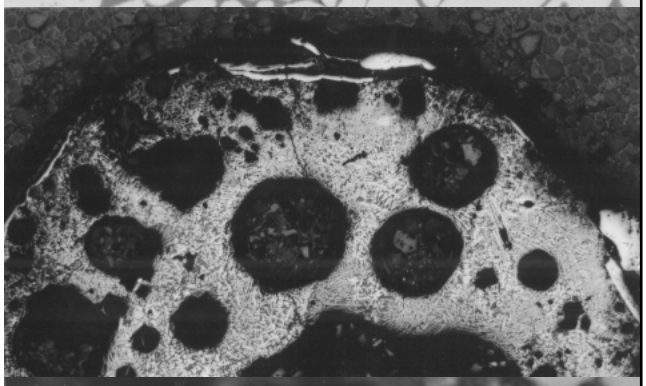
③


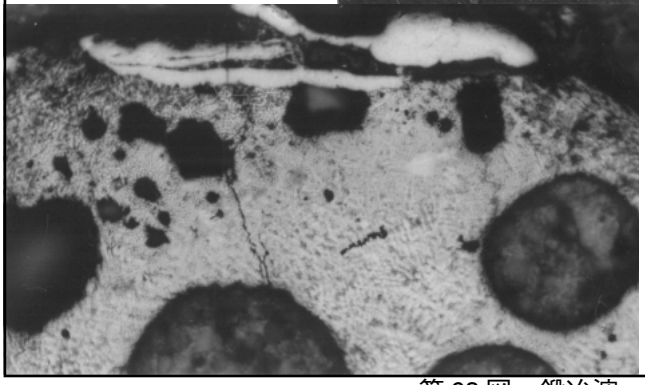
④


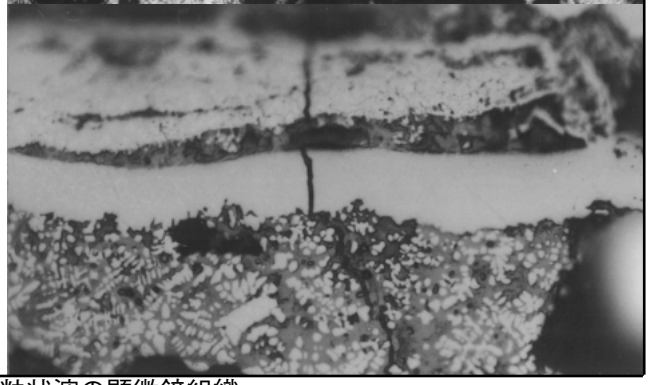
⑤


ＹＡＨ―２　イ―１
粒状滓
⑥× 20 マクロ組織
⑦× 50 ⑧× 100 ⑨× 400
表層：鍛造剥片付着か
ヴスタイト・ファイヤライト

⑥


⑦


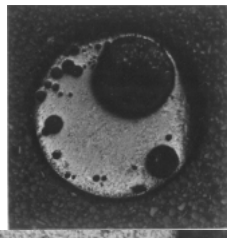
⑧


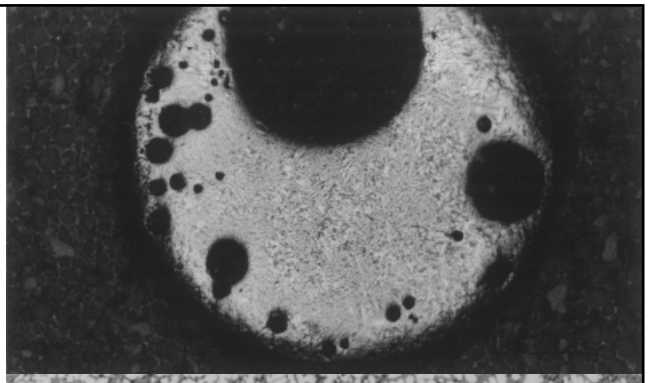
⑨


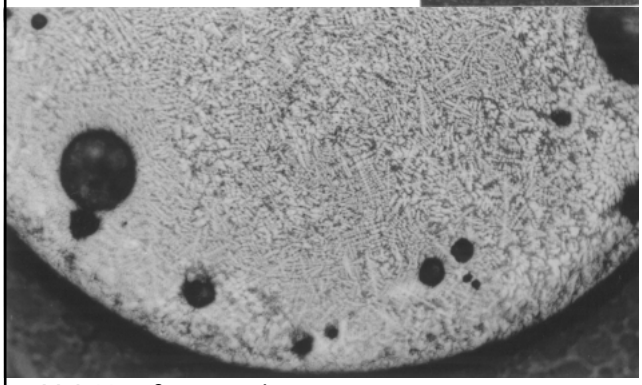
第 63 図　鍛冶滓・粒状滓の顕微鏡組織

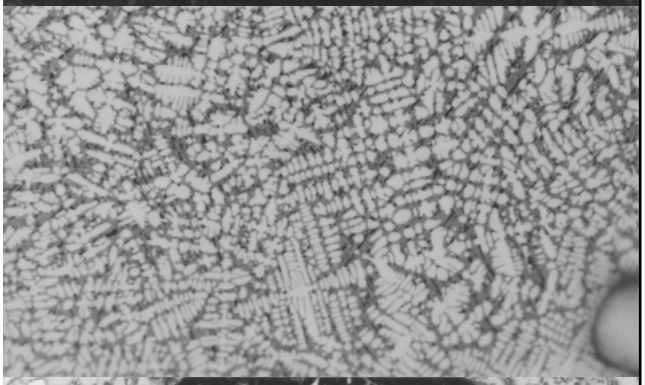
矢迫遺跡

ＹＡＨ―２　イ―２
粒状滓
①× 20 マクロ組織
②× 50 ③× 100 ④× 400
表層：鍛造剥片付着か
ヴスタイト・ファイヤライト

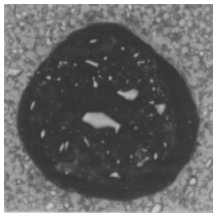


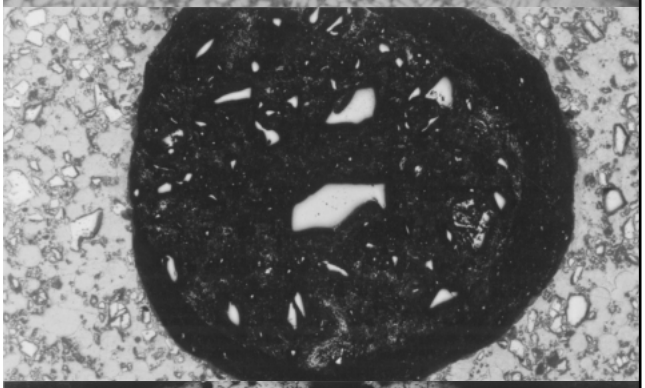




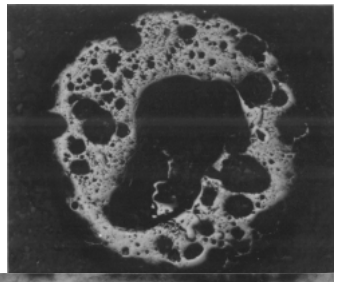


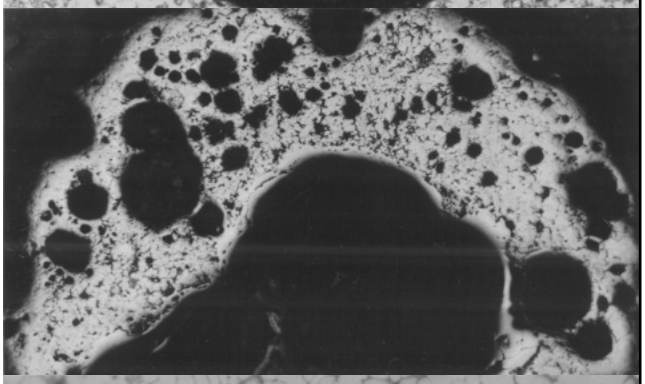
ＹＡＨ―２　ロ―１
擬似粒状滓
（微細酸化土砂粒）
⑤× 20 マクロ組織
⑥× 50 粘土鉱物
混入鉱物（砂粒）

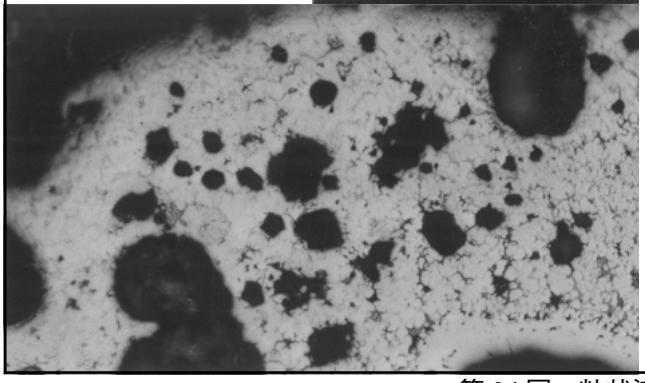


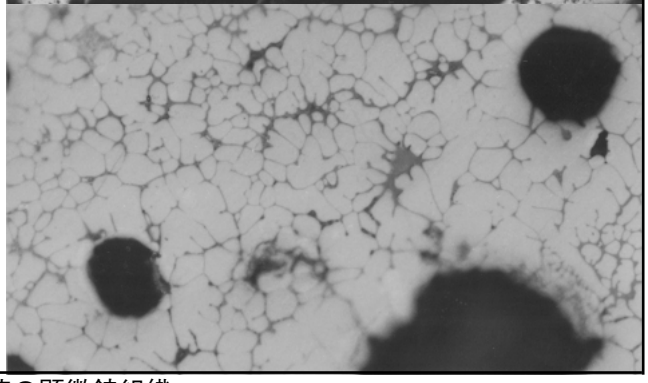


ＹＡＨ―２　ロ―２
粒状滓
⑦× 20 マクロ組織
⑧× 50 ⑨× 100 ⑩× 400
ヴスタイト凝集





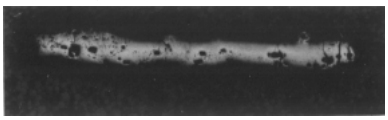




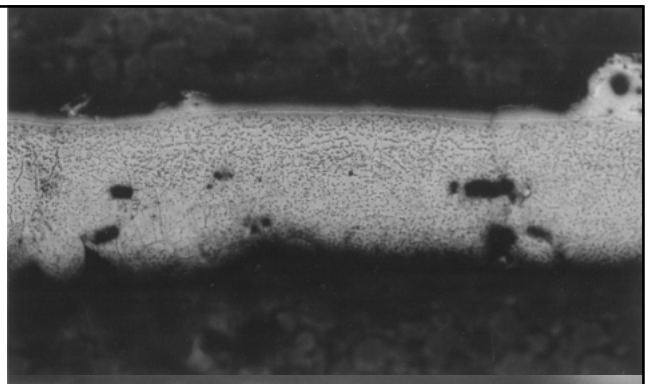
第 64 図　粒状滓の顕微鏡組織

ＹＡＨ―３　イ―１
鍛造剥片
①② 王水 etch
①× 20 マクロ組織
②× 100 ３層分離型
内層ヴスタイト粒状

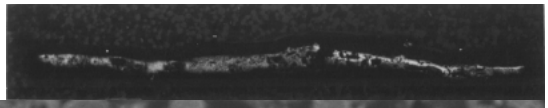
①



②

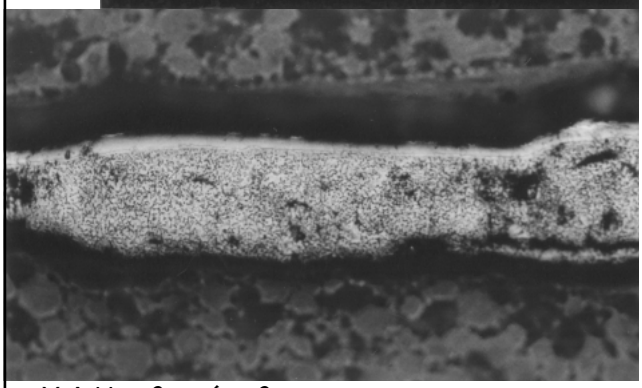


③　ＹＡＨ―３　イ―２
鍛造剥片
③× 20 王水 etch マクロ組織
④× 400 no etch
⑤× 100 ⑥× 400 王水 etch
３層分離型
内層ヴスタイト凝集

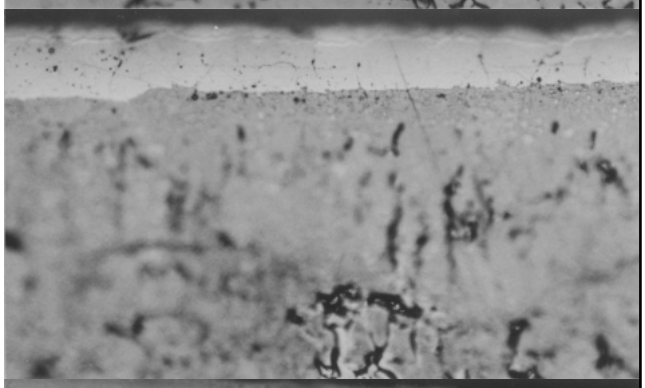


④

⑤



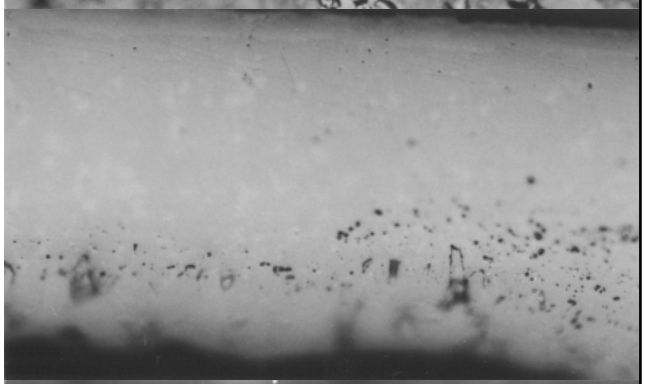
⑥



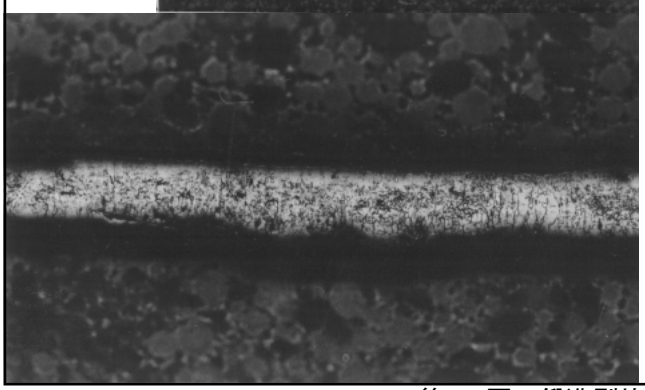
ＹＡＨ―３　イ―３
鍛造剥片
⑦× 20 王水 etch マクロ組織
⑧× 400 no etch
⑨× 100 ⑩× 400 王水 etch
３層分離型
内層ヴスタイト非晶質化

⑦

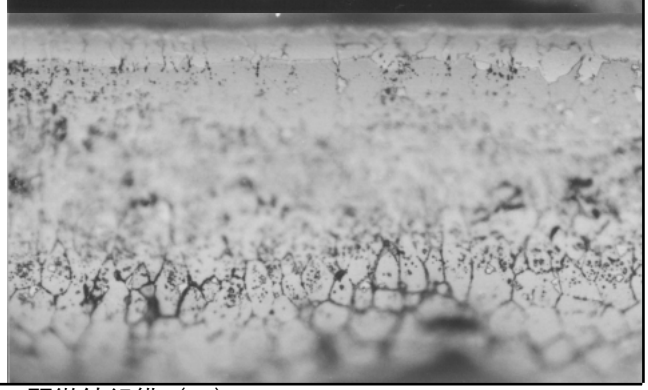
⑧



⑨



⑩

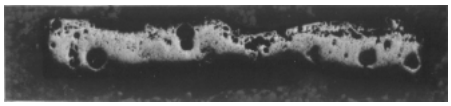


第 65 図　鍛造剥片の顕微鏡組織（１）

矢迫遺跡

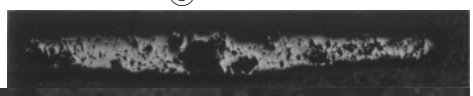
ＹＡＨ―３　ロ―１
鍛造剥片
①② 王水 etch
①× 20 マクロ組織
②× 100 ３層分離型
内層ヴスタイト非晶質化

①

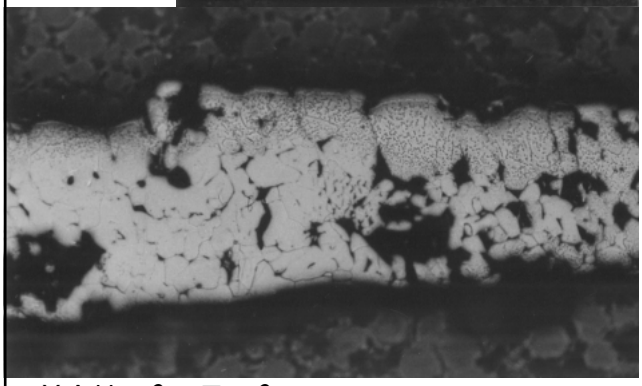


ＹＡＨ―３　ロ―２
鍛造剥片
③× 20 王水 etch マクロ組織
④× 400 no etch
⑤× 100 ⑥× 400 王水 etch
３層分離型
内層ヴスタイト非晶質化

③

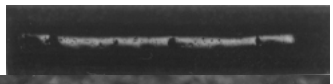


⑤

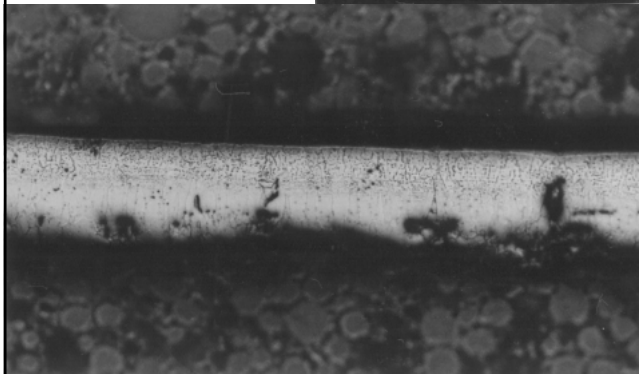


ＹＡＨ―３　ロ―３
鍛造剥片
⑦× 20 王水 etch マクロ組織
⑧× 400 no etch
⑨× 100 ⑩× 400 王水 etch
３層分離型
内層ヴスタイト凝集

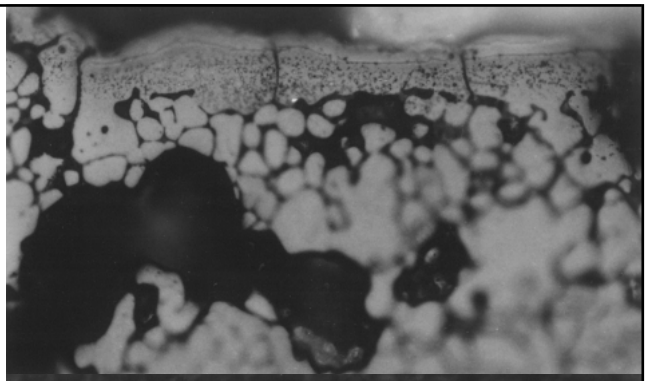
⑦



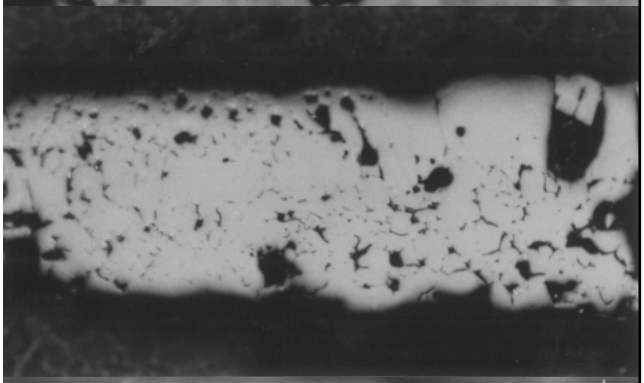
⑨



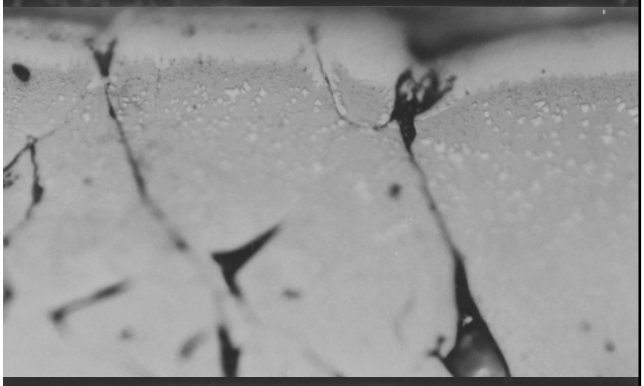
②



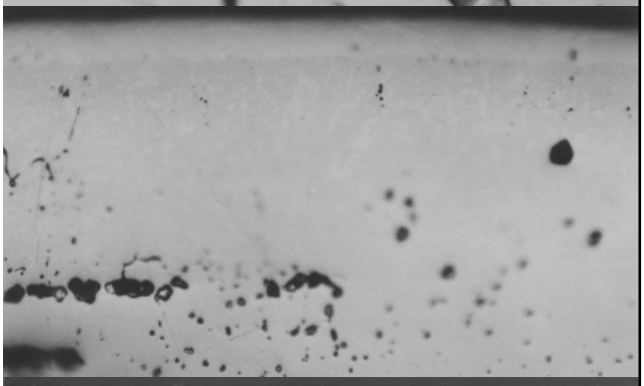
④



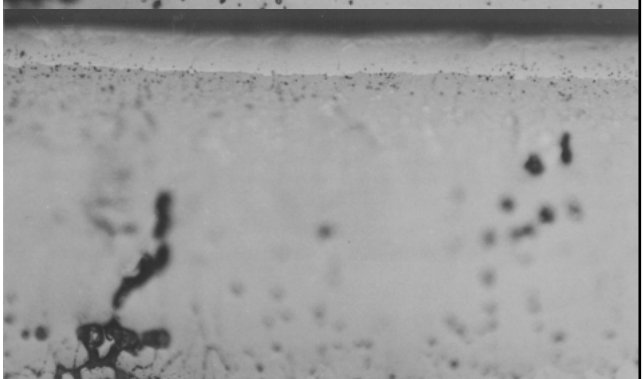
⑥



⑧



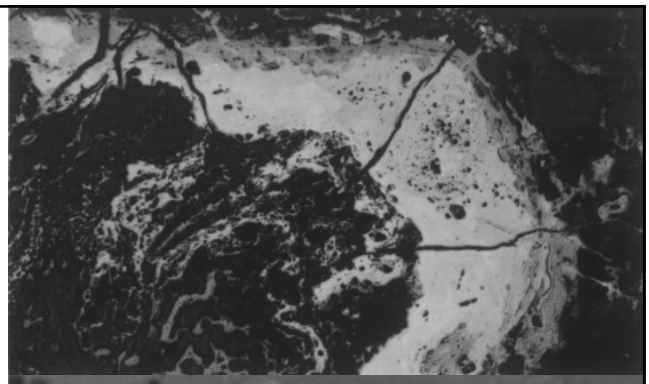
⑩



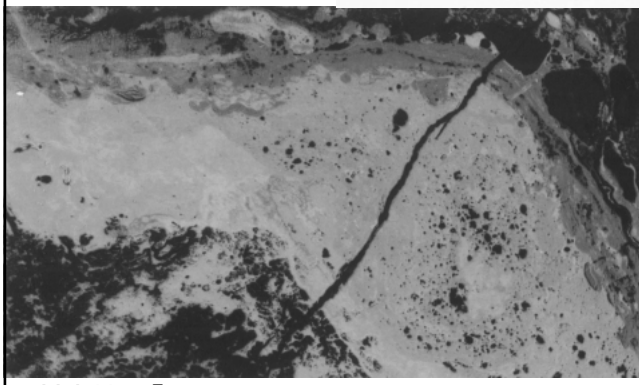
第 66 図　鍛造剥片の顕微鏡組織（２）

ＹＡＨ―４
鉄製品（釘状不明）
①× 50 ②× 100 ③× 400
錆化鉄
（金属組織痕跡は残存しない）

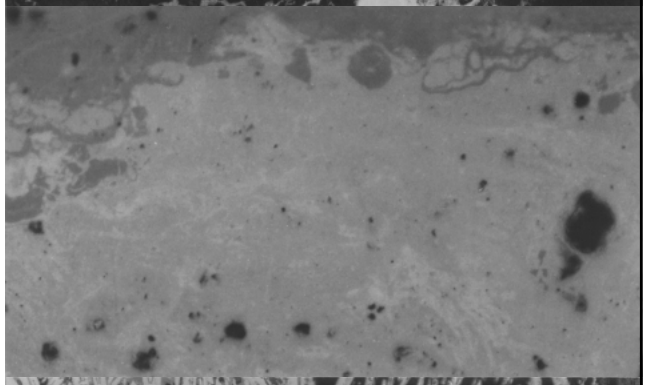
①



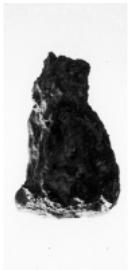
②



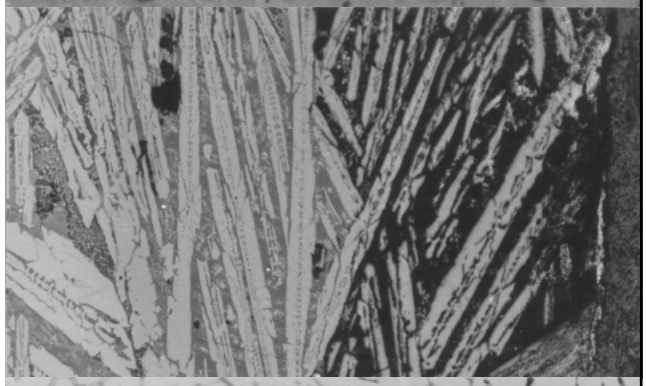
③



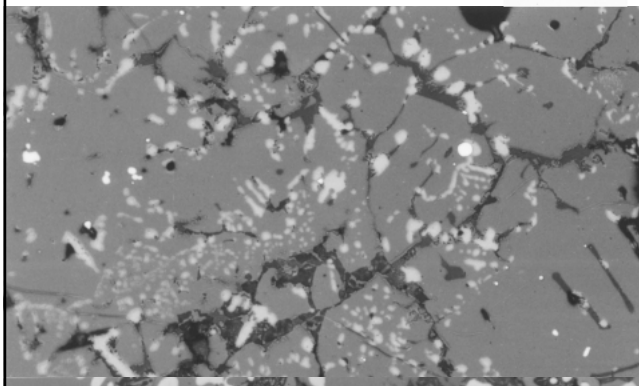
ＹＡＨ―５
鍛冶滓
④× 100 ファイヤライト
⑤× 100 微小ヴスタイト・ファイヤライト・
微小金属鉄粒散在
⑥× 100 ヴスタイト凝集・微小金属鉄粒散在
⑦⑧× 200 硬度圧痕：
⑦ 657Hv, ファイヤライト
⑧ 460Hv, ヴスタイト
ヴスタイト凝集・ファイヤライト



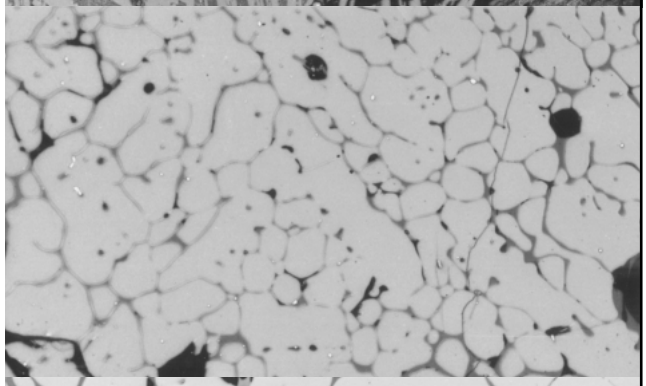
④



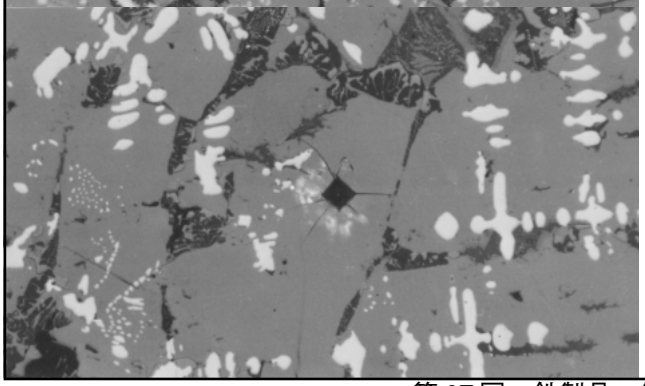
⑤



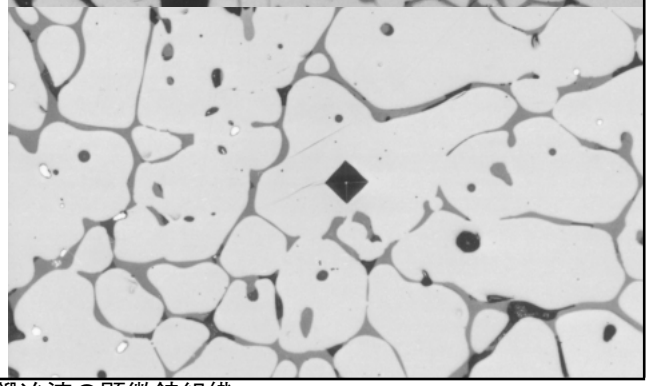
⑥



⑦



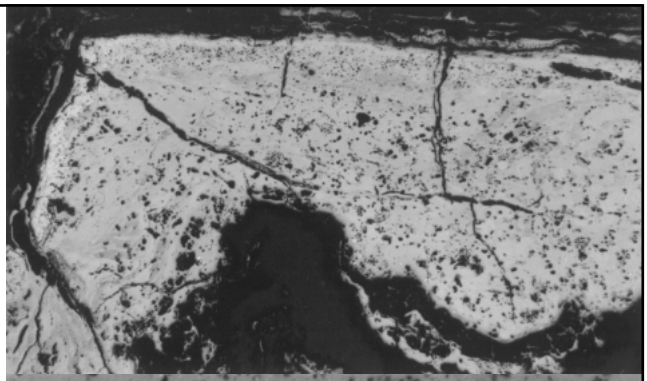
⑧

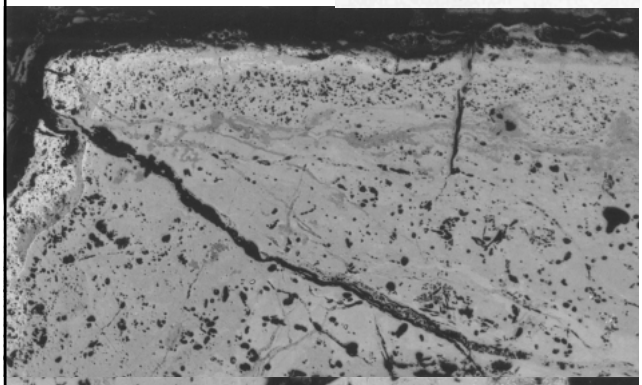


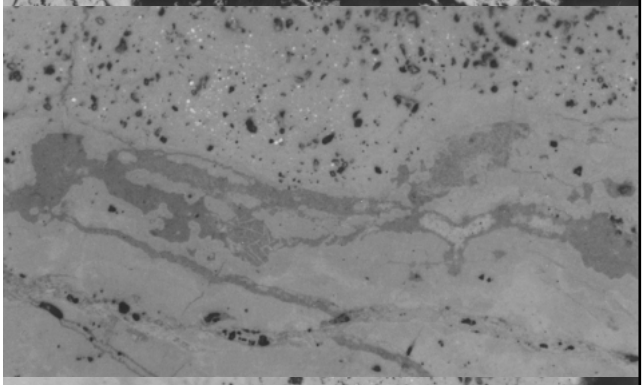
第 67 図　鉄製品・鍛冶滓の顕微鏡組織

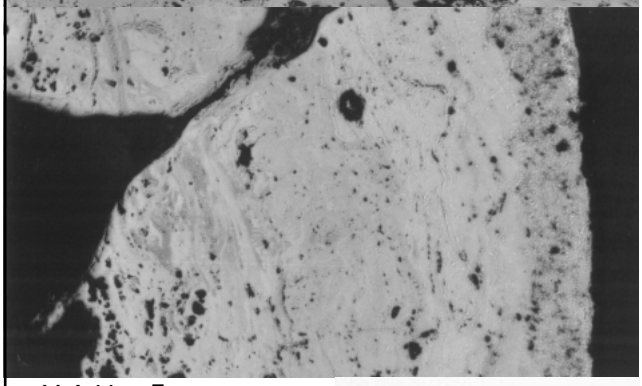
矢迫遺跡

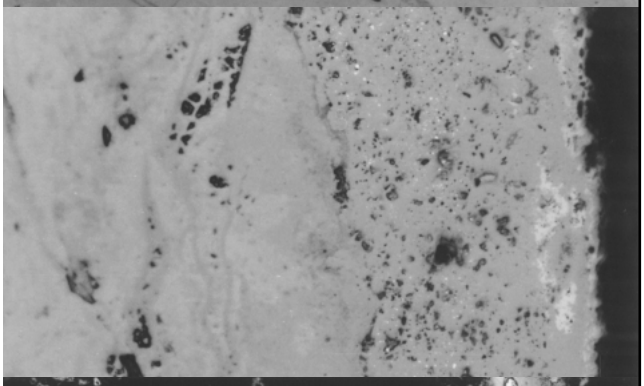
ＹＡＨ―６
鉄製品（釘？）
①× 50 ②× 100 ③× 400 角部：
錆化鉄
④× 100 ⑤× 400 錆化鉄
（金属組織痕跡は残存しない）

①


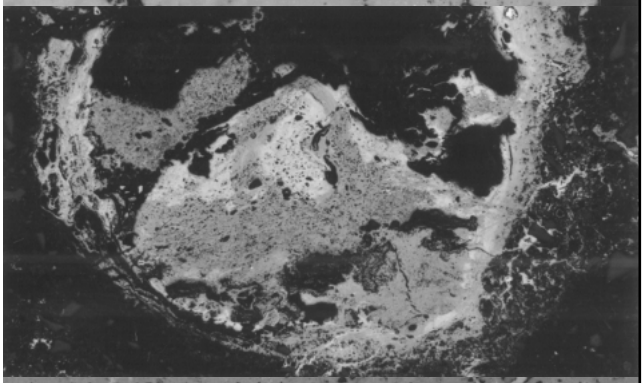
②


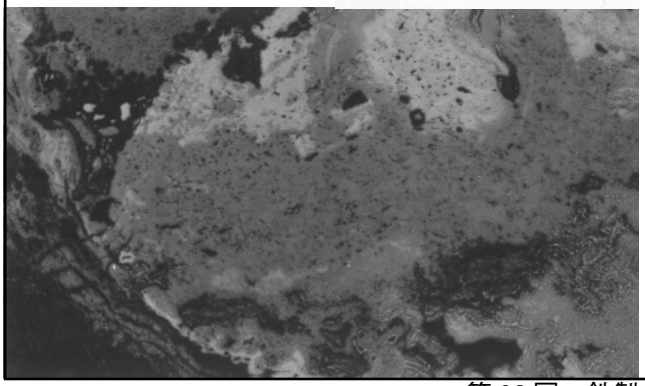
③


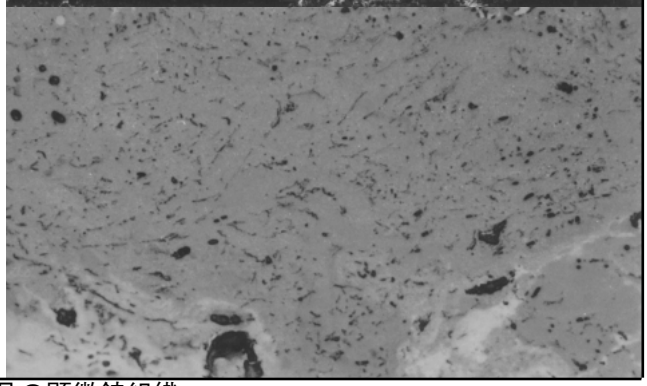
④


⑤


ＹＡＨ―７
鉄製品（釣針状）
⑥× 50 ⑦× 100 ⑧× 400 錆化鉄
フェライト・少量パーライト
亜共析組織痕跡

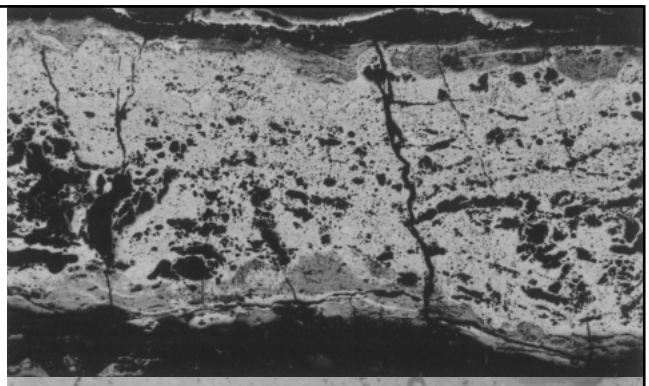
⑥


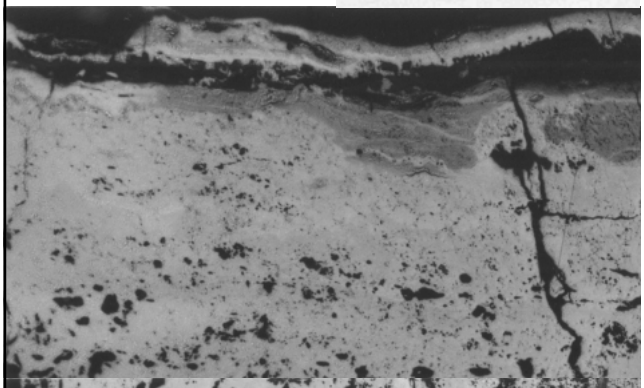
⑦


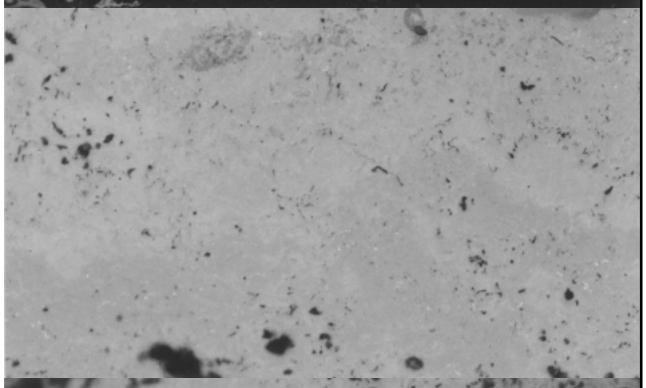
⑧


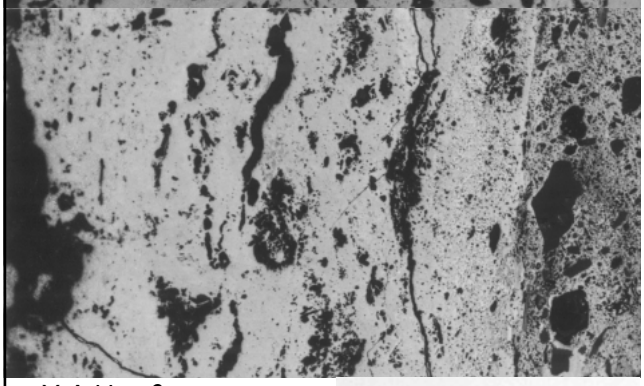
第 68 図　鉄製品の顕微鏡組織

ＹＡＨ―８
三角形鉄片（切り削）
①× 50 ②× 100 ③× 400 錆化鉄
フェライト・少量パーライト
亜共析組織痕跡
④× 100 ⑤× 400 錆化鉄
同上

①


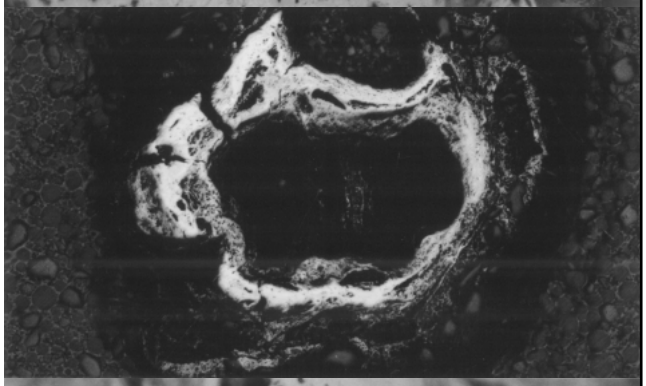
②


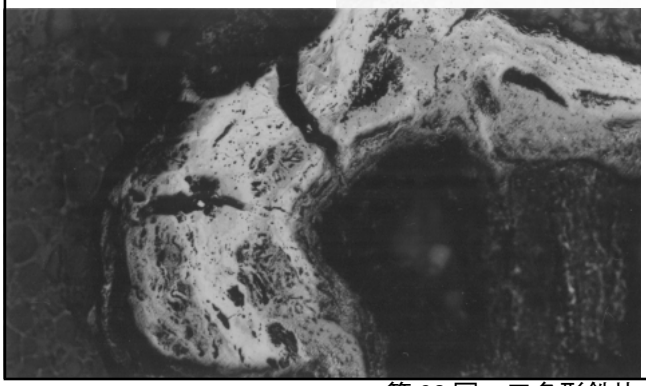
③


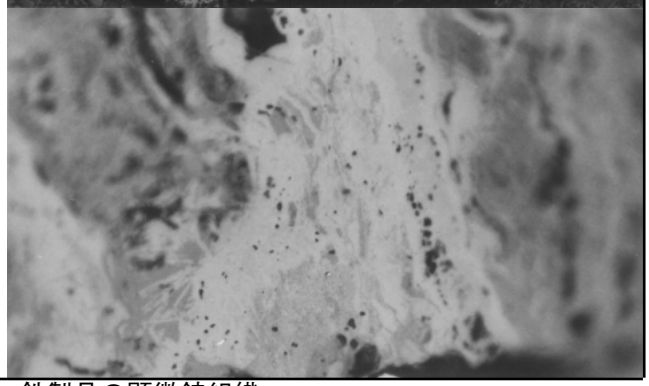
④


⑤

ＹＡＨ―９
鉄製品（針状）
⑥× 50 ⑦× 100 ⑧× 400 錆化鉄
（金属組織痕跡は残存しない）

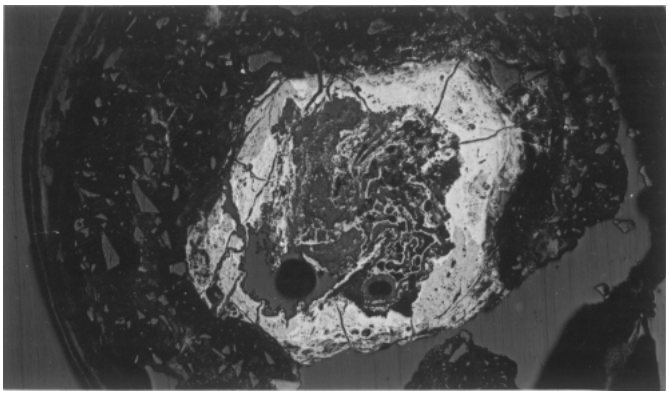
⑥


⑦


⑧


第 69 図　三角形鉄片・鉄製品の顕微鏡組織

矢迫遺跡

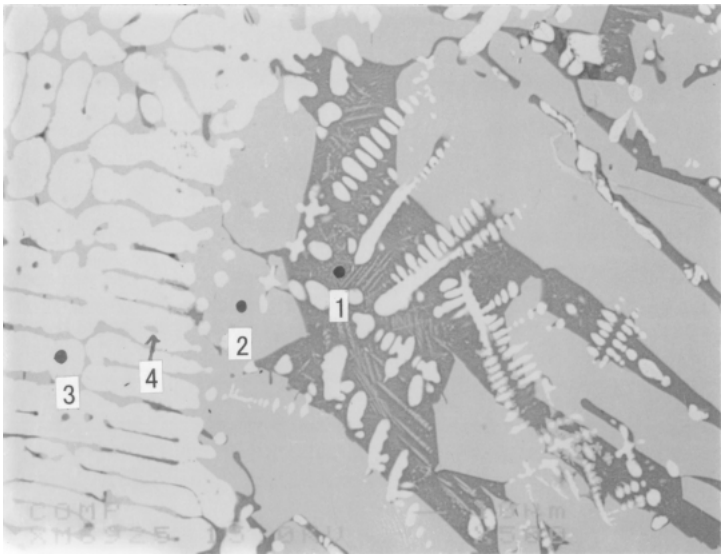


（ＹＡＨ―４：×２０）

（ＹＡＨ―８：×１０）

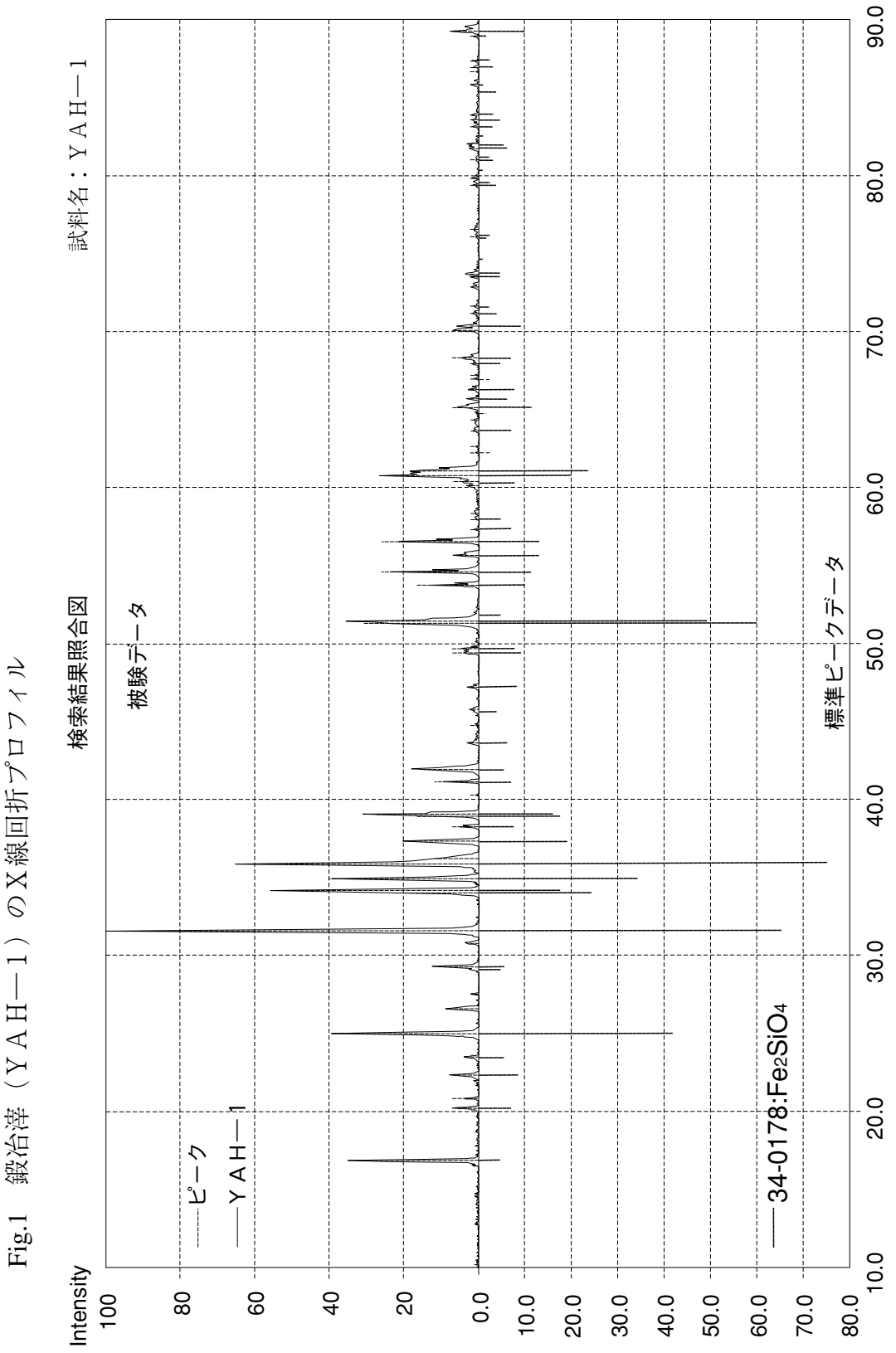
第 70 図　鉄製品のマクロ組織

ＣＯＭＰ
×５００



Element	1	2	3	4
FeO	25.829	70.367	98.175	72.333
F	—	—	—	—
Na_2O	2.082	0.002	0.058	—
MgO	0.010	0.426	0.079	0.567
Al_2O_3	19.826	0.316	0.432	0.465
SiO_2	41.250	29.988	0.329	26.527
P_2O_5	0.023	0.014	0.010	—
S	—	—	0.010	—
K_2O	12.999	0.011	—	—
CaO	3.548	0.208	—	—
TiO_2	0.013	0.008	0.034	—
Cr_2O_3	—	0.036	0.040	—
MnO	—	0.126	—	0.072
ZrO_2	0.003	0.025	0.011	—
BaO	0.157	—	0.032	0.022
V_2O_3	0.063	0.017	0.072	—
Total	105.803	101.544	99.280	99.986

第 71 図　鍛冶滓（ＹＡＨ―１）鉱物相の反射電子量と定量分析値



第 72 図　鍛冶滓の X 線回折プロフィル

第５章　考察・まとめ

第１節　矢迫遺跡の遺構変遷

ここでは矢迫遺跡の遺構変遷を整理しておきたい。矢迫遺跡からは竪穴建物跡、大壁建物跡、掘立柱建物跡などの多数の建物遺構が確認された。このうち掘立柱建物跡については床面出土遺物や柱穴出土遺物が少ないため時期の特定が難しい側面がある。こうした事情から、本節では竪穴建物跡と大壁建物跡を中心に遺構変遷を整理しておきたい。

今回の調査で発見された遺構は６期９段階区分が可能である。

Ａ期：古墳時代前期（3 世紀：川原下層Ⅲ式期）

この時期はＳＢ17のみが確認されている。これ以外にも台付甕脚部などの遺物が散見されることから、近隣にもう少し遺構が展開している可能性が考えられる。

Ｂ期：古墳時代後期（6 世紀中葉～７世紀）

この時期が、矢迫遺跡で最も遺構や遺物が多く認められる時期である。Ｂ期はさらに４段階に細分される。

Ｂ―１期：6 世紀中葉～後葉（尾野 /6 世紀後葉～７世紀前葉：猿投窯系須恵器編年のⅢ期古段階～中段階）

この時期はＳＢ07、ＳＢ09、ＳＢ13、ＳＢ14、ＳＢ11が確認された。このうちＳＢ14は須恵器編年のⅢ期古段階に収まる遺構で若干先行する可能性がある。調査区全体からはこれ以前の猿投窯系須恵器編年のⅡ期新段階の遺物が出土してることから、近隣にもう少し遡る遺構が展開している可能性が考えられる。大壁建物跡はこの段階で東西方向に長いタイプのＳＢ11が現れる。建物跡の主軸方位には特に規格性は認められない。

Ｂ―２期：７世紀前葉（尾野 /7 世紀中葉：猿投窯系須恵器編年のⅢ期後段階）

この時期はＳＢ05とＳＢ10が確認されている。竪穴建物跡の検出棟数は見た目上は減少しているが、依然として前段階と同様に集落が営まれていたと考えられる。大壁建物跡ＳＢ11は一旦廃絶し、改めて南北方向に向きを変えてＳＢ10が構築された。

Ｂ―３期：７世紀中葉～後葉（尾野 /7 世紀中葉～後葉：猿投窯系須恵器編年のⅣ期古段階）

この時期はＳＢ02、ＳＢ04、ＳＢ06、ＳＢ15、ＳＢ18、ＳＢ20、ＳＢ08が確認されており、最も遺構が多い時期に該当する。この段階に大壁建物跡はＳＢ08が現れるが、大壁建物跡ＳＢ10と並立して存在したか否かは確定的ではない。ＳＢ08とＳＢ10の出土遺物は須恵器の観察から型式学的な変化を認めることができるのであるが、遺構配置からみると並立して存在した可能性が捨てきれないのである。

Ｂ―４期：７世紀末葉（尾野 /7 世紀末葉～８世紀初頭：猿投窯系須恵器編年のⅣ期中段階）

この時期はＳＢ01、ＳＢ16が確認されている。遺構の数は減少し、調査区全体の出土遺物も少なくなっている。大壁建物跡はこの段階にはなくなり、竪穴建物跡（と掘立柱建物跡）で構成される集落景観が復元される。

Ｃ期：奈良時代（8 世紀中葉：尾野 /8 世紀中葉：猿投窯系須恵器編年のⅤ期古段階）

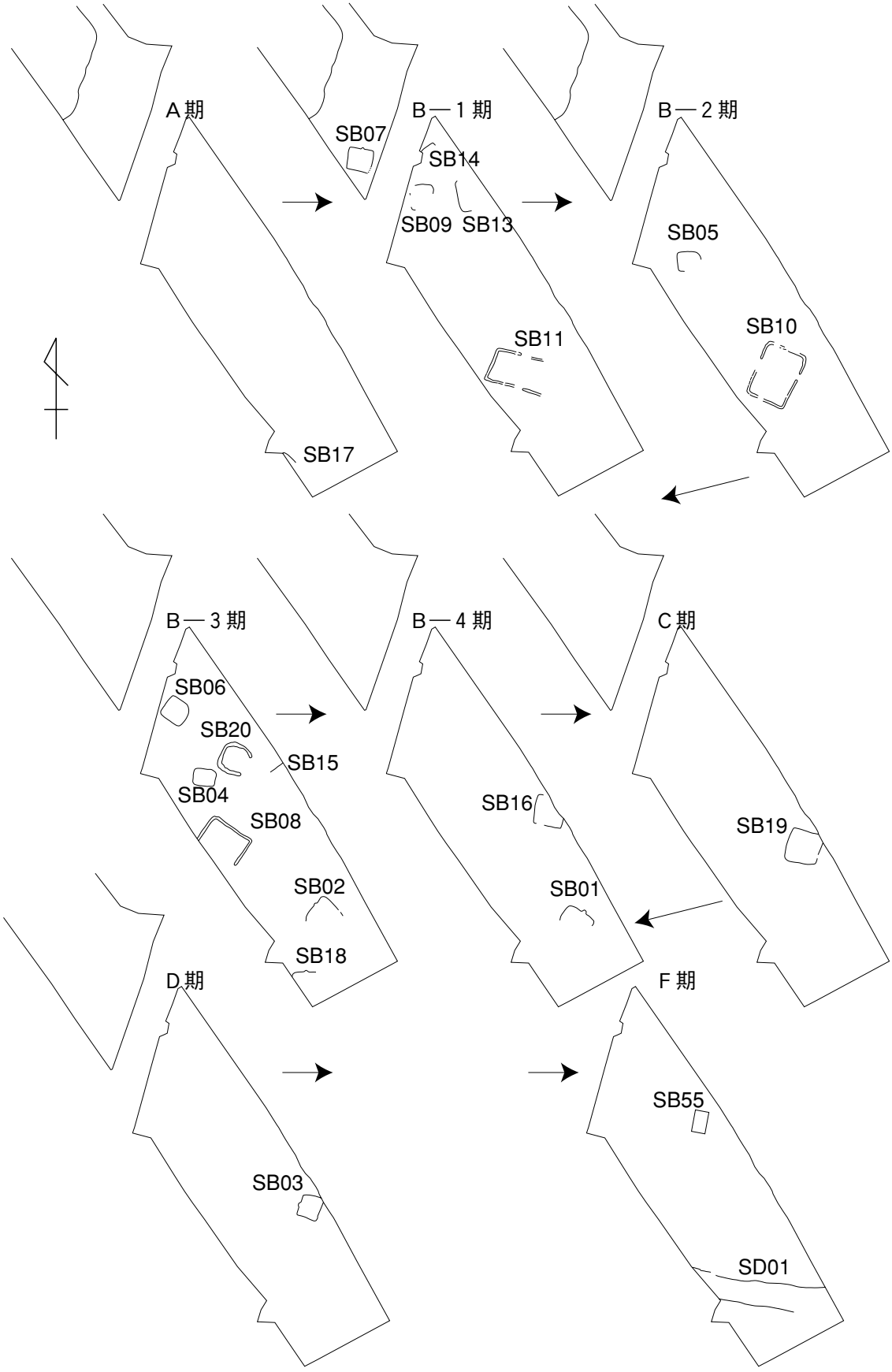
この時期はＳＢ19のみが確認されている。これ以外にも須恵器などの遺物が散見されることから、近隣にもう少し遺構が展開している可能性が考えられる。

Ｄ期：平安時代（8 世紀末葉：尾野 /9 世紀前葉：猿投窯系須恵器編年のⅤ期新段階）

この時期はＳＢ03のみが確認されている。これ以外にも遺物が散見されるが数は極めて少ない。

Ｅ期：鎌倉～室町時代（12 世紀～ 15 世紀）

柱穴から山茶碗などの遺物がある程度出土していることから、この段階は掘立柱建物跡を中心とした集落が存在していたことが想定される。検出された掘立柱建物跡の多くがこの段階に該当するとすれば相当数の建物が存在していたこととなる。また、本報告の復元案が正しいとすれば、相当数の建替えが行われたことが考


A 期
SB07
B — 1 期
SB14
SB09
SB13
B — 2 期
SB05
SB10
SB11
SB17
B — 3 期
SB06
SB20
SB15
SB04
SB08
SB02
SB18
B — 4 期
SB16
SB01
C 期
SB19
D 期
SB03
F 期
SB55
SD01

第 73 図　遺構変遷図

えられ、連綿と掘立柱建物が建て続けられていたことが想定される。

Ｆ期：戦国～江戸時代（16 世紀～）

柱穴から近世陶磁器などの遺物が出土したものがいくつか存在することから、Ｅ期に引き続き掘立柱建物跡を中心とした集落が存在していたことが想定される。これに加えて、調査区南東部に堀状の溝が検出されており、これが鴛鴨城に関連する遺構である可能性が高い。したがって、検出された掘立柱建物跡のうち一部は鴛鴨城関係の遺構が存在した可能性も想定しうる。

第２節　矢迫遺跡の大壁建物跡について

（１）はじめに

大壁建物跡は、1960年代後半に滋賀県で初めて発見され、当時は性格不明の「囲溝」として紹介された。これ以降、類例が滋賀里遺跡や穴太遺跡など滋賀県下の各遺跡で確認され、1982年松浦俊和氏が墓地あるいは村の祭祀場、家畜の飼育施設などの可能性を指摘した。また、林博通氏と宮本長一郎氏らによって「切妻大壁住居」と命名され特殊な建物と位置付けられた。その後、花田勝広氏や大橋信弥氏によって歴史的な背景が論じられることとなった。

当初は、近江を中心に発見されてきた大壁建物跡は、その後の調査の進展で大和、山城、摂津、播磨などの地区でも事例が確認され、矢迫遺跡の事例は東日本では初めて確認された事例として注目された。

ここでは、矢迫遺跡の大壁建物跡の特徴を明らかにするため、これまでに発見された大壁建物跡を集成、整理したい。そのことにより、さらに矢迫遺跡の大壁建物を巡る歴史的な背景の一端を明らかにすることができればよいと考えている。

（２）大壁建物跡の定義と分類

ここで取り扱う大壁建物跡は、花田勝広氏が用いた定義を使用する。花田氏は、「大壁建物は、方形または長方形の平面形を呈し、囲溝を掘り、棟持柱・間柱によって壁をつくる掘立柱大壁造りで、屋根は切妻・寄棟と推定される」という。

さらに、花田氏は大壁建物の分類作業を行い、対置する溝中央部に大きい掘方に棟持柱を一対有するタイプ（Ｂ１タイプ）と、棟持柱を持たないタイプ（Ｂ２タイプ）と、大壁建物に類似して囲溝を有するタイプ（Ｂ３タイプ）に区分した。Ｂ１タイプは切妻大壁建物、Ｂ２タイプは宝形造り大壁建物と推定され、矢迫遺跡の大壁建物跡はＢ２タイプであると分類された。

上記の成果を踏まえ、ここでは遺構の平面プラン、特に矢迫遺跡で特徴的に認められた途切れ部に着目して分類作業を行いたい。

１類：方形または長方形の平面形を呈し、囲溝が完全に全周するもの。

２類：方形または長方形の平面形を呈し、囲溝の隅角部が途切れるもの。隅角部は四隅全部が途切れるものと１～２箇所途切れるものが存在するが、遺構の残存状況の問題もあってここでは細分はしないこととした。

３類：方形または長方形の平面形を呈し、囲溝のうち一辺の中央部が途切れるもの。

４類：長方形の平面形を呈し、囲溝のうち対置する二辺の中央部が途切れるもの。

（３）各類の分布と矢迫遺跡の大壁建物跡

さて、この分類をもとにして、全国各地で確認された大壁建物で分類すると以下のような表となる。この結果、囲溝が全周する１類が全体の半数を占めており、この他に囲溝が部分的に途切れる２類と３類が存在する様子が判明した。特に一辺の中央部が途切れるものは近江を中心にいくつかの事例が認められるが、これに対し、囲溝が対置する二辺の中央部で途切れるものは、確実な事例としては矢迫遺跡しか存在しないことが明らかとなった。

矢迫遺跡の大壁建物跡は花田分類のＢ２タイプで、平面プランが長方形であるために宝形造り大壁建物と言えるかについては疑問だが、寄棟造りである可能性は高いだろう。そして囲溝の途切れ部を出入り口施設であると仮定するならば、矢迫遺跡で発見された大壁建物は長辺に対置した形で出入り口を持つ特殊な寄棟建物を想定せざるを得なくなる。このようにみていくと、矢迫遺跡の大壁建物跡は、近江で見られる

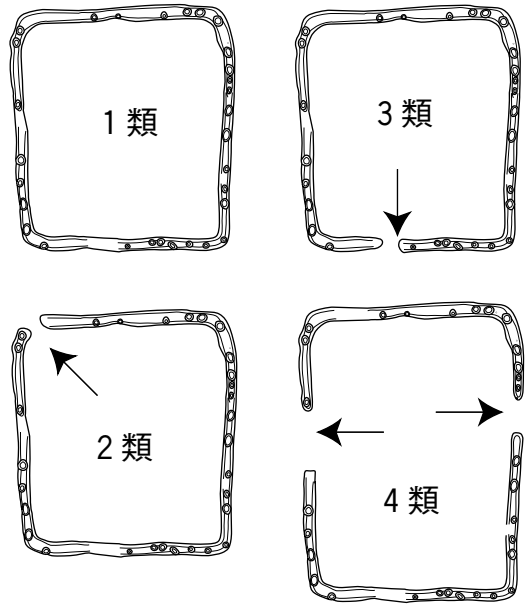
国名	遺跡名	遺構名	花田分類	鈴木分類
近江	穴太Ａ地区	大壁101	Ｂ１	１類
近江	穴太Ａ地区	大壁102	Ｂ１	１類
近江	穴太Ａ地区	大壁103	Ｂ２	１類
近江	穴太Ａ地区	大壁104	Ｂ２	３類
近江	穴太Ａ地区	大壁201	Ｂ３	１類
近江	穴太Ａ地区	大壁202	Ｂ３	１類
近江	穴太Ａ地区	大壁203		
近江	穴太Ａ地区	大壁204		
近江	穴太Ｃ地区	大壁１	Ｂ３	？
近江	穴太Ｃ地区	大壁２	Ｂ３	？
近江	穴太・寺田	大壁１	Ｂ２	１類
近江	穴太・赤田	大壁１	Ｂ２	２類
近江	穴太・赤田	大壁２	Ｂ２	２類
近江	穴太・赤田	大壁３		？
近江	穴太・下大門	大壁１		１類
近江	穴太・ＢＰ	大壁１	Ｂ２	
近江	穴太・ＢＰ	大壁２	Ｂ２	
近江	穴太・ＢＰ	大壁３	Ｂ２	
近江	穴太・確認	大壁１		
近江	穴太・弥生町	SB1	Ｂ１	３類
近江	穴太南	SB21		
近江	穴太南・ＶＤ	2号囲溝	Ｂ２	１類
近江	穴太南・ＶＤ	4号囲溝	Ｂ２	３類
近江	滋賀里・ＶＡ	18号囲溝	Ｂ２	１類
近江	滋賀里・見世Ａ	大壁１	Ｂ１	１類
近江	滋賀里・見世Ｂ	大壁4棟		１類
近江	滋賀里・見世Ｃ	大壁１		１類
近江	滋賀里・見世Ｄ	大壁１	Ｂ１	１類
近江	滋賀里・南生水	SB6	Ｂ１	３類？
近江	滋賀里・南生水	SB7	Ｂ２	３類
近江	大谷南	大壁１	Ｂ２	３類？
近江	南滋賀	大壁１	Ｂ２	１類
近江	上高砂ＢＰ	大壁１	Ｂ１	？
近江	上高砂ＢＰ	大壁２		？
近江	上高砂ＢＰ	大壁３		？
近江	上高砂・市道	大壁3棟		
近江	北大津	大壁１		１類
近江	苗鹿	大壁１		
近江	光相寺	大壁１	Ｂ２	３類
近江	高月南	大壁2棟		
近江	なまず	大壁１	Ｂ１	３類
近江	木曽	1号	Ｂ３	？
近江	木曽	2号	Ｂ３	？
大和	南郷柳原	SD1	Ｂ１	１類
大和	南郷生家	SB1	Ｂ２	１類
大和	南郷生家	SB2	Ｂ２	１類
大和	南郷安田	SB1	Ｂ１	２類？
大和	南郷安田	SB2		？
大和	南郷井柄	大壁	Ｂ１	１類
大和	井戸大田台	SB1	Ｂ３	１類
大和	井戸大田台	SB2	Ｂ３	４類？
大和	佐田	SB18		
河内	大県	溝	Ｂ２	１類？
和泉	大園	方形周溝状	Ｂ３	２類
山城	森垣外	639	Ｂ２	１類
摂津	上沢	大壁2棟		
播磨	寒風	SB-40	Ｂ３	１類
播磨	寒風	SB-41	Ｂ３	１類
三河	矢迫	SB08	Ｂ２	４類
三河	矢迫	SB10	Ｂ２	４類
三河	矢迫	SB11	Ｂ２	４類
信濃	上の城？	1棟	Ｂ３	
信濃	千鹿頭北	17号	Ｂ３	
伯耆	夏谷	1号大壁	Ｂ２	１類
豊前	小石原泉	2棟		

←第 15 表　大壁建物跡一覧表

大壁建物跡と全く同一ではなく、三河において変型した建物跡であることが予想される。

（４）大壁建物跡の発見の意義

大壁建物跡は検出された遺跡の地域や背景などから渡来人の居住施設または渡来系の施設と考えられてきた。花田氏は、掘立柱建物跡や礎石建物跡、竪穴建物跡などの建物跡を総体とみなして、渡来系集落を検討すべきであると論じているが、矢迫遺跡でも大壁建物跡単独の集落の時代は存在せず、少なくとも竪穴建物跡と並存して集落が営まれてきたことが明らかとなった。このように、矢迫遺跡の建物配置からみて渡来系集落として位置付けることは可能であるが、先に見たように近江などで確認された大壁建物跡と全く同一ではない点に、純粋な意味で渡来系と断定できるか否かは疑問が残る状態であろう。矢迫遺跡では、他の文物に渡来系を窺わせる資料が全く存在しないことも指摘することができ、この点からも他の大壁建物跡が発見された遺跡と同列に並べることが適切か否かはなお検討を要する。



第74図　大壁建物跡の分類図（模式図）

第３節　まとめ

今回の矢迫遺跡の発掘調査で得られた成果をまとめておく。

１、古墳時代後期から奈良時代にかけての特色のある集落遺跡であることが確認された。特に、大壁建物跡の検出は東海地方では唯一でその評価が問題である。基本的には、大壁建物跡は近江を中心とする渡来系集落と目される遺跡から多く確認されており、矢迫遺跡の古墳時代後期も渡来系の集落が存在した可能性は否定できない。ただし純粋な形で渡来系の文物が導入されたか否かについては疑問点もあり、さらに論議を深めていく必要があるものと思われる。

２、これと関連する形で、古墳時代後期から奈良時代にかけての竪穴建物跡から鉄器生産に関連する遺物が抽出された点も注目される。これらの遺物には、古墳時代や古代まで遡ることができるか否かについて、厳密な意味で確証がない点が最大の問題となっている。この点を除けば、金属学的な調査成果も加えると、鍛造鍛冶工程が調査区周辺で行われていたことが想定されよう。今後は、資料の採取方法を慎重にした上で調査を進めていく必要があろう。そして、今回確認された鉄関連資料が、古墳時代後期の鍛冶関連遺物であると仮定するならば、先の大壁建物跡と合わせて鉄器生産技術を導入した人々の存在がさらにクローズアップされてくると言える。

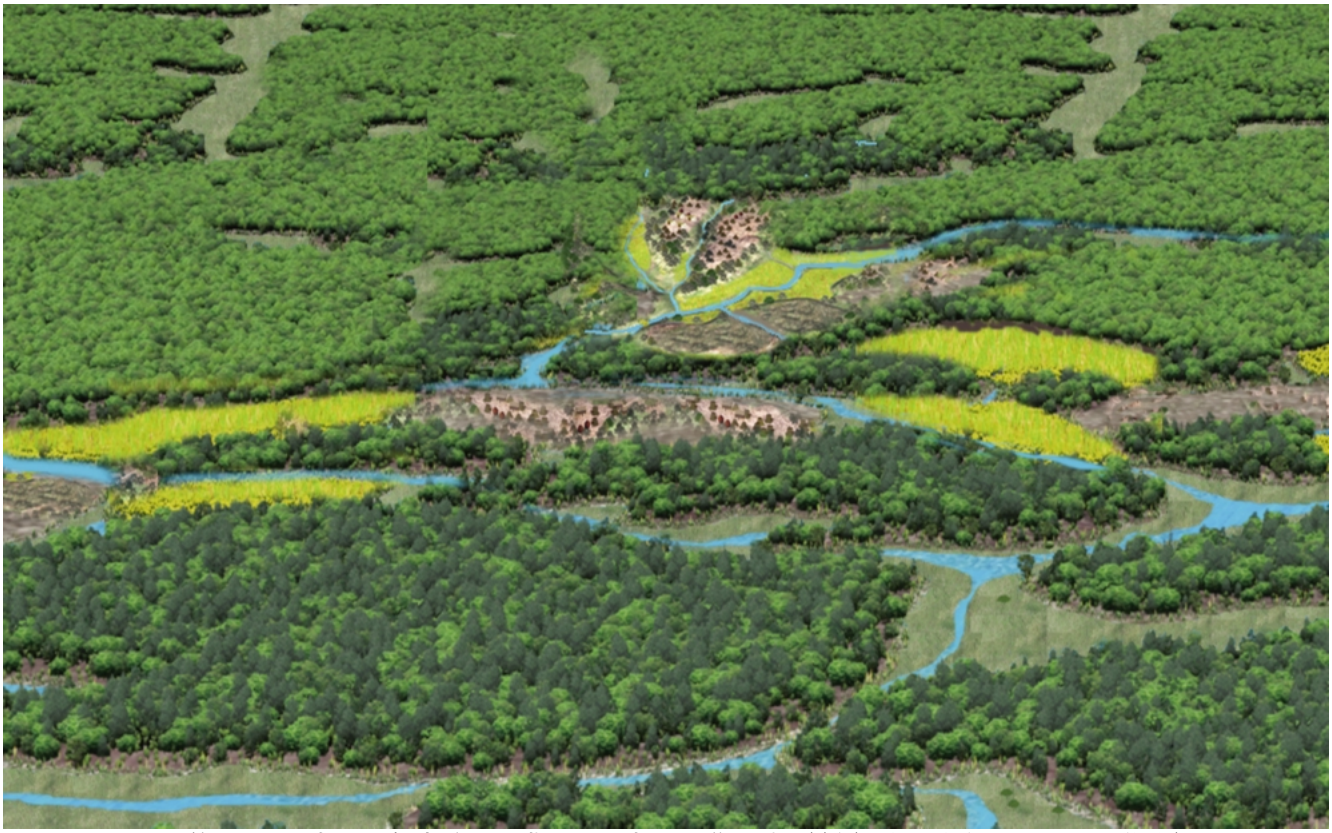
３、整理作業を進めていく過程で、新たに中世以降の掘立柱建物跡の存在が明らかとなった。時期を詳細に特定できない点や、遺構変遷やそれに伴う歴史像を具体化することができないのは残念であるが、少なくとも中世の遺跡と認知されていない場所でこのような成果が得られた点は注目される。

４、隣接する神明遺跡との関連についても重要な成果が得られた。神明遺跡では6世紀後半から7世紀前半の遺構が激減し、前後の時期に集落が営まれていたことが明らかとなっており、この間の空白をどのように理解するのかが問題となっていた。今回の矢迫遺跡からは、神明遺跡の空白となる時期に遺跡のピークを迎えていることが判明し、しかもその段階で大壁建物跡が出現するというのである。単純に神明遺跡から矢迫遺跡そして神明遺跡へ人々が移動したか否かについては即断を避けたいが、矢迫遺跡を考える上で神明遺跡の位置付けはなくてはならない要素の一つであると言える。

第 75 図　古墳時代中後期の矢迫遺跡周辺の復原案（(有) 宮塚文化財研究所の作成）

参考・引用文献

愛知県教育委員会 1995『愛知県遺跡分布地図（Ⅱ）知多・西三河地区』
赤塚次郎　2001「川原上層Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ式の設定」『川原遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 91 集
天野博之編　1999『南山畑遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第 10 集
大橋信弥　1995「近江における渡来氏族の研究―志賀漢人を中心に―」『青丘学術論集』第 6 集
尾野善裕　1998「中・後期古墳時代暦年代観の再検討」『土器・墓が語る』東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会
尾野善裕　1999「古墳時代猿投窯編年の再検討」『古墳時代の猿投窯と湖西窯―分類・編年・西暦年代の再検討―』第 4 回三河考古合同研究会資料　三河考古刊行会
尾野善裕　2000「猿投窯（系）須恵器編年の再構築」『須恵器の出現から消滅』東海土器研究会
三田敦司編　2001『三味線塚古墳』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第 18 集
篠原祐一　1995「臼玉研究私論」『研究紀要』第 3 号　財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
立松彰　1994「愛知県」『日本土器製塩研究』青木書店
花田勝広　1993「渡来人の集落と墓域」『考古学研究』第 29 巻第 4 号　考古学研究会
花田勝広　1995「渡来人の住居」『東大阪市文化財協会ニュース』Vol.6 No.3　東大阪市文化財協会
花田勝広　2000「大壁建物集落と渡来人」『古代文化第 52 巻第 5・7 号』
林博通　1983「渡来系集団の集落跡」『滋賀文化財だより 73 号』滋賀県文化財保護協会
藤澤良祐　1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 3』三重県埋蔵文化財センター
松浦俊和　1982「滋賀里遺跡発掘調査報告」『滋賀里・穴太地区遺跡群発掘調査報告書』大津市教育委員会
宮腰健司　2001「石製模造品」『志賀公園遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 90 集
宮本長二郎　1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
森泰通編　1996『神明遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第 6 集
森泰通　1999「東海地方における 5 世紀後半における諸相」『渡来文化の受容と展開―5 世紀における政治的・社会的変化の具体相(2)―』埋蔵文化財研究会
森泰通編　2001『神明遺跡Ⅱ』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集



第 76 図　古墳時代中後期の豊田市南部域の復原案（（有）宮塚文化財研究所の作成）

報告書抄録

ふりがな	やばいせき
書　　名	矢迫遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第102集
編著者名	鈴木正貴、川添和暁、大澤正己、鈴木瑞穂
編集機関	愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2002年 8月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
やば　いせき 矢迫遺跡	とよたしおしかもちょう 豊田市鴛鴨町 あざ　やば 字矢迫	23211	63477	35度 1分 25秒	137度 8分 45秒	19971208 ～ 19980331	3500㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢迫遺跡	集落	古墳時代 ～ 奈良時代 鎌倉時代 ～ 江戸時代	竪穴建物跡17棟、 大壁建物跡3棟、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など 掘立柱建物跡、 柵列、溝、 土坑など	土師器、 須恵器、 灰釉陶器、 山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 石器・石製品、 金属製品および その関連遺物など	古墳時代後期の 大壁建物跡 鍛冶関連遺物の 検出 戦国時代の鴛鴨 城関連遺構？

矢迫遺跡

遺構一覧表(1)

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SA01	ⅣA17s,t,18s	300						掘立柱建物
SA02	ⅣA19r,s	430						掘立柱建物
SA03	ⅣA19r,s	＊860						掘立柱建物
SA04	ⅣA19r,s	＊620						掘立柱建物
SA05	ⅣB19b	220						掘立柱建物
SA06	ⅤA1t,2t,ⅤB2a	470						掘立柱建物
SA07	ⅤB4d,5d	390						掘立柱建物
SA08	ⅤB4d,5d	670						掘立柱建物
SA09	ⅤB5d,6e	430						掘立柱建物
SA10	ⅤB6c,7c	330						掘立柱建物
SA11	ⅤB8e,f,g	570						掘立柱建物
SB01	ⅤB7e,f,8e,f	530	＊330	10	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB02	ⅤB7e,f,8e,f	＊500	＊480	4	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB03	ⅤB5e,f,6e,f	＊390	350	12	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB04	ⅤB3a,b	360	290	10	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB05	ⅤB2a,b,3a,b	410	370	25	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB06	ⅣA20t,ⅣB1a他	430	400	10	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB07	ⅣA19r,s,20r,s	420	370	15	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB08	ⅤB4b,c,5a,b,c,6b,c	800	＊790		隅丸長方形	本文参照	本文参照	大壁建物
SB09	ⅣA20t,ⅣB1a他	＊440	＊400	13	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB10	ⅤB5d,e,6d,e,7c,d,e	980	720		隅丸長方形	本文参照	本文参照	大壁建物
SB11	ⅤB6c,d,e,7c,d,e	＊1000	580		隅丸長方形	本文参照	本文参照	大壁建物
SB12	ⅣA15r,16r	370	＊160	12	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB13	ⅣB20bⅤB1b,c	＊540	＊310	15	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB14	ⅣB19a,b	＊490	＊270	5	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB15	ⅤB2d,3d,e,4e	＊400	＊260	3	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB16	ⅤB3e,4d,e	520	490	45	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB17	ⅤB9d,e	480	＊150	20	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB18	ⅤB9e,10e	＊410	＊190	15	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB19	ⅤB5e,f,6e,f	560	550	40	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB20	ⅤB2b,c,3b,c	520	500	20	隅丸長方形	本文参照	本文参照	竪穴建物
SB21	ⅣA15t,16t	390	210		長方形			掘立柱建物
SB22	ⅣA16s,t,17s,t	605	430		長方形			掘立柱建物
SB23	ⅣA16s,t,17s,t	535	300		長方形			掘立柱建物
SB24	ⅣA16s,17s	345	300		長方形			掘立柱建物
SB25	ⅣA17s,t,18s	385	340		長方形			掘立柱建物
SB26	ⅣA17s,t,18s	275	260		長方形			掘立柱建物
SB27	ⅣA17r,18r	285	＊145		長方形			掘立柱建物
SB28	ⅣA17s,18r,s	475	295		長方形			掘立柱建物
SB29	ⅣA18q,r	270	120		長方形			掘立柱建物
SB30	ⅣA18r	295	185		長方形			掘立柱建物
SB31	ⅣA18r,19r	355	345		長方形			掘立柱建物
SB32	ⅣA18r,s	225	185		長方形			掘立柱建物
SB33	ⅣA18s,t,19s,t	400	355		長方形			掘立柱建物
SB34	ⅣA18s,t	210	205		長方形			掘立柱建物
SB35	ⅣA18s,19s	355	350		長方形			掘立柱建物
SB36	ⅣA18s,19s	225	220		長方形			掘立柱建物
SB37	ⅣA19s,20s	＊220	160		長方形			掘立柱建物
SB38	ⅣB18a,19a,b,20a	520	330		長方形			掘立柱建物
SB39	ⅣB19a,b,20a,b	345	335		長方形			掘立柱建物
SB40	ⅣB19a,b,20a,b	815	325		長方形			掘立柱建物
SB41	ⅣB20b,c	＊130	190		長方形			掘立柱建物
SB42	ⅤB1a,b,2a,b	515	410		長方形			掘立柱建物
SB43	ⅤB1c				長方形			掘立柱建物
SB44	ⅤB1b,c,2b,c	440	430		長方形			掘立柱建物
SB45	ⅤB1b,2b	470	405		長方形			掘立柱建物
SB46	ⅤB1a,b,2a,b	290	235		長方形			掘立柱建物
SB47	ⅤB1a,2a	290	165		長方形			掘立柱建物
SB48	ⅤA1t,2t	490			長方形			掘立柱建物
SB49	ⅤA2t	260	180		長方形			掘立柱建物
SB50	ⅤB2a,3a,ⅣB2t,3t	235	220		長方形			掘立柱建物
SB51	ⅤB2a,b,3a,b	335	335		方形			掘立柱建物
SB52	ⅤB2b,c,3c	255	240		長方形			掘立柱建物
SB53	ⅤB2c,3b,c	585	365		長方形			掘立柱建物
SB54	ⅤB2c,3b,c	510	375		長方形			掘立柱建物
SB55	ⅤB2c,d,3c,d	365	230		長方形			掘立柱建物
SB56	ⅤB2c,d,3c,d	480	420		長方形			掘立柱建物
SB57	ⅤB2c,d,3c,d	370	340		長方形			掘立柱建物
SB58	ⅤB2d,3d	305	135		長方形			掘立柱建物
SB59	ⅤB2d,3d	145	120		長方形			掘立柱建物
SB60	ⅤB3a,b,4a,b	580	430		長方形			掘立柱建物
SB61	ⅤB3a,b,4b	370	320		長方形			掘立柱建物
SB62	ⅤB3a,4a	310	＊115		長方形			掘立柱建物
SB63	ⅤB3b,4a,b	435	260		長方形			掘立柱建物

遺構一覧表(2)

付表

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SB64	ⅤB4a,b	460	405		長方形			掘立柱建物
SB65	ⅤB4a,b,c	335	270		長方形			掘立柱建物
SB66	ⅤB3c,d,4c,d	290	270		長方形			掘立柱建物
SB67	ⅤB3c,d,4c,d	245	150		長方形			掘立柱建物
SB68	ⅤB3c,d,4c,d	400	300		長方形			掘立柱建物
SB69	ⅤB3d,4c,d	355	305		長方形			掘立柱建物
SB70	ⅤB4c,d,5c,d	470	430		長方形			掘立柱建物
SB71	ⅤB4d	220	170		長方形			掘立柱建物
SB72	ⅤB4c,d	320	230		長方形			掘立柱建物
SB73	ⅤB4c,d,5c,d	365	260		長方形			掘立柱建物
SB74	ⅤB4c,d,5c,d	330	315		長方形			掘立柱建物
SB75	ⅤB4d,5d	＊280	230		長方形			掘立柱建物
SB76	ⅤB5a,b	＊450	＊310		長方形			掘立柱建物
SB77	ⅤB5b,c,6c	450	230		長方形			掘立柱建物
SB78	ⅤB5a,b,6b	240	＊60		長方形			掘立柱建物
SB79	ⅤB5c,d,6c,d	325	215		長方形			掘立柱建物
SB80	ⅤB5c,d,6c,d	435	165		長方形			掘立柱建物
SB81	ⅤB5c,6b,c	480	320		長方形			掘立柱建物
SB82	ⅤB5c,6b,c	335	260		長方形			掘立柱建物
SB83	ⅤB5b,6b,c	310	195		長方形			掘立柱建物
SB84	ⅤB6c,d,7c,d	325	＊270		長方形			掘立柱建物
SB85	ⅤB6c,d,7c,d	295	270		長方形			掘立柱建物
SB86	ⅤB5f,6f	595	300		長方形			掘立柱建物
SB87	ⅤB5e,f,6e,f	430	265		長方形			掘立柱建物
SB88	ⅤB5e,6e	345	180		長方形			掘立柱建物
SB89	ⅤB6e,f	240	135		長方形			掘立柱建物
SB90	ⅤB6f,7f	160	120		長方形			掘立柱建物
SB91	ⅤB6e,7e	270	245		長方形			掘立柱建物
SB92	ⅤB7e,f,8f	370	225		長方形			掘立柱建物
SB93	ⅤB7f	250	180		長方形			掘立柱建物
SB94	ⅤB7f,g,8f,g	＊125	＊165		長方形			掘立柱建物
SD01	ⅤB7c,d,8c,d,e,f,g	＊2000	430			セクション図あり	土師器165須恵器137中世5近世2	
SD02	ⅤB7d,e,8d,e					7.5YR4/4シルト	土師器23須恵器11	SB10
SD03	ⅤB5d,e,6d,e					セクション図あり	土師器85須恵器31他	SB10
SD04	ⅤB5d	130	30	23		10YR4/4シルト	土師器10須恵器2	
SD05	ⅤB5b,c,d,6d,e	1350	50	13		7.5YR4/4シルト＋7.5YR5/6シルト	土師器37須恵器31近世1	
SD06	ⅤB4b,c,5a,b,c,6b					セクション図あり	土師器89須恵器28山茶碗10	SB08
SD07	図化せず					10YR4/4シルト	土師器38須恵器20	
SD08	ⅤB6c,d					セクション図あり	土師器23須恵器15	SB11
SD09	ⅤB6d,7c,d					セクション図あり	土師器90須恵器29	SB10
SD10	ⅤB7d,e					7.5YR4/6シルト	土師器2	SB11
SD11	図化せず					10YR4/4シルト	須恵器1	
SD12	ⅤB7c,d					10YR4/3シルト炭化物少量混	土師器25須恵器9	SB11
SD13	図化せず					7.5YR4/4シルト	須恵器1	
SD14	ⅤB2b,c,3b,c	520	500	14		セクション図あり	土師器53須恵器24	SB20
SD15	図化せず					10YR4/4シルト		
SD16	ⅣA20s	243	50	6		10YR4/4シルト	土師器3須恵器4	
SD17	ⅣA18s,t,19s	1020	55	4		10YR4/4シルト		
SD18	ⅣA17q,r,18r,19r	1200	160	4		セクション図あり	土師器1須恵器4近世1	
SD19	図化せず					7.5YR4/4シルト		
SD20	ⅣB18a,b,19a,20a	1420	110	8		7.5YR4/4シルト	土師器35須恵器28	
SD21	ⅣA20t他	600	75	18		10YR4/4シルト	土師器42須恵器6近世1	
SD22	ⅣA17q,r,s	960	170	13		セクション図あり	土師器19須恵器13	
SD23	ⅣA17r	190	45	3		7.5YR5/4シルト		
SD24	ⅣA15t,16t	210	30	10		7.5YR4/4シルト	土師器3須恵器1	
SD25	ⅤB7e,f	120	30	12		7.5YR5/4シルト	土師器1須恵器1	
SD26	ⅣA16r,17r,s					7.5YR4/2シルト	土師器109須恵器48他	SB11
SD27	ⅤB6f	190	35	2		10YR5/4シルト		
SD28	ⅤB6f,7f,g	170	35	3		7.5YR4/2シルト	土師器2須恵器1	
SK001	ⅤB7c	17	16	9	円	7.5YR4/4シルト		
SK002	ⅤB7c	27	27	10	円	7.5YR4/6シルト		
SK003	ⅤB7c	23	23	22	円	7.5YR4/4シルト		
SK004	ⅤB7c	25	17	10	楕円	7.5YR4/6シルト		SB85
SK005	ⅤB7c	20	19	10	円	7.5YR4/4シルト		SA10
SK006	ⅤB6c,ⅤB7c	29	25	17	楕円	10YR4/4シルト		SA10
SK007	ⅤB7c	36	31	18	楕円	7.5YR4/4シルト		SB84
SK008	欠番							
SK009	ⅤB6d	35	33	25	円	10YR4/4シルト		
SK010	ⅤB6d	28	23	13	楕円	7.5YR4/3シルト	須恵器1	SB84
SK011	ⅤB6d	30	＊22	14	楕円	7.5YR4/3シルト	土師器2	SB80
SK012	ⅤB6d	26	19	10	楕円	10YR4/4シルト		SB84
SK013	ⅤB6c	22	21	25	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	土師器2	SB85
SK014	ⅤB6c	20	18	11	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1須恵器1	SB82
SK015	ⅤB6c	18	18	12	円	7.5YR4/6シルト		

矢迫遺跡

遺構一覧表(3)

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK016	ⅤB6c	122	102	56	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器6	SB83
SK017	ⅤB6c	19	17	23	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK018	ⅤB6c	19	15	29	楕円	7.5YR4/4シルト	須恵器1	SB83
SK019	ⅤB6c	35	33	33	円	10YR4/4シルト	e291土師器1須恵器	SB83
SK020	ⅤB6b,ⅤB6c	59	23	13	楕円	10YR4/4シルト	e292	
SK021	ⅤB6b	31	27	24	楕円	7.5YR4/4シルト		SB83
SK022	ⅤB6b	29	28	22	円	10YR4/4シルト		SB82,SB83
SK023	ⅤB6b	＊56	40	55	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2須恵器3	SB81
SK024	ⅤB6b,ⅤB6c	27	27	36	円	10YR4/4シルト		SB82
SK025	ⅤB6b	30	22	17	楕円	10YR4/4シルト		SB83
SK026	ⅤB5c	49	35	20	楕円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混	土師器7須恵器3	SB80
SK027	ⅤB5c	20	20	16	円	7.5YR4/4シルト		SB77
SK028	ⅤB5c	58	21	19	楕円	7.5YR4/4シルト		SB81
SK029	ⅤB5c	22	21	17	円	7.5YR4/4シルト		SB82
SK030	ⅤB5b,ⅤB6b	28	22	10	楕円	7.5YR4/4シルト		SB77,SB83
SK031	ⅤB5b	25	24	25	円	10YR4/4シルト	土師器1須恵器1	SB77
SK032	ⅤB5b,ⅤB6b	45	40	43	楕円	10YR4/3シルト炭化物少量混	土師器3須恵器2	SB76,SB78
SK033	ⅤB5b	48	45	40	楕円	10YR4/3シルト炭化物少量混	土師器6	SB76
SK034	ⅤB5b	24	24	18	円	10YR4/4シルト	須恵器1	SB78
SK035	ⅤB5b	14	14	6	円	10YR4/4シルト		
SK036	ⅤB5b	40	18	38	楕円	10YR4/4シルト	土師器1	SB78
SK037	ⅤB5b	50	46	38	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	e293土師器1	SB76
SK038	ⅤB5b	16	16	10	円	10YR4/4シルト		SB77
SK039	ⅤB5b	20	18	18	円	10YR4/4シルト		SB77
SK040	ⅤB5a,ⅤB5b	54	44	35	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器7須恵器2	SB76
SK041	ⅤB4b	42	28	15	楕円	7.5YR4/6シルト		
SK042	ⅤB4a	55	20	26	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1須恵器1	
SK043	ⅤB4a	65	39	36	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e294土師器3須恵器1	SB64,SB65
SK044	ⅤB4a,ⅤB4b	68	60	30	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e295土師器5	SB63
SK045	ⅤB4a	33	26	24	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK046	ⅤB4a	35	26	14	楕円	7.5YR5/6シルト		SB62
SK047	ⅤB4a	40	30	39	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2	SB60,SB62
SK048	ⅤA3t,ⅤB4a	30	30	12	円	7.5YR4/6シルト		SB62
SK049	ⅤB3a	50	35	38	楕円	10YR4/4シルト	土師器3須恵器2	SA06
SK050	ⅣB3t	52	40	6	楕円	10YR5/6シルト		SA06
SK051	ⅤB3a	53	28	42	楕円	10YR4/4シルト	土師器3	SB60
SK052	ⅤA2t,ⅤA3t	32	30	22	円	10YR4/4シルト	土師器3須恵器1	SB48
SK053	ⅤA2t,ⅤA3t	34	30	39	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2	SA06
SK054	ⅤA2t	28	26	16	円	10YR5/4シルト	土師器1	SB48
SK055	ⅤA2t	32	32	13	円	10YR4/4シルト	e296須恵器1	SB49
SK056	ⅤA2t	27	25	24	円	10YR4/4シルト		SB48
SK057	ⅤA2t	70	50	54	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2	SB49,SB50
SK058	ⅤA2t	35	34	17	円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB48
SK059	ⅤB2a	60	57	45	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	e297土師器6	SB47
SK060	ⅤB2a	38	38	42	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器1	SB50
SK061	ⅤB1a	33	32	31	円	7.5YR4/4粘質シルト		SB47
SK062	ⅤB1a	40	40	16	三角	10YR5/4粘質シルト		SB47
SK063	ⅤB1a	160	112	8	楕円	10YR5/4シルト	土師器2須恵器2	SB47
SK064	ⅤB2a	50	30	28	楕円	10YR4/4シルト	土師器3	SB47
SK065	ⅤB2a	28	25	22	円	10YR4/3シルト炭化物混	土師器2	SB47
SK066	ⅤB2a	33	33	22	円	10YR4/3シルト炭化物少量混	須恵器3	SB47
SK067	ⅤB2a	50	35	52	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器3	SB50
SK068	図化せず	126	120	8	円	7.5YR4/4シルト	土師器15須恵器4	
SK069	ⅤB4b	71	59	56	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/4シルト	土師器6須恵器4	SB60
SK070	ⅤB3b,ⅤB4b	30	30	18	円	10YR4/4シルト		SB70
SK071	ⅤB3b,ⅤB4b	25	25	27	円	10YR4/4シルト	土師器1	SB63
SK072	ⅤB3b	50	50	36	円	10YR4/4シルト	土師器2須恵器5	SB61
SK073	ⅤB3b	＊33	30	47	楕円	10YR4/3粘質シルト	土師器3	
SK074	ⅤB3b	52	37	14	楕円	10YR4/4シルト	須恵器1	SB61
SK075	ⅤB3b	25	22	9	円	10YR4/4シルト		
SK076	ⅤB3b	83	36	38	楕円	7.5YR4/4粘質シルト	土師器2	
SK077	ⅤB3b	52	40	38	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	e298土師器7須恵器2	SB54
SK078	ⅤB3c	40	38	25	円	10YR5/4シルト		SB54
SK079	ⅤB4c	80	52	19	楕円	7.5YR4/4シルト	e436土師器5	SB53,SB65
SK080	ⅤB4c	120	108	17	楕円	10YR4/4シルト	戦国e299e300土師器17須恵器7	
SK081	ⅤB4c	77	75	14	円	10YR4/4シルト炭化物混	e301土師器19須恵器5	SB68
SK082	ⅤB4c	42	35	33	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器11	SB70
SK083	ⅤB4c	29	28	39	円	10YR4/4シルト	須恵器2	SB70
SK084	ⅤB4c	55	50	15	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器4須恵器1	SB73
SK085	ⅤB4c	28	＊20	23	楕円	10YR4/4シルト	土師器2須恵器1	SB70
SK086	ⅤB4c	60	60	8	円	7.5YR4/4シルト	戦国e302土師器4	
SK087	ⅤB4d	29	29	20	円	10YR4/4シルト	土師器1須恵器1	SB74
SK088	ⅤB4d	28	25	23	楕円	10YR4/4シルト炭化物混		SB74,SB70
SK089	ⅤB5d	43	43	46	円	10YR4/4シルト炭化物混	須恵器2	SA08,SB74

遺構一覧表(4)

付表

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK090	ⅤB5d	58	58	5	円	7.5YR4/4シルト	須恵器1	SB74
SK091	ⅤB5d	30	28	32	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2須恵器1	SB75
SK092	ⅤB5d	20	18	21	円	10YR4/4シルト炭化物混		SB79
SK093	ⅤB5d	20	20	16	円	10YR4/4シルト	土師器1須恵器2	SB75
SK094	ⅤB5d	25	23	18	円	10YR4/4シルト炭化物混		SB75
SK095	ⅤB5d	18	18	15	円	10YR4/4シルト		SB75
SK096	ⅤB3c	100	66	17	楕円	10YR5/4シルト	e303土師器7須恵器2	
SK097	ⅤB2b,c,ⅤB3b,c	47	37	35	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器5	SB52,SB53
SK098	ⅤB2b,ⅤB3b	73	73	12	円	10YR4/4シルト	土師器5須恵器1	SB51
SK099	ⅤB2b	22	17	18	楕円	10YR4/4シルト	土師器1	SB52
SK100	ⅤB2b	22	18	15	楕円	10YR4/3シルト炭化物少量混	土師器1	
SK101	ⅤB2b	37	34	18	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		
SK102	ⅤB2c	33	30	10	円	7.5YR4/2シルト		
SK103	ⅤB2b	50	＊17	2	半円	10YR5/4シルト		
SK104	ⅤB1b	60	60	12	四角	10YR4/3シルト炭化物少量混	e374須恵器1	SB45
SK105	ⅤB1b	57	56	45	四角	10YR4/4シルト	土師器3	SB46
SK106	ⅤB1b	＊40	23	12	楕円	10YR5/4シルト	土師器3須恵器5	
SK107	ⅤB1b	37	17	10	楕円	7.5YR4/4粘質シルト	土師器1	SB45
SK108	ⅤB1b	55	35	45	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2	SB44
SK109	ⅤB1a,ⅤB1b	110	30	13	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器6	SB42
SK110	ⅤB1b	100	47	45	楕円	10YR4/4シルト	土師器13須恵器3	SB42
SK111	ⅣB20b,ⅤB1b	75	70	10	楕円	7.5YR4/4シルト	e304	SB40
SK112	ⅤB1a,ⅤB1b	40	35	8	四角	10YR4/4シルト		
SK113	ⅤB1a,ⅤB2a	130	85	5	楕円	7.5YR4/4粘質シルト	土師器1須恵器1	
SK114	ⅤB1b	80	70	9	円	10YR5/4シルト	土師器1	SB45
SK115	ⅤB2b	260	95	6	楕円	10YR5/4シルト	土師器4須恵器1	
SK116	ⅤB1a,ⅤB2a	50	40	28	楕円	10YR5/4シルト	土師器6	SB42,SB46
SK117	ⅤB2b	22	19	15	円	10YR4/4シルト		SB45
SK118	ⅤB2a	110	30	26	楕円	10YR4/4シルト	土師器6須恵器3	SB42
SK119	ⅤB2a	45	21	7	楕円	10YR5/4シルト		
SK120	ⅤB2a,ⅤB2b	58	46	8	楕円	10YR4/4シルト		SB42
SK121	ⅤB2a,ⅤB2b	33	32	24	円	10YR5/3シルト	土師器1須恵器1	SB46,SB51
SK122	ⅤB2b	30	30	13	円	10YR4/4シルト	土師器2	SB42,SB45,SB46
SK123	ⅤB2b	52	35	50	楕円	10YR4/4シルト	土師器3	SB45
SK124	図化せず	33	＊19	12	楕円	10YR4/4シルト		
SK125	ⅤB2b	96	65	58	楕円	セクション図あり	土師器20須恵器8	SB45
SK126	ⅤB2b	35	33	24	円	10YR4/4シルト		SB44,SB42
SK127	ⅤB7d	18	17	8	円	10YR4/4シルト		SB84
SK128	ⅤB6d	72	61	18	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2須恵器2	
SK129	図化せず	＊40	40	16	楕円	10YR4/4シルト		
SK130	ⅤB6d	60	40	13	楕円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器1	SB84
SK131	ⅤB6c,ⅤB6d	42	40	26	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB84,SB85
SK132	ⅤB6c	16	14	5	円	7.5YR5/4シルト		SA10
SK133	ⅤB6c	18	17	8	円	7.5YR4/3シルト		SA10
SK134	ⅤB6c	24	18	10	楕円	10YR4/4シルト		SB81
SK135	ⅤB5c,ⅤB6c	37	36	20	円	10YR4/4シルト	土師器2	SB81
SK136	ⅤB5c	36	25	45	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	弥生土器？4	SB74
SK137	ⅤB5c	23	22	20	円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB74
SK138	ⅤB4c	30	28	42	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e305土師器4	SB72
SK139	ⅤB4c	33	32	52	円	10YR4/4シルト炭化物混	e305土師器3	SB74,SB70
SK140	ⅤB4c	26	22	15	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB70
SK141	ⅤB4c,ⅤB5c	30	23	23	楕円	10YR4/4シルト炭化物混		SB74
SK142	ⅤB5c	50	45	19	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器3須恵器1	SB70
SK143	ⅤB4c	74	62	8	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB65
SK144	ⅤB4b,ⅤB4c	30	28	12	円	10YR4/4シルト		
SK145	ⅤB4b,ⅤB4c	27	27	10	円	7.5YR4/4シルト		
SK146	ⅤB4b	48	35	38	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/4シルト		SB63,SB64
SK147	ⅤB4b	40	33	30	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器3	SB64
SK148	ⅤB4b	24	18	9	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB61
SK149	ⅤB4b	32	32	16	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB63
SK150	ⅤB4b	45	42	20	円	10YR4/4シルト	須恵器1	SB64
SK151	ⅤB4b	60	60	38	円	10YR3/3シルト炭化物少量混	土師器1須恵器2	
SK152	ⅤB4b	34	33	15	円	10YR4/4シルト		
SK153	ⅤB4b	50	45	22	楕円	10YR4/4シルト		SB64
SK154	ⅤB5b	20	20	12	円	10YR4/4シルト		SB77
SK155	ⅤB4a	44	44	45	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器5	SB64
SK156	ⅤB3a	45	45	55	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2須恵器1	SB61
SK157	ⅤB4a	64	45	22	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB62
SK158	ⅤB4a	26	16	7	楕円	10YR4/4シルト		SB62
SK159	ⅤB4a	27	27	14	円	7.5YR4/4シルト	土師器1	
SK160	ⅤB4a	31	29	14	円	7.5YR4/4シルト		SB62
SK161	ⅣA20s	＊117	79	15	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1須恵器5	
SK162	ⅣA20s	＊111	＊50	8	楕円	10YR4/6シルト	現代1須恵器1	
SK163	ⅣA20r,ⅣA20s	＊120	71	7	楕円	10YR4/2シルト		

矢迫遺跡

遺構一覧表(5)

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK164	欠番							
SK165	ⅣA20s	28	28	2	円	10YR5/4シルト		
SK166	ⅣA19s	28	27	3	円	7.5YR4/4シルト		撹乱
SK167	ⅣA19s	19	17	5	円	7.5YR4/4シルト		SA04
SK168	ⅣA19s	18	＊15	6	円	7.5YR4/4シルト		SA03
SK169	ⅣA19s	22	20	4	円	7.5YR4/4シルト		SB33
SK170	ⅣA19s	20	20	5	円	7.5YR4/4シルト		SB35
SK171	ⅣA18s	87	＊37	8	半円	10YR4/4シルト		SB35
SK172	ⅣA18t	＊76	＊40	9	三角	7.5YR4/4シルト		SB34
SK173	ⅣA18t	54	54	30	円	7.5YR4/4シルト		SB33,SB34
SK174	ⅣA17t,ⅣA18t	＊100	65	38	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1	
SK175	ⅣA17t	18	18	7	円	10YR4/4シルト		SA01
SK176	ⅣA17t	25	25	16	円	10YR4/4シルト		
SK177	ⅣA17t	＊40	20	8	楕円	7.5YR4/4シルト		SB25
SK178	ⅣA17s,ⅣA17t	＊95	20	3	楕円	7.5YR4/4シルト		SB26,SB25
SK179	ⅣA17s	30	30	24	円	10YR4/4粘質シルト	土師器1	SB26
SK180	ⅣA17s	30	27	13	円	10YR4/4粘質シルト		
SK181	ⅣA17s	＊26	15	15	楕円	10YR4/4シルト		
SK182	ⅣA17s	27	27	14	円	7.5YR4/4シルト		SB26
SK183	ⅣA17s	45	＊27	16	半円	7.5YR4/4シルト		SB28
SK184	ⅣA17s,ⅣA18s	40	38	12	円	10YR4/4粘質シルト		SB28,SB26
SK185	ⅣA18s	42	38	11	円	7.5YR4/4シルト		SB26,SB25
SK186	ⅣA18s	130	65	10	楕円	7.5YR4/6シルト	土師器3	
SK187	ⅣA18s	50	40	33	楕円	10YR4/4シルト		SB33
SK188	ⅣA18s	33	26	20	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB33
SK189	ⅣA18s	28	25	26	円	10YR4/3粘質シルト炭化物少量混	土師器14	SB35
SK190	ⅣA18s	60	45	15	楕円	7.5YR4/4粘質シルト		SB28
SK191	ⅣA18s	35	30	13	楕円	7.5YR4/4シルト		SB36
SK192	ⅣA18s	30	30	35	円	10YR4/3粘質シルト炭化物少量混	土師器1	
SK193	ⅣA18s,ⅣA19s	100	80	8	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK194	ⅣA19s	38	32	20	楕円	10YR4/4粘質シルト		SA04
SK195	ⅣA19r,ⅣA19s	170	90	2	楕円	10YR4/2シルト		
SK196	ⅣA19r	80	74	23	楕円	10YR4/4シルト	土師器11須恵器1	
SK197	ⅣA19r	24	23	7	円	10YR4/4シルト		SA03
SK198	ⅣA19r	23	16	12	楕円	10YR4/4シルト		
SK199	ⅣA19r	20	20	9	円	10YR4/4シルト		SA03
SK200	ⅣA19r	34	26	8	楕円	10YR4/4シルト		SB31
SK201	ⅣA19r	34	22	12	楕円	10YR4/4シルト		SA03
SK202	ⅣA19r	25	24	11	円	10YR4/4粘質シルト		SB31
SK203	ⅣA18r	35	32	12	四角	10YR4/4シルト		SB29
SK204	ⅣA18r	40	35	24	四角	10YR4/4シルト		SB31
SK205	ⅣA18r	＊55	35	20	楕円	10YR4/4粘質シルト		SB29
SK206	ⅣA18r	55	26	5	楕円	7.5YR4/4シルト		SB30
SK207	ⅣA18r	66	60	7	楕円	7.5YR4/4シルト		SB27
SK208	ⅣA18r	70	30	4	楕円	7.5YR4/4シルト		SB27
SK209	ⅣA17q,ⅣA17r	50	34	7	楕円	7.5YR4/6粘質シルト		SB27
SK210	ⅣA18q,ⅣA18r	53	50	5	円	7.5YR4/4シルト		SB29
SK211	ⅣA18r	20	＊15	13	半円	10YR4/4シルト		SB32
SK212	ⅣA18r,ⅣA18s	46	43	40	円	セクション図あり	土師器4須恵器2	SB28
SK213	ⅣA18r	35	30	26	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2	
SK214	ⅣA18r,ⅣA18s	36	36	15	円	10YR4/4シルト		SB35
SK215	ⅣA18s	50	35	40	楕円	セクション図あり		SB28
SK216	ⅣA18s	38	28	30	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器1	SB35
SK217	ⅣA18s	38	30	30	楕円	10YR4/4シルト	土師器1	SB33
SK218	ⅤB5e	31	＊13	8	半円	10YR5/4シルト		
SK219	ⅤB5e	46	38	30	楕円	10YR4/4シルト	土師器5須恵器1	
SK220	ⅤB6e	40	35	20	楕円	10YR4/4シルト		SA09
SK221	ⅤB5e	28	＊20	30	円	10YR4/4シルト		
SK222	ⅤB5d,e,ⅤB6d,e	45	35	37	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物混	土師器2須恵器3	SA09
SK223	ⅤB6d	28	＊20	10	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK224	ⅤB7d	19	19	8	円	10YR4/4シルト		
SK225	欠番							
SK226	ⅤB6e	22	20	14	楕円	10YR4/4シルト		
SK227	ⅤB6e	16	14	5	円	10YR4/4シルト		
SK228	ⅤB6e	19	18	6	円	7.5YR4/4シルト		SB91
SK229	ⅤB6e	23	19	6	楕円	7.5YR4/4シルト		SB91
SK230	ⅤB6e	17	16	15	円	7.5YR4/4シルト		
SK231	ⅤB6e	19	14	13	楕円	10YR4/4シルト		
SK232	ⅤB6e	20	20	8	円	7.5YR4/4シルト		
SK233	ⅤB6e,ⅤB7e	36	35	30	円	10YR4/4シルト		
SK234	ⅤB7e	22	20	22	楕円	10YR4/4シルト炭化物混		
SK235	ⅤB7e	20	20	13	円	7.5YR4/4シルト		SB91
SK236	ⅤB6f	25	20	7	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK237	ⅤB6f	20	16	28	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB87

遺構一覧表(6)

付表

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK238	ⅤB7e,ⅤB7f	38	＊35	22	円	7.5YR4/4シルト		SB93
SK239	ⅤB7f	33	33	7	円	7.5YR4/6シルト		SB92
SK240	ⅤB7f	23	22	20	円	7.5YR4/4シルト		SB93
SK241	ⅤB7f	24	20	18	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器3須恵器1	SB92
SK242	欠番							
SK243	ⅤB4b	＊100	70	35	楕円	10YR3/4シルト+7.5YR4/6シルト	須恵器1	
SK244	ⅤB1b	247	＊38	21	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1須恵器2	
SK245	ⅤB5d	62	50	10	楕円	7.5YR5/4シルト		SB73
SK246	ⅤB5d	35	30	20	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器2須恵器1	SB74.SB75
SK247	ⅤB5d	30	30	48	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器1須恵器1	SA08.SB73
SK248	ⅤB5d	33	27	16	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	戦国2	
SK249	ⅤB5d	30	25	40	円	7.5YR4/4シルト		
SK250	ⅤB4d	30	30	33	円	セクション図あり	e307-309土師器1須恵器1	SB74.SA07
SK251	ⅤB4d	35	30	25	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB75
SK252	ⅤB4d	23	20	37	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e310e311須恵器1	SA08.SB72
SK253	ⅤB4d	23	＊20	40	円	7.5YR4/4シルト	e435	SB72
SK254	ⅤB4d	40	34	40	楕円	セクション図あり	土師器2須恵器2	
SK255	ⅤB4d	35	30	45	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		SB70.SB72
SK256	ⅤB4d	＊38	＊30	10	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物混		SA08
SK257	ⅤB4d	35	28	17	楕円	10YR4/4シルト	土師器2	
SK258	ⅤB4d	20	20	17	円	10YR4/4シルト		
SK259	ⅤB4d	40	30	15	楕円	7.5YR4/4シルト		SB69.SA07
SK260	ⅤB4d	30	24	12	楕円	10YR4/4シルト		SA08
SK261	ⅤB4d	50	50	20	円	セクション図あり		SB73
SK262	ⅤB4d	25	23	20	円	7.5YR4/4シルト		SB71
SK263	ⅤB4d	35	35	60	円	セクション図あり	土師器4須恵器3	SB73
SK264	ⅤB4d	30	26	27	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2	SB71
SK265	ⅤB4d	30	30	17	円	10YR4/4シルト	e312	SB68.SB71
SK266	ⅤB4d	40	34	18	楕円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器1	SB69
SK267	ⅤB4d	50	30	27	楕円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器2	SA07
SK268	ⅤB4d	22	20	20	楕円	7.5YR4/4シルト		SB72
SK269	ⅤB4d	50	31	30	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器2	SB70
SK270	ⅤB4d	55	32	17	楕円	10YR4/4シルト	土師器2	SB68.SB70
SK271	ⅤB4d	30	28	7	円	10YR4/4シルト炭化物少量混		
SK272	ⅤB3d,ⅤB4d	＊140	70	9	楕円	10YR4/4シルト	戦国1土師器35須恵器6	SB67.SB69
SK273	ⅤB3c	23	23	17	円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器3	
SK274	ⅤB3c	38	22	18	楕円	7.5YR4/4シルト		SB56
SK275	ⅤB3c	40	40	30	円	10YR4/4シルト		SB54.SB57
SK276	ⅤB3c	30	30	30	円	7.5YR4/4シルト		SB54
SK277	ⅤB3c	20	10	13	楕円	10YR4/3シルト炭化物少量混		
SK278	ⅤB3c	43	42	40	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器1	
SK279	ⅤB3c	100	65	10	楕円	10YR4/4シルト		SB53.SB55
SK280	ⅤB2c	34	25	15	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK281	ⅤB2c	25	20	11	楕円	10YR4/4シルト		SB52
SK282	ⅤB2c	26	20	33	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		
SK283	ⅤB2c	25	13	14	楕円	10YR4/6シルト		SB54
SK284	ⅤB2c	60	60	57	円	10YR4/4シルト	須恵器1	SB54
SK285	ⅤB2c	40	35	22	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	e313土師器4須恵器9	SB45.SB52
SK286	ⅤB2c	57	28	16	楕円	7.5YR4/4シルト	須恵器1	SB53
SK287	ⅤB2c	28	23	6	楕円	10YR4/4シルト		SB44
SK288	ⅤB2c,ⅤB2d	70	48	7	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器6	SB45
SK289	ⅤB4b	35	26	20	楕円	10YR4/4シルト	土師器1須恵器1	
SK290	ⅤB4b	20	20	17	円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		
SK291	ⅤB4b	＊55	38	37	楕円	7.5YR4/6シルト		SB61
SK292	ⅤB4b	23	23	30	円	10YR4/4シルト		
SK293	ⅤB4b	90	53	22	楕円	7.5YR4/6シルト	土師器3	SB61.SB65
SK294	ⅤB4b	52	37	35	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB63
SK295	ⅤB4b	65	52	22	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器1	SB61.SB65
SK296	ⅤB4b	52	34	35	楕円	10YR4/4シルト炭化物少量混	土師器6須恵器2	SB60
SK297	ⅤB4b	84	24	4	楕円	7.5YR4/6シルト		
SK298	ⅤB4a,ⅤB4b	116	85	9	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器2須恵器2	SB61
SK299	ⅤB4a	70	62	62	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器6須恵器1	SB65
SK300	ⅤB4a	24	16	7	楕円	10YR4/4シルト	土師器2	SB62
SK301	ⅤB4a	＊130	35	20	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK302	ⅤB3b	28	20	9	楕円	10YR4/4シルト		SB63
SK303	ⅤB3b	22	18	18	楕円	10YR4/4シルト		
SK304	ⅤB1a	35	33	30	円	10YR4/4シルト	e314	SB47
SK305	ⅣB20a	55	40	18	楕円	10YR4/3シルト炭化物混	e315土師器10須恵器2	SB40.SB38
SK306	ⅣB19a,ⅣB20a	110	＊80	25	楕円	10YR4/4シルト	e373e408土師器11須恵器5	SB40.SB39
SK307	ⅣB19a,ⅣB20a	167	80	10	楕円	7.5YR5/4シルト		SB38
SK308	ⅤA2t	30	28	10	円	10YR5/4シルト		
SK309	ⅤA2t	＊25	25	28	円	10YR5/4シルト	土師器1	SB49
SK310	ⅤA2t	50	30	30	楕円	10YR4/4シルト炭化物混	土師器3	SB48
SK311	ⅤA2t	35	17		半円	10YR4/4シルト		SB48

矢迫遺跡

遺構一覧表(7)

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK312	ⅤA2t	50	40	35	楕円	10YR4/4シルト炭化物大量混	土師器2	SB49
SK313	ⅤA2t	40	35	15	円	10YR4/3シルト炭化物混	e316須恵器1	SB49
SK314	ⅣB20a,ⅤA1a	＊135	＊115	23	楕円	10YR4/4シルト		
SK315	ⅤB3c	35	30	43	楕円	10YR4/4シルト	土師器9須恵器4	SB55
SK316	ⅤB3c	33	38	8	楕円	10YR4/4シルト		SB53
SK317	ⅤB2b	30	25	10	円	10YR4/4シルト	土師器2	SB46
SK318	ⅤB1a,ⅤB1b	32	32	14	円	10YR4/4シルト	土師器1	SB45
SK319	ⅤB1a	80	33	27	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器14須恵器1	SB42
SK320	ⅣA18s	40	23	8	楕円	10YR4/4シルト		
SK321	ⅣA18r	50	＊30	3	半円	7.5YR4/4シルト		SB28
SK322	ⅣA16s	28	26	8	円	10YR4/4シルト		SB23
SK323	ⅤB5b	21	21	9	円	7.5YR4/4シルト		SB78
SK324	ⅤB5d	20	20	20	円	7.5YR4/4シルト		
SK325	ⅤB5d	38	34	45	円	7.5YR4/4シルト	土師器2須恵器1	SB80
SK326	ⅤB5d	40	＊34	17	円	10YR5/4シルト		SA09
SK327	ⅤB4d	18	18	10	円	10YR4/4シルト		SB72
SK328	ⅤB4d	32	28	20	円	10YR4/4シルト		SB70,SB66
SK329	ⅤB4c	20	19	10	円	10YR4/4シルト	土師器1	
SK330	ⅤB4c	25	21	18	円	7.5YR4/4シルト		SB69
SK331	ⅤB4c	30	＊18	35	楕円	10YR4/4シルト+7.5YR4/4シルト		SB72
SK332	ⅤB4c	37	25	20	楕円	7.5YR4/4シルト		SB69
SK333	ⅤB4c	30	28	45	円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混	土師器2須恵器3	SB67
SK334	ⅤB3c,ⅤB4c	42	38	42	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器4	SB66
SK335	ⅤB4c,ⅤB4d	33	30	29	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器3	SB66,SB69
SK336	ⅤB4c	154	100	20	四角	10YR4/4シルト	土師器8須恵器3	
SK337	ⅤB3c	25	23	20	円	10YR4/4シルト		SB66,SB67
SK338	ⅣA19s	28	24	31	楕円	10YR4/4シルト		
SK339	ⅣA19s	30	27	51	楕円	10YR4/4シルト		SB33
SK340	ⅣA19s	37	29	19	楕円	10YR4/4シルト		SB36
SK341	ⅣA18s	20	17	10	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物混		SB34
SK342	ⅣA18s	35	29	13	楕円	10YR4/4シルト		SB33
SK343	ⅣA18s	38	34	22	楕円	7.5YR4/4シルト+10YR4/6シルト		SB34,SB35
SK344	ⅣA18s	72	42	32	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB33
SK345	ⅣA19r	36	26	17	楕円	10YR4/4シルト		SB31,SA04
SK346	ⅣA19r	30	24	15	楕円	10YR4/4シルト		SA03
SK347	ⅤA2t	58	43	20	楕円	10YR4/4シルト	土師器2須恵器2	SB48
SK348	ⅤB5c	28	21	24	楕円	10YR4/4シルト		SB79
SK349	ⅤB6d	14	14	12	円	10YR4/4シルト		SB85
SK350	ⅤB4d	28	20	10	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		SB74
SK351	ⅣA16r,ⅣA16s	110	100	8	楕円	7.5YR4/3シルト		SB22
SK352	ⅣA16r	46	42	13	円	7.5YR4/4シルト		
SK353	ⅣA16r	45	45	15	円	7.5YR4/4シルト		
SK354	ⅣA18s	30	30	9	円	7.5YR4/4シルト		SB28
SK355	ⅣA17s	20	20	35	円	7.5YR4/4シルト		SB24
SK356	ⅣA17s	30	27	52	円	セクション図あり	土師器2	SB26,SB25
SK357	ⅣA17s	36	33	16	円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混		
SK358	ⅣA17s	28	28	12	円	7.5YR4/4シルト		
SK359	ⅣA20s	33	27	14	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK360	ⅣA20s	34	34	12	円	7.5YR4/4シルト		
SK361	ⅣA18s	20	20	10	円	7.5YR5/6シルト		SB34
SK362	ⅣA19s	34	33	37	円	7.5YR4/4シルト		SB33
SK363	ⅣA19s	53	46	15	円	7.5YR5/4シルト		
SK364	ⅣA19s	26	26	8	円	7.5YR4/4シルト		SB36,SA02
SK365	ⅣA19s	20	20	5	円	10YR4/3シルト		SA02
SK366	ⅣA19s	40	36	12	楕円	7.5YR5/4シルト		SA03
SK367	ⅣA19s	44	26	31	楕円	7.5YR5/4シルト炭化物少量混		SB35,SA04
SK368	ⅣA19s	38	30	7	楕円	7.5YR5/4シルト		SA04
SK369	ⅣA19s	36	28	28	楕円	7.5YR4/4シルト		SB33
SK370	ⅣA19s	30	28	38	円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		SB35,SA02
SK371	ⅣA19s	32	32	8	円	7.5YR4/6シルト		SB36,SA03
SK372	ⅣA19r	29	25	18	楕円	7.5YR4/4シルト		SB36
SK373	ⅣA19r	42	34	18	円	7.5YR4/3シルト		SA02
SK374	ⅣA19r	26	23	20	円	7.5YR4/4シルト		SA04
SK375	ⅣA19r	32	32	6	円	7.5YR4/4シルト		SB31,SA03
SK376	ⅣA18r	37	35	30	楕円	セクション図あり		SB31,SB32
SK377	ⅣA18r	＊35	35	8	楕円	7.5YR5/4シルト		SB28
SK378	ⅣA18r,ⅣA19r	42	35	4	楕円	7.5YR5/4シルト		SA02
SK379	ⅣA18s	16	16	16	円	7.5YR3/4シルト炭化物少量混		
SK380	ⅣA17r	50	50	6	円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		SB27
SK381	ⅣA18r	30	27	3	楕円	7.5YR5/4シルト		SB30
SK382	ⅣA18r	47	37	5	楕円	7.5YR5/4シルト		SB30,SB28
SK383	ⅣA18r	30	29	9	円	7.5YR4/4シルト		SB30,SB29
SK384	ⅣA18r	26	24	8	円	7.5YR5/4シルト		SB29
SK385	ⅣA18r	28	26	32	円	7.5YR4/4シルト		SB30

遺構一覧表(8)

付表

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK386	ⅣA17s	42	30	22	楕円	7.5YR5/4シルト		SB26
SK387	ⅣA17s	35	32	33	楕円	7.5YR4/3シルト炭化物焼土混	土師器5	SB25
SK388	ⅣA17r,ⅣA17s	42	35	15	楕円	7.5YR4/4シルト		SB24
SK389	ⅤB3c	33	30	50	円	10YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器1須恵器1	SB53.SB56
SK390	ⅤB3c	33	27	20	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器2	SB54.SB67
SK391	ⅤB3c	35	26	10	楕円	10YR4/4シルト		SB68
SK392	ⅤB3c	22	20	21	円	10YR4/4シルト	須恵器1	SB67
SK393	ⅤB3c,ⅤB3d	21	19	14	円	10YR4/4シルト		SB66
SK394	ⅤB3c	26	24	20	円	10YR4/4シルト		SB67
SK395	ⅤB3c	20	＊17	13	円	7.5YR4/4シルト		SB57
SK396	ⅤB3c	18	18	13	円	10YR4/4シルト		SB57
SK397	ⅤB7e	22	22	13	円	10YR4/4シルト		
SK398	ⅤB7e	39	34	12	楕円	10YR4/4シルト		
SK399	ⅤB7e	30	27	22	円	10YR4/4シルト		SB91
SK400	ⅤB6f	26	21	42	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		SB86.SB89
SK401	ⅤB3d	19	16	10	楕円	7.5YR4/4シルト		SB66
SK402	ⅣA17s	34	22	15	楕円	7.5YR5/4シルト		SB26
SK403	ⅣA18s	18	17	12	円	10YR4/4シルト		SB34
SK404	ⅣA18s	36	27	7	楕円	7.5YR5/4シルト		SB28
SK405	ⅣA18r	30	29	16	円	10YR4/4シルト炭化物少量混		SB31
SK406	ⅣA18s	20	17	8	楕円	7.5YR5/4シルト		SB32
SK407	ⅣA18s	13	11	7	楕円	10YR4/3シルト		
SK408	ⅣA17s	113	13	7	楕円	7.5YR4/4シルト		SB22
SK409	ⅣA17s	18	16	20	円	10YR4/4シルト	中世e317須恵器3	
SK410	ⅣA17s	24	18	27	楕円	10YR4/4シルト	土師器1	SB25
SK411	ⅣA16t	70	61	3	円	7.5YR5/4シルト	土師器5	SB21.SB22
SK412	ⅣA16t	35	31	28	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR5/6シルト		SB23
SK413	ⅣA16t	17	12	11	楕円	7.5YR4/3シルト		SB22
SK414	ⅣA16t	26	23	20	円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SB21
SK415	ⅣA16s	23	19	5	円	10YR5/4シルト		SB23
SK416	ⅣA16t	41	39	25	楕円	10YR5/4シルト+7.5YR5/6シルト		SB21
SK417	ⅣA16t	36	23	20	楕円	2.5Y5/4シルト炭化物少量混		SB21
SK418	ⅣA16s	29	25	5	円	7.5YR5/4シルト		
SK419	ⅣA16s	22	21	12	円	10YR5/4シルト		SB22
SK420	ⅣA16s	28	28	13	円	7.5YR4/4シルト		SB23
SK421	ⅣA15t,ⅣA16t	33	7	5	楕円	10YR5/4シルト		SB21
SK422	ⅣA16t	70	13	7	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK423	ⅣA15t	35	26	31	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混	土師器1須恵器1	SB21
SK424	ⅣA15s,ⅣA16s	105	31	7	三角	7.5YR5/4シルト		SB22
SK425	ⅣA15s	19	17	13	円	10YR5/4シルト		
SK426	ⅣA15s	19	17	10	円	10YR4/4シルト		
SK427	ⅣA15s	48	46	13	円	2.5YR4/3極細砂	e412	
SK428	ⅣA15r	67	54	4	円	10YR7/6粘土炭化物少量混		
SK429	ⅣA15r	34	30	7	円	10YR5/6粘土		
SK430	ⅣA14r,ⅣA15r	180	80	27	楕円	7.5YR5/4シルト炭化物少量混		
SK431	ⅣA13r	26	25	5	円	10YR5/3シルト		
SK432	ⅣA13q,ⅣA13r	100	38	21	楕円	7.5YR5/4シルト炭化物少量混	須恵器1	
SK433	ⅣA13q	90	88	48	円	セクション図あり		
SK434	ⅣA13q	21	18	15	楕円	7.5YR4/4粘土炭化物少量混		
SK435	ⅣA12p,q,ⅣA13q	876	90	2	長楕円	10YR7/6粘土		
SK436	ⅣA13q	40	＊30	20	円	7.5YR4/6極細砂		
SK437	ⅣA12p	126	79	6	楕円	10YR7/6粘土	土師器1須恵器1	
SK438	ⅣB18a	38	24	4	楕円	7.5YR4/6シルト	須恵器1	
SK439	ⅣB18a	46	21	3	楕円	7.5YR4/6シルト		
SK440	ⅣB18a	55	44	9	三角	7.5YR5/4シルト		
SK441	ⅣB18a	168	120	12	楕円	7.5YR5/4シルト	近世1e319土師器7須恵器3	
SK442	ⅣB19a	60	＊40	8	半円	7.5YR5/4シルト	土師器3須恵器1	SB40.SB39
SK443	ⅣB19a	38	36	48	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	e320土師器4	SB38
SK444	ⅣB19a,ⅣB19b	82	54	10	楕円	7.5YR5/4シルト	土師器11	SB38
SK445	ⅣB19b	35	23	6	楕円	7.5YR5/4シルト		SA05
SK446	ⅣB19b	23	21	5	円	7.5YR5/4シルト	土師器1	SA05
SK447	ⅣB19b	32	27	8	楕円	7.5YR4/4シルト		SB39
SK448	ⅣB19b	48	35	25	楕円	7.5YR4/2シルト+7.5YR4/6シルト	土師器6	
SK449	ⅣB19b	30	20	6	楕円	7.5YR5/4シルト		SB39
SK450	ⅣB19b	38	37	6	円	7.5YR4/6シルト		SB39
SK451	ⅣB19b	60	34	5	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK452	ⅣB19b	60	58	8	円	7.5YR5/4シルト		
SK453	ⅣB19b	38	31	6	楕円	7.5YR5/4シルト	土師器5	
SK454	ⅣB19b	155	73	7	楕円	7.5YR5/4シルト		SB40.SA05
SK455	ⅣB19b,ⅣB20b	＊110	110	13	長方	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		SB40
SK456	ⅣB20b	80	68	4	楕円	7.5YR4/6シルト		SB39
SK457	ⅣB20b	25	22	12	円	7.5YR5/4シルト	土師器5須恵器3	SB41
SK458	ⅣB20b	21	19	6	円	7.5YR4/4シルト		SB41
SK459	ⅣB20b	44	22	12	瓢箪	7.5YR4/4シルト	須恵器1	

矢迫遺跡

遺構一覧表(9)

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK460	ⅣB20b	55	40	6	楕円	7.5YR5/4シルト		SB40
SK461	ⅣB20b	111	71	14	楕円	7.5YR4/4シルト	土師器1須恵器1	
SK462	ⅣB20b,ⅣB20c	42	32	33	楕円	7.5YR4/2シルト+7.5YR4/6シルト	土師器4須恵器2	SB41
SK463	ⅣB20c	19	19	7	円	7.5YR4/4シルト		SB41
SK464	ⅣB20b,ⅣB20c	43	40	35	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	土師器9	
SK465	ⅣB20b	32	20	14	楕円	7.5YR4/4シルト		
SK466	ⅣB20c	13	13	3	円	7.5YR5/6シルト		
SK467	ⅣB20c,ⅤB1c	48	16	11	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK468	ⅤB2c	20	17	10	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		
SK469	ⅤB1b,ⅤB1c	44	38	18	楕円	7.5YR4/2シルト		SB44
SK470	ⅤB1b	44	36	27	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト	土師器3	SB45
SK471	ⅤB1c	50	44	28	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	e321e375土師器3須恵器1	
SK472	ⅤB1c	26	21	12	円	7.5YR4/4シルト		SB43
SK473	ⅤB1c	31	24	9	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK474	ⅤB1c	36	26	21	楕円	7.5YR5/4シルト	土師器1	
SK475	ⅤB1c	55	46	30	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	e322土師器11	SB43
SK476	ⅤB1c	44	40	30	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		
SK477	ⅤB2c	74	67	25	円	7.5YR4/2シルト	近世1	SB55
SK478	ⅤB2c	57	＊51	19	円	7.5YR5/4シルト		SB53
SK479	ⅤB2c	31	25	11	楕円	7.5YR4/4シルト	須恵器1	
SK480	ⅤB2c	42	40	40	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR5/6シルト		SB56
SK481	ⅤB2c,ⅤB2d	50	43	10	楕円	10YR5/3シルト	土師器2	
SK482	ⅤB2c,ⅤB2d	77	72	7	円	7.5YR5/3シルト		SB55
SK483	ⅤB2d	80	7	12	溝状	7.5YR5/4シルト		
SK484	ⅤB1c,d,ⅤB2c,d	300	106	14	長方	7.5YR5/4シルト+7.5YR4/6シルト	土師器147須恵器27	
SK485	ⅤB2d	77	45	52	楕円	10YR4/3シルト	土師器7	
SK486	ⅤB2d	77	45	52	楕円	10YR4/3シルト炭化物少量混	土師器3須恵器1	
SK487	ⅤB2d	37	30	20	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	土師器1	
SK488	ⅤB2d	19	17	8	円	7.5YR4/3シルト		SB57
SK489	ⅤB2d	32	29	14	円	7.5YR4/3シルト		SB56
SK490	ⅤB2d	27	21	10	楕円	7.5YR4/3シルト	e324	SB56
SK491	ⅤB2d	44	44	20	円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混	須恵器4	SB56
SK492	ⅤB2d	34	＊24	16	半円	7.5YR4/4シルト		SB58
SK493	ⅤB2d	18	＊10	12	半円	7.5YR4/4シルト		
SK494	ⅤB2c,ⅤB2d	45	30	19	楕円	7.5YR4/3シルト		
SK495	ⅤB2c	18	14	7	楕円	7.5YR4/4シルト		SB57
SK496	ⅤB2c	44	37	26	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR5/6シルト		SB54
SK497	ⅤB3c	31	28	30	円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混		
SK498	ⅤB3c	29	26	15	楕円	7.5YR4/3シルト		SB55
SK499	ⅤB3d	19	19	10	円	7.5YR4/2シルト	土師器1	SB58
SK500	ⅤB3d	51	38	25	楕円	7.5YR4/3シルト		SB57
SK501	ⅤB3d	110	38	7	四角	7.5YR5/4シルト	土師器4須恵器4	SB57
SK502	ⅤB3d	30	21	8	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK503	ⅤB3d	27	24	19	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		
SK504	ⅤB3d	30	30	6	円	7.5YR5/4シルト		SB66
SK505	ⅤB3d	＊24	20	12	半円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		SB66
SK506	ⅤB3d	27	26	9	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		SB56
SK507	ⅤB3d	50	28	11	楕円	7.5YR5/4シルト		SB66,SB68
SK508	ⅤB3d,ⅤB4d	29	28	13	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	土師器2	SB69,SB71
SK509	ⅤB4d	33	27	37	楕円	7.5YR5/4シルト		SB71
SK510	ⅤB4d	20	20	14	円	7.5YR4/2シルト	土師器2	SB69,SB71
SK511	ⅤB4d	＊57	16	18	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	土師器1	SA08
SK512	ⅤB4d	73	17	10	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK513	ⅤB4d	18	16	9	円	7.5YR5/4シルト		SB71
SK514	ⅤB4d	23	17	9	楕円	7.5YR4/3シルト	土師器2	SA07
SK515	ⅤB4d	20	19	7	円	7.5YR4/3シルト		
SK516	ⅤB4d	25	24	12	円	7.5YR4/4シルト	土師器1	SA08
SK517	ⅤB4d	27	21	12	楕円	7.5YR4/4シルト		SB50
SK518	ⅤB4d	33	22	12	楕円	7.5YR4/3シルト		
SK519	ⅤB4d	44	34	25	楕円	7.5YR4/3シルト	e325土師器1	
SK520	ⅤB6c,ⅤB6f	100	58	11	楕円	10YR4/3シルト炭化物少量混	c326-328土師器2	SB89
SK521	ⅤB6f	46	35	13	楕円	7.5YR4/4シルト		SB87
SK522	ⅤB6f	38	＊28	5	円	7.5YR4/3シルト		SB89
SK523	ⅤB6f	26	20	19	円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	土師器2須恵器1	
SK524	ⅤB6f,ⅤB7f	22	20	7	円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混	土師器1須恵器1	SB90
SK525	ⅣA13q	24	23	7	円	7.5YR5/3粘土炭化物少量混		
SK526	ⅣA17s	26	23	7	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SK527	ⅣA17s	22	21	9	円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混		
SK528	ⅤB6f	24	15	6	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK529	ⅤB6f	29	25	8	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		SB87
SK530	ⅤB6f	＊50	27	6	楕円	7.5YR5/4シルト	土師器1須恵器1	SB86
SK531	ⅤB6f	26	＊20	13	円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混		
SK532	ⅤB6f	45	34	6	楕円	7.5YR4/3シルト		SB90
SK533	ⅤB6f	45	26	8	楕円	7.5YR4/2シルト		SB90

遺構一覧表(10)

付表

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK534	ⅤB6f	22	20	14	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	須恵器2	SB90
SK535	ⅤB6f	18	16	4	円	7.5YR4/3シルト		SB90
SK536	ⅤB6f	20	18	8	円	7.5YR4/2シルト+7.5YR4/4シルト		
SK537	ⅤB7f	31	30	24	円	7.5YR4/3シルト		SB93
SK538	ⅤB7f	29	27	13	円	7.5YR4/2シルト		
SK539	ⅤB7f	29	24	7	円	7.5YR5/6シルト		SB92
SK540	ⅤB7f	38	37	8	円	7.5YR5/4シルト		SB93
SK541	ⅤB7f	22	20	16	円	7.5YR4/2シルト		
SK542	ⅤB7f,ⅤB7g	25	20	18	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		SB94
SK543	ⅤB7g	27	22	17	楕円	10YR4/3シルト		
SK544	ⅤB7g	19	16	10	円	7.5YR4/2シルト		
SK545	ⅤB7g	22	18	12	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		SB94
SK546	ⅤB7f	30	20	14	楕円	7.5YR4/3シルト		
SK547	ⅤB7f	18	16	10	円	7.5YR4/3シルト		
SK548	ⅤB7f,g,ⅤB8f,g	27	21	20	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混		SB94
SK549	ⅤB7g,ⅤB8g	31	26	10	楕円	10YR5/3シルト		SA11
SK550	ⅤB8g	140	27	30	楕円	7.5YR4/4シルト炭化物少量混	e329-331土師器18須恵器3	
SK551	図化せず							
SK552	ⅤB7f	＊123	＊86	3	四角	7.5YR5/4シルト	須恵器1	
SK553	ⅤB6c	20	19	8	円	7.5YR4/2シルト		SB84
SK554	ⅤB7c	＊27	23	4	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK555	ⅤB8d	44	25	3	楕円	7.5YR4/3シルト		
SK556	ⅤB9d	36	32	12	円	7.5YR5/3シルト		
SK557	ⅤB9d	55	43	15	楕円	2.5Y6/4粘土	土師器1	
SK558	ⅤB9d	60	＊50	22	円	2.5Y5/4粘土		底部敷石
SK559	ⅤB9e	21	21	10	円	10YR4/3シルト炭化物少量混	須恵器1	
SK560	ⅤB9e	25	19	13	楕円	10YR4/4シルト	土師器1	
SK561	ⅤB7f	27	26	12	円	7.5YR4/2シルト		
SK562	ⅤB7f	24	24	9	円	7.5YR4/3シルト		SB90
SK563	ⅤB8e,ⅤB9e	＊95	70	7	楕円	10YR4/3シルト	須恵器1	
SK564	ⅤB2c	17	13	4	円	7.5YR5/4シルト		
SK565	ⅤB2c	50	33	34	楕円	7.5YR4/2シルト+7.5YR4/6シルト		SB54,SB57
SK566	ⅤB2c	120	21	5	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK567	ⅤB2c,ⅤB2d	165	89	13	長方	7.5YR5/4シルト+7.5YR6/4シルト	土師器3須恵器1	SB53
SK568	ⅤB2c	44	40	28	円	7.5YR4/2シルト	e332土師器1	
SK569	ⅤB8f	80	60	20	楕円	7.5YR4/2シルト炭化物少量混	e409土師器5須恵器4	
SK570	ⅣA16s	42	40	8	円	7.5YR4/3シルト	e333土師器8	SB23
SK571	ⅣA16s	24	22	9	円	7.5YR4/3シルト炭化物少量混		SB24
SK572	ⅣA16s	25	17	12	楕円	7.5YR4/4シルト		SB24
SK573	ⅣA17s	50	21	8	楕円	7.5YR4/2シルト		SB25
SK574	欠番							
SK575	ⅣA17s,ⅣA17t	68	60	10	円	7.5YR5/4シルト	土師器3須恵器1	SB25,SB22
SK576	ⅣA17t	38	19	3	楕円	7.5YR5/4シルト		
SK570b	ⅤB2a	55	45	30	楕円	7.5YR5/4シルト		SB50
SK572b	ⅤB3a	38	34	21	楕円	7.5YR5/4シルト		SB50
SD02P01	ⅤB7e	35	24	9	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD02P02	ⅤB7e	43	27	12	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD02P03	ⅤB7e	15	＊14	14	円	7.5YR4/2シルト		
SD02P04	ⅤB7e	22	19	22	円	7.5YR4/2シルト		
SD02P05	ⅤB7e	35	25	5	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD02P06	ⅤB8e	13	12	3	円	7.5YR4/2シルト		
SD02P07	ⅤB7d	16	16	13	円	7.5YR4/2シルト		
SD02P08	ⅤB7d	17	16	23	円	7.5YR4/2シルト		
SD02P09	ⅤB7d	22	20	10	楕円	7.5YR4/2シルト+7.5YR5/4シルト		
SD02P10	ⅤB7d	17	16	8	円	7.5YR4/2シルト+7.5YR4/6シルト		
SD02P11	ⅤB7d	25	23	13	円	7.5YR4/2シルト		
SD02P12	ⅤB7d	18	16	6	円	7.5YR4/3シルト		
SD03P01	ⅤB6d	32	23	30	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD03P02	ⅤB5d	30	23	17	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD03P03	ⅤB5d	24	24	21	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P04	ⅤB6e	22	18	8	円	7.5YR4/3シルト		
SD03P05	ⅤB6e	24	18	10	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P06	ⅤB6e	36	26	6	円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD03P07	ⅤB6e	32	24	23	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P08	ⅤB6e	32	26	30	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P09	ⅤB6e	30	26	16	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P10	ⅤB6e	26	24	16	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P11	ⅤB6e	22	20	8	円	7.5YR4/2シルト		
SD03P12	ⅤB6e	18	18	10	円	7.5YR4/2シルト+7.5YR5/4シルト		
SD03P13	ⅤB6e	18	16	5	円	7.5YR4/2シルト		
SD06P01	ⅤB5c	20	16	13	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD06P02	ⅤB5c	33	25	13	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P03	ⅤB5c	38	25	46	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD06P04	ⅤB5c	29	28	17	円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		

矢迫遺跡

遺構一覧表(11)

遺構番号	グリッド	長　軸	短　軸	深　さ	平面形	埋　　土	出　土　遺　物	備　　考
SD06P05	ⅤB5c	23	18	20	円	7.5YR4/2シルト		
SD06P06	ⅤB5c	26	23	17	円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P07	ⅤB5c	23	19	13	円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P08	ⅤB5c	15	15	46	円	7.5YR4/2シルト		
SD06P09	ⅤB5c	29	14	15	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P10	ⅤB5c	24	17	26	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P11	ⅤB5c	30	19	27	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD06P12	ⅤB5c	40	29	23	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD06P13	ⅤB6c	36	27	8	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P14	ⅤB6c	27	22	15	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P15	ⅤB6c	15	15	20	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD06P16	ⅤB5c	20	19	16	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P17	ⅤB4b	30	28	8	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P18	ⅤB4b	54	36	10	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD06P19	ⅤB4b	56	30	12	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P20	ⅤB4b	46	30	10	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P21	ⅤB4b	40	29	8	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P22	ⅤB4b,ⅤB5b	40	30	12	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD06P23	ⅤB5b	32	24	10	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P01	ⅤB7c	34	28	22	楕円	7.5YR4/4シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P02	ⅤB6c	40	26	30	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD08P03	ⅤB6c	15	14	10	円	7.5YR4/2シルト		
SD08P04	ⅤB6c	14	12	10	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P05	ⅤB6c	16	14	6	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P06	ⅤB6c	30	28	16	円	7.5YR4/2シルト		
SD08P07	ⅤB6c	24	22	8	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P08	ⅤB6c	28	24	8	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P09	ⅤB6c	40	34	28	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD08P10	ⅤB6c	36	36	18	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P11	ⅤB6c	12	12	5	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P12	ⅤB6c	24	24	14	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD08P13	ⅤB6c	20	18	12	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD09P01	ⅤB6d	31	30	47	円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD09P02	ⅤB7c,d	23	18	30	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD09P03	ⅤB7c	33	28	10	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD09P04	ⅤB7c	27	21	10	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD10P01	ⅤB7c	25	20	6	楕円	7.5YR5/4シルト		
SD10P02	ⅤB7c	25	23	15	円	7.5YR4/2シルト		
SD10P03	ⅤB7d	33	25	30	円	7.5YR4/2シルト		
SD10P04	ⅤB7d	33	25	18	円	7.5YR4/2シルト		
SD12P01	ⅤB7c	30	26	7	楕円	7.5YR5/4シルト		
SD12P02	ⅤB7c	40	22	28	楕円	7.5YR4/2シルト		
SD12P03	ⅤB7c	30	23	10	楕円	7.5YR5/4シルト		
SD12P04	ⅤB7c	25	24	20	円	7.5YR4/2シルト		
SD12P05	ⅤB7c	40	25	54	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		
SD12P06	ⅤB7d	36	24	15	楕円	7.5YR4/3シルト+7.5YR4/6シルト		

矢迫遺跡

遺物一覧表(1)

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考
1	SB01トレンチ	須恵器	杯蓋		残2.2		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅳ期古段階か？
2	SB01上層	須恵器	杯？		残1.7		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
3	SB01上層	須恵器	杯蓋	推11.0	残3.3		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅳ期古段階
4	SB01	須恵器	杯蓋	推11.6	残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
5	SB01上層	須恵器	杯蓋		残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
6	SB01上層	須恵器	杯蓋		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
7	SB01上層	須恵器	杯身		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階か？
8	SB01上層	須恵器	杯身		残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
9	SB01上層	須恵器	杯身		残4.3		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階
10	SB01上層	須恵器	杯A	推12.8	残4.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
11	SB01下層	須恵器	高杯	推11.6	残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
12	SB01上層	須恵器	壺		残4.2		調整不明、自然釉	櫛目、タタキ		？
13	SB01上層	須恵器	横瓶か？		残8.0		指オサエ	櫛目、タタキ		？
14	SB01上層	須恵器	碗	3.8	5.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期古段階
15	SB01上層	須恵器	碗A	推10.2	残5.1	推3.0	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期古段階～中段階
16	SB01ベルト	土師器	甕		残2.1		調整不明	調整不明		
17	SB01上層	土師器	甕？		残2.5		調整不明	調整不明		
18	SB01上層	土師器	甕		残2.5		調整不明、回転ナデ？	調整不明、回転ナデ？		
19	SB01上層	土師器	甕		残1.8	推5.6	調整痕不明	回転ナデ？、未調整砂付着		
20	SB02	須恵器	高杯		残3.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階前後
21	SB02上層	土師器	高杯	推9.6	残2.8		回転ナデ	調整不明、回転ナデ？		
22	SB03上層	須恵器	杯B	推17.0	残6.3		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅴ期新段階
23	SB03上層	須恵器	？		残5.3		ヨコハケ、回転ナデ	回転ナデ、櫛引、刺突文		Ⅲ期以前
24	SB03上層	須恵器	鉢か広口短頸壺		残3.5		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期～Ⅴ期
25	SB03最上層	須恵器	杯蓋		残1.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
26	SB03最上層	須恵器	杯蓋		残1.5			回転ナデ		Ⅴ期新段階
27	SB03最上層	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
28	SB03上層	須恵器	高杯	推7.4	残2.0		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期古段階
29	SB03最上層	須恵器	高杯		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
30	SB03最上層	須恵器	鉢か広口短頸壺		残4.2		磨耗、調整不明	磨耗、調整不明		Ⅲ期～Ⅴ期
31	SB03最上層	須恵器	杯？		残1.3	4.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
32	SB03最上層	須恵器	はそう		残1.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
33	SB03最上層	須恵器?	甕		残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期～Ⅳ期
34	SB03トレンチ	瀬戸美濃陶器	擂鉢		残2.7		錆釉	錆釉		大窯第１段階
35	SB03上層	土師器	甕		残3.4		調整不明	調整不明		
36	SB03上層	土師器	甕		残3.0		調整不明	調整不明		
37	SB03上層	土師器	甕		残16.2		調整不明	調整不明		
38	SB03上層	土師器	製塩土器		残2.9			調整不明		
39	SB03最上層	土師器	製塩土器		残3.7			指オサエ		
40	SB03上層	土師器	製塩土器		残4.4		調整不明			
41	SB04	須恵器	杯？		残1.4		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
42	SB04	須恵器	杯？		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
43	SB04	須恵器	杯蓋	推10.4	残3.7		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅳ期古段階
44	SB04トレンチ	須恵器	杯蓋	推10.8	残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
45	SB04	須恵器	杯蓋	推11.4	残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
46	SB04	須恵器	杯蓋		残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
47	SB04	須恵器	杯身		残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
48	SB04	須恵器	杯身		残1.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
49	SB04	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
50	SB04	須恵器	杯身		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～新段階
51	SB04	土師器	Ⅲ		残1.1	推8.0	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切痕		
52	SB04	須恵器	杯身	推2.6	残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
53	SB04	須恵器	杯身	推9.2	残3.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
54	SB04	須恵器	杯身		残2.8		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
55	SB04	須恵器	杯身		残2.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
56	SB04トレンチ	須恵器	杯身	推11.0	残3.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
57	SB04	須恵器	杯身	推11.4	残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
58	SB04	須恵器	杯身	推13.6	残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
59	SB04	須恵器	短頸壺？	推9.2	残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
60	SB04	須恵器	高杯	推9.4	残1.1		回転ナデ	回転ナデ、自然釉		Ⅳ期古段階
61	SB04	須恵器	高杯		残1.2	推10.2	回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期中段階
62	SB04	須恵器	？		残0.9		回転ナデ	回転ナデ		？
63	SB04下層	須恵器	はそう		残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
64	SB04	須恵器	甕か壺		残5.3		回転ナデ	タタキ、自然釉		？
65	SB04.05ベルト	須恵器	高杯		残6.9		透かしあり、回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期（Ⅲ期中段階か？）
66	SB04P9	土師器	甕		残9.2		ヨコハケ、調整痕不明	調整不明、ス ス付着		
67	SB04	須恵器	甕か壺		残10.0		指オサエ、ヘラケズリ	タタキ		甕か壺
68	SB04	須恵器	甕		残2.3		ヨコハケ	調整不明		
69	SB04	土師器	甑把手		残3.2		指オサエ	指オサエ		
70	SB04	尾張型？	陶丸					指オサエ		
71	SB04.05ベルト	須恵器	杯蓋		残3.1		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
72	SB04.05ベルト	須恵器	杯蓋		残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
73	SB04.05ベルト	須恵器	杯蓋		残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
74	SB04.05ベルト	須恵器	短頸壺		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期～Ⅳ期

遺物一覧表(2)

付表

図版番号	遺構番号	産地・材質	器　種	口径	器高	底径	内　面	外　面	胎土	備　考
75	SB04.05ベルト	須恵器	高杯		残1.1	推10.8	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
76	SB04.05ベルト	須恵器	短頸壺		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
77	SB04.05ベルト	土師器	甕		残4.0		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
78	SB04.05ベルト	土師器	甕		残2.1	推8.6	調整不明	不明、木葉痕あり		
79	SB05	須恵器	杯蓋		残2.3		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
80	SB05上層	須恵器	杯蓋		残2.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
81	SB05上層	須恵器	杯蓋		残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
82	SB05上層	須恵器	杯蓋		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
83	SB05上層	須恵器	杯身		残1.6	推15.0	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階か？
84	SB05上層	須恵器	杯身		残3.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
85	SB05上層	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
86	SB05上層	須恵器	杯身		残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
87	SB05上層	須恵器	杯身		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階か？
88	SB05上層	須恵器	杯身		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
89	SB05上層	須恵器	杯身		残2.3		回転ナデ	回転ナデ、自然釉		Ⅲ期新段階
90	SB05上層	須恵器	杯身		残2.3		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階～新段階
91	SB05上層	須恵器	杯身		残3.2		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階～新段階
92	SB05上層	須恵器	はそう	推12.8	残4.6		回転ナデ	回転ナデ、刺突？		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
93	SB05上層	須恵器	高杯		残5.8		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期前後
94	SB05	須恵器	高杯		残3.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
95	SB05	須恵器	無蓋高杯		残3.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
96	SB05上層	須恵器	無蓋高杯		残3.0		回転ナデ	回転ナデ、自然釉		Ⅲ期中段階～新段階
97	SB05上層	須恵器	無蓋高杯	推17	残2.7		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
98	SB05上層	須恵器	無蓋高杯		残6.5		回転ナデ	回転ナデ、波状文、沈線、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階～新段階
99	SB05上層	須恵器	高杯		残5.2		回転ナデ、刻書	回転ナデ、ヘラケズリ、沈線		Ⅲ期前後
100	SB05上層	須恵器	平瓶か？	推9.4	残4.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
101	SB05上層	須恵器	甕		残5.0		回転ナデ	回転ナデ、沈線		？
102	SB05上層	須恵器	フラスコ瓶		残5.7		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
103	SB05上層	土師器	甕		残2.9		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
104	SB05上層	土師器	壺？		残3.2		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
105	SB05上層	土師器	壺？		残2.9		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
106	SB05上層	土師器	甕		残2.4		調整不明	調整不明		
107	SB05上層	土師器	甕		残2.0	推10.0	調整不明	調整不明		
108	SB06	須恵器	杯蓋	推11.2	4.0		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ？		Ⅳ期古段階
109	SB06	須恵器	杯蓋		残2.8		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
110	SB06	須恵器	杯蓋		残3.4		回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期古段階
111	SB06上層	須恵器	杯蓋		残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
112	SB06トレンチ	須恵器	杯身		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
113	SB06上層	須恵器	杯身		残1.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
114	SB06	須恵器	高杯蓋か短頸壺蓋		残1.8		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ、回転ナデ		？
115	SB06	須恵器	高杯		残3.5		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅳ期古段階
116	SB06上層	須恵器	高杯		残1.3	推8.4	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
117	SB06	土師器	小型壺？	推9.8	残4.0		回転ナデ	回転ナデ		
118	SB06	土師器	甕？		残5.1		回転ナデ？、ヘラケズリ？	回転ナデ？		
119	SB06	土師器	甕？		残5.1		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
120	SB06	土師器	甕		残6.2		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
121	SB06	土師器	甕		残6.8		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
122	SB06上層	土師器	甕		残2.3		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
123	SB06	土師器	甕		残1.4		回転ナデ？調整不明	回転ナデ？調整不明		
124	SB06	土師器	甕		残6.8		不明	不明		
125	SB06上層	須恵器	杯？		残1.7	4.0	回転ナデ	自然釉、調整不明		Ⅳ期古段階
126	SB06	土師器	台付甕		残2.5		調整不明	調整不明、シボリ		
127	SB06上層	土師器	高杯		残5.0		ヘラケズリ	回転ナデ、調整不明		
128	SB06	弥生土器	高杯		残6.9			櫛目		
129	SB06.09焼土	土師器	甕		残3.0		調整不明、刻線	調整不明		
130	SB09上層	須恵器	杯蓋		残3.1		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階
130	SB09上層	須恵器	杯蓋	推11.0	残4.1		回転ナデ、自然釉	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階
131	SB09上層	須恵器	杯蓋		残2.9		回転ナデ	ヘラケズリ？、回転ナデ		Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階
132	SB09上層	須恵器	杯蓋				回転ナデ	回転ナデ		Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階
133	SB09上層	須恵器	杯蓋	推13.0	残3.8		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
134	SB09上層	須恵器	杯蓋	推13.8	残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
135	SB09上層	須恵器	杯蓋		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
136	SB09上層	須恵器	杯蓋		残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
137	SB09上層	須恵器	杯蓋		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
138	SB09上層	須恵器	杯蓋		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
139	SB09上層	須恵器	杯身		残1.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
140	SB09上層	須恵器	杯身		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
141	SB09上層	須恵器	杯身		残2.3		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期古段階
142	SB09上層	須恵器	高杯		残2.3		回転ナデ、透かしあり	回転ナデ		Ⅲ期
143	SB09上層	須恵器	高杯		残0.9	7.0	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
144	SB09上層	須恵器	横瓶か？	推11.8	残1.7		回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
145	SB09上層	須恵器	甕か壺		残2.0		回転ナデ、ヨコハケ	回転ナデ、タタキ		
146	SB09上層	土師器	高杯	推17.0	残5.1		調整不明	調整不明		
147	SB09上層	土師器	甕		残2.3		調整不明	調整不明		

矢迫遺跡

遺物一覧表(3)

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考
148	SB09かまど	土師器	甕		残3.5		調整不明	調整不明		
149	SB09上層	土師器	甕	推15.0	残2.5		回転ナデ	回転ナデ		
150	SB09上層	土師器	甕	推15.0	残3.6		スス付着、調整不明	回転ナデ、調整不明		
151	SB09かまど	土師器	甕	推18.2	残12.6		ハケ調整	ハケ調整		
152	SB09かまど	土師器	甕		残13.4		ハケ調整	ハケ調整		
153	SB09上層	土師器	甕		残3.2		調整不明	調整不明		
154	SB09上層	土師器	甕		残7.2		調整不明	指オサエ		
155	SB09上層	土師器	甕	推15.4	残3.5		回転ナデ、調整不明	回転ナデ、調整不明		
156	SB09	土師器	甕		残2.7	推7.0	調整不明	調整不明		
157	SB09上層	土師器	甕	推21.0	残2.5		回転ナデ	回転ナデ		
158	SB07上層	須恵器	杯身	推11.8	残2.3		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階
159	SB07トレンチ	須恵器	杯身		残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階
160	SB07上層	須恵器	壺か甕	推15.8	残3.8		回転ナデ、磨耗	回転ナデ、磨耗		Ⅲ期
161	SB07上層	土師器	甕	推18.4	残5.0		調整不明	調整不明		
162	SB07上層	土師器	甕		残4.2		調整不明	調整不明		
163	SB07上層	土師器	甕		残1.7	推5.4	調整不明	調整不明		
164	SB07上層	土師器	甕		残1.8	推4.6	調整不明	調整不明		
165	SB07上層	須恵器	甑か鍋		残5.0			指オサエ又は回転ナデ		？
166	SB07上層	土師器	甑		残5.5			指オサエ又は回転ナデ		
167	SB12上層	土師器	甕	推16.0	残3.9		調整不明	調整不明		
168	SB14上層	須恵器	杯蓋		残3.5		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期古段階
169	SB14	須恵器	杯身		残3.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
170	SB14	土師器	台付甕		残2.8	6.1	調整不明	調整不明		
171	SB15上層	須恵器	杯身		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
172	SB18西	須恵器	杯身		残2.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
173	SB18(17)	須恵器？	横瓶か？		残5.9		回転ナデ	ヨコハケ、タタキ		？
174	SB13上層	須恵器	杯蓋	推14.4	残5.6		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階
175	SB13	須恵器	杯身		残1.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
176	SB13トレンチ	須恵器	杯身		残3.0		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階
177	SB13上層	土師器	甕		残3.5		調整不明	調整不明		
178	SB13上層	土師器	甕		残5.5		調整不明	調整不明		
179	SB16上層	須恵器	杯蓋		残1.4		回転ナデ	ヘラケズリ		Ⅳ期古段階～中段階
180	SB16下層	須恵器	杯蓋		残2.6		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅳ期
181	SB16上層	須恵器	杯蓋	推19.0	残1.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
182	SB16上層	須恵器	高杯蓋		残1.1		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期古段階以前
183	SB16上層	須恵器	台付碗		残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
184	SB16上層	須恵器	杯蓋		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階？
185	SB16上層	須恵器	杯蓋				回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
186	SB16上層	須恵器	杯蓋		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期？
187	SB16上層	須恵器	杯身		残1.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
188	SB16上層	須恵器	杯身		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
189	SB16上層	須恵器	杯身	推10.6	残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
190	SB16上層	須恵器	杯身	推14.4	残1.9		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階
191	SB16上層	須恵器	台付碗	推11.6	残3.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
192	SB16上層	須恵器	杯A	推14.2	残3.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期中段階？
193	SB16上層	須恵器	杯A		残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期中段階？
194	SB16	須恵器	杯B		残1.5	推11.4	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期古段階～中段階
195	SB16上層	須恵器	杯身				回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階
196	SB16上層	須恵器	杯身		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
197	SB16上層	須恵器	杯A		残2.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～
198	SB16上層	須恵器	杯A		残2.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～
199	SB16上層	須恵器	杯A		残3.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～
200	SB16上層	須恵器	杯A		残3.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～
201	SB16上層	須恵器？	鉄鉢か？		残4.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
202	SB16上層	須恵器	鉄鉢か？	推13.2	残3.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期
203	SB16上層	須恵器	高杯か？		残2.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
204	SB16上層	須恵器	鉄鉢か？		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
205	SB16上層	須恵器	広口短頸壺		残3.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～
206	SB16上層	須恵器	高杯		残2.9		透かしあり、回転ナデ？	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
207	SB16上層	須恵器	高杯		残1.1	推11.0	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
208	SB16上層	須恵器	はそう	推8.8	残1.9		回転ナデ	回転ナデ、自然釉？		Ⅳ期古段階
209	SB16上層	土師器	高杯？		残3.7		調整不明	調整不明		
210	SB16上層	土師器	甕	推17.8	残2.1		調整不明	調整不明		
211	SB16上層	土師器	甕	推15.4	残2.2		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
212	SB16上層	土師器	甕		残2.4		調整不明	調整不明		
213	SB16上層	土師器	甕		残4.0		回転ナデ？、スス付着	回転ナデ？		
214	SB16上層	土師器	甕		残2.4		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
215	SB16下層	土師器	甕		残2.4		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
216	SB16上層	土師器	製塩土器？		残2.6		指オサエ	指オサエ		
217	SB16上層	土師器	製塩土器		残3.9			調整不明、赤色化		
218	SB16	土師器	製塩土器		残3.4					
219	SB16上層	土師器	製塩土器		残4.0			被熱痕？		
220	SB16上層	土師器	土錘					磨耗		
221	SB16上層	土師器	土錘					磨耗		

遺物一覧表(4)

付表

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考
222	SB16上層	土師器	土錘							
223	SB16上層	土師器	土錘					焼成後削られて孔となる		
224	SB16上層	尾張型	山茶碗		残2.8		回転ナデ	回転ナデ、高台剥落？		
225	SB16上層	尾張型	山茶碗		残4.2		回転ナデ	回転ナデ		
226	SB16上層	尾張型	山茶碗		残2.3	推7.6	自然釉、回転ナデ	回転ナデ、回転糸切痕		
227	SB17上層	土師器	高杯？	推15.8	残4.4		表面が剥離して不明	表面が剥離して不明		
228	SB17上層	土師器	高杯		残6.6		調整不明	調整不明、透かしあり		
229	SB19周溝	須恵器	杯蓋	推11.6	残1.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
230	SB19周溝	須恵器	杯蓋		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
231	SB19周溝	須恵器	杯蓋		残1.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
232	SB19周溝	須恵器	杯蓋		残1.3	推10.8	回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
233	SB19周溝	須恵器	杯蓋		残1.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期中段階～新段階
234	SB19周溝	須恵器	杯身		残1.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
235	SB19周溝	須恵器	杯蓋		残1.1	推10.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅴ期古段階
236	SB19周溝	須恵器	杯身		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
237	SB19周溝	須恵器	杯身		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期
238	SB19周溝	須恵器	杯身		残1.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
239	SB19周溝	土師器	杯（椀）		残2.8		回転ナデ	回転ナデ		
240	SB19周溝	須恵器	杯身		残2.9		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ？		Ⅲ期中段階
241	SB19周溝	須恵器	杯か椀A	推15.8	残3.4		回転ナデ、一部黒色付着物	回転ナデ		Ⅳ期中段階～新段階
242	SB19周溝	須恵器	杯か椀A		残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期中段階～新段階
243	SB19周溝	土師器	杯（椀）		残2.9		回転ナデ？	回転ナデ？		
244	SB19周溝	須恵器	杯B		残1.3	推10.8	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期中段階～新段階
245	SB19周溝	須恵器	杯B		残2.0	推8.2	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切痕		Ⅴ期古段階
246	SB19	須恵器	高杯		残1.4		回転ナデ、透かしあり	回転ナデ		Ⅳ期
247	SB19最上層	須恵器	長頸瓶		残3.3	推13.0	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期新段階～Ⅴ期古段階
248	SB19周溝	土師器	製塩土器		残3.1			調整不明		
249	SB19周溝	須恵器	高杯？		残0.7		回転ナデ	回転ナデ		？
250	SB19最上層	須恵器	杯B		残1.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期新段階
251	SB19周溝	常滑	片口鉢		残3.5		回転ナデ	回転ナデ？		
252	SB19P3	土師器	甕		残2.0	推4.0	指ナデ	ヨコハケ、調整不明		
253	SB19周溝	土師器	甕		残2.9	推6.6	調整不明	調整不明		
254	SB19周溝	土師器	甕		残1.8		調整不明	調整不明		
255	SB19周溝	須恵器	台付長頸瓶	推11.0	残1.9		自然釉、回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
256	SB19周溝	土師器	甕	推23.8	残24.1					
257	SB19周溝	土師器	甕	推27.2	残2.0		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
258	SB19周溝	土師器	甕	推24.4	残20.3					
259	SB19周溝	土師器	甕		残23.8					
260	SD14	須恵器	杯蓋		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
261	SD14	須恵器	杯身		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
262	SD14東半分	須恵器	杯身		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
263	SD14	須恵器	はそう		残6.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
264	SD14西端	須恵器	短頸壺	推7.2	残1.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
265	SD14	土師器	甕		残2.4	推7.4	調整不明	調整不明		
266	SD02(東)	須恵器	杯蓋		残3.2		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階か？
267	SD02(南)	須恵器	杯身		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階か？
268	SD02P3	土師器	皿		残2.2		回転ナデ	回転ナデ		
269	SD03	須恵器	短頸壺蓋（高杯蓋）	11.6	4.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期新段階
270	SD03	須恵器	杯蓋か？		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階か？
271	SD03	須恵器	杯身		残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
272	SD03	須恵器	杯身		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
273	SD03	須恵器	杯身		残2.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
274	SD03	須恵器	杯身		残1.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
275	SD03	須恵器	杯蓋		残3.3		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
276	SD03	須恵器	杯身	推10.0	残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
277	SD03	土師器	甕		残3.1		調整不明	調整不明		
278	SD03P8	弥生土器	台付甕		残1.7		調整不明	ヨコハケ、調整不明		
279	SD03	土師器	甕		残1.5	推6.6	調整不明	調整不明		
280	SD03P3	土師器	甕		残2.8		調整不明	調整不明		
281	SD09	須恵器	杯蓋		残2.5		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
282	SD09西溝	須恵器	杯蓋		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階か？
283	SD09南溝	須恵器	杯身		残3.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
284	SD09西溝	須恵器	杯身		残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
285	SD09	須恵器	杯身		残1.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
286	SD09西溝	須恵器	杯身		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
287	SD09	須恵器	高杯		残1.7	推10.8	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
288	SD09西溝	土師器	高杯		残1.7		回転ナデ	回転ナデ		
289	SD09	土師器	甑		残4.4			調整不明		
290	SD09	土師器	高杯		残5.9		調整不明、ヘラケズリ？	調整不明		
291	SD09西溝	土師器	甕		残2.0		調整不明	調整不明		
292	SD06西北	須恵器	杯蓋		残3.3		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
293	SD06東辺	須恵器	杯蓋		残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
294	SD06東北	須恵器	杯蓋		残2.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
295	SD06東北	須恵器	杯蓋か？		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階

矢迫遺跡

遺物一覧表(5)

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考
296	SD06北溝	須恵器	杯身	推10.2	残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
297	SD06北溝	土師器	皿？		残1.6		調整不明	回転ナデ、板状圧痕？		
298	SD06東北	須恵器	杯蓋		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
299	SD06東北	須恵器	壺		残4.8		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ？		？
300	SD08	須恵器	杯身	推14.8	残3.9		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階
301	SD08P8	須恵器	杯身		残3.6	推5.0	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期古段階～中段階
302	SD08P8	須恵器	杯身		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
303	SD08P4	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
304	SD08P8	土師器	高杯		残2.3		調整不明	調整不明		
305	SD26	須恵器	杯蓋		残2.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
306	SD26	須恵器	杯蓋		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅴ期新段階～ 期古段階
307	SD26	須恵器	壺蓋		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期
308	SD26最上層	須恵器	椀A	推11.0	残2.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅴ期新段階～ 期古段階
309	SD26	須恵器	杯身？		残1.4		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階か？
310	SD26	須恵器	無蓋高杯		残3.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階～新段階
311	SD26最上層	須恵器	高杯		残1.3	推8.2	回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
312	SD26	須恵器	高杯		残3.4	推10.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
313	SK019	須恵器	杯蓋		残2.4		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
314	SK020	須恵器	杯蓋		残1.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期
315	SK037	須恵器	杯蓋		残2.0	推12.6	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
316	SD13(SK40)	須恵器	高杯か？		残2.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
317	SK043	須恵器	杯蓋		残2.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
318	SK044	須恵器	杯身		残3.0	推14.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
319	SK059	土師器	甕		残2.4	5.0	調整不明	調整不明、指オサエ？		
320	SK055	須恵器	杯身		残3.1		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期中段階～新段階
321	SK077	須恵器	高杯		残1.6		回転ナデ、透かしあり	回転ナデ		Ⅲ期古段階
322	SK079	土師器	高杯？		残0.8	推7.4	調整不明	調整不明		
323	SK081	須恵器	杯身		残1.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
324	SK096	須恵器	杯身	推11	残3.1		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期古段階
325	SK104	土師器	甕	推14.0	残9.9		調整不明	ハケ調整		
326	SK138	須恵器	杯Aか？	推9.8	残5.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
327	SK111	須恵器	杯身		残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
328	SK139	須恵器	杯身	推9.8	残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
329	SK250	須恵器	無蓋高杯	推11.6	残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
330	SK250	土師器	甕		残1.9	推4.8	調整不明	調整不明		
331	SK250	須恵器	杯蓋		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
332	SK252	須恵器	杯A	推11.2	残3.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
333	SK252	須恵器	杯身	推9.6	残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
334	SK253	土師器	高杯		残2.5		調整不明	調整不明		Ⅳ期中段階
335	SK265	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
336	SK285	須恵器	杯身	推11.8	残4.4		回転ナデ	回転ナデ、磨耗のため調整不明		Ⅲ期古段階
337	SK304	土師器	高杯		残4.3		絞り痕	ヘラケズリ？		
338	SK305	須恵器	杯身	推9.4	残4.9		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階
339	SK313	須恵器	杯蓋		残2.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
340	SK306	須恵器	杯身		残3.8		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期古段階
341	SK306	土師器	甕	推16.0	残8.4		調整不明	ハケ調整		
342	SK437	須恵器	杯身	推9.4	残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
343	SK441	須恵器	甕		残1.9		回転ナデ	回転ナデ、自然釉		Ⅳ期
344	SK443	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
345	SK471	須恵器	杯身	推13.0	残3.2		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
346	SK471	須恵器	杯身	推16.5	残2.4		回転ナデ	回転ナデ、自然釉		Ⅲ期古段階～中段階
347	SK475	須恵器	高杯		残1.4	推12.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅱ期新段階～Ⅲ期古段階
348	SK490	須恵器	杯身		残3.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
349	SK519	須恵器	台付長頸瓶		残1.8		回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅳ期
350	SK568	須恵器	杯身		残3.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
351	SK520	須恵器	杯蓋	推12.4	3.5		回転ナデ	ヘラケズリ、融着あり、回転ナデ		Ⅲ期新段階
352	SK520	須恵器	杯蓋		残2.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
353	SK520	土師器	甕		残2.1		調査不明	調査不明		
354	SK550	須恵器	無蓋高杯	推15.2	残5.3		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階
355	SK550	須恵器	杯身		残2.3		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
356	SK550	土師器	甕		残4.0		調査不明、一部磨耗	調査不明		
357	SK569	須恵器	壺類？		残3.9	推4.0	回転ナデ	ヘラケズリ		Ⅲ期古段階～中段階
358	SK570	須恵器	杯蓋	推14.2	残4.4		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期中段階
359	SK080	瀬戸美濃陶器	天目茶碗	推11.8	残3.1		鉄釉	鉄釉		
360	SK080	須恵器	高杯		残1.4		回転ナデ、透かしあり	回転ナデ		Ⅲ期古段階～中段階
361	SK086	土師器	内耳鍋		残6.0		調整不明	回転ナデ、調整不明、スス付着		
362	SK409	尾張型	山茶碗	推14.6	残3.8		回転ナデ、自然釉	回転ナデ		
363	SK477	瀬戸陶器	こね鉢		残4.9		鉄釉	鉄釉		
364	SB04P13	土師器	高杯		残6.0		しぼり、ヘラケズリ	ヘラケズリ？（不明）		
365	SB06P3	須恵器	杯B	推12.6	残3.8	推9.4	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
366	SB13P3	土師器	甕		残2.0		調整不明	調整不明		
367	SB19P3	土師器	甕	推23.0	残2.5		スス付着	スス付着、調整不明		
368	SB19P7	須恵器	杯B		残2.2	推7.8	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切痕		Ⅳ期新段階
369	SD01南	須恵器	杯蓋	推11.6	残3.7		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ、自然釉		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階

遺物一覧表(6)

付表

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考
370	SD01	須恵器	杯蓋	推9.4	残2.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
371	SD01	須恵器	はそう	推10.0	残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
372	SD01	尾張型	小皿		残0.9	推6.0	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切痕		
373	SD01	須恵器	短頸壺蓋	推8.4	残3.4		自然釉、回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅳ期中段階～新段階
374	SD01	土師器	高杯		残7.4		調整不明	調整不明		
375	SD01	須恵器	無蓋高杯		残4.4		回転ナデ	回転ナデ、櫛目文、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階
376	SD01	須恵器	高杯	推11.0	残0.9		回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期
377	SD01	須恵器	無蓋高杯	推17.0	残5.2		回転ナデ	回転ナデ、自然釉		Ⅲ期新段階
378	SD01	須恵器	壺・瓶類か？		残3.0	推17.0	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
379	SD01	瀬戸美濃陶器	鉄釉輪禿皿		残1.8	推6.0	鉄釉、輪禿、印花	鉄釉、露胎、ヘラケズリ		
380	SD01	土師器	内耳鍋	推26.2	残4.5		調整不明	回転ナデ、調整不明、スス付着		
381	SD07	須恵器	杯蓋		残1.5		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
382	SD07	須恵器	杯蓋		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
383	SD07	須恵器	杯身		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階
384	SD07	須恵器	杯身		残0.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
385	SD07	須恵器	杯身	推10.6	残3.0		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ？		Ⅲ期新段階
386	SD07西	須恵器	杯身		残2.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期古段階
387	SD07	土師器	高杯		残1.9		調整不明	調整不明		
388	SD07	土師器	土錘		4.5		調整不明	指オサエ、ヘラケズリ		
389	SD22	須恵器	杯？		残2.0		回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ		Ⅲ期
390	SD22	須恵器	はそう	推11.8	残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
391	SD22	須恵器	フラスコ瓶か平瓶		残0.9	推10.4	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
392	SD22下層	須恵器	高杯		残1.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
393	SD22	土師器	甑把手		残5.3		調整不明	指オサエまたはヘラケズリ		
394	SD18	須恵器	杯蓋		残1.1		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
395	SD20	須恵器	杯蓋	推11.0	残2.7		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
396	SD20	須恵器	杯身		残1.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
397	SD28	土師器	高杯		残3.5		絞り痕？調整不明	調整不明		
398	SD25	須恵器	杯蓋		残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
399	SX01	須恵器	杯蓋		残2.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
400	SX01上層	瀬戸美濃陶器	丸碗	推11.8	残1.8		灰釉	灰釉		
401	SX01	土師器	杯		残1.6		調整不明	調整不明		
402	SX01上層	須恵器	無蓋高杯		残2.4	推10.8	回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
403	SX01	須恵器	壺・瓶		残2.6	推11.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
404	SX01上層	須恵器	横瓶		残2.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階～中段階
405	SX01	須恵器	高杯		残1.0	推7.6	回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期新段階
406	SX01	須恵器	壺・瓶		残2.4	推14.4	回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅲ期中段階～新段階
407	SX01上層	土師器	甕		残2.4		調整不明（回転ナデ？）	調整不明（回転ナデ？）		
408	SX01上層	土師器	製塩土器		残3.9			指オサエ		
409	SX01	尾張型	山茶碗	残8.6	残1.7		回転ナデ	回転ナデ		5型式
410	SX01上層	尾張型	山茶碗		残2.0		回転ナデ	回転ナデ		5型式
411	SX01	土師器	甕		残1.8	推8.4	調整不明	調整不明		
412	SX01	土師器	羽付鍋	推19.8	残4.7		調整不明	調整不明		
413	SX02	須恵器	杯蓋		残1.5		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期新段階
414	SX02	須恵器	杯B		残1.4	推10.4	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅳ期新段階～Ⅴ期古段階
415	SX04	須恵器	杯蓋		残1.6		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期新段階
416	SX04	須恵器	杯身	推9.0	残1.9		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期古段階
417	SX04	須恵器	杯A	推10.0	残3.0		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期
418	SK427	常滑窯産陶器	甕		残15.3	22.0	指オサエ	指オサエ、砂敷		
419	攪乱	須恵器	杯身	推10.0	残3.0		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階
420	攪乱	須恵器	杯身	推10.6	残2.8		回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
421	検Ⅰ	須恵器	杯蓋		残1.4		回転ナデ	回転ナデ		Ⅳ期新段階
422	検Ⅰ	瀬戸美濃陶器	丸碗		残2.6		灰釉	灰釉		
423	検Ⅰ	須恵器	杯蓋		残1.0		回転ナデ	自然釉、回転ナデ		Ⅳ期
424	攪乱	土師器	甕		残2.2	推6.0	調整不明	調整不明		
425	攪乱	須恵器	横瓶か？		残3.4	推12.2	回転ナデ	回転ナデ		Ⅲ期新段階
426	SB12（攪乱）	尾張型	山茶碗		残1.7		回転ナデ	回転ナデ、回転糸切痕		
427	検Ⅰ	瀬戸美濃陶器	碗		残1.4	推3.4	鉄釉	灰釉、露胎、灰釉		
428	検Ⅰ	瀬戸美濃陶器	大皿？		残1.1	推16.8	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
429	SB06	石製品	管玉							
430	SB05	石製品	臼玉							
431	SB05	石製品	臼玉							
432	SB05	石製品	臼玉							
433	SB09	石製品	臼玉							
434	SB09	石製品	臼玉							
435	SB07	石製品	臼玉							
436	SB07	石製品	臼玉							
437	SB07	石製品	臼玉							
438	SB07	石製品	臼玉							
439	SB07	石製品	臼玉							
440	SB07	石製品	臼玉							
441	SB01	石製品	砥石？							
442	SB01	石製品	砥石？							
443	SB01	石製品	砥石？							

矢迫遺跡

遺物一覧表(7)

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考
444	SB01	石製品	砥石？							
445	SB01	石製品	砥石？							
446	SB01	石製品	砥石？							
447	SB03	石製品	砥石？							
448	SB04	石製品	砥石？							
449	SB05	石製品	砥石？							
450	SB05	石製品	砥石？							
451	SB05	石製品	砥石？							
452	SB06	石製品	砥石？							
453	SB06	石製品	砥石？							
454	SB06	石製品	砥石？							
455	SB09	石製品	砥石？							
456	SB05	石製品	石鏃							
457	SB12	石製品	石鏃							
458	検Ⅰ	石製品	石鏃							
459	検Ⅰ	石製品	石鏃							
460	検出	石製品	石鏃							
461	SD06	石製品	石鏃							
462	SD09	石製品	石鏃							
463	SB14	石製品	石錐							
464	SB18	石製品	石錐							
465	SB19	石製品	石錐							
466	SB13	石製品	使用痕剥片							
467	SB05	石製品	使用痕剥片							
468	SB01	石製品	使用痕剥片							

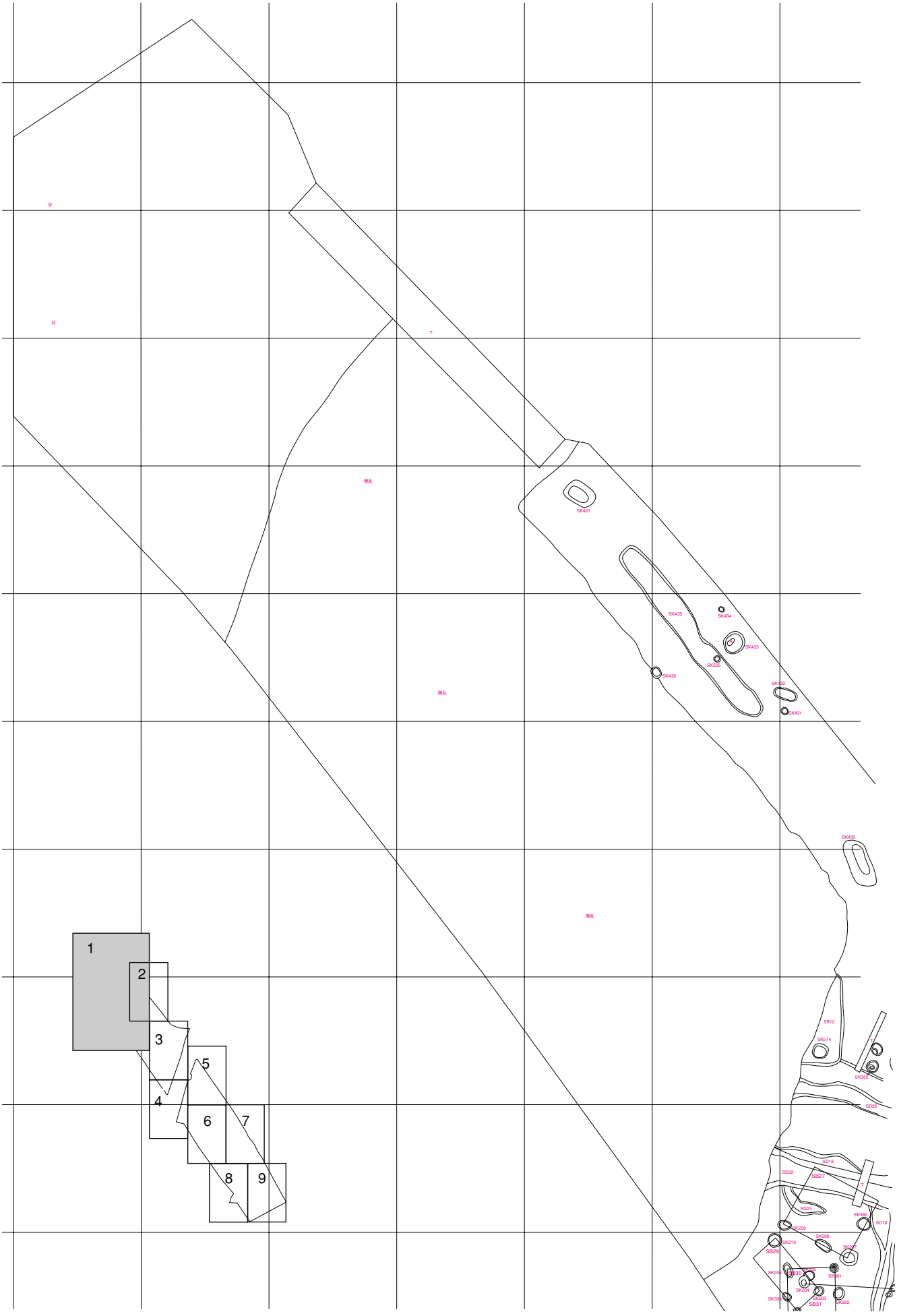
図版

遺構図版　　図版　１～１０
カラー写真図版　写真図版１～　４
白黒写真図版　　写真図版５～１６

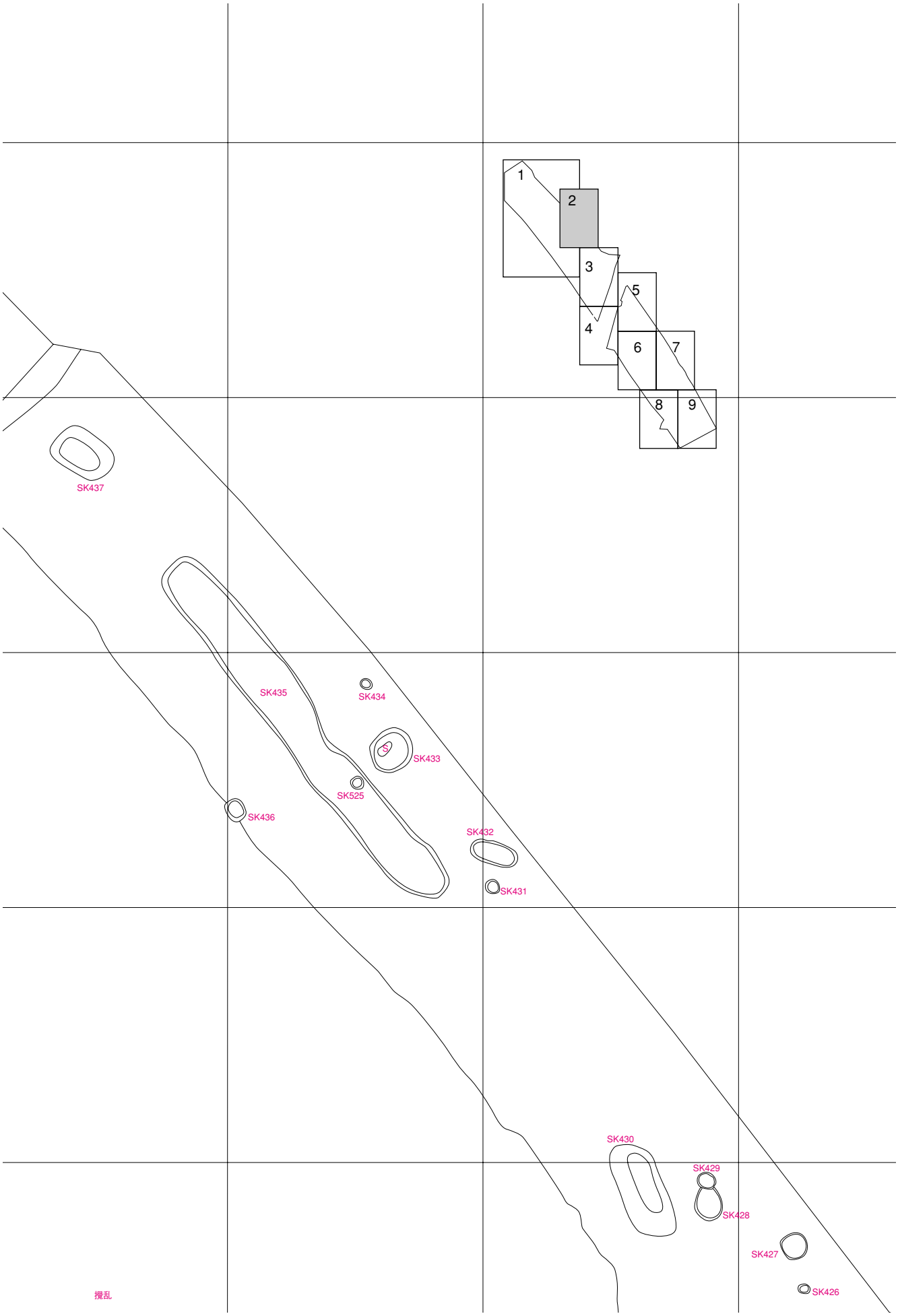
図版 1

谷
谷
T
攪乱
攪乱
攪乱
SB12
SB22
SB21
SB23
SB24
SB25
SB26
SA01
SB27
SB29
SB28
SB30
SB33
SB31
SB32
SB35
SB34
SB36
SA02
SA03
SA04
SB07
SB37
SB38
SA05
SB14
SB40
SB41
SD21
SB39
SB13
SB06
SB42
SB43
SB44
SB45
SD21
SB48
SB47
SB46
SB49
SB52
SB53
SB55
SB56
SB51
SB50
SB05
SD14
SB57
SB58
SA06
SB04
SB54
SB59
SB15
SB60
SB66
SB61
SB68
SB69
SB63
SB62
SB70
SB65
SB16
SB72
SB73
SA08
SB08
SB74
SB75
SB77
SB86
SB76
SB79
SB78
SA09
SB83
SB10
SB82
SB11
SB89
SB84
SB85
SB90
SB91
SB93
SB92
SA11
SD01
SB17
SB18

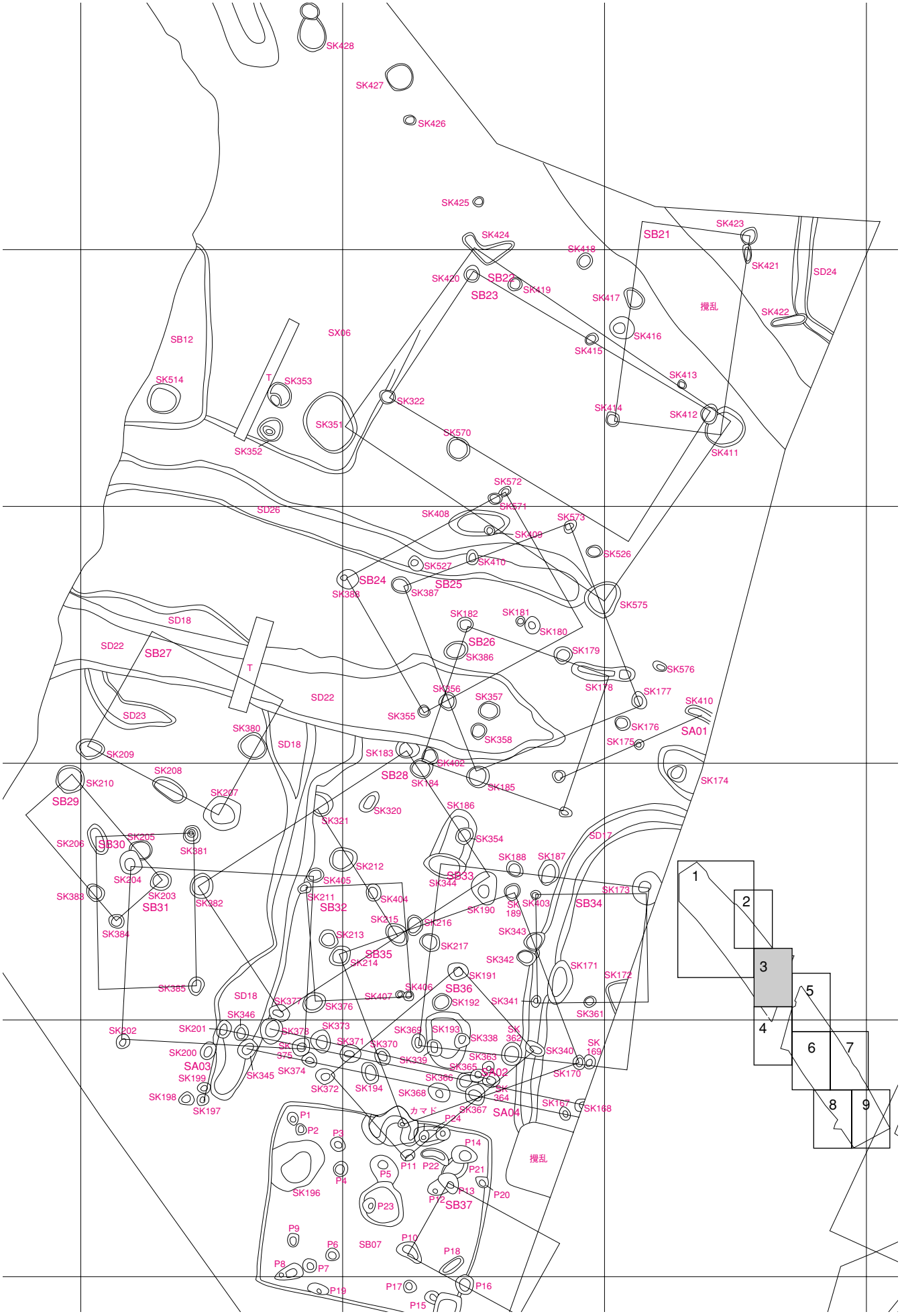
図版２


1
2
3
4
5
6
7
8
9
SK437
SK435
SK434
SK433
SK525
SK436
SK432
SK431
SK430
SB12
SK514
SK352
SD28
SD18
SD22
SB27
SD23
SK380
SD18
SK209
SK210
SK208
SB29
SK206
SB30
SK381
SK204
SK203
SB31
SK382
SK383

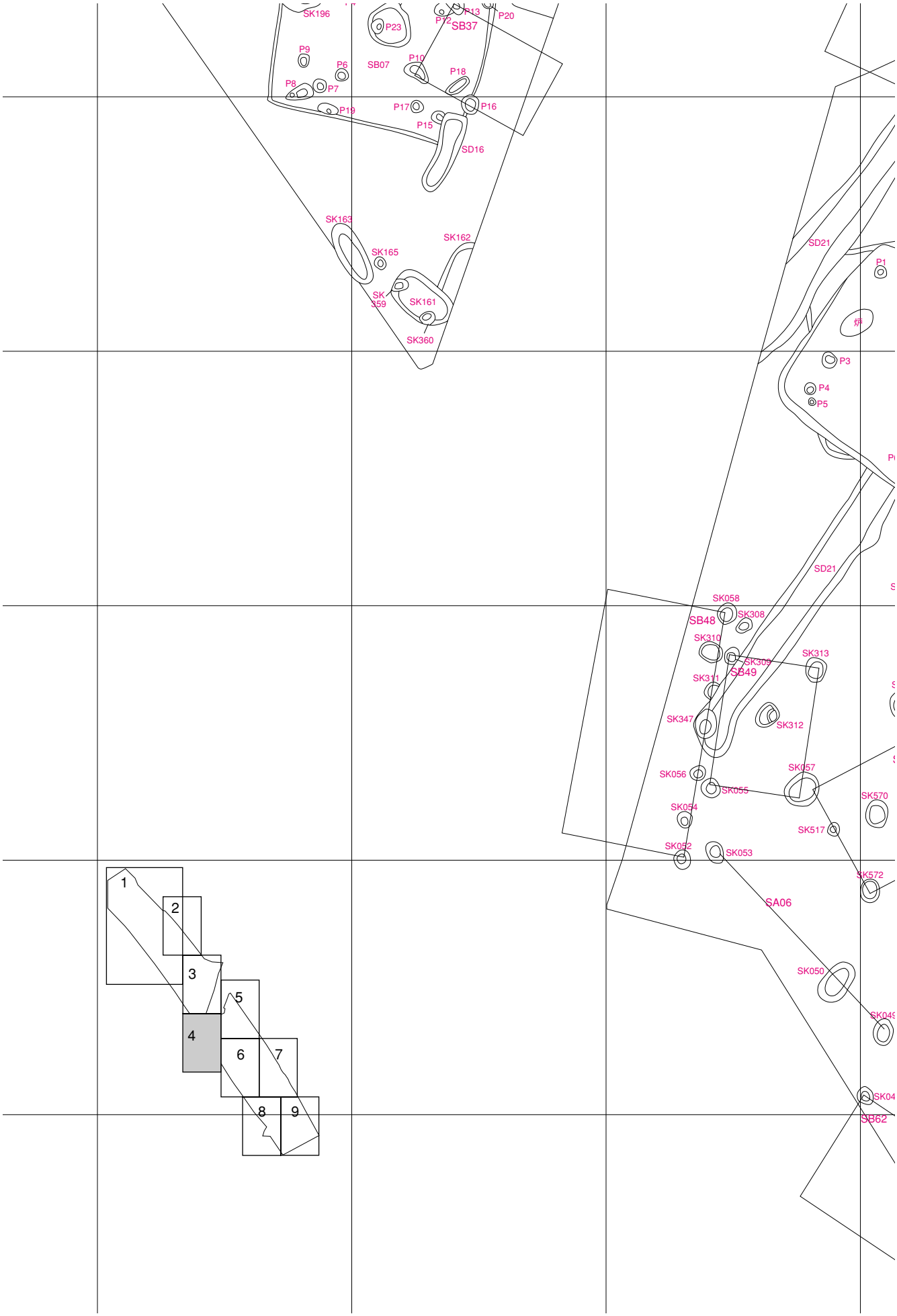
図版３


1
2
3
4
5
6
7
8
9
SK437
SK435
SK434
SK433
SK525
SK436
SK432
SK431
SK430
SK429
SK428
SK427
SK426
攪乱

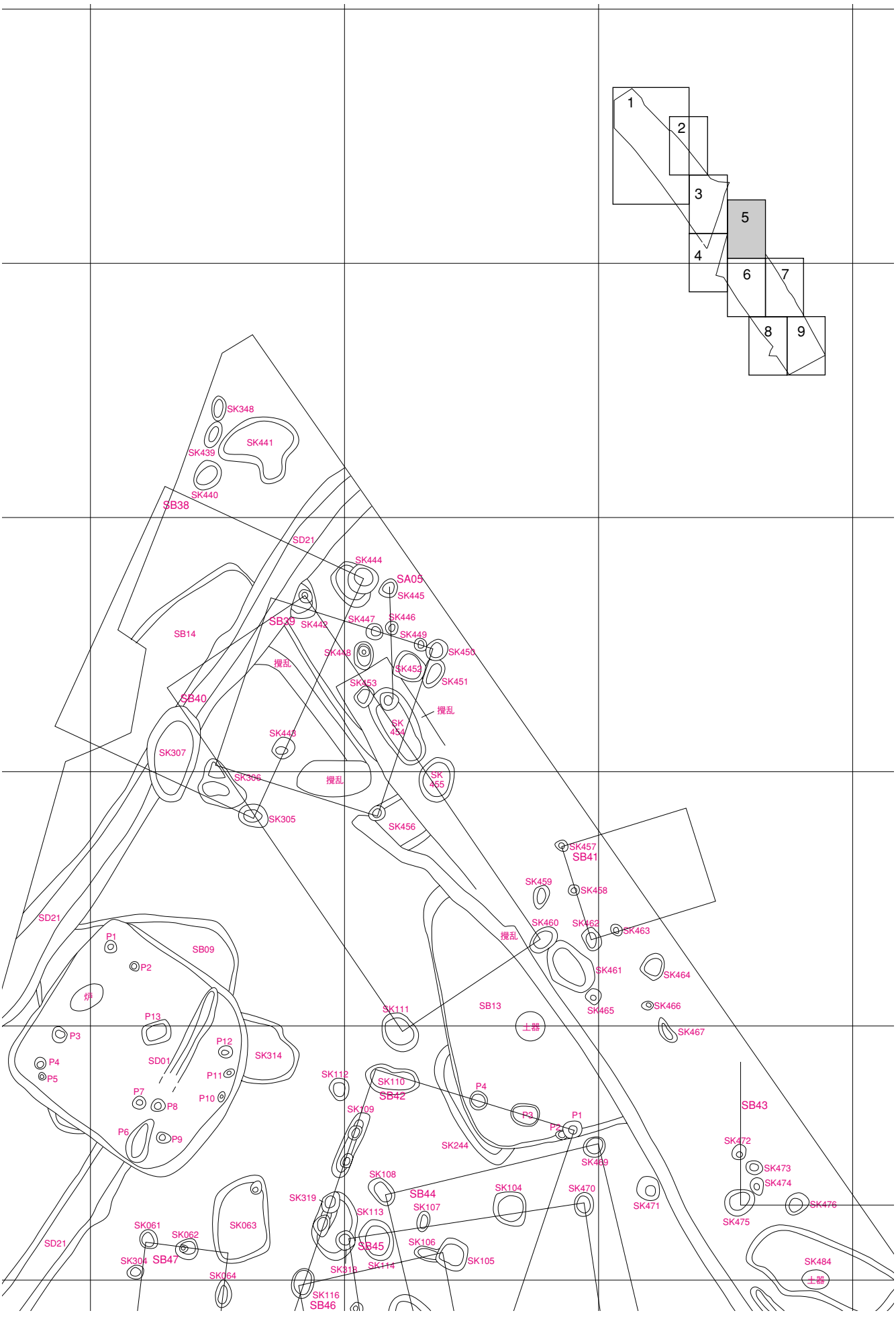
図版 4


SK428
SK427
SK426
SK425
SK424
SK418
SK423
SB21
SK421
SD24
SK420
SB22
SK419
SB23
SK417
攪乱
SK422
SX06
SK416
SB12
SK415
SK413
SK514
T
SK353
SK322
SK414
SK412
SK351
SK570
SK352
SK411
SK572
SD26
SK571
SK408
SK573
SK409
SK526
SK527
SK410
SB24
SB25
SK388
SK387
SK575
SK182
SK181
SD18
SK180
SD22
SB27
SB26
SK179
SK386
SK576
T
SK178
SK177
SK356
SK357
SK410
SD22
SK355
SK176
SA01
SD23
SK380
SK358
SK175
SK209
SD18
SK183
SK402
SK208
SB28
SK174
SK210
SK184
SK185
SK207
SB29
SK320
SK186
SK321
SK354
SD17
SK206
SB30
SK205
SK381
SK188
SK187
SK212
SK204
SK405
SB33
SK344
SK173
SK383
SK203
SK211
SK404
SK403
SB34
SB31
SK382
SB32
SK190
SK189
SK215
SK216
SK384
SK213
SK343
SK217
SB35
SK214
SK342
SK171
SK191
SK172
SK385
SK406
SB36
SD18
SK407
SK377
SK376
SK192
SK341
SK361
SK346
SK202
SK201
SK373
SK369
SK193
SK378
SK338
SK362
SK371
SK370
SK340
SK169
SK200
SK375
SK339
SK363
SA03
SK365
SK202
SK170
SK199
SK345
SK374
SK366
SK372
SK194
SK368
SK364
SK198
SK367
SK167
SK168
SK197
カマド
SA04
P1
P24
P2
P3
P14
P11
P22
P21
P5
P4
SK196
P13
P20
P12
SB37
P23
P9
P10
P6
SB07
P18
P8
P7
P17
P16
P19
P15
1
2
3
4
5
6
7
8
9

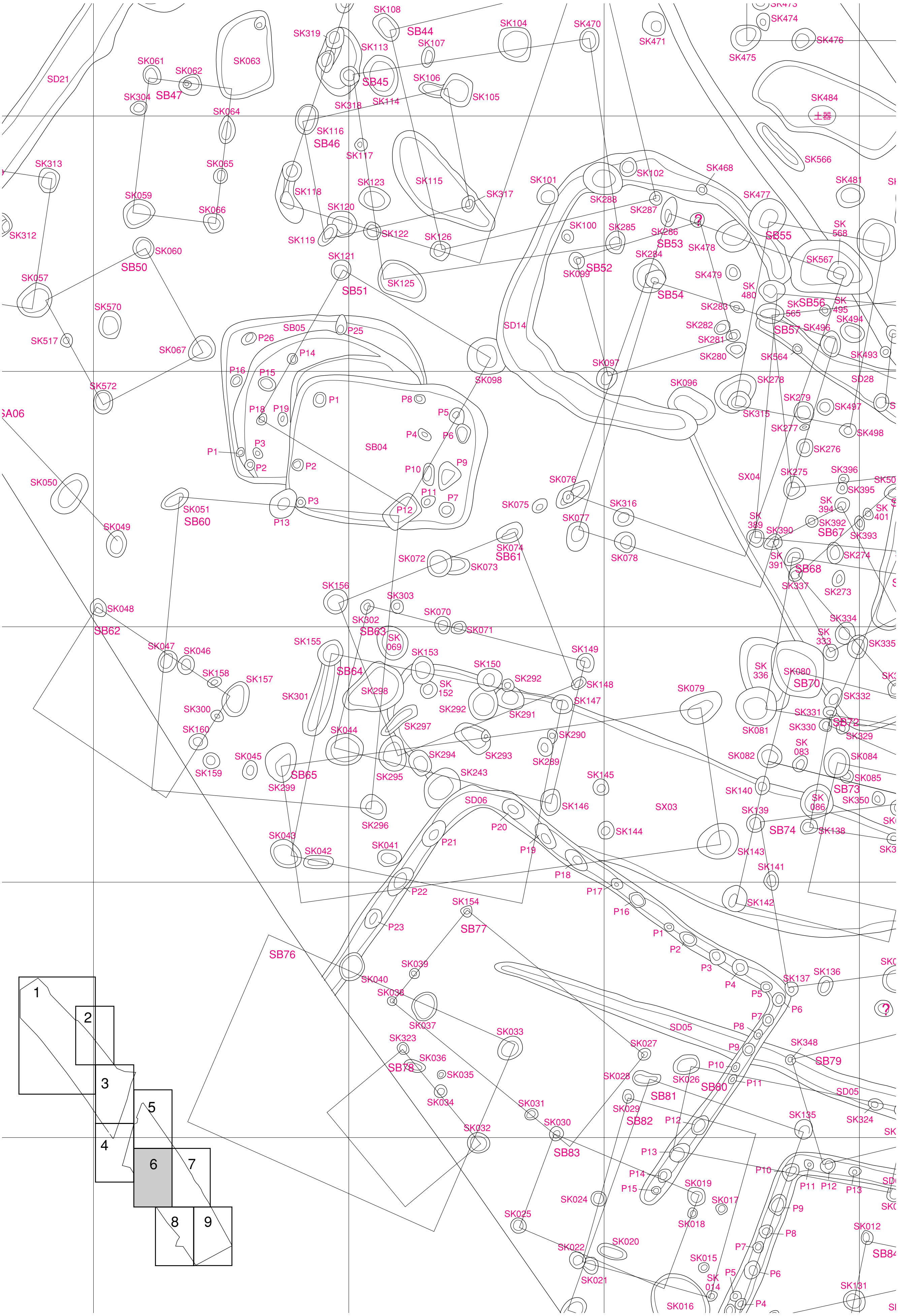
図版５


SK196
P23
P13
P20
P12
SB37
P9
P6
SB07
P10
P18
P8
P7
P19
P17
P16
P15
SD16
SK163
SK162
SK165
SK
359
SK161
SK360
SD21
P1
P3
P4
P5
SD21
SK058
SB48
SK308
SK310
SK313
SK309
SB49
SK311
SK347
SK312
SK056
SK057
SK055
SK570
SK054
SK517
SK052
SK053
SK572
SA06
SK050
SK04
SB62
1
2
3
4
5
6
7
8
9

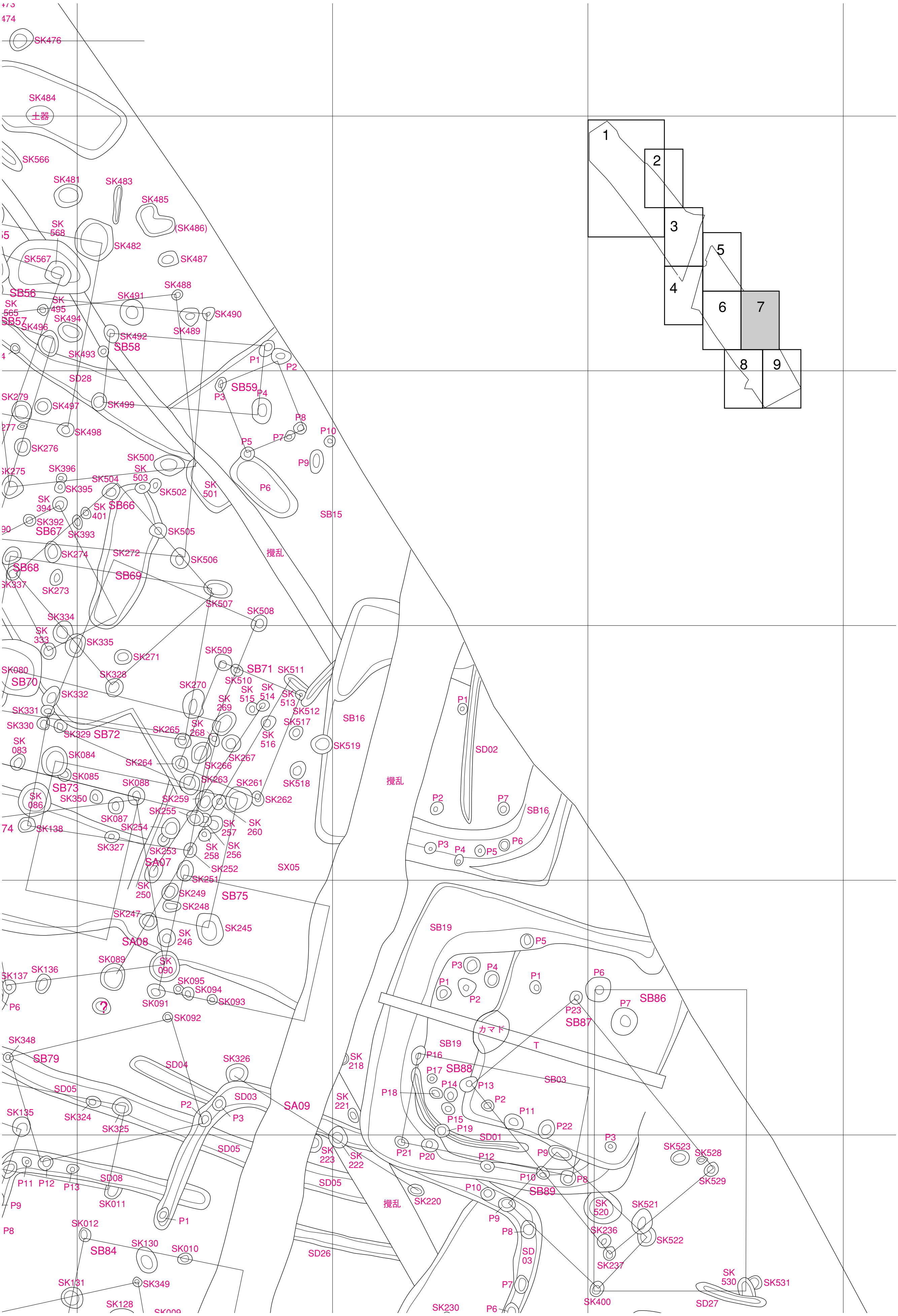
図版 6


1
2
3
4
5
6
7
8
9
SK348
SK441
SK439
SK440
SB38
SD21
SK444
SA05
SK445
SB39
SK442
SK447
SK446
SK449
SK450
SK448
SK452
SK451
SK453
SB14
攪乱
SB40
SK454
SK443
SK307
SK306
SK455
SK305
SK456
SK457
SB41
SK459
SK458
SK460
SK462
SK463
SK461
SK464
SK465
SK466
SK467
SK111
SB13
土器
SD21
P1
SB09
P2
炉
P13
P3
P12
SK314
P4
SD01
P5
P11
P7
P8
P10
P6
P9
SK112
SK110
SB42
SK109
P4
P3
P1
P2
SK244
SK469
SB43
SK472
SK473
SK474
SK476
SK475
SK108
SB44
SK104
SK470
SK471
SK319
SK113
SK107
SK061
SK062
SK063
SD21
SK304
SB47
SB45
SK106
SK105
SK318
SK114
SK064
SK116
SB46
SK484
土器

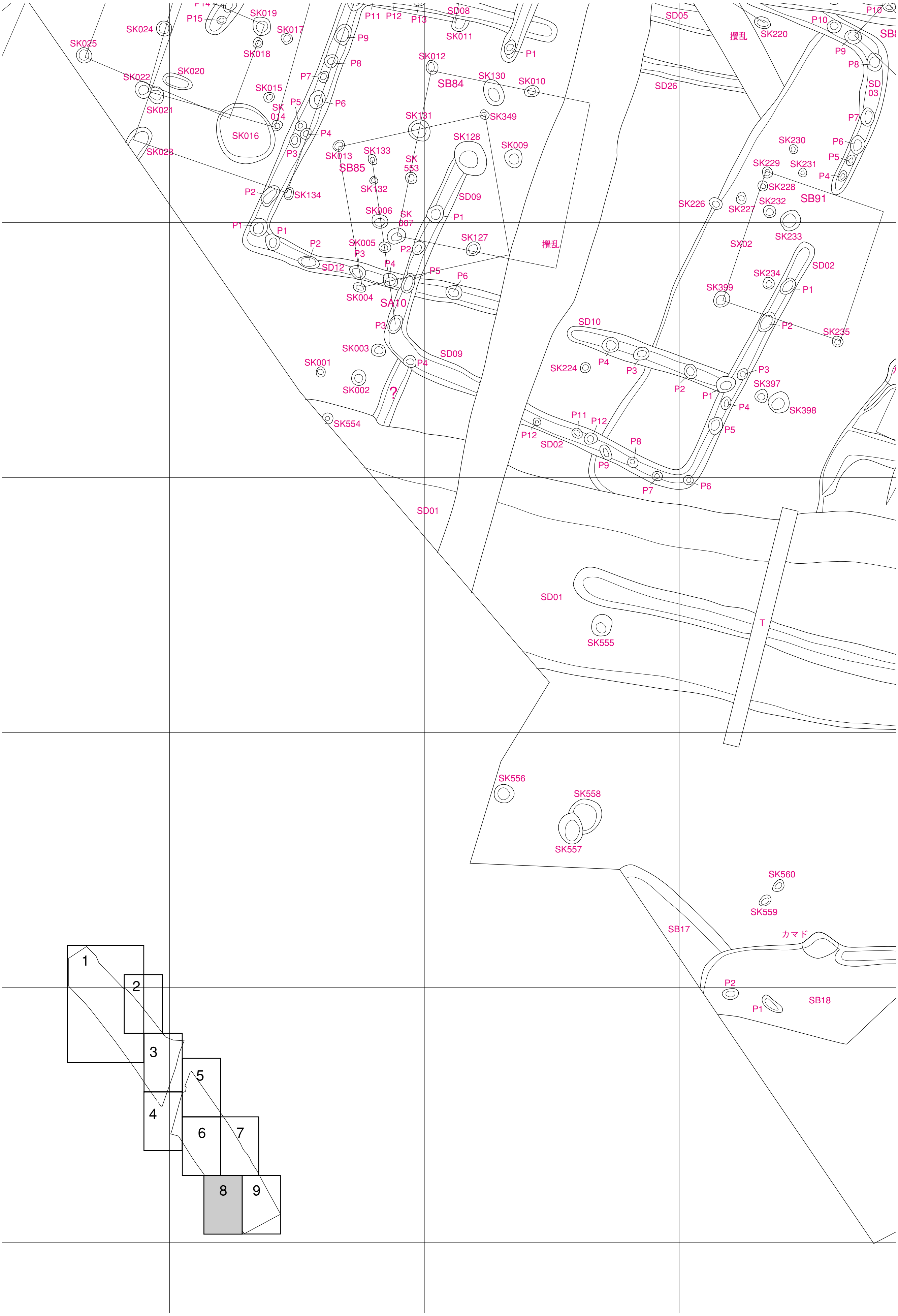
図版 7


SK108
SK319
SB44
SK104
SK470
SK471
SK474
SK476
SK475
SK113
SK107
SK061
SK063
SK062
SD21
SK304
SB47
SB45
SK106
SK105
SK318
SK114
SK064
SK484
土器
SK116
SB46
SK117
SK566
SK313
SK065
SK118
SK123
SK115
SK101
SK102
SK468
SK481
SK059
SK066
SK120
SK317
SK288
SK287
SK477
SK312
SK119
SK122
SK126
SK100
SK285
SK286
SB53
SK478
SB55
SK568
SK060
SB50
SK121
SK284
SK567
SK099
SB52
SK479
SK057
SB51
SK125
SB54
SK480
SB56
SK495
SK565
SK570
SD14
SK283
SK494
SB05
P25
SK282
SB57
SK496
SK517
P26
SK281
SK493
SK067
P14
SK280
SK564
SK097
P16
P15
SK098
SK096
SK278
SD28
SK572
P1
P8
SK279
SK497
SA06
P18
P19
P5
SK315
SK277
SK498
P4
P6
P3
SB04
SK276
P1
P2
P2
P9
P10
SK275
SK396
SX04
SK050
SK076
SK395
P11
P7
P3
SK051
SB60
P13
P12
SK075
SK316
SK394
SK401
SK389
SK392
SK049
SK077
SK390
SB67
SK393
SK074
SB61
SK078
SK072
SK073
SK391
SB68
SK274
SK156
SK337
SK273
SK303
SK048
SK070
SK302
SK071
SK334
SB62
SB63
SK069
SK333
SK335
SK047
SK046
SK155
SK153
SK149
SK336
SK080
SB70
SK150
SK292
SB64
SK158
SK157
SK298
SK152
SK148
SK079
SK301
SK147
SK332
SK292
SK291
SK331
SK300
SK297
SK081
SK330
SB72
SK160
SK044
SK290
SK329
SK083
SK294
SK293
SK045
SK289
SK082
SK084
SB65
SK159
SK295
SK243
SK145
SK085
SK299
SK140
SB73
SK086
SK350
SD06
SK146
SX03
SK139
SK296
P20
SB74
SK138
SK144
SK043
P21
SK041
P19
SK143
SK042
P18
SK141
P22
P17
SK154
SK142
P16
P23
SB77
P1
P2
SB76
P3
SK039
SK137
SK136
SK040
P4
SK038
P5
P6
SK037
P7
SK033
SD05
P8
SK348
SK323
SK027
P9
SB79
SK036
SB78
P10
SK035
SK028
SK026
SB80
P11
SK034
SB81
SD05
SK031
SK029
SK135
SK324
SK030
SB82
P12
SK032
SB83
P13
P10
P11
P12
P13
P14
SK019
P15
SK024
SK017
P9
SK018
SK025
SK012
P8
SK022
SK020
P7
SB84
SK015
SK021
P5
SK014
P6
SK131
SK016
P4
1
2
3
4
5
6
7
8
9

図版 8


SK476
SK484
土器
SK566
SK481
SK483
SK485
SK568
(SK486)
SK482
SK567
SK487
SK488
SB56
SK495
SK491
SK565
SB57
SK496
SK494
SK490
SK492
SB58
SK489
SK493
P1
P2
SD28
SB59
P3
P4
SK279
SK497
SK499
P8
SK498
P10
P5
P7
SK276
SK500
P9
SK275
SK396
SK503
SK504
SK395
SK502
SK501
P6
SK394
SK401
SB66
SK392
SB67
SK393
SK505
SB15
SK274
SK272
SK506
撹乱
SB68
SB69
SK337
SK273
SK507
SK508
SK334
SK333
SK335
SK271
SK509
SK080
SB70
SK328
SB71
SK511
SK510
SK270
SK515
SK514
SK513
SK332
SK269
SK512
SK331
SK268
SK517
SB16
SK330
SK329
SB72
SK265
SK516
SK519
SK083
SK084
SK267
SK264
SK266
SK518
P1
SD02
SK085
SK088
SK263
SK261
撹乱
SB73
SK086
SK350
SK259
SK262
P2
P7
SB16
SK087
SK255
SK257
SK260
SK138
SK254
SK327
SK253
SK258
SK256
P3
P4
P5
P6
SA07
SK252
SX05
SK251
SK250
SK249
SK248
SB75
SK247
SK245
SB19
SA08
SK246
P5
SK089
SK090
P3
P4
SK137
SK136
SK095
SK094
P1
P2
P1
P6
P6
SK093
SK091
SK092
P23
P7
SB86
SB87
カマド
SK348
SB79
SB19
T
SK326
SK218
P16
SD04
P17
SB88
SB03
SD05
SD03
SA09
SK221
P18
P14
P13
P2
SK135
SK324
P2
P3
P15
P11
SK325
P19
P22
SD01
P3
SD05
SK223
SK222
P21
P20
P12
P9
SK523
SK528
P11
P12
P13
SD08
SD05
P10
P8
SK529
P9
SK011
P1
撹乱
SK220
P10
SB89
SK520
SK521
SK012
P9
P8
SK236
SK522
P8
SK130
SK010
SD26
SD03
SB84
SK237
SK131
SK349
P7
SK530
SK531
SK128
SK009
SK230
P6
SK400
SD27
1
2
3
4
5
6
7
8
9

図版 9


SK024
SK025
P15
SK019
SK017
SK018
SK020
SK022
SK021
SK015
SK014
SK016
SK023
P11 P12 P13
SD08
SK011
P9
P8
P7
P6
P5
P4
P3
P2
P1
SK012
SB84
SK130
SK010
SK131
SK349
SK128
SK009
SK013
SK133
SB85
SK553
SK132
SK134
SD09
SK006
SK007
SK127
SK005
SD12
SK004
SA10
SK003
SK001
SK002
SK554
攪乱
SD01
SD05
SD26
SK220
P10
SD03
SK230
SK229
SK231
SK228
SK226
SK227
SK232
SB91
SK233
SX02
SD02
SK234
SK399
SK235
SD10
SK224
SK397
SK398
SD02
SK555
T
SK556
SK558
SK557
SK560
SK559
SB17
カマド
SB18
1
2
3
4
5
6
7
8
9

図版 10

P10
P9
P8
SD 03
P7
P6
P5
P4
SK230
SK231
SK228
SB91
SK233
SD02
P1
P2
SK235
SK520
SK521
SK522
SK529
SK236
SK237
SK400
SK530
SK531
SD27
SK532
SK533
SB90
SK534
SK535
SK536
SK524
SD26
SK239
SK238
SB92
SB93
SK537
SK552
SK240
SK241
SK561
SK538
SK539
SK540
SD25
P3
SD01
SK398
SB02
SK541
SB94
SK542
SK543
SK546
SK544
SK547
SK548
SK545
SK549
SB01
SA11
SK569
SK550
T
SD01
SK560
SB18
攪乱
1
2
3
4
5
6
7
8
9

写 真 図 版

写真図版１

調査区全体（北からみる）中央左寄りの部分に見える林が鴛鴨城跡

南側調査区全体（南東からみる）

写真図版２

大壁建物跡全体（南東からみる）

大壁建物ＳＢ08（北からみる）

大壁建物ＳＢ10・ＳＢ11
（北からみる）

写真図版３

ＳＢ 01・ＳＢ 02 完掘（南東からみる）

ＳＢ 07 完掘（北東からみる）

ＳＢ 04・ＳＢ 05 完掘（北東からみる）

ＳＢ 16 完掘（西からみる）

ＳＢ 06・ＳＢ 09 検出（東からみる）

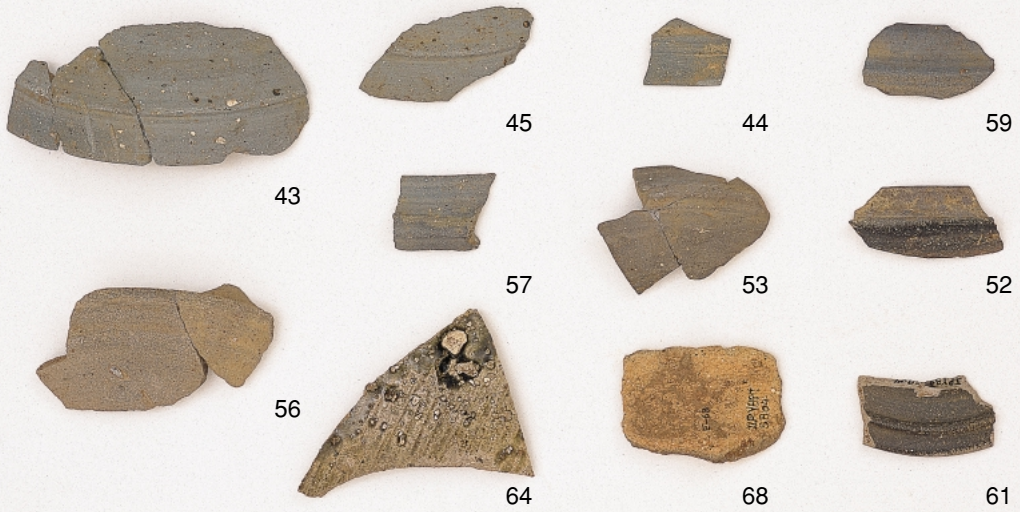
ＳＢ 19 完掘（東からみる）

ＳＢ 09 完掘（西からみる）

ＳＢ 78 完掘（北東からみる）

写真図版４

ＳＢ 04 出土遺物



ＳＢ 19 出土遺物

石製品

ＳＢ 05 出土金属関連遺物

写真図版５

調査区全体（南東からみる）

調査区全体（北西からみる）

調査前の調査区の状況（南東からみる）

北側調査区東壁
土層断面
（北西からみる）

写真図版６

ＳＢ01遺物出土状態（北東からみる）

ＳＢ01・ＳＢ02完掘（東からみる）

ＳＢ01土層断面（南からみる）

ＳＢ01・ＳＢ02完掘（北からみる）

ＳＢ01カマド検出状態（南からみる）

ＳＢ02カマド完掘（南からみる）

ＳＢ01カマド土層断面（南からみる）

ＳＢ02カマド土層断面（北東からみる）

写真図版７

ＳＢ 03 遺物出土状態（北からみる）

ＳＢ 03 カマド検出（北からみる）

ＳＢ 03 カマド土層断面（北からみる）

ＳＢ 03 鉄製品出土状態（南からみる）

ＳＢ 04 完掘（北からみる）

ＳＢ 04・05 土層断面（西からみる）

ＳＢ 04 遺物出土状態（北西からみる）

ＳＢ 05 遺物出土状態（北からみる）

写真図版８

ＳＢ 06 完掘（北東からみる）

ＳＢ 06 遺物出土状態（北からみる）

ＳＢ 06 地床炉（北西からみる）

ＳＢ 09 遺物出土状態（西からみる）

ＳＢ 06・09 土層断面（南からみる）

ＳＢ 06・09 土層断面（南からみる）

ＳＢ 09 遺物出土状態（北東からみる）

ＳＢ 12 完掘（北からみる）

写真図版９

ＳＢ 07 カマド（南西からみる）

ＳＢ 07 カマド検出状況（北からみる）

ＳＢ 07 土層断面（東からみる）

ＳＢ 07 カマド断面（南からみる）

ＳＢ 07 土層断面（東からみる）

ＳＢ 07 遺物出土状態（西からみる）

ＳＢ 13 遺物出土状態（北からみる）

ＳＢ 13 遺物出土状態（南東からみる）

写真図版 10

ＳＢ 15 遺物出土状態（西からみる）

ＳＢ 15 完掘（北西からみる）

ＳＢ 14 完掘（北東からみる）

ＳＢ 16 土層断面（東からみる）

ＳＢ 19 完掘（東からみる）

ＳＢ 16・ＳＢ 19 完掘（南東からみる）

ＳＢ 19 遺物出土状態（東からみる）

ＳＢ 19 遺物出土状態（西からみる）

写真図版 11

ＳＢ 17 土層断面（北からみる）

ＳＢ 17 完掘（南東からみる）

大壁建物跡全体完掘（南東からみる）

ＳＢ 08 東溝（北からみる）

ＳＢ 08 北溝（西からみる）

ＳＢ 08 北溝完掘（西からみる）

ＳＢ 11 西溝（北からみる）

ＳＢ 11 東溝（北からみる）

写真図版 12

ＳＢ 11 北溝（西からみる）

ＳＢ 11 南溝（西からみる）

ＳＢ 10 西溝（南からみる）

ＳＢ 10 西溝（北からみる）

ＳＢ 10 西溝完掘（北からみる）

ＳＢ 11 東溝（北からみる）

ＳＢ 11 南溝（西からみる）

ＳＢ 42（北からみる）

写真図版 13

ＳＢ 11 土層断面（北からみる）

ＳＢ 08 北溝土層断面（東からみる）

ＳＢ 11 柱穴検出状態（北からみる）

北側調査区掘立柱建物跡群(北からみる）

ＳＤ 01 土層断面（西からみる）

ＳＤ 01 土層断面（東からみる）

ＳＢ 20 完掘（西からみる）

ＳＢ 20 遺物出土状態（北からみる）

写真図版 14

S K 032（南から）

S K 037（南から）

S K 040（南から）

S K 192（南から）

S K 356（南から）

S K 572（南から）

S K 376（南から）

S K 187（南から）

S K 125（南から）

S K 055（南から）

S K 306（南から）

S K 096（南から）

S K 104（南から）

S K 427（南から）↑

S K 433（南から）→

S K 520 出土遺物

351

S D 01 出土遺物

369

S B 09 出土遺物

130

S B 08（S D 03）出土遺物

269

S B 06 出土遺物

108

S B 13 出土遺物

174

S K 305 出土遺物

338

S K 570 出土遺物

358

S B 03 出土遺物

22

S D 14 出土遺物

263

S B 01 出土遺物

← 16, 8, 3,12
18,15, 1,13

38,26,23,36 →
40,39,33,35

S B 03 出土遺物

S B 05 出土遺物

← 104,103,97,96
100,101,91,92
99,98,93

109,114,110 →
126,119,115

S B 06 出土遺物

写真図版 16

S B 07 出土遺物

S B 09 出土遺物

S B 16 出土遺物

S B 08(SD06)出土遺物

S B 10 出土遺物

S B 11 出土遺物

出土石器

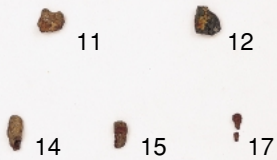
S B 05 出土遺物

S B 01 出土遺物

S B 06 出土遺物

S B 03 出土遺物

S B 04 出土遺物



S B 07 出土遺物

S B 14 出土遺物

S B 13・15 出土遺物

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第102集

矢 迫 遺 跡

2002年８月31日

編集・発行　財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印　刷　サンメッセ株式会社